

令和2年度文部科学省

「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

専修学校教員の質保証・向上を進めるために必要な
教職員研修プログラム開発事業

アダプティブラーニングに 関する実態調 査報告書

2021年 2月

一般社団法人
全国専門学校教育研究会



目次

1 調査概要.....	1
1.1 事業の背景・目的	1
1.2 各実施項目での実施内容.....	2
1.2.1 アンケート調査	2
1.2.2 ヒアリング調査	2
2 アンケート調査.....	3
2.1 調査概要	3
2.1.1 目的	3
2.1.2 実施概要	7
(1)調査対象	7
(2)調査方法	7
(3)調査項目	7
(4)調査期間	7
(5)回収結果	7
2.2 調査結果	8
2.2.1 「学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成すること」（いわゆるアダプティブラーニング）という指導法の認識・実践状況.....	8
2.2.2 学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、特に重視（指導者として必要なもの）していること	9
2.2.3 学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定するための対応内容.....	10
2.2.4 （2.2.3）の対応をする際（または、しようとした際）の課題	11
2.2.5 学生・生徒個々人が学習目標を達成するために対応していること	13
2.2.6 （2.2.5）の対応をする際（または、しようとした際）の課題	15
2.2.7 目的や目標が曖昧な学生・生徒やモチベーションの低い学生・生徒、途中で躓いた学生・生徒への対応内容	17
2.2.8 学生・生徒指導のために個人的に習得しているスキルや専門知識.....	18
2.2.9 学生・生徒個々人の学習の成果（学習状況や心理的な変化や人間的な成長など）の記録方法.....	19
2.2.10 学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」「学生・生徒の動機付け」「個々人に合った学習方法の提示」「それらのための教員の行動スキル」の実現方法.....	21
2.2.10.1 「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法.....	21
2.2.10.2 「学生・生徒の動機付け」の実現方法.....	22
2.2.10.3 「個々人に合った学習方法の提示」の実現方法.....	24
2.2.10.4 「それらのための教員の行動スキル」	25
2.2.11 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用するにあたり、「学生・生徒個々人の学習の成果（学習状況や心理的な変化や人間的な成長など）の記録・分析の面」での有効度	27

2.2.12 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用するにあたり、「授業運営や個人指導のファシリテーションの面」での有効度.....	28
2.2.13 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題.....	29
2.2.14 今後 ICT を活用してどのような指導をしたいと考えているか.....	30
2.3 アンケート調査のまとめ.....	32
2.3.1 アダプティブラーニングの認識・実践について.....	32
2.3.2 個別指導のために教員が重視していることについて.....	32
2.3.3 学習目標の設定について.....	32
2.3.4 学習目標の達成について.....	32
2.3.5 目的や目標な曖昧、モチベーションが低い、途中で躓いた場合の対応について.....	33
2.3.6 教員が習得しているスキルや専門知識について.....	33
2.3.7 学生・生徒の状況記録媒体について.....	33
2.3.8 学生・生徒の「学習理解度の把握・評価」「動機付け」「個々人に合った学習方法提示」から言える教員スキルについて.....	33
2.3.9 ICT ツールの学生・生徒状況の記録分析面での有効度について.....	34
2.3.10 ICT ツールの授業運営や個人指導のファシリテーション面での有効度について.....	34
2.3.11 ICT ツール活用における課題について.....	34
2.3.12 今後の ICT ツール活用による指導について.....	34
3 ヒアリング調査.....	35
3.1 調査概要.....	35
3.1.1 目的.....	35
3.1.2 実施概要.....	35
(1)調査対象.....	35
(2)実施時期.....	36
(3)調査項目.....	36
3.2 調査結果.....	36
3.2.1 戸板女子短期大学 総合教養センター 准教授 中村 公子.....	37
3.2.2 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 教授 秋田 留美.....	47
3.2.3 横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 教授 浅川 正樹.....	59
3.2.4 品川女子学院 教員 竹内 啓悟.....	67
3.2.5 株式会社学研塾ホールディングス 経営戦略本部 事業開発部 山下 彰洋... ..	79
3.2.6 湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 教授 内海 太祐.....	87
3.2.7 クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス 教員 藤田 果世.....	97
3.2.8 京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 澁川 幸加.....	107
3.2.9 山野美容専門学校 教頭 吉田 真希.....	119
3.2.10 株式会社ウィザス 第二教育本部 教育運営部 倉澤 弘明.....	125
3.2.11 東京国際大学 商学部 教授 河村 一樹.....	137

3.2.12	クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス 教員 岩崎 毅	147
3.2.13	学校法人河合塾学園 トライデントデザイン専門学校 講師 上田 光孝	155
3.2.14	株式会社ゼネラルパートナーズ atGP ジョブトレ事業部 野田 明子	160
3.2.15	河原デザイン・アート専門学校 教頭 露口 武志	168
3.2.16	専門学校中央医療健康大学校 理学療法学科 学科長 大石 法子	175
3.2.17	株式会社イング 次長 塾戦略ブレインリーダー 山本 昌敬	182
3.2.18	デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹	191
3.2.19	探究学舎 講師 木村 光太郎	207
3.2.20	アルスクール株式会社 代表取締役 村野 智浩	219
3.3	ヒアリング調査のまとめ	228
3.3.1	戸板女子短期大学 中村氏のヒアリング調査結果について	228
3.3.2	山野美容芸術短期大学 秋田氏のヒアリング調査結果について	228
3.3.3	横浜美術大学 浅川氏のヒアリング調査結果について	229
3.3.4	品川女子学院 竹内氏のヒアリング調査結果について	229
3.3.5	株式会社学研ホールディングス 山下氏のヒアリング調査結果について	229
3.3.6	湘北短期大学 内海氏のヒアリング調査結果について	230
3.3.7	クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス 藤田氏のヒアリング調査結果について	230
3.3.8	京都外国語大学 澁川氏のヒアリング調査結果について	230
3.3.9	山野美容専門学校 吉田氏のヒアリング調査結果について	231
3.3.10	株式会社ウィザス 倉澤氏のヒアリング調査結果について	231
3.3.11	東京国際大学 河村氏のヒアリング調査結果について	232
3.3.12	クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス 岩崎氏のヒアリング調査結果について	232
3.3.13	学校法人河合塾学園 トライデントデザイン専門学校 上田氏のヒアリング調査結果について	232
3.3.14	株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏のヒアリング調査結果について	233
3.3.15	河原デザイン・アート専門学校 露口氏のヒアリング調査結果について	233
3.3.16	専門学校中央医療健康大学校 大石氏のヒアリング調査結果について	233
3.3.17	株式会社イング 山本氏のヒアリング調査結果について	234
3.3.18	デジタルハリウッド大学大学院 石川氏のヒアリング調査結果について	234
3.3.19	探究学舎 木村氏のヒアリング調査結果について	234
3.3.20	アルスクール株式会社 村野氏のヒアリング調査結果について	235
4	アダプティブラーニング教授法研修に求められる構成要素	236
4.1	マインドセット	236
4.2	事前のアセスメント	236
4.3	授業設計	236
4.4	eラーニングコンテンツ制作	236
4.5	学生・生徒へのアプローチ	237
4.6	ICTを活用した具体的な授業手法	237

4.7 評価基準と学習過程・成果の可視化	237
4.8 ICT の基礎リテラシー	237

1 調査概要

1.1 事業の背景・目的

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月中央教育審議会答申）では、これからの高等教育改革を成し遂げていくにあたり、その実現すべき方向性として、『高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学習者が実感できる教育を行っていること。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくこと。』が指針の一つとして提言された。

専門学校は、社会・産業ニーズに即応しつつ多様な教育を柔軟に展開して、実践的な職業教育を実施している。高等教育機関全体の中では、大学に次ぐ学生数を受け入れており、地域密着型の高等教育機関として、地方の産業における生産性の向上、高付加価値化のみならず、労働力の確保等、地域全体の維持・発展において重要な役割を担う機関となっている。

平成26年度から、企業等と連携してより実践的な職業教育に取り組む「職業実践専門課程」の認定制度が運用されたことにより、地方産業の発展に寄与する多様で柔軟な教育プログラムの提供や、高等教育の無償化の対象としたことから、より一層の質保証・向上の取組を進めていくこととして、教学マネジメントとその前提としての学修成果の可視化等も他の教育機関同様に対応が求められている。

一般社団法人全国専門学校教育研究会では平成29年度から「職業実践専門課程等を通じた専修学校教職員研修プログラム開発及び推進」を文部科学省から受託し、職業実践専門課程のより一層の質保証・向上を目指して、調査ならびにプログラムの開発を実施してきた。それらの調査の過程で専門学校教員に必要な研修を以下の通り抽出し、学修成果の可視化の観点から「学習評価研修プログラム（基礎編）」「学習評価研修プログラム（応用編）」および多様で柔軟な魅力ある教育の提供の観点から「ICT活用研修プログラム」を開発・実施し、一定の成果を上げてきた。

- カリキュラム編成に関する知識
- 学級運営や集団づくりなど効果的な授業を行うためのスキルについて学ぶ
- 学習状況を把握し適切に評価するための知識やスキルを高める
- 学校運営、学科運営に必要な知識やスキルを学ぶ
- 学校にかかわるステークホルダーとのコミュニケーション・連携・対応方法を学ぶ
- 入学から卒業までの学生生活や学習状況に関する情報を習得・管理し、学生募集や中退学要因の解明、教育の質を保証していくための知識やスキルを学ぶ
- 自校の職員の指導力向上に向けた課題等を把握し、必要な研修を企画設計するための手順や、必要な知識やスキルを学ぶ

上記の調査・プログラム開発を経て、本事業で開発する教員研修プログラムの1つが「多様な学習者のニーズや能力に合致した教育をデジタルやネットワーク（ICT）を活用して実行できる教員を育成するための研修プログラム」である。これは、デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の確立と、その方法を習得する研修プログラム開発することが目的である。

1.2 各実施項目での実施内容

本事業における実施内容は以下の通りである。

1.2.1 アンケート調査

各教育機関・教育サービス企業等に在籍する教員（講師）の「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングに関する認識と教員の意識」と「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングを実現するために必要な教員の能力と課題」について調査した。そして、その後のヒアリング調査対象抽出のための参考資料とした。

1.2.2 ヒアリング調査

アンケート調査により抽出された対象に対してヒアリング調査を行った。具体的には、「対象におけるデジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングの先導的な取り組み内容や課題」と「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングを実現するために必要な教員の意識や能力」について、アンケート調査回答者に面談の上、ヒアリング調査を実施した。

表 2-2 アンケート調査項目②

<p>問 5. 学生・生徒個人が学習の目標を達成するために、どのような対応をされていますか？（複数回答可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学生・生徒個人々の興味や関心に沿って学習が進められるようその学習方法を選定アドバイスしている ② 定期的な面談を行い学生・生徒とのコミュニケーションを通じて動機付けを行っている ③ 定期的な面談により、個々の学生・生徒が自ら目標を設定し自律的に学習を進められるようにしている ④ 学生・生徒個人々の習熟度に応じて与える課題内容などを変えている ⑤ 習熟度が低い学生・生徒のみを放課後等に残して個別に指導している ⑥ 指導においては、学生・生徒個人々の理解度に応じて、繰り返し説明している ⑦ 技術的な指導では、学生・生徒個人々の習熟度に応じてやり方（動作や作法）などを個別に実践させている ⑧ 学生・生徒個人々のレベルや状況合わせ、授業で使用する教材とは別に参考書籍を紹介している ⑨ 提出された課題には個々人の状況（理解度等）に応じたコメントを付けて戻している ⑩ 学生・生徒個人々の変化について注意深く観察するよう心掛けている（表情や態度、言葉遣いの変化など） ⑪ 実技指導においては、学生・生徒の動きなどを撮影し、修正点を明確に理解させている（気付きを与えている） ⑫ 保護者と面談（定期、不定期）を行い学生・生徒個人々の目標達成に向けた情報や状況を共有している ⑬ 性格検査などを元に、学生・生徒の特性に合わせた動機付けや目標設定を行っている ⑭ 動作などの学習は少人数のグループワークで実施し、学生・生徒同士がグループ内で指摘しあう指導を取り入れている ⑮ 習熟度が低い学生・生徒のサポートを習熟度が高い他の学生・生徒にさせている（学生・生徒同士での学びを重視） ⑯ 学習の成果などをクラスで提示し（成績は上位者限定や成績以外の成果や実績なども含め）学生・生徒個人々のモチベーションの維持や向上につなげている ⑰ 学生・生徒個人々に対する指導は特に実施していない（上記にあてはまるものはない） ⑱ その他 	
<p>問 6. 問 5 の対応をするにあたり（または、しようとした際に）課題となることがあればお聞かせください。</p>	
<p>問 7. 目的や目標が曖昧な学生・生徒やモチベーションの低い学生・生徒、途中でつまづいた学生・生徒などの対応についてお聞かせください。（複数回答可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学生・生徒が目標に向かう途中でつまづいた際は、即面談を行いその原因の解決に向け対応している ② 学生・生徒の習熟度の高低により、特定の学生・生徒だけに対応が偏らないよう心掛けている ③ 目標達成できなかった（例：目標の検定が不合格であった）際は、面談によるフォローを実施している <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な新たな目標（類似検定や類似のコンテスト、翌年の再チャレンジ、さらに上位級へのチャレンジなど）を明確にしている ・学生・生徒個人々と面談を通じて、達成できなかった原因を共有するようにしている ④ その他（ ） ⑤ コミュニケーションが苦手な学生・生徒への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ時間をかけて本人の志向や本人が考えている目標を見つけ出すようにしている ・その他（ ） ⑥ 目標が曖昧な学生・生徒の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・所属している学科の目指すもの（検定や就職、進学を通じた将来の方向性）を改めて説明している ・学生・生徒個人々の意見や考えをできるだけ聞き出し、学習内容と結びつく点を探し目標設定をするようにしている ・クラスメイトとのグループワークなどを通じて、気付きを与えるようにしている ⑦ やる気（モチベーション）の低い学生・生徒への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・小さな目標設定を行い、達成した場合は褒めて次の目標を設定し、やる気を継続させるようにしている ・その他（ ） ⑧ その他 	

表 2-4 アンケート調査の項目④

<p>問 1 2. IT機器や、各種ソフトやアプリを使用するにあたり、「授業運営や個人指導のファシリテーションの面」で効果的に使えていると思われますか？</p> <p>① とても効果的に使えている ② まあ効果的に使えている ③ どちらともいえない ④ あまり使えていない ⑤ 全く使えていない</p>	
<p>問 1 3. IT機器や、各種ソフトやアプリを使用して指導するにあたり（または、しようとした際に）、課題になっていることはありますか？</p>	
<p>問 1 4. 今後、ICTを活用してどのような指導をしたいと考えていますか？</p>	
<p>■ 回答者</p> <p>本調査のご回答内容に関して、後日詳細とアリンクをさせて頂く場合がございますので、ご回答者の連絡先のご記入をお願い致します。尚、本調査により得られた個人情報及び回答内容については、適正に取り扱い、集計分析及び報告書公開のご連絡以外に使用することはありません。</p>	
組織・団体名	
氏名	
電話番号	
email	
<p>以上でございます。ご協力頂きまして誠に有難うございます。深く御礼申し上げます。</p>	

2.1.2 実施概要

(1)調査対象

調査対象は合計 200 の全専研¹加盟校と非加盟の教育機関・教育サービス企業等である。内訳は以下の通りである。

表 2-5 アンケート調査の対象

全専研加盟校	全専研非加盟						
	大学（短大含）	専門学校	高校	学習塾	習い事塾	社会人向け 研修会社	障害者支援
126	20	9	7	17	13	3	5

(2)調査方法

Web フォームによるアンケート調査

(3)調査項目

表 2-1、2-2、2-3、2-4 の通りである。

(4)調査期間

2020 年 10 月～11 月

(5)回収結果

配布数、回収数²、及び回収率は以下の通りである。

表 2-6 アンケート回収結果

配布数	回収数	回収率
200	108	54.0%

¹ 「全専研」とは、一般社団法人全国専門学校教育研究会の略である。

² 同一の学校・企業等から複数人の回答がある場合は複数カウントしていない。尚、回答は合計 165 名からあった。

2.2 調査結果

2.2.1 「学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成すること」（いわゆるアダプティブラーニング）という指導法の認識・実践状況

本設問の回答数は 165 件であった。

回答項目別の人数・比率は、「知っており、既に実践している」（42名、25.5%）、「知らなかったが、振り返ってみると取り組んでいる」（41名、24.8%）、「知っていて取り組んでみたいと思っているが、どうやって取り組むべきか分からない」（29名、17.6%）、「知っているが特に実践していない」（17名、10.3%）、「知らない」（14名、8.5%）、「知っており、既にとっても注力して実践している」（14名、8.5%）の順に多かった。アダプティブラーニングの認識・無認識を不問、注力度も不問とした上で「実質的にアダプティブラーニングを実践している」と回答した人数は 101 名³であり、全体の 61.2%⁴である（図 2-1、2-2）。

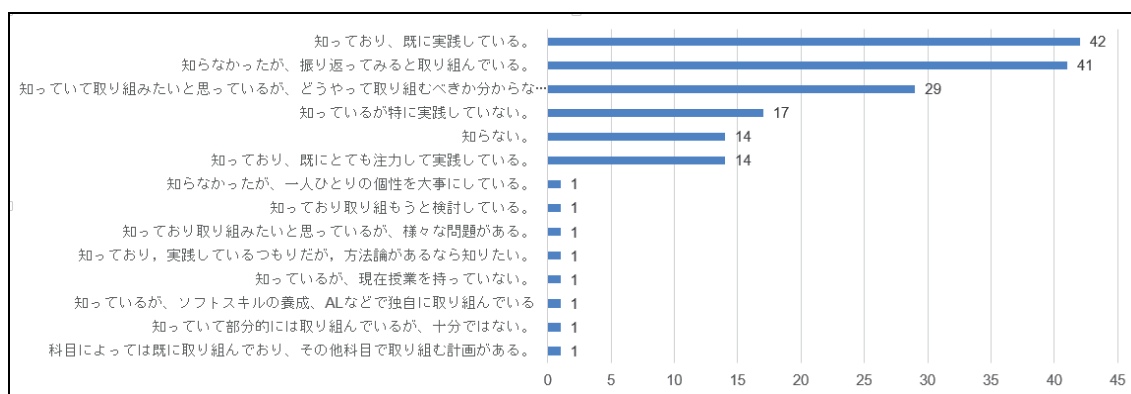


図 2-1 アダプティブラーニングの認識・実践状況 (N=165) ⁵

³ 「知っており、既に実践している」（42名）、「知らなかったが、振り返ってみると取り組んでいる」（41名）、「知っており、既にとっても注力して実践している」（14名）、「知らなかったが、一人ひとりの個性を大事にしている」（1名）、「知っており、実践しているつもりだが、方法論があるなら知りたい」（1名）、「知っていて部分的に取り組んでいるが、十分ではない」（1名）、「科目によっては既に取り組んでおり、その他科目で取り組む計画がある」（1名）の合計である。

⁴ 101名/165名=0.612... の計算式から算出。

⁵ 図中の「AL」はアクティブラーニング（Active Learning）の意味である。

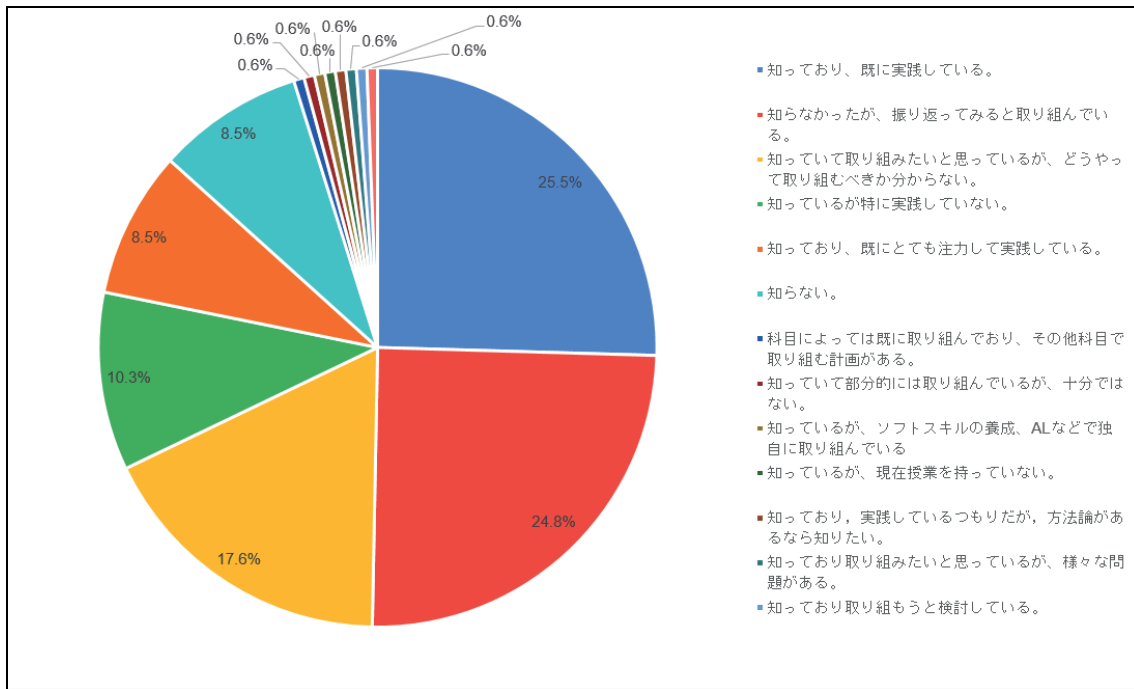


図 2-2 アダプティブラーニングの認識・実践状況 (N=165)

2.2.2 学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、特に重視（指導者として必要なもの）していること

本設問は複数回答可としており、1,013 件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「考えや意見を否定せず、興味、関心と結びつけながら学習の方向性を導くこと」（111 名、11.0%）、「学生・生徒の性格（特性）を把握していること」（105 名、10.4%）、「学生・生徒の考えや意見を引き出す様にすること」（98 名、9.7%）、「学生・生徒の発言や意見を最後まで聴くこと」（98 名、9.7%）、「学生・生徒から質問があった際に対応できる専門知識とスキル」（97 名、9.6%）、「クラスの雰囲気づくり」（95 名、9.4%）の順に多かった（図 2-3、2-4）。

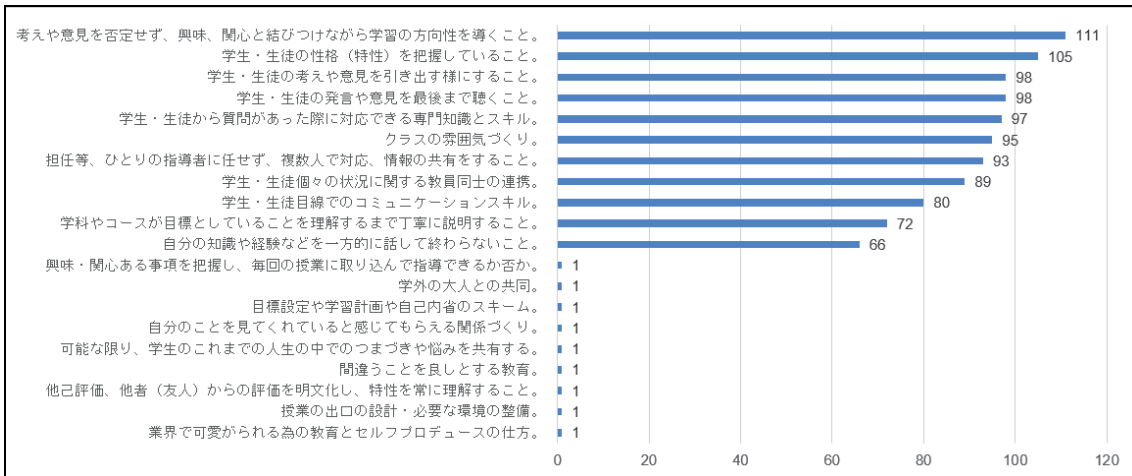


図 2-3 学力や能力・個性を育成するために特に重視しているもの (N=1,013)

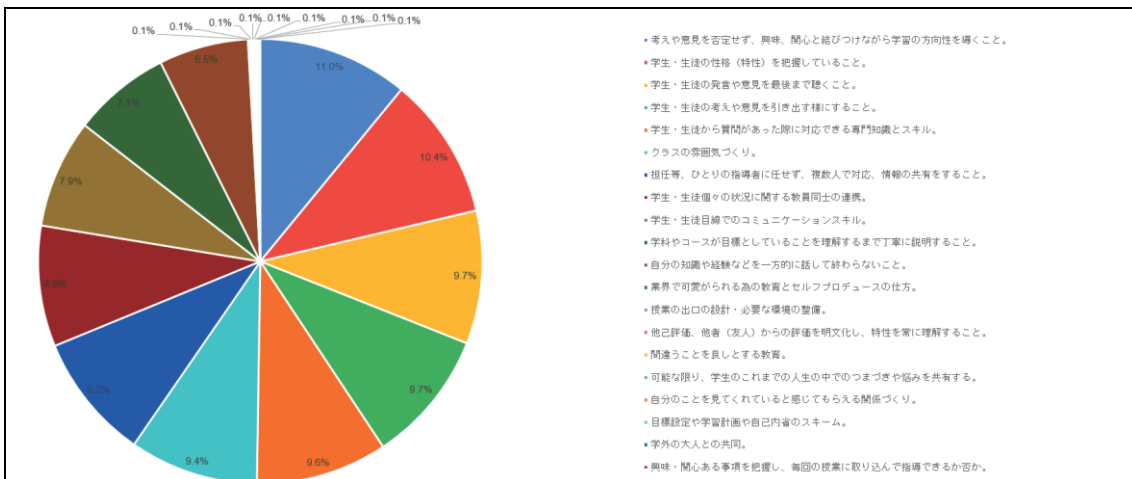


図 2-4 学力や能力・個性を育成するために特に重視しているもの (N=1,013)

2.2.3 学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定するための対応内容

本設問は複数回答可としており、254 件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「学習内容のどこに興味関心があるのかをヒアリングし共有するようにしている」(83名、32.7%)、「学科やコースで設定されている目標(検定合格など)に向けての短期的な目標を個々人の状況に応じて定めるようにしている」(79名、31.1%)、「目標設定は行ってはいないが、個別面談で目標や学習の進捗など話をしている」(64名、25.2%)、「クラス(学科)の目標が設定されているため個別目標設定は行っていない」(24名、9.4%)の順に多かった(図 2-5、2-6)。

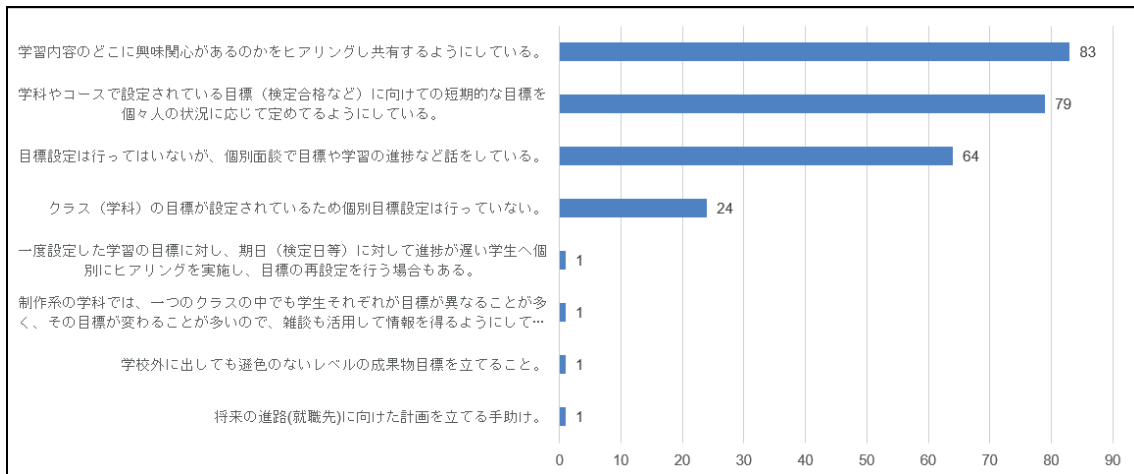


図 2-5 学習目標を設定するための対応内容（N=254）

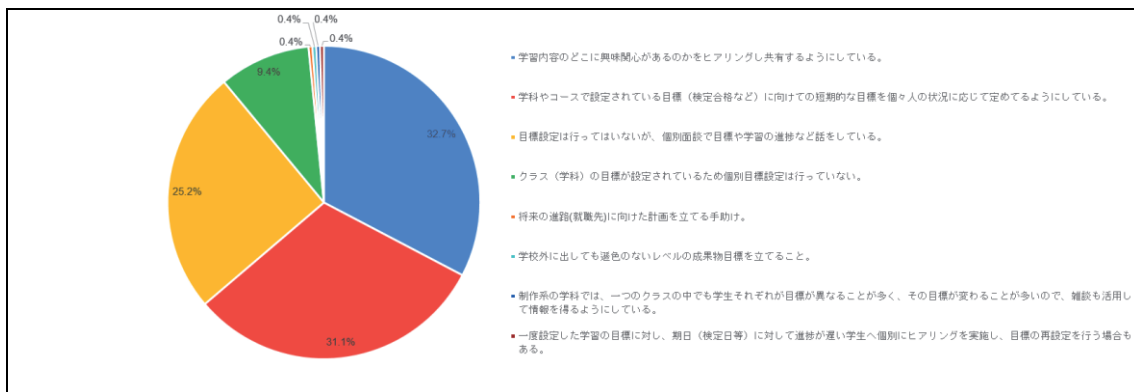


図 2-6 学習目標を設定するための対応内容（N=254）

2.2.4 (2.2.3) の対応をする際（または、しようとした際）の課題

自由記述での本設問を設けたところ、101 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)時間不足

多数の学生の担当をしている教員が多く、学生・生徒個々人の現状認識から学習目標設定にあたり、個別の時間確保に苦労されている回答が多かった。具体的には、「学生とコミュニケーションをとる時間的な問題」、「学生数が多く、また個別でニーズが異なるため教員負担が大きい」、「進捗が遅れがちな学生へのフォローに偏りがち」、「各学生の課題を深掘りし、整理するだけのマンパワーが不足している」といった回答があった。

(2)評価基準

学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定する上で客観的な評価基準の在り方に関する回答があった。具体的には、「評価指標の客観性を維持すること」、「成績の公平性」、「学生の自己評価と客観的評価のギャップを擦り合わせる」といった回答があった。

(3)信頼関係

学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定する前提となる信頼関係の程度に対する回答があった。具体的には、「学生との信頼関係を構築しなければならないので、日頃からのコミュニケーションが大切であり、教員負担が大きくなる」といった回答があった。

(4)学生・生徒の「学力・能力・資質」

学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定する際、学生・生徒の「学力・能力・資質」の対する悩みの回答があった。具体的には、「学生の理解度、レベルにバラつきがあり、どこに焦点を絞って指導すべきか苦慮している」、「学科の目標に対し、能力や学習習慣の差（習慣化していない）をどのように埋めたらよいか」、「学生自身が自分の興味・関心の対象をはっきりと持っていない場合がある」、「発言が苦手な学生（意見をまとめるのに時間がかかる等）の対応や、授業スピードを、どこのレベルに合わせて個々に対応させていくか」といった回答があった。

(5)教員のスキル

学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定する際の教員側の対応スキルの不足という回答があった。具体的には、「教員ごとに異なる専門知識量と生徒本人の能力把握」、「目標や興味関心を見つけることが極端に苦手な学生から話を引き出すこと」、「教員の持つスキルセットの違いで生じる学生対応のミスマッチや、教員のモチベーションの差など」といった回答があった。

(6)教員数（学生数に対して）

学生・生徒個々人の現状認識から学習目標を設定する際に、教員1名当たりの担当学生数の多さからの苦勞に言及する回答があった。具体的には、「細分化した目標に対しての人員配置」、「学生個々人の能力を見極めること、指導、コミュニケーションを取る為の時間や人員不足」といった回答があった。

(7)教員間の情報共有

学生・生徒個人々の現状認識から学習目標を設定する際の情報共有に関する悩みの回答があった。具体的には、「短期目標と長期目標を連動させた学生・生徒指導において、特に講師間で同じ情報を共有する上で煩雑な業務が発生しがちになっている」、「1人の教員で関わっていくわけではないので、教員間のコミュニケーション、共有するためのツールが必要」といった回答があった。

(8)学校（教員）と学生・生徒との間のギャップ

学生・生徒個人々の現状認識から学習目標を設定する際に、学校（教員）と学生・生徒との間の認識ギャップが発生しているという。具体的には、「学科の学びと学生個人々の目標の整合性」、「身につけた方がよいスキルと、学びたいスキルでの乖離が発生しやすい」、「興味がある」と“それができる”は別物であること。学生はそれが認識できない、あるいは認めようとしにくい」といった回答があった。

2.2.5 学生・生徒個人々が学習目標を達成するために対応していること

本設問は複数回答可としており、994件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「変化について注意深く観察するよう心掛けている（表情や態度、言葉遣いの変化など）」（98名、9.9%）、「定期的な面談を行い学生・生徒とのコミュニケーションを通じて動機付けを行っている」（91名、9.2%）、「興味や関心に沿って学習が進められるようその学習方法を適宜アドバイスしている」（90名、9.1%）、「指導においては、学生・生徒個人々の理解度に応じて、繰り返し説明している」（88名、8.9%）、「習熟度に応じて与える課題内容などを変えている」（81名、8.1%）、「提出された課題には個人々の状況（理解度等）に応じたコメントを付けて戻している」（67名、6.7%）の順に多かった（図2-7、2-8）。

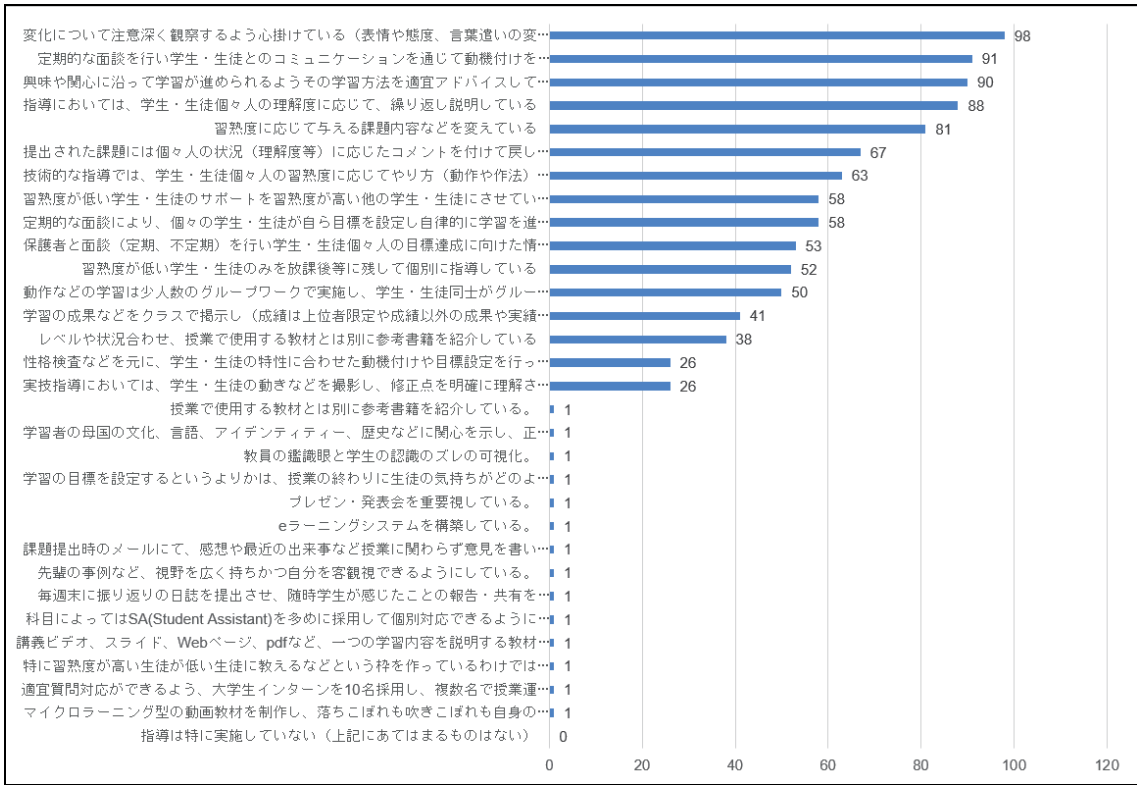


図 2-7 学習目標を達成するために対応していること (N=994)

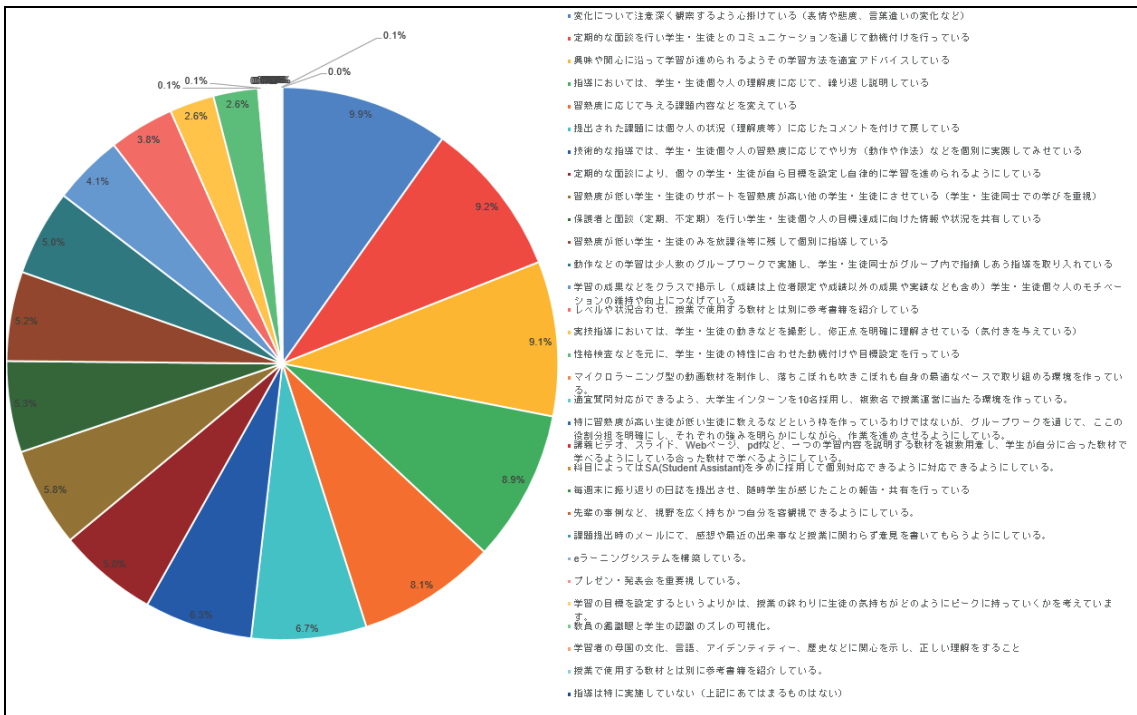


図 2-8 学習目標を達成するために対応していること (N=994)

2.2.6 (2.2.5) の対応をする際（または、しようとした際）の課題

自由記述での本設問を設けたところ、91 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)時間不足

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、時間不足に関する回答が多かった。具体的には、「就業時間内でこなすことは難しく、残業が増えてしまう」、「出来るが学生の自ら学ぶ時間が他の学生の為に削られることもある」、「担任以外の業務も多々あるため、一定人数以上を超えると個人個人の学力や個性を育成する行為に無理が生じてくる」といった回答があった。

(2)動機付け

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、学生・生徒の動機付けに関する回答があった。具体的には、「授業時間外に自発的な学習を促す際の、学生自身のモチベーションの維持の方法。学生によりやる気の出し方、学外での時間の使用方法には大きな違いがある為、より多くの方法を知りたい」、「”やらされてやる”のではなく、”好き””やりたい”から行動に移すこと、自由な選択があることを大切にしているが、学習者の中でそういった気持ちが起こるまでには時間がかかる場合がある」といった回答があった。

(3)教員のスキル

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、教員のスキル不足をあげる回答があった。具体的には、「学生・生徒の力量を把握する教員のスキル」、「教員の傾聴スキルの違い」、「教員ごとに異なる専門知識量と、学生・生徒とのコミュニケーションの質と量」、「実技指導においては教員の癖がでないように注意して実施すること」といった回答があった。

(4)学生・生徒の「学力・能力・資質」

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、学生・生徒の「学力・能力・資質」をあげる回答があった。具体的には、「小中高校で不登校だった学生の割合が年々増加し、基本的な学力（小学校高学年程度の読解力、足し算や引き算、パソコンの基本操作など）において学習障害レベルの学生も増えてきているのが現状。それらの学生へのフォローに時間を取られ、むしろ優秀な学生への対応がおろそかになりがち」、「学生自身の関心や習熟度によって個別に指導したいと考えているが、学生本人が自分の状況を発信、発言しないことが多く、できていないことも隠したり、できていても手を抜いたりするなど、正確な習熟具合が把握できない」、「自律性、主体性の喚起における個人差」といった回答があった。

(5)不公平感

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、各学生フォロー間の不公平感に対する回答があった。具体的には、「習熟度の低い学生にだけ補講を行うことやプリント等の添削をすることが不公平に思われないか」、「全員が同じ学費を払っているので、できるだけ全員に声かけられるように、1人にかかりっきりにならないようにしている」といった回答があった。

(6)授業内外での学習支援

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、授業内外での対応内容に関する回答があった。具体的には、「グループワークや学生同士の教え合いを導入する時、学生同士の人間関係が良くない場合に、学習効果が期待できない場合がある、授業への不満の増加、学習に直接関係のない問題に発展することを懸念している」、「個別教材の準備や課外指導など講師の負担が大きいため、継続的に長期間行えない。アクティブラーニングにしても、グループ内での格差を埋められなくなる」、「個々の学習能力や個性を考えて指導をしようとする時間と時間が掛かりすぎて資格取得に間に合わないことがある。意欲不足並びに習熟度の低い学生のみで教員の力を注ぐことで、努力をしている学生が疎かになっていってしまうことがある」といった回答があった。

(7)目標達成基準

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、目標達成基準が曖昧な状態になっている場合があるという。具体的には、「目標を達成したかどうかの基準が個人内設定となっているため、組織内で協議・共有して基準設定できていない。従って、判断は主観に近いものとなりがちで、その客観性を自身で悩むことが多い」といった回答があった。

(8)教員数（学生数に対して）

学生・生徒個人が学習の目標を達成する上での課題として、教員1名当たりの担当学生数の多さからの苦勞に言及する回答があった。具体的には、「学生個々の問題は複雑かつ多様化している中で、単純に1名で学生数十名を見る今の教育システムではこれらの取り組みはどう考えても困難」、「学生個々のレディネスチェックを都度都度行うことが難しいと思っている。様々な共有ツールなどを活用しているが、学生人数が増えれば増えるほど把握が難しくなっている」といった回答があった。

2.2.7 目的や目標が曖昧な学生・生徒やモチベーションの低い学生・生徒、途中で躓いた学生・生徒への対応内容

本設問は複数回答可としており、658件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「やる気（モチベーション）の低い学生・生徒には、小さな目標設定を行い、達成した場合は褒めて次の目標を設定し、やる気を継続させるようにしている」（105名、16.0%）、「習熟度の高低により、特定の学生・生徒だけに対応が偏らないよう心掛けている」（90名、13.7%）、「コミュニケーションが苦手な学生・生徒には、できるだけ時間をかけて本人の志向や本人が考えている目標を見つけ出すようにしている」（90名、13.7%）、「目標が曖昧な学生・生徒には、学生・生徒個々の意見や考えをできるだけ聞き出し、学習内容と結びつく点を探し目標設定をするようにしている」（73名、11.1%）、「目標に向かう途中で躓いた際は、即面談を行いその原因の解決に向け対応している」（72名、10.9%）、「目標達成ができなかった（例：目標の検定が不合格であった）際は、面談により具体的な新たな目標（類似検定や類似のコンテスト、翌年の再チャレンジ、さらに上位級へのチャレンジなど）を明確にしている」（67名、10.2%）、「目標達成ができなかった（例：目標の検定が不合格であった）際は、学生・生徒個人と面談を通じて、達成できなかった原因を共有するようになっている」（67名、10.2%）の順に多かった（図 2-9、2-10）。

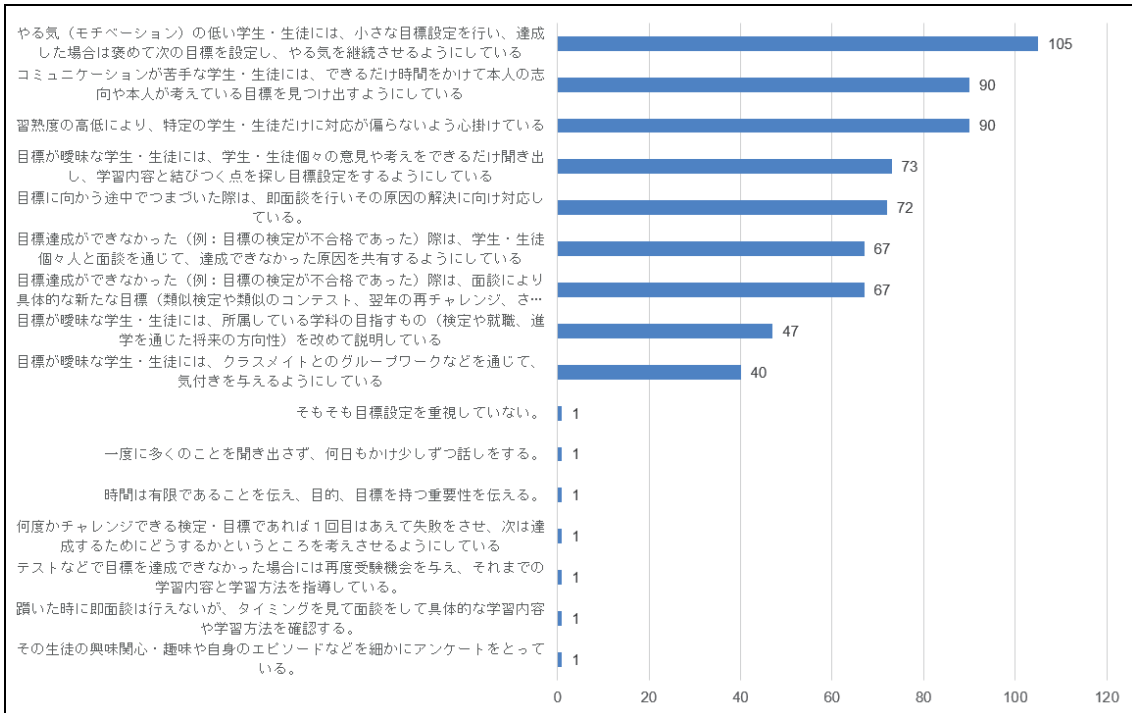


図 2-9 目的・目標が曖昧、モチベーションの低い等の学生・生徒への対応内容 (N=658)

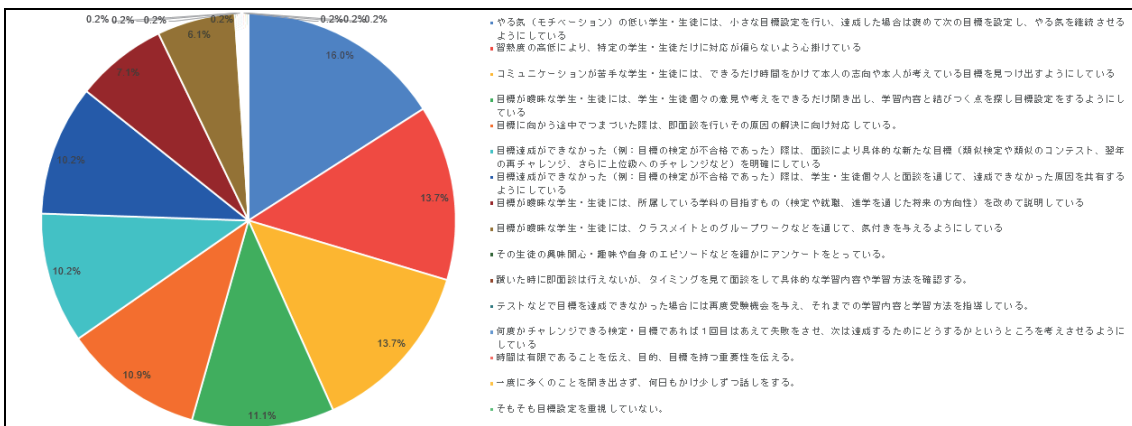


図 2-10 目的・目標が曖昧、モチベーションの低い等の学生・生徒への対応内容 (N=658)

2.2.8 学生・生徒指導のために個人的に習得しているスキルや専門知識

本設問は複数回答可としており、205件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「コーチング」(54名、26.3%)、「ICT関連資格」(38名、18.5%)、「インストラクショナルデザイン」(31名、15.1%)、「プレゼンテーション」(28名、13.7%)、「カウンセリング」(25名、12.2%)、「心理学(NLP等)」(15名、7.3%)の順に多かった(図 2-11、2-12)。

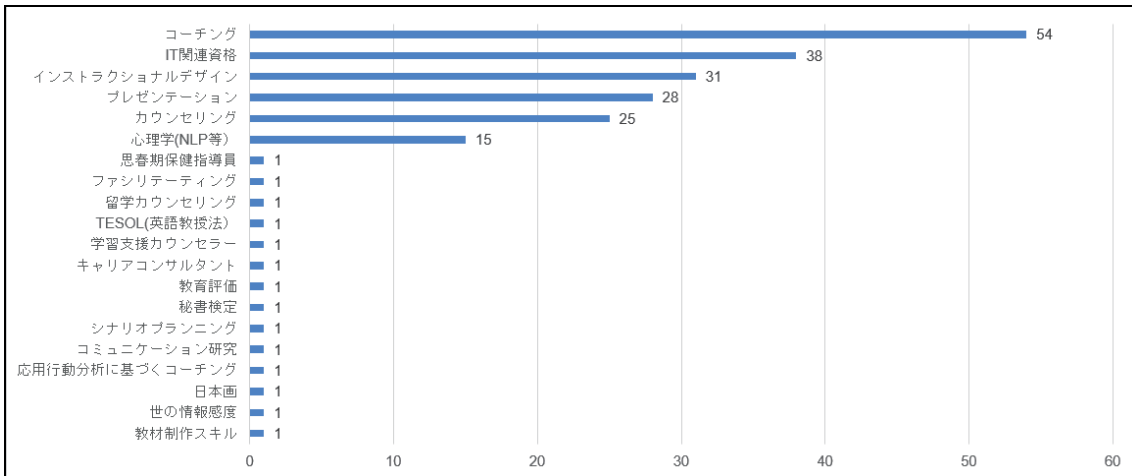


図 2-11 個人的に習得しているスキルや専門知識 (N=205)

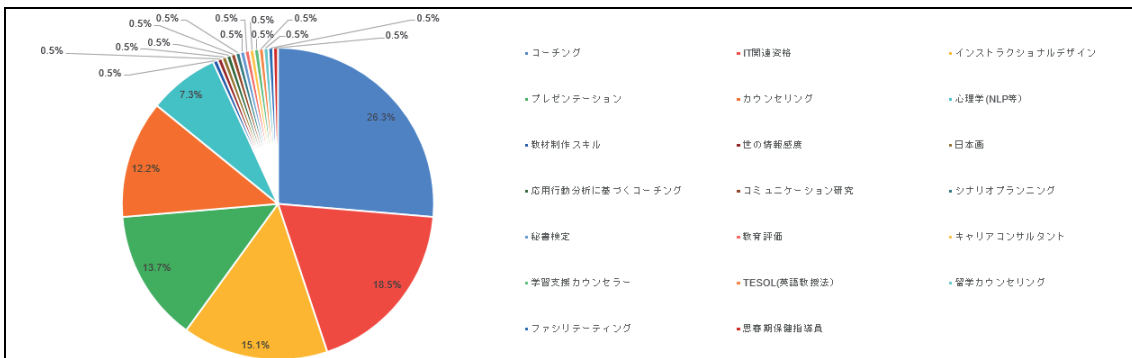


図 2-12 個人的に習得しているスキルや専門知識 (N=205)

2.2.9 学生・生徒個人々の学習の成果（学習状況や心理的な変化や人間的な成長など）の記録方法

本設問は複数回答可としており、207件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「Excel など表計算ソフトに入力している」（79名、38.2%）、「自校オリジナルの学務システムに入力している」（66名、31.9%）、「既定のフォーマット用紙など紙に記入している」（23名、11.1%）、「他社の専用システムに入力している」（17名、8.2%）の順に多かった（図 2-13、2-14）。

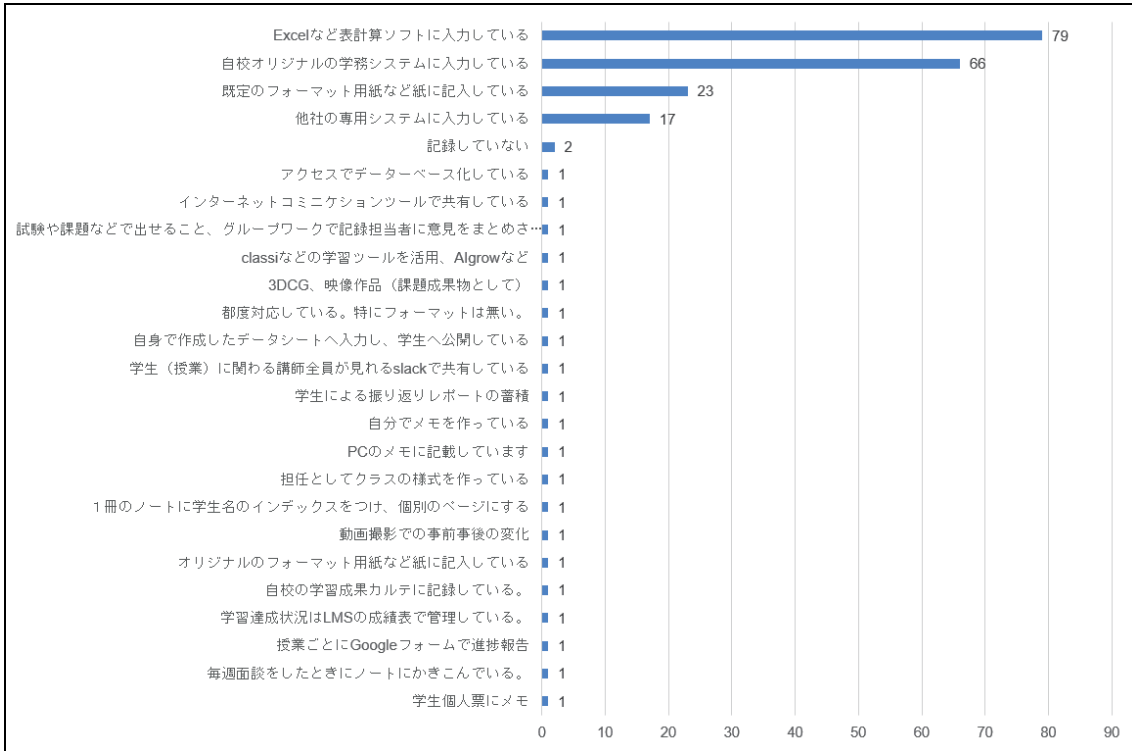


図 2-13 学習成果（学習状況や心理的变化や人間的成長等）の記録方法（N=207）

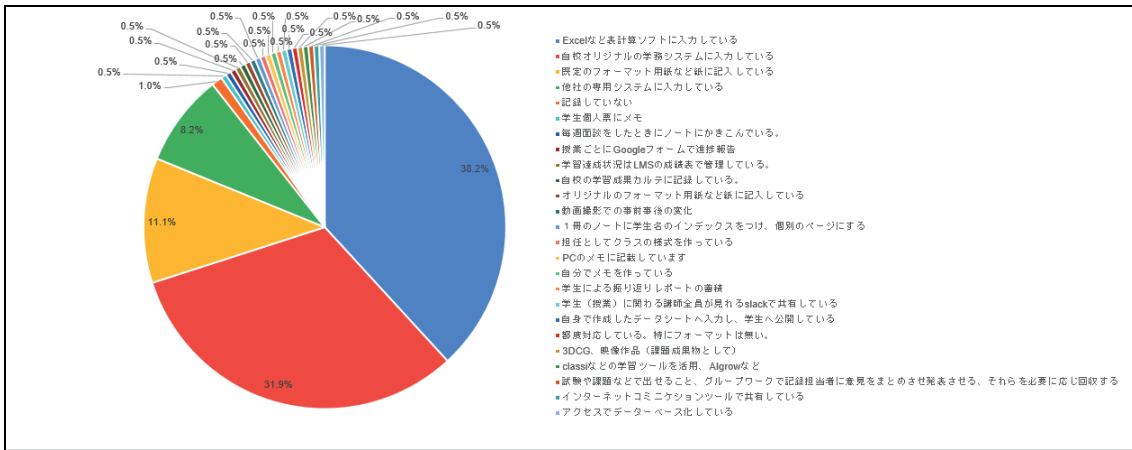


図 2-14 学習成果（学習状況や心理的变化や人間的成長等）の記録方法（N=207）

2.2.10 学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」「学生・生徒の動機付け」「個人々に合った学習方法の提示」「それらのための教員の行動スキル」の実現方法

2.2.10.1 「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法

自由記述での本設問を設けたところ、154 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)各種指標による把握・評価

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、「テスト」「課題」「成果物」「日誌・学習ノート」「アンケート」「ループリック」「評価基準」といった各種指標をあげている回答が多かった。具体的には、「各科目の確認テストと個人の目標設定とその達成度の確認」、「課題制作を提出してもらい、完成度の確認で、理解度・応用度を把握、評価している」、「毎週末の振り返り日誌をメールにて提出させ、今週の授業で難しかった科目などのアンケートや1週間の所感などを入力させている」、「小テスト、アンケート、ループリック評価、実技課題での個別評価を行っている」「評価基準となる指標を作成しそれを元に評価する。講師全員が見られる記録に残し、レッスン間、講師間の情報が分断されないようにする」といった回答があった。

(2)個別面談

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、個別面談とカルテの組み合わせで行っているケースがあった。具体的には、「3ヶ月毎の目標設定面談、評価表によるフィードバック」、「学習成果カルテを、元に面接」といった回答があった。

(3)学生・生徒同士の相互評価

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、学生・生徒同士で評価を行い合うという回答があった。具体的には、「学生・生徒同士の相互評価の実施、定期的な面談における目標の明文化とその達成度合いの確認、（これは今後実施予定とのことで、それぞれのパーソナリティをストレンクスファインダーや16PersonalICTy⁶などのツールを使って一旦可視化をする）」といった回答であった。

⁶ 無料の性格診断テスト <https://www.16personalICTies.com/ja>（最終検索日：2021年2月1日）

(4)専門の評価者の存在

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、専門知識のある職員が、評価を実施し担任と共有を行なっているという。

(5) (授業内での) 質問による確認

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、授業内での質問・回答のやり取りで行うという回答があった。具体的には、「理解度を評価する為にペーパー試験ではなく、それが話せる（口頭で説明できる）か否かで判定する」、「今までやったことを復習する意味で、質問を投げかける。また授業の最後に振り返りで何をどのようにやったのかを発表してもらおう」といった回答があった。

(6)ICT ツールの活用

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の学習理解度の把握・評価」の実現方法について、ICT ツール活用をあげた回答があった。具体的には、「座学では小テストを行い、Google Forms に回答を入力させ、データを蓄積し瞬時に偏差値を出し、自分の立ち位置を認識させる」、「学習記録アプリ、学習動画視聴記録」といった回答があった。

2.2.10.2 「学生・生徒の動機付け」の実現方法

自由記述での本設問を設けたところ、150 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1) (在学中の) 目的・目標の明確化

学生・生徒個人々の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、在学中の目的・目標の明確化をあげる回答が多かった。具体的には、「行動的チェック票や仕上がり作品チェック票を用い、学生にセルフチェックをさせ、自己学習に結び付けている。行動的チェック票については、技術中の動作を撮影し、自己動画を見ながら客観的視点で評価をさせている」、「確認テスト実施時は前もって伝達し合格点を示す。模試については結果をグラフ化して掲示。目指す介護福祉士像を考えさせ、ポスターを作成しクラスに掲示している。様々な行事毎に社会人として専門職としてその経験をどのように活かすことができるか動機付けを行う」、「目指す資格について早期に具体的なビジョンを明確に伝える機会を提供するよう心掛けている」といった回答があった。

(2)卒業後の将来イメージ

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、卒業後の目的・目標としての将来イメージを伝えているケースがあった。具体的には、「この科目を勉強することで、将来独立して事務所をかまえることができ、収入面でも一般企業で働くよりも数倍の収入を得ることができる等、具体例を掲げて説明する」、「教育目標を達成した場合に身に付く能力を明示し、社会の中でどのように役立つか理解させる」、「学校目標だけにとどまらず、興味分野・業界におけるトレンドや将来像の情報をより多く、且つ逐一提供していく」、「目標は卒業ではなく、卒業後の仕事のイメージを伝えるようにしている。特に実習の授業などで操作を教える際には、チュートリアル的な操作の教授ではなく、仕事ではどう使われるか、効率的な使い方などを話すようにしている」といった回答があった。

(3)教員のスキル・パフォーマンス

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、教員のスキル・パフォーマンスによるものという回答があった。具体的には、「圧倒的にインパクトを与えるプレゼンテーション」、「少しでも良いアウトプットがあった場合に褒める、更なる高みを求める方向性を示す」、「教材作成（動画教材においては指導教員が出演）」、「何のために学んでいるか、それが実生活にどう活かす事ができるかを伝えている。講師自らが見本を見せるようにしている」といった回答があった。

(4)他者の成果物・先輩・社会との接点

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、学生・生徒にとって身近な存在のエピソードを持ち出すことで自分事にさせる工夫が見られた。具体的には、「良い映画作品やプロの原画展など見て刺激を与える」、「先輩後輩との異学年協同学習」、「卒業生からのメッセージによる将来像のイメージ化を図る」、「本物の機会の提供、疑似課題（教材のための課題）ではなく社会の本物の課題を提供。背景説明に社会人を巻き込む、達成目標の明文化」といった回答があった。

(5)授業形態

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、授業形態の工夫で動機付けを行っている回答があった。具体的には、「グループワーク、ディスカッション、オンラインの評価システムの利用」、「同級生の自主制作や自学習の進捗が見られるようにしてある。グループチャットで質問のやり取りを共有している」といった回答であった。

(6)学生評価

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「学生・生徒の動機付け」の実現方法について、成績評価方法で工夫している回答があった。具体的には、成績評価を絶対評価のみならず形成評価を実施することで学生の学習遂行の振り返りになっているという。

2.2.10.3 「個々人に合った学習方法の提示」の実現方法

自由記述での本設問を設けたところ、142件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)クラス分け

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「個々人に合った学習方法の提示」の実現方法として、レベルによるクラス分けを行う回答があった。

(2)個別のアドバイス

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「個々人に合った学習方法の提示」の実現方法として、個別の学習方法提示、教材用意、課題量・課題難易度の調整といった視点での回答があった。具体的には、「対面授業の全録画、遠隔授業時にオンデマンド教材作成など見返し可能な状況にすること、自分のペースで学習できることに重点を置いている」、「マイクロラーニング型の動画教材を用意」、「理解力が高い学生には難易度の高い問題を与え、理解度が低い学生に対しては簡易な問題を与えるなど、学生に応じてプリントの問題を変えている」、「講義外で個々の修得状況に合わせた補填指導、課題の提出、学習の方略の支援を行っている」といった回答があった。

(3)一斉授業をしない、補習を行う

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「個々人に合った学習方法の提示」の実現方法として、教員側での教育活動の工夫が見られた。具体的には、「プログラミングなどの科目については、一斉授業ではなく個別指導を中心に授業を行なわせている」、「集合授業中心なので授業中での個別対応は難しい。放課後などの空き時間で個別対応を行っている」といった回答があった。

2.2.10.4 「それらのための教員の行動スキル」

自由記述での本設問を設けたところ、125件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)観察力、カウンセリング力、コミュニケーション力

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、「学生の習熟度が低いというだけではなく、どの分野が苦手であるかを聞き取る為の面談スキル、信頼関係を築くための傾聴力」、「学生のモチベーションを把握するスキル」、「コミュニケーション力、観察力に基づくアプローチ、愛情をもった行動」といった回答があった。

(2)指導方法や成功事例の知識、共通方針

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、事例・知識の蓄積と方針の統一と理解に関する回答があった。具体的には、「諸先輩方の指導方法や成功事例を伺い、実践してみる」、「支援方針の理解促進、ケース会議による支援方針の明確化」、「教育工学、学習科学、授業デザイン」といった回答があった。

(3)教材作成スキル

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、「最小学習単位のコーディネートと学習ルートの作成スキル」、「複数教員での授業運営、教材作成におけるデジタルコンテンツを活用できる技術（動画編集技術やネットワーク等の知識）」、「共通して指導できる資料の作成する、知識・経験をなるべくデータ化」といった回答があった。

(4)コーチングスキル

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、「個々の学生にあった褒め方と叱り方」、「コーチング・ファシリテーション能力、解を出すではなく生徒の中にある解を引き出すことが出来る、正解はないスタンスで自らが学び続けている大人像を示せること」といった回答があった。

(5)ICT スキル

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、様々な視点からの ICT スキルへの言及があった。具体的には、「ドキュメント等のデータ管理スキル」、「データ活用スキル」、「データを収集するためのツールやサイトの検索スキル」、「ツール等を用いて個々の学生の状態を合理的に管理するスキル」といった回答があった。

(6)プレゼンテーションスキル

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、「どんな話でも興味を惹きつける、“話し方”“話の構成”など、教育をエンターテインメント化するための技術を身につけることが必要」、「興味を持ってもらうためのプレゼンテーション力」といった回答があった。

(7)専門分野の知識、経験

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、専門分野の知識・経験の蓄積への言及があった。具体的には、「学生に説得力を持たせるため、出来る範囲で自身も作品を作り続け、過去の知識にならないように勉強し続ける、楽しみ続ける」、「全体に模範解答を示し解説ができること、各人から出された解法に基づき指導できること」、「社会での実践的な経験に基づく技能があることが重要である」といった回答があった。

(8)ネットワーキング

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、学校外の人とのコネクション形成という回答があった。

(9)マインドセット

学生・生徒個々人の学力や能力、個性を育成するために、「それらのための教員の行動スキル」として、あるべき教員像の検討と実践に関する回答があった。具体的には、「教員がこれをやらねばならないという思い込みを捨てる必要がある」という回答である。

2.2.11 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用するにあたり、「学生・生徒個人々の学習の成果（学習状況や心理的な変化や人間的な成長など）の記録・分析の面」での有効度

本設問は 164 件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「まあ効果的に使えている」（62 名、37.8%）、「どちらともいえない」（47 名、28.7%）、「あまり使えていない」（29 名、17.7%）、「とても効果的に使えている」（17 名、10.4%）、「全く使えていない」（9 名、5.5%）の順に多かった（図 2-15、2-16）。

全回答の 48.2%⁷が ICT ツール活用を有効とする回答であった。

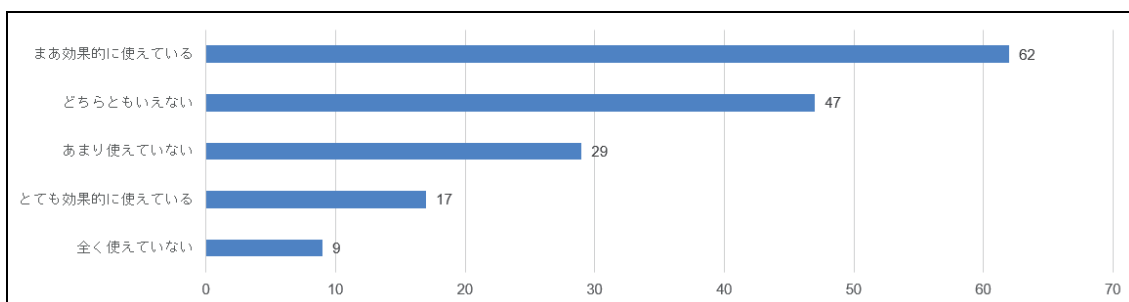


図 2-15 ICT ツール使用の「学習成果」への有効度（N=164）

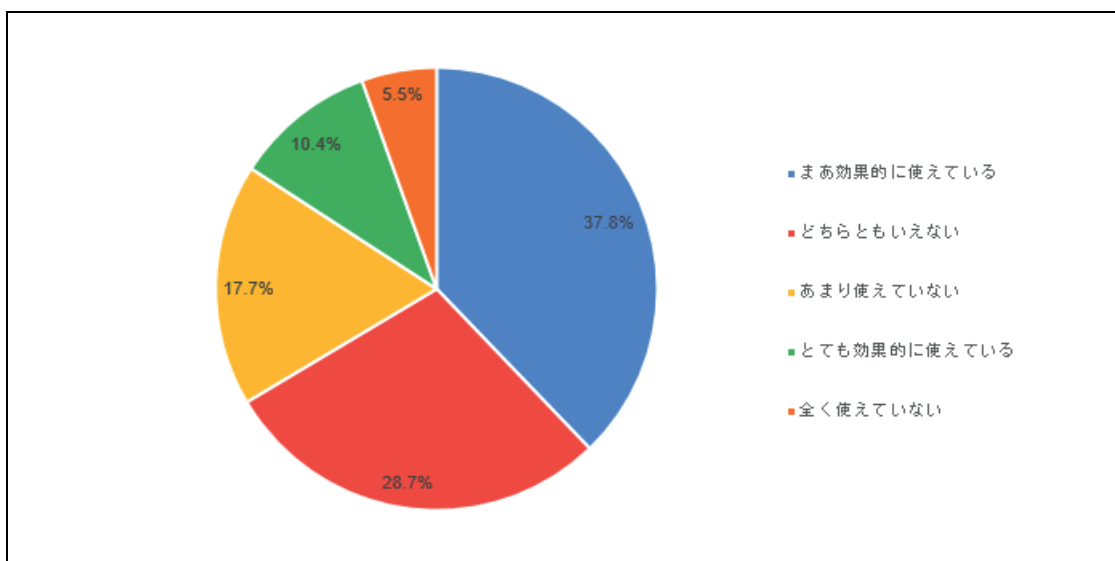


図 2-16 ICT ツール使用の「学習成果」への有効度（N=164）

⁷ 「まあ効果的に使えている」と「とても効果的に使えている」の合計から算出。

2.2.12 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用するにあたり、「授業運営や個人指導のファシリテーションの面」での有効度

本設問は 164 件の回答があった。

回答項目別の人数・比率は、「まあ効果的に使えている」（61 名、37.2%）、「どちらともいえない」（51 名、31.1%）、「あまり使えていない」（32 名、19.5%）、「とても効果的に使えている」（15 名、9.1%）、「全く使えていない」（5 名、3.0%）の順に多かった（図 2-17、2-18）。

全回答の 46.3%⁸が ICT ツール活用を有効とする回答であった。

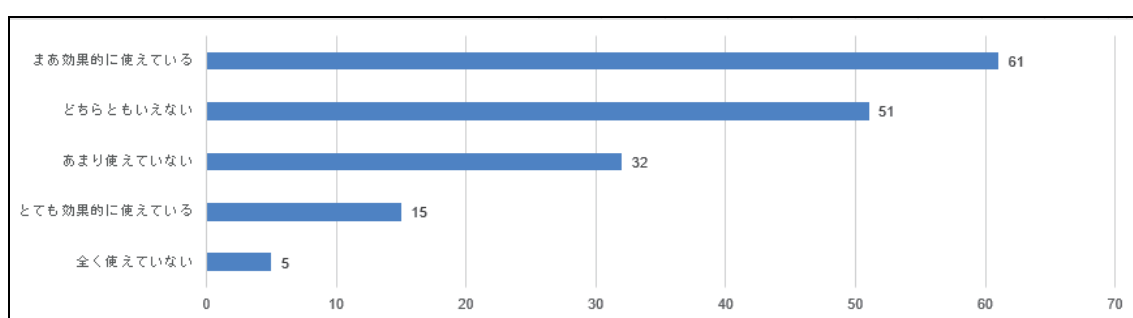


図 2-17 ICT ツール使用の「ファシリテーション」への有効度（N=164）

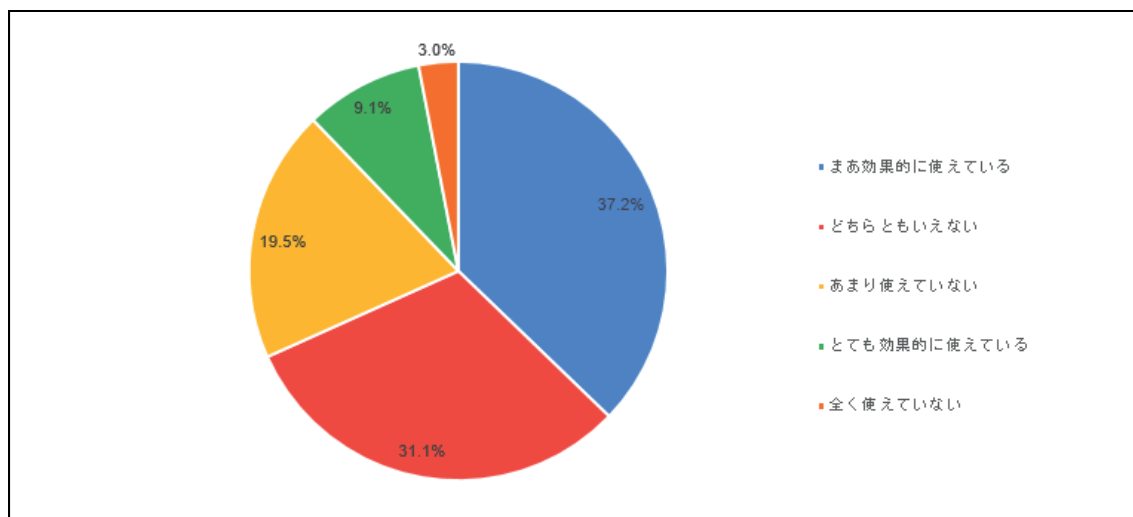


図 2-18 ICT ツール使用の「ファシリテーション」への有効度（N=164）

⁸ 「まあ効果的に使えている」と「とても効果的に使えている」の合計から算出。

2.2.13 ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題

自由記述での本設問を設けたところ、105 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)教員の ICT リテラシー不足

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「学校管理職やほか教員の情報感度の低さ」、「教員側の ICT 習熟・理解度の差が大きいこと」、「職員自身のスキルの差、教育 ICT に対する職員の意識の差」といった回答があった。

(2)新たな ICT 技術、ツールに関する学習時間不足

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、積極的活用への意欲はあるものの学習するための時間不足という回答があった。具体的には、「目的（ツールの機能を駆使し、個別指導を実現できる）までの学習時間や効果的な使い方の調査に時間がかかる」、「操作方法をしっかりと習得する時間を確保できない」といった回答があった。

(3)学生・生徒の ICT リテラシー不足

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「各種機器やソフトにまだ習熟していない部分があり、機能を生かし切れていない」、「アプリやソフトでの学習を中心に進めるクラスでは、アプリの種類が多く生徒が理解しきれていない」、「学生にリテラシーをつけさせるために操作を覚えさせる必要があるが、学生によってはそちらが目的になってしまう場合がある」といった回答があった。

(4)ICT ツール運用方法

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「ICT ツールを駆使しても学生自身に学習を委ねても期待通り（資格を取得できるだけの）の学習に至らない」、「現在、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業と対面授業のハイブリット授業が主であるため、授業や問題の作成、集計などに時間がかかっている教員が多く、対面授業よりも負担を感じているように感じる」、「対面で入力・使用している場合は問題ないが、自宅や教員の見えないところで本当にその学生本人が入力・使用しているかが見えない」といった回答があった。

(5)環境整備

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「オンラインにおける学生の自宅での受講環境が標準化されていないこと」、「校内のネットワーク環境が悪く、授業で一斉に Wi-Fi を使用するとフリーズする」、「本当はもっと自由に PC を使って欲しいのだが、学生に管理者権限がない場合や、ネットのフィルタリング、といった制限がまだ結構多い」といった回答があった。

(6)適切な ICT ツール選び

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「機器の導入コストと指導に適したアプリの選定」という回答があった。

(7)マインドセット、目的

ICT 機器や各種ソフトやアプリを使用して指導する際（または、しようとした際）の課題として、「学生、教職員共に新しい事への取組に消極的なこと」、「ICT 機器やアプリを導入することが目的となり、本来の目的を見失っている」、「それを使うことが目的になって、本来得たい効果があまり得られていない」といった回答があった。

2.2.14 今後 ICT を活用してどのような指導をしたいと考えているか

自由記述での本設問を設けたところ、121 件の回答があった。回答内容を分類したところ、以下のような傾向が見られた。

(1)学生・生徒情報分析

今後 ICT を活用してどのような指導をしたいかについて、「個人のデータをもっと取りたい。個人のデータが集約していけば、その生徒の現在位置を正しく集約できるような気がする」、「ICT を活用し適宜学生の学習進捗度を把握し速やかに適切なフォローを出来るような仕組みを確立していきたい」、「生徒のデータを統合し、カルテ等を作りながら、より自分の実績を明確にし、自信をつけていけるような体制を作りたい」といった回答があった。

(2)オンライン教育

今後 ICT を活用してどのような指導をしたいかについて、様々な視点でのオンライン教育への期待を持った回答があった。具体的には、「登校できない学生への指導」、「自主学習（予習・復習）ができる環境をつくり、個人のレベルアップを目指す」、「定型的な課題に対する自動指導」、「オンラインでも対面でも受講できるハイフレックスな授業」、「遠隔授業や動画教材等とオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド 授業の実施」、「主要な検定対策の授業をすべて動画化してオンデマンド授業の拡充を図りたい」、「リモートによるインターンシップの機会を増やしていきたい」、「オンライン授業によって、グループワークの導入や学生同士のコミュニケーションを授業に取り入れやすくなっていると感じている。今後は、学生同士での教え合いや議論を適切なタイミングで効果的な内容で活用していけるようにしていきたいと考えている。また、AR などを活用して、より視覚的効果の高い資料によって理解度を高め、授業で学んだここの印象を強めることによって、学生の興味関心を引き出せるようにしたいと考えている」、「学生個々人の想いをタイムリーに集約し、ファシリテーターのような側面を重視した指導」、「教育機関のアナログな部分はデジタルへ、それに伴い教員の無用な仕事の自動化。インターネットでプログラムやデザインなどのスキルは沢山学べる場が増えた現在、教育機関でしか出来ない人と人が関わる教育・指導に注力したい」といった回答があった。

(3)個別フォロー

今後 ICT を活用してどのような指導をしたいかについて、様々な視点での個別フォローに関する回答があった。具体的には、「授業のサポート的な位置づけで、学習習慣のついていない学生に対応する指導」、「レベル別個別指導は行いたい。LMS を活用し、クイズ感覚で自己レベルの把握し、必要な知識やスキルを身に付けていける仕組みを取り入れたい」、「学生が困ったときや何かに興味を抱いたときにレスポンスよく対応できるように努めたい」、「ICT で効率化できる部分を効率化し、学習効率も上げつつ、単に最適化されたものが生徒に提供されるのではなく、その中に生徒の意志や自己決定を含むようにはしたい」、「習効率が出来た結果生まれる分その余剰で、予想外のことや、自分の視野を広げる体験・実践をしてもらう（ノイズを内包した教育）ようにしていく」、「バーチャルな空間を設定し、成果をシミュレーションすること」といった回答があった。

(4)教材作成

今後 ICT を活用してどのような指導をしたいかについて、「学生にとってわかりやすい授業ができるようパワポ使ったスライドだけでなく動画などを積極的に利用したい」、「学生が印象に残る教材制作」、「特に実技指導において、繰り返し確認（予習・復習）できるように動画を撮影し、学生が家庭でも学習できる動画を更に増やしていきたい」といった回答があった。

2.3 アンケート調査のまとめ

今回、各教育機関・教育サービス企業等に在籍する教員（講師）の「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングに関する認識と教員と意識」と「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングを実現するために必要な教員の能力と課題」について調査を実施し、アダプティブラーニングの認識・実践状況・課題・求められる教員資質・ICT ツール活用状況や期待内容等を明らかにした。

以下では、「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の確立と、その方法を習得する研修プログラム開発」の観点からアンケート調査結果をまとめる。

2.3.1 アダプティブラーニングの認識・実践について

アンケート回答者の 61.2%がアダプティブラーニングをなんらかの方法で実践していることが分かった。これは、つまり、学生・生徒個人に合った方法を以て学力・能力・個性を育成することが重要であることが広く認識されている証左である。

2.3.2 個別指導のために教員が重視していることについて

学生・生徒の性格（特性）を観察やコミュニケーションを通して把握し、彼ら彼女らの考えや意見を傾聴・尊重しながら、学習の方向性を導く役割が担われており、これらを可能とする資質が必要とされている。

2.3.3 学習目標の設定について

学習目標と学生・生徒の興味関心を関連付けて、個別の目標として自分事化してもらおうとする工夫が見られた。時間的制約や教員数等のハードルはあるものの、「学力・能力・資質」面で多様な学生・生徒といかに信頼関係を作り、学習への動機付け、学習の自立・習慣化を促す様々な形態での効果的で効率的なコミュニケーションスキル・手法の工夫、目標設定基準（評価基準）の明確化が課題として挙げられている。そして、教員間でタイムリーに状況共有できる仕組みも課題として挙げられている。

2.3.4 学習目標の達成について

興味関心の観察を起点として、面談やメール等の様々な形態でのコミュニケーションを以て学生・生徒の学習目標達成を支援しているのが現状である。時間的制約や教員数等のハードルはあるものの、効果的で効率的なコミュニケーションを行うスキル・手法の工夫、目標設定基準（評価基準）の明確化が課題として挙げられている。

2.3.5 目的や目標な曖昧、モチベーションが低い、途中で躓いた場合の対応について

小さな達成しやすい目標設定や褒めること、面談等の様々な形態でのコミュニケーションを以て学生・生徒を支援しているのが現状である。

2.3.6 教員が習得しているスキルや専門知識について

「コーチング」、「プレゼンテーション」、「カウンセリング」、「心理学」等のコミュニケーションスキル・手法に関する自己啓発が多く見られた。また、「ICT ツールに関する理解」、「インストラクショナルデザイン」に対するニーズが見られた。

2.3.7 学生・生徒の状況記録媒体について

Excel といった身近な ICT ツール活用から、自校オリジナルまたは外部調達システムの活用、紙活用まで幅広い実態が見られた。時間的な制約や記録後の分析・対応、情報の一元化を考慮すると、ICT 化が望ましいと思われるが、幅広い実態が残されている現実から容易にスイッチしにくい要因があることが想像される。

2.3.8 学生・生徒の「学習理解度の把握・評価」「動機付け」「個々人に合った学習方法提示」から言える教員スキルについて

「学習理解度の把握・評価」について、各種指標（テスト、課題、成果物、日誌・学習ノート、アンケート、ルーブリック、評価基準）や、個別面談、学生・生徒同士による相互評価、発言量・質による確認を以て行っていることが分かった。これらを ICT ツール、例えば Google Forms を活用して行っているケースもあった。

「動機付け」について、目的・目標の明確化、将来イメージを持てるような機会設定（他者の活躍・成果物、社会との接点）、プレゼンテーション・教材作成スキル・褒める技術といった教員スキル、授業形態（グループワーク・ディスカッション等の協同作業、オンライン利用）の工夫、成績評価方法の工夫を以て行っていることが分かった。

「個々人に合った学習方法提示」について、レベル別クラス運営、マイクロラーニングを意図したオンデマンド型動画教材等や補講等の様々な形態での個別アドバイスの工夫を以て行っていることが分かった。

以上を実行する上で、養成並びに向上させていくべき教員スキルとして、「観察力・カウンセリング力・コミュニケーション力」「指導方法や成功事例、支援方針の共有」「教材作成スキル」「ICT スキル」「コーチングスキル」「プレゼンテーションスキル」「専門分野の知識」が挙げられている。

2.3.9 ICT ツールの学生・生徒状況の記録分析面での有効度について

アンケート回答者の 48.2%が、ICT ツールが学生・生徒状況の記録分析面で有効であると考えていることが分かった。これは、つまり、記録分析面で有効とする教員が多い一方で、なんらかの理由で有効とは言えない、どちらか判断を迷うとする層も多く存在することも分かった。

2.3.10 ICT ツールの授業運営や個人指導のファシリテーション面での有効度について

アンケート回答者の 46.3%が、ICT ツールが授業運営や個人指導のファシリテーション面で有効であると考えていることが分かった。これは、つまり、ファシリテーション面で有効とする教員が多い一方で、なんらかの理由で有効とは言えない、どちらか判断を迷うとする層も多く存在することも分かった。

2.3.11 ICT ツール活用における課題について

「教員の ICT リテラシー不足」、「学生・生徒の ICT リテラシー不足」、「ICT ツール活用の目的理解と適切なツール選択」、「ICT ツールの効果的効率的な運用方法」という課題が挙げられた。

2.3.12 今後の ICT ツール活用による指導について

「学生・生徒情報分析」、遠隔教育やグループワークの積極導入等の「オンライン教育の工夫」、即時フィードバック等の「個別フォローの充実」、動画教材等の「教材作成」というニーズが見られた。

3 ヒアリング調査

3.1 調査概要

3.1.1 目的

アダプティブラーニングを実践するにあたり、各教育機関・教育サービス企業等の教員（講師）の実体験や事例を収集し教育プログラムに反映する。

3.1.2 実施概要

(1)調査対象

全国専門学校教育研究会加盟校ならびにその他教育機関・教育サービス企業等を対象に実施したアンケート調査の調査対象のうち、アダプティブラーニングを実施して成功事例を保有していると思われる、且つ「学生（生徒）との信頼関係作り、動機付け」「学生（生徒）個別の目標設定」「学生（生徒）の状況確認」「学生（生徒）個別に合った打ち手」において、再現性のある先進的な取組を行っていると思われる人物について、以下の 20 名を選定した（調査実施日時順に記載）。

- 戸板女子短期大学 総合教養センター 准教授 中村 公子
- 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 教授 秋田 留美
- 横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 教授 浅川 正樹
- 品川女子学院 教員 竹内 啓悟
- 株式会社学研ホールディングス 経営戦略本部 事業開発部 山下 彰洋
- 湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 教授 内海 太祐
- クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス 教員 藤田 果世
- 京都外国語大学 非常勤講師 澁川 幸加
- 山野美容専門学校 教頭 吉田 真希
- 株式会社ウィザス 第二教育本部 教育運営部 倉澤 弘明
- 東京国際大学 商学部 教授 河村 一樹
- クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス 教員 岩崎 毅
- 学校法人河合塾学園 トライデントデザイン専門学校 講師 上田 光孝
- 株式会社ゼネラルパートナーズ atGP ジョブトレ事業部 野田 明子
- 河原デザイン・アート専門学校 教頭 露口 武志
- 専門学校中央医療健康大学校 理学療法学科 学科長 大石 法子
- 株式会社イング 次長 塾戦略ブレインリーダー 山本 昌敬
- デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹
- 探究学舎 講師 木村 光太郎
- アルスクール株式会社 代表取締役 村野 智浩

(2)実施時期

2020年12月～2021年1月

(3)調査項目

調査項目は以下のとおりである。なお、事前に把握したアンケート回答からの教育機関・教育サービス企業等の取組状況等に応じて、調査対象ごとに調査項目の追加・変更・修正を行った。

- アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか
- アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか
- どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか
- 教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫
- 学生（生徒）個々人の目標設定の工夫
- 学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫
- 学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫
- 学生個別にソリューションを提供する上での工夫
- アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望
- アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

3.2 調査結果

以下では、各教育機関・教育サービス企業等（教員、講師）のアダプティブラーニング実施取組を調査項目別に取りまとめた。

3.2.1 戸板女子短期大学 総合教養センター 准教授 中村 公子

大学紹介⁹：

1902年2月、戸板関子により芝公園に戸板裁縫学校を設立され、以降114年の女子教育を実践。幾多の時代の変遷を経て、時代に適応した「実学」を提供してきた。

女子に時代の要請に適応する実際的な専門の学術技芸を教育し、研究させるとともに、広く一般的教養を高め、個性の自由な伸長を図り、国家社会の真に有為な形成者となるべき人材を育成することを目的とする。職業につながる専門教育ならびに、ひろく一般的な知識・教養・常識を兼ね備え、社会で活躍できる女子の育成を目標とする。

(服飾芸術科)

ファッション、ファッションビジネスに関する専門的な知識や技術を幅広く修得し、豊かな感性を養うことでデザイン力を磨き、ファッションに関わる業界において貢献できる女性を育成する。

(食物栄養科)

人間栄養学と食物栄養学に関わる専門知識・技術を修得し、栄養士としての実践的な能力を育成するとともに、社会人として必要とされる実践的な教養を身につけることで、栄養面から人の健康を支えるための総合的な判断ができる女性を育成する。

(国際コミュニケーション学科)

英語、国際文化、ICTに関する専門的な知識を幅広く修得し、現代の国際情報化社会に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会で貢献できる女性を育成する。

ヒアリング調査日時：2020年12月2日（水）13:00-15:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子
学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ
熊本大学大学院 准教授 合田 美子
株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子
株式会社NSG ホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

⁹ 戸板女子短期大学 <https://www.toICTa.ac.jp/info/>（最終検索日：2020年12月29日）

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

中村氏は、前職として 20 年ほど中堅レベルの高校教員をやっており、その流れで短期大学も似たようなところが多々あった。務めていた高校も全部女子高校で、現職も女子大ということで非常に学生の資質が似ている。当然学力を伸ばすということは勿論であるが、まずその大前提に学生個々の性質的なものに注目して、そこから始まって学力向上に繋げていきたいというのが中村氏の教育スタイルである。1 回目の授業というものをどの科目でも大事にしており、授業が 15 回あっても 1 回目のツカミがうまくいくかいかないかで、その後の授業進行に大きな影響がある。1 回目とはとても集中的にアイスブレイクしながら学びに結び付けられるよう、学生個人の個性を見極められるよう努めている。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

中村氏の専門は英語教育である。専門科目としての英語ではなく、一般教養科目としての英語ということもあり、英語嫌いの学生が大半である。学生たちにどうやってモチベーションを今後の授業に持っていかせるかが課題であり、一般教養科目の時点で英語嫌いになってしまうと、学生の学びに対するシャッターが降りてしまう。それを防ぐために、アイスブレイクとして（図 3-1）、英語インタビューを学生同士で行わせる形を採っている。英語インタビューは、中学生レベルの英語の基礎（be 動詞を使うもの、Who を使うもの等）が含まれたものである。この簡単な英語インタビューを、例えば学生 10 人ぐらいに実施するというお題を出す。学生 10 人の答えが「Yes」という答えが出てくるまで、同じ質問聞き続けるという内容である。「Yes」の回答が得られた際に、もう 1 つ追加の質問を行う。これは後から他己紹介してもらうために課しているルールである。そうすることで、独りぼっちで行動できていない学生、話が進めていけない学生が誰かということが明らかに特定できてくる。英語インタビューを 10 人行うには相応の時間が掛かるため、その時間内で学生の活動を俯瞰することで、この学生は要注意、この学生は主体性が見受けられる、英語の上手下手が分かる等、学生一人ひとりの学力や性格的な面がよく見えてくる。さらに、インタビューを通じた会話が学生たちの間で弾むことでより深いコミュニケーションもとれるようになっていく。この流れが今後のグループワークを始めるときに役立つ状況を作り出している。

Question ^①	Classmate's name ^②	Ask questions and get more information ^③
is good at cooking ^④	⑤	Do you cook every day? ^⑥ What food are you good at making? ^⑦
drives a car ^④	⑤	When did you get a driver's license? ^⑥ Do you drive a car? ^⑦
has a part-time job ^④	⑤	What do you do? ^⑥ How often do you work? ^⑦
lives alone ^④	⑤	Where are you from? ^⑥ Have you got used to live alone? ^⑦
is on Instagram ^④	⑤	How many followers do you have? ^⑥ Who is your favorite Instagrammer? ^⑦
got up before 6 this ^④ morning ^④	⑤	What time did you get up? ^⑥ Do you always get up that early? ^⑦
comes to school by train ^④	⑤	How long does it take to go to school? ^⑥ Which line do you take? ^⑦
was born in April ^④	⑤	What day is your birthday? ^⑥ <u>Will(Did)</u> you have a birthday party? ^⑦

図 3-1 中村氏がアイスブレイクの際に使うワークシート¹⁰

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

中村氏の所属は初年次教育をメインとしている部署である。中村氏の専門は英語教授法であり、それを活かせる実践の場として適切である。学生の学力レベル的には偏差値 30-40 台、大半の学生が英語嫌い、中学英語も心もとないという状況である。このような属性の中で、短期大学で英語を頑張りたいと思っている学生も一定数存在しており、英語レベルは多岐にわたっている。

教育内容については、英語に親しむことを目的に 4 技能（スピーキング、ライティング、リスニング、リーディング）向上の教育を行っている。2019 年度はネイティブの教員を投入して、実験的に 90 分授業を「45 分×2」に分けて、中村氏がリーディングとライティングを担当、ネイティブ教員がリスニングとスピーキングを担当するという形で、授業を途中で交代する形で実施してみたところ、時間的に長さが非常に効果的であるという自己評価をしていたが、2020 年度はコロナ禍により同様の授業方法が不可能になってしまった。そこで、2020 年度はやむを得ず 90 分授業（90 分×1）の形で、今週はリーディングとライティングを、翌週はリスニングとスピーキングをいう方法を使った。

¹⁰ 戸板女子短期大学 中村氏からの提供

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

2020年度はZoomによる遠隔授業を行い、ブレイクアウトルーム¹¹を活用している。一方的に授業を聞いていると学生が飽きてしまうが、その際に精神的に弱い学生を大人数グループ（ブレイクアウトルーム）に入れてしまうと何も発言できなくなる、相手にされないケースが出てくるので、そのような学生がいるグループはなるべく小分けに、少ない人数のグループに割り当てるよう心掛けている。5-6人くらいで人数が比較的多い場合には、必ずグループ内で「ファシリテーター、タイムキーパー、書記」といった役割を決めるようにしている。一番問題のある学生がいるところは必ず2人グループにしておいて、面倒見が良さそうな学生と敢えて一緒にしておく。このように、必ず会話ができる状況を作っておくようにしている。

コロナ禍前の対面授業の際も同様であるが、女子学生は一番心の動きが敏感であるため、その部分を授業時に気遣ってあげることが重要である。人前に立って何か発言することが非常に苦手な自信を持っていない学生が多いので、予め小さなグループでの話し合い、学生個人の意見ではなくグループの意見として発表してもらおう等の気遣いを行っている。

そして、何よりも「褒める」ことが重要である。中村氏は本当に学生を褒めるしかないと考えている。最近の学生（学力的に中より下）は褒められ経験が少なく、少し褒められると大変喜ぶ。授業振り返りコメントとして「今日は先生に褒められて嬉しかったから、次も頑張ります」というような内容も多い。学生は褒める言葉が大変嬉しく、発言内容が間違っているにもかかわらず絶対に否定しないようにしている。答えられなくても否定しない、結果が間違っているにもかかわらずプロセスの努力を認め、褒め、悪い気持ちを覚えて終わらせないことを常に心掛けている。学生と教員との距離感、距離のつめ方、励まし方が重要である。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

産学連携の授業の例を挙げる。最終的なゴールは学生によるプレゼンテーションであり、初回の授業時に最後のゴールと評価基準についてループリックを使って示している。また授業回毎のゴールを明示し、必ずグループ活動後に振り返りをさせて今日の予定がどこまで達成できたかを学生自身に認識させて、次回の個別目標を毎回記録させて提出させている。小さい目標を1つずつクリアしていくというルールを心がけている。

2020年度からはGoogle Classroom（図3-2、3-3、3-4）に振り返りと次回目標等を記入提出させている。2020年度は学科全体がZoomで授業をして、Google Classroomで課題提出させるという学校全体ルールがあった。Google Classroomのデータを蓄積・共有¹²することによって、学生状況（授業満足度、個別の目標達成度）がより一層明確になった。

¹¹ Zoomの機能の一つで、Zoomの中で複数のグループワークを行う際に便利な機能である。

¹² 学生は自身が所属するグループのみのデータ閲覧に限られている。一方で教職員はいろいろなグループのデータを比較閲覧することができる。

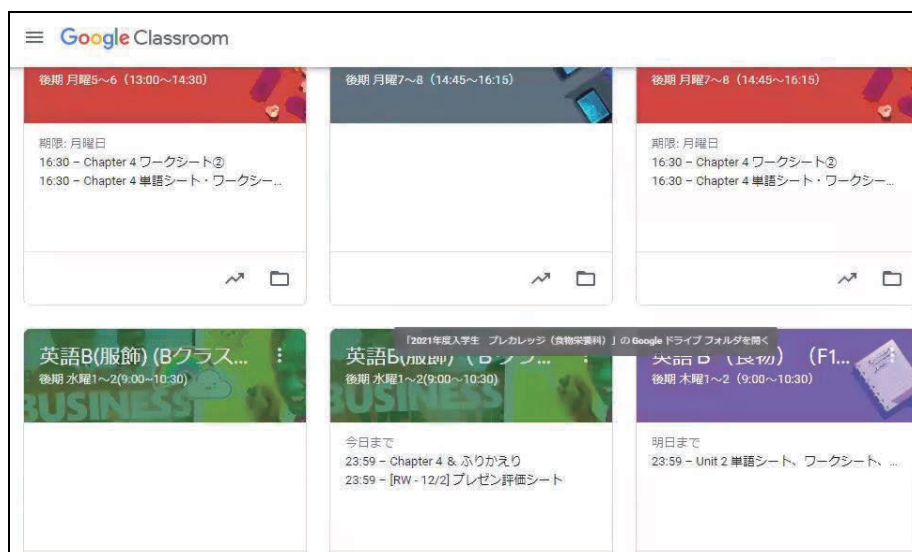


図 3-2 Google Classroom を使った工夫①¹³

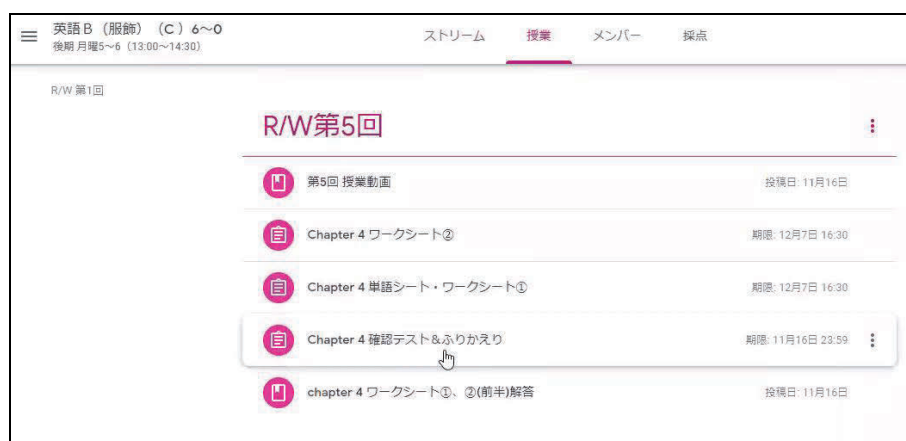


図 3-3 Google Classroom を使った工夫② (各回授業コンテンツの一式)¹⁴

¹³ 戸板女子短期大学 中村氏からの提供

¹⁴ 戸板女子短期大学 中村氏からの提供

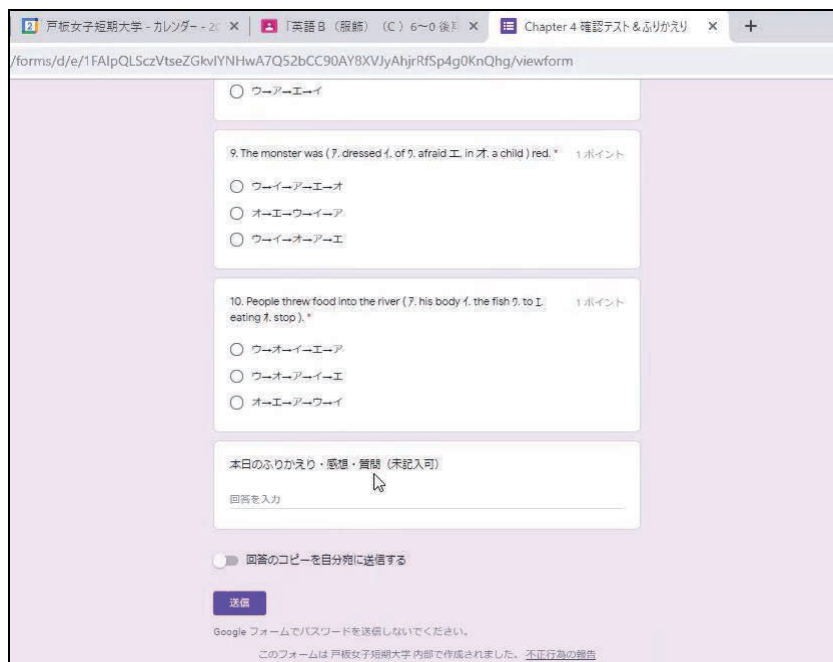


図 3-4 Google Classroom を使った工夫③（各回の確認テストと振り返り）¹⁵

(6) 学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

大学教職員が閲覧できるポータルシステムがあり、そこに学生の問題点などクラスアドバイザーや授業担当者が気付いた点を記録していく仕組みがある。そこには「この学生にはこういう言葉を言ってはいけない、こういうところに注意しましょう」といった内容が記録されているため、注意深く確認するようにしている。

上記の施策は中村氏が担当している英語だけではなく、総合教養センターとしての初年次教育においても行っているため、グループディスカッションや産学連携プロジェクトの担当者同士で学生情報を総合的にシステム上でシェアしながら、注意点や今後の対応についてコンセンサスをとっている。そこまで細かい記録はしていないが、その日その日に気になった点や気付いた点も記録している。学生は本当に細かいところを気にしている、例えば「この先生は〇〇ちゃんばかり当てる」、「私には全然まわってこない」といった内容であり、総合教養センターは色々な課題を提出する場所ということもあって、学生のいろいろな情報が集まってくる。場所柄、世間話を学生がよくしているのでいろいろな情報をキャッチできる。このように、課題提出場所が総合教養センターに 1 ヶ所集中（図 3-5）していることは学生状況把握の面でメリットが大きい。

中村氏の授業においては、学生の個別目標と現状の差分について必ずチェックしてそれに対するコメントを次の授業回に学生に対して行っている。かつて、英語授業のフィードバックを動画撮影してやってみたが、あまりにも時間がかかるので今は口頭で行っている。さらに学生個別へのコメント返しは難しいので、グループ単位でのフィードバックを行う

¹⁵ 戸板女子短期大学 中村氏からの提供

ことで次の目標設定などの話し合いを行っている。一方で、Google Classroom やメール、チャットで学生個別からの質問が来た場合には必ず返信をするようにしている。



図 3-5 課題提出場所としての総合教養センター¹⁶

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

授業についていけない学生に焦点を当ててしまうと、どうしても授業進行が滞ってしまう。そのため、授業レベルは大体真ん中からやや下くらいのレベルで行っている。授業内容が分からない場合は、2020年度はGoogle Classroomで必ず質問しなさいという運用にしている。また、総合教養センターという場所（図 3-6）は、実は課題を提出することと同時に分からないことはいつでも質問に来て良いという場所になっており、学生（主に1年生が利用、1学年500名の規模）がフリーに入れるところで助手2人が平日9時から19時の時間帯に待機している。いろいろな教科のアドバイスから課題の分からないことを教えられる体制となっている。教員も必ずシフトで午後は2人体制でいるようにしている。中村氏の場合、精神的に弱い学生のサポートに特化しているというように学生から見えているということもあり、問題のある学生ばかり寄ってくるという困った状況ではあるが、相談に来る学生が実際多い。担任の教員と協力して、様々な学生サポートを行っている。課題提出という仕組みは、非常に効果的であると認識しており、課題としてSPIの内容や英単語テストなどを課している。担当者の印をもらって課題を提出し、課題の合格点に達するまでは何度もやり直しを行うルールにしている。このルールの下では、繰り返し来る学生は大体決まっており、これらの学生の置かれている状況を把握することができている。

¹⁶ 筆者が現地で撮影



図 3-6 課題提出の仕組み（総合教養センター）¹⁷

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

2019 年度まで使っていた「WebClass」¹⁸のチャット機能が大変充実していたので、学生がリアルタイムで打ち込んでいる様子を把握できて大変良かった。2020 年度から使っている Google Classroom はタイムラグがあり、授業内活用は難しいという判断をしている。2020 年度、Google Classroom や Zoom を使ったことで、授業への介入度や理解度の点で難がある学生を救えた、全体の底上げができたという意味で有効であった。しかし、全員にそのような効果があったという訳ではなく、合う学生そうでない学生がいたのは事実である。一方で、戸板女子短期大学の Zoom の授業は、学生全員顔出しを必須としているが、一定数授業中にいなくなる（Zoom 上から消える）学生が存在することや Zoom にログインしてさえすればよいと思う学生が出てくることは Zoom 利用のデメリットであると思う。授業の録画による欠席者対策については、中村氏は基本的には録画共有はしないスタンスを採っているが、よほどの理由による欠席の場合は、自己申告後に共有するようにしている。出欠の管理は、Zoom 上での目視並びに録画データによるチェックで行っている。授業運営上での工夫については、学生は飽きやすく、モチベーションを維持するのが難しいため、授業回を重ねると飽きてしまうので頻繁に授業パターンを変えるように、例えば長い時間だったら 1 コマの中で 2 パターン 3 パターンの活動をさせるように心がけている。英語授業の場合、英語をみるのも嫌という学生が多いため、なるべく多くの TED Ed¹⁹の

¹⁷ 筆者が現地で撮影

¹⁸ WebClass 日本データパシフィック株式会社の e ラーニングシステム
<https://www.datapacific.co.jp/webclass/>（最終検索日：2020 年 12 月 30 日）

¹⁹ TED Ed 動画時間が 5 分前後と短く、アニメーションを使って分かりやすく解説がされている教育ビデオ <https://ed.ted.com/>（最終検索日：2020 年 12 月 30 日）

ような短尺の動画コンテンツやフリップビデオ、漫画等を活用している（ただし、有益と思われるコンテンツ探しに大変苦労している）。さらに、以前はプレースメントテストを以て、英語レベル別にクラスを3段階に分けたり、2段階に分けたりしていたが、2020年度はコロナ禍になり敢えて分けずに授業運営している。これが実際には功を奏していて、人数次第であると思われるが、20～30人くらい規模であればクラス分けは不要ではないかという考えに変わってきた。1つのクラスであると、ピアティーチング、教え合うことができるのに、クラス分けをして下位クラスになると全く教え合いができなくなる。上位クラスはつまらなくなっていて、見栄の張り合いのようになってしまうため、人数が少なくして小分けにできるのであれば全員を一緒にのクラスにして、教え合って互いに助けていくという授業形態の方がファシリテーションをする上で良いのではと考えている。

入学前教育については、2021年4月入学生からeラーニングを導入することになり、より一層の個別最適化が期待できる。eラーニングの内容は英語・国語・数学の3教科であり、ラインズドリル²⁰を採用することになった。入学前教育の個別のフィードバック計画については、現在まさに検討事項である。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

日本の教育の在り方として、教員が手取り足取り説明するものだという認識が教員だけでなく、実は学生も持っている。教員が喋らないと「先生は授業をしていない、教えてもらえなかった」というコメントが返ってくることに問題意識がある。そして、学生の保護者からも同様なコメントがある。学生本人以上に保護者のほうが「先生は何も教えてくれない」というコメントが目立つ。それゆえに、基本的にファシリテーション重視の授業展開に持っていくことが前提であれば、まず高等教育機関に入学したからにはこれからは実はこういう形で教育を行っていくこと、高校までとは違うことを最初に宣言するということが本当に重要であると考えている。

ICTツールとしてGoogle Classroomを使っているが、ここにeラーニング的なものが組み込まれていても良いかもしれないと考えている。そうすることで、復習をやりつつ定着をさせられる。授業内の演習時間が減って考える時間が増やすことができるのではないかと、学生個人の学習計画をより丁寧に作ってもらうこともできるのではないかと考えている。ルーブリックは、科目毎（つまり学年毎にも異なっている）に作っておりこれが相当の負担になっている。教員ごとに別々であるため教員同士で一緒に作れたら良くなると思っている。

学生の総合データを一元管理できる仕組みが望ましい。大学のポータルサイトの中にあるWebClassで学生のカルテ（キャリアに関するデータ、試験のデータ、入学式に書いた将来の夢といったデータなど）を管理していたが、2020年度の授業運営でのGoogle Classroom活用、Zoom活用による出欠管理等、活用するICTツールが分散しているため、各学生のデータの統合・整理が課題になっている。

²⁰ ラインズドリル 基礎学力強化のためのリメディアル教育ツール
https://www.education.jp/education02/education02_1（最終検索日：2020年12月30日）

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

2020年度はコロナ禍により授業方法が変わってしまい、正直なところ研究に充てられる時間がない。教材をどう作るか、どのように教えていくかというところで精一杯の状況である。よくある動画教材を配信して学生に受講してもらえば良いという考え方もあると思うが、一定の教養が身に付き、皆が同じものを学べるというメリットを理解しつつも、そうすると必ず落ちこぼれる学生が発生する、それを最後までできる学生は一部しかいないと思う。この状況への学校の役割が大きいと思っている。学校としての目標として、退学者を出さないという大きな目標があり、退学者を出さないためには、やはり学校は楽しくなければならない、授業が楽しくなければならない、という点が大前提としてある。

中村氏自身が最も身に付けたいと思っているものはファシリテーションスキルである。2019年や2020年にかけていくつかセミナーを受講しているが、どうしても授業中喋りすぎてしまう癖があるという。今は、教員はなるべく喋らずに、学生の動機付けにフォーカスすることが主流になってきているが、昔からの癖でどうしても多く喋ってしまう。そうすると手取り足取りになってしまうので学生の思考力が育たない。教員自身が喋らなくても、最小限の発話で最大限の効果を得るにはどうしたら良いかというファシリテーションスキルを一番身に付けたいと考えており、このスキルを持つことが今後の教員に求められると考えている。そのポイントは、授業計画をしっかりと作っておく、自分自身が教えることの的を絞る、多くを求めすぎないところ、学生に考えさせる時間を多く持つことかと思っている。求めすぎないことがそのまま授業レベルの低下を意味するものではなく、学生たちがその状況下で学んでいける力があるのではと考えている。

そして、ファシリテーションをサポートするものとして、eラーニングなどのICTツールが必要と考えている。例えば、中村氏の10年前のオーストラリア留学時代を振り返ってみても、当時小学生と高校生であった子供が通っていた学校が、PC活用を前提として授業・課題を実施していた。課題提出にあたっての不正防止の機能もあった。学校外時間もチャットを使ってコミュニケーションをとっている風景に驚いたという。

3.2.2 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 教授 秋田 留美

大学紹介²¹：

美道五大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）に基づく美容教育と教養教育により、『美しく生きる力』を形成することを教育目標とする。『美しく生きる力』とは、課題を発見し、解決する能力すなわち自ら考え、行動し、振り返ることのできる力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できるとともに、自身のみならず他者も含めた豊かな人生を追求できる力である。

（美容師免許取得コース）

美容師国家資格の取得はじめ、ビューティービジネスに関する幅広い知識・技術、さらにはグローバル社会で活躍するために求められる英語スキルをトータルに身につけ、これからの社会で広く活躍し続けることができる人材を育成する。

（インナービューティーコース）

栄養・健康・心理分野の学びを通して、人の外見だけではなく真に「美しく生きる」ための内面から美しくする知識と技術を身につける。また、広く知識、教養を学び、これからの社会に幅広く求められる人材を育成する。

（グローバルキャリア・ビューティービジネスコース）

コミュニケーション中心の英語教育とビューティービジネスに関する実務教育に重点を置き、多様な人々との実践的なコミュニケーションを通して、国内企業での活躍はもとより、グローバルに活躍できる人材を育成する。

ヒアリング調査日時：2020年12月3日（木）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 教員 岩崎 千鶴
学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ
学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一
デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

²¹ 山野美容芸術短期大学 <https://www.yamano.ac.jp/outline/point.html>（最終検索日：2020年12月30日）

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

秋田氏は、美容師免許取得コースの主任を務めている。学校全体としていろいろな学生の学力、能力全てを向上させなければいけないと考えており、学生の能力を伸ばすためには、ゼミナール活動で学習成果カルテを用いて、目標を定めてそれに向かって1年次の前期から段階的に学生と面談をし、その可視化もしながら成長のサポートを行っている。

学力面では、特に美容師の国家試験を控えているので、それに向けて全員合格できるように指導を行っている。国家試験には実技試験と筆記試験の2つあり、秋田氏はその両者を担当しており、特に直前の特別対策の際は、それぞれの学生個々のレベルに合わせた指導を行っている。ただし、技術指導は多人数に対する指導であるため、これまで割りと難しく、対策授業や補習授業を多く取り入れ、多大な時間をかけて指導しているというのが現状である。この多大な時間が掛かっているという点が問題であったため、美容技術に応用行動分析の手法を2020年度から取り入れて指導するようになった。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

応用行動分析の手法を取り入れたのは、今まで実技指導に非常に多くの時間が掛かっていたものを、できる（上位層の）学生は自分で自主的に学習できるようになる、できない（下位層の）学生に関しては、より多くの指導時間を掛けなければならないため、不足部分は補習授業も組み合わせながら、学生一人ひとりに対し、一人も取りこぼすことなく全員が合格できるよう細かく目を配り指導していく必要があったからである。

下位層かそうでないかの分け方については、補習マンツーマンでの指導をしなければ国家試験合格が覚束ないと思われる学生を下位層としている。技術試験には時間制限があり、時間内で実技を終えることができない、また、課題の作品完成度が低い学生がそれに当たる。完成度に大きく影響を及ぼす重要な点が「構成」である。例えば、パーマをかける際に必要な、棒状のロッドに毛髪を巻くワインディングという実技課題（図 3-7）があり、ロッドを巻き収めた構成に乱れがあると国家試験で非常に大きく減点される。この構成の他、1本1本のロッドに毛髪が適切に巻かれていない、多数の残り毛が出ている等、そうしたチェック項目を総合して確認し、学生をレベル別に振り分けている。

筆記試験については、学力レベル別に複数回テストを実施し、その結果をデータ化して当該学生の苦手科目・内容を抽出して学生個々に合ったメニューで指導している。

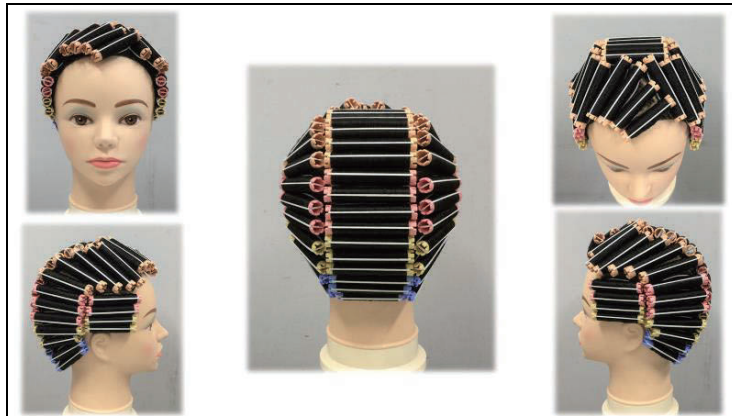


図 3-7 ワインディングの完成イメージ²²

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

国家試験の実技課題には、ワインディング以外にヘアカッティング、ヘアセッティングが含まれている。主にこれらの国家試験出題分野の指導を秋田氏は行っているが、他にもブレイドやまとめ髪といったヘアアレンジの分野も指導している。国家試験出題分野は、基礎技術でありながら非常に奥が深い難しさがあり、習得するのに時間が掛かる内容となっている。ただし、器用な学生も中にはおり、感覚でできてしまう学生も存在する。一方で、できない学生は中々上達せず、その底上げを行うことが毎年苦勞している部分である。例えば、ワインディング習得では、上位層の学生は130時間程度でできるところを、下位層の学生においてはその2-3倍もの時間を費やしている³。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

応用行動分析学の手法として、学生がうまくできたら褒めること、また悪い行動・やってはいけない行動を減らすためには、どのような環境を整備すれば・提供すれば、学生をより良い方向へ導けるか、良い行動を増やすためには、コメント返信等のご褒美的なものとして何を提供すれば良いのか等、考えるようにしている。

2020年度は遠隔授業が主である中、大半の学生とはコメントで双方向のやりとりができていが、教員側からコメントを送っても送りっぱなしになる一方通行の学生も若干名存在する。やはりコメントを介した会話のキャッチボールができていた前者の学生に関しては、対面で会ったときに既に信頼関係ができていると感じている。また、対面での接点の方が学生との信頼関係はより築きやすいと考える。遠隔授業でも、Zoom ブレイクアウトルームでの個別やり取りが行われているため、一定程度信頼関係を構築出来ていると思われるが、全体を俯瞰してみると、遠隔授業だけでは全学生との信頼関係構築は難しく、対面でのコミュニケーションを取り入れていくべきと考えている。

現在、山野美容芸術短期大学では「遠隔授業」、「対面授業」、「両方を合わせたハイブ

²² 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

リッド型授業」の3パターンで教育活動を進めている。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

授業で用いているツールは、解説用のスライド、技術工程チェック票（技術工程をさらに細かく細分化したチェック票）、作品完成度の評価票（評価基準を言語化したもの）、学生の自己動画（実施中の技術をに確認し、教員から学生に的確なフィードバックを与えることを可能にする）である（図 3-9、3-10、3-11、3-12、3-13、3-14、3-15、3-16、3-17）。これらのツールは遠隔授業時の学生配布・回収は G suite を活用し、対面授業時は紙で配布し G suite で回収を行っている。

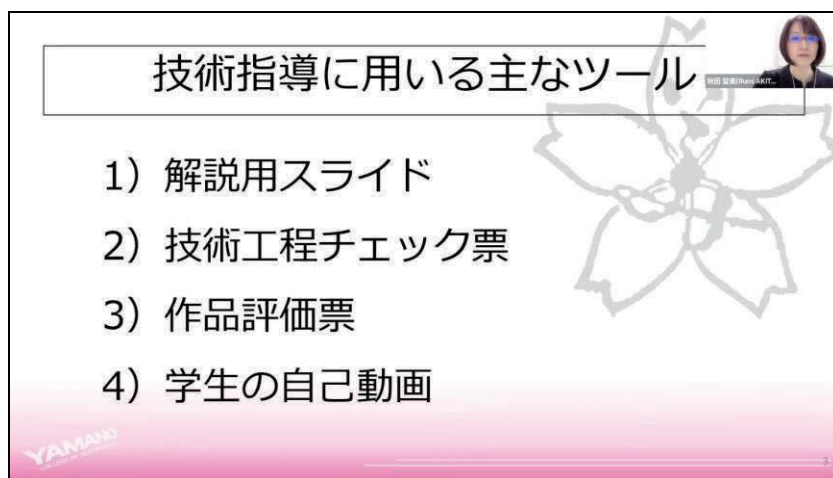


図 3-9 アダプティブラーニングに使用しているツール²³

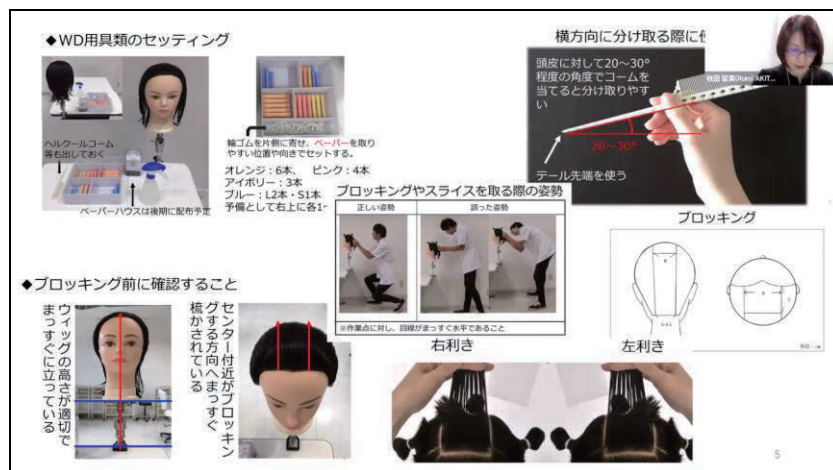


図 3-10 解説用スライド例²⁴

²³ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

²⁴ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

ワインディング技術工程			
1) ブロッキング	2) スライス・コーミング	3) ロッドに毛束を巻き込む (上巻き・下巻き)	4) 輪ゴムでロッドを固定する
11	13	10	4
計51		13	

図 3-11 技術工程チェック票例（ワインディング作業は 51 工程に分けられる）²⁵

技術工程チェック票:(スライス・コーミング)右利き			
1	コームは、歯とテールの境目を示指と母指で持つ。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	正しい姿勢で行う（作業点に対し目線を落とす。低い施術箇所に対しては臀部を突き出さず、膝を曲げて腰を落とし目線を合わせる）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	左示指の指先をスライスの終点に置く	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	終点に向かって、コームのテール先端を頭の方に沿って動かす、毛をスライスする	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
...		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
13	毛束がたるまないようにテンションをかける	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

図 3-12 技術工程チェック票例（スライス・コーミングの部分）²⁶

技術工程チェック票:右利き用		スライス (上巻き・下巻き共通)	正誤(○×)
1.	コームは歯先を外側に向け、歯とテールの境目を示指と母指で持つ。		<input checked="" type="checkbox"/>
2.	正しい姿勢で行う（作業点に対し目線を水平に合わせる。低い施術箇所に対しては臀部を突き出さず、膝を曲げて腰を落とし目線を合わせる）。		<input checked="" type="checkbox"/>
3.	左示指の指先をスライスの終点に置く。		<input checked="" type="checkbox"/>
4.	終点に向かって、コームのテール先端を頭の方に沿って動かす、毛をスライスする。		<input checked="" type="checkbox"/>

図 3-13 技術工程チェック票例（学生のスキル習得状況を明確化）²⁷

²⁵ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

²⁶ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

評価ポイント (センター)	
1	ブロッキング位置 (正中より約5mm以上のズレ→×)
2	ブロッキング幅・奥行 (5mm以上の誤差→× フロント幅8cm×奥行7cm～ネープ5～5.5cm)
3	スライス線 (水平でない、ガタツキがある→×)
4	スライス幅 (上下のロッドの開きや詰まりが目立つ、ベースに対するロッドの収まりに影響を及ぼしている→×)
5	ロッドの収まり (ステムの角度によるもの) (オンベース・1/2オフベースが規定通りではない→×)
6	ロッドの収まり (ステムの方向やロッドの傾きによるもの) (水平でない、浮きがある→×)
7	毛の表面のシェイプ (表面にツヤがなく、凸凹している→×)
8	サイドの毛の縮まり (毛がゆるみ浮いている、毛がまばらになっている→×)
9	毛束の広がり (8割まで広がっていない→×)
10	輪ゴムのかけ方 (よじれや斜め、溝の位置の誤り等が3本以上→×)
11	残り毛 (根元から巻かれていないものが2本以上ある→×)
12	毛先の処理 (巻かれたロッドから毛先が束で出ているものが1本以上→×) 11

図 3-14 作品評価票例① (国家試験やコンテストの採点基準に準拠) 28

作品評価票			
時間:	分	秒	総合評価: A B C D
ワインディング技術評価ポイント (センター16本)			
評価ポイント	参照画像	○×	×の箇所
1. ブロッキング位置 (正中より約5mm以上のズレ→×)		○	フロントトップ、 オレンジ、 ピンク、 アイボリー～ブルー
2. ブロッキング幅・奥行 (5mm以上広すぎor狭すぎ→×、 フロント幅8cm×奥行7cm～ネープ5～5.5cm)		×	オレンジ、 ピンク、 アイボリー～ブルー
3. スライス線 (水平でない、ガタツキがある→×)		○	ピンク、 アイボリー～ブルー
4. スライス幅 (上下のロッドの開きや詰まりが目立つ、ベースに 対するロッドの収まりに影響を及ぼしている→×)		○	ピンク、 アイボリー～ブルー
5. ロッドの収まり (ステムの角度によるもの) (オンベース・1/2オフベースが規定通りではない→×)		×	オレンジ、 ピンク、 アイボリー～ブルー

図 3-15 作品評価票例②²⁹

27 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

28 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

29 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供



図 3-16 自己動画のためのツール³⁰



図 3-17 自己動画ツールを使った実演模様³¹

これらのツールを用いた指導法について、実習初期は、動画入りのスライドや技術工程チェック票を用いて技術の説明を行い、その後、学生は技術工程チェック票や見本動画を確認しながら技術習得を行う。一通りの技術を教示した後は、Zoom のブレイクアウトルームを利用し、学生を少人数に分けて各ルームに教員が 1 人ずつ入る（1 つの授業を複数の教員で担当している）（図 3-18）。この場面での教員と学生のコミュニケーションは名前ではなく学籍番号を使っている。作業終了後は、仕上がった作品に対して 1 人ずつコメントをしている（図 3-19）。

³⁰ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

³¹ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供



図 3-18 ブレイクアウトルームに分かれての技術実施中の模様³²



図 3-19 仕上がった作品に対して、教員から個別フィードバックを行っている場面

その他の学生はフィードバックを待つ時間を利用して、作品の写真撮影を行い、自身の作品を見ながら、技術工程チェック票・作品評価票に出来映えをチェックしていく。自己動画がある場合には、それを見ながらチェック票類にチェックをさせている。最後に写真とともにチェック票類を Google Classroom に提出させている。授業終了後のフィードバックは、学生の提出物を確認して必要に応じてコメントを返し、次回授業時にフォローアップしている（図 3-20）。

以上の指導方法により、教員がより客観的で個別最適的なフィードバックができるようになっただけでなく、学生自身の自己評価の客観性が向上した。できている部分とできていない部分が明確に気付きとして提供できるようになった。また、例年以上に習得スピードが早くなったという実感がある。

一方でデメリットも明らかになった。遠隔授業では、すぐに質問できないという学生からの意見があるということ、そして、黒い髪の毛 1 本 1 本の毛流れを画像・動画で表現する

³² 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

ことが難しい点である。一見綺麗に見えても、よく見ると表面が滑らかでない、巻き方が正しい方法とは逆のパターンで巻いている学生がいるなど、これらは対面授業であれば容易に気付けたことであるが、遠隔授業の際は見落とされていた。



図 3-20 授業後のフィードバック（提出物に対するコメント返し）³³

(6) 学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

PROG³⁴を導入して、コンピテンシーやリテラシーといった学生の能力をデータ化して計り、学生指導上の参考にしてている。

実技授業で用いているツール（技術工程チェック票、作品完成度の評価票、学生の自己動画）を活用して、学生状態を確認している。この手法はチームで運用しており、秋田氏は一応全クラスを見ているが、それぞれのクラス担当の他教員も一緒に見ている形を採っているので、学生個別の評価を教員全体で共有できている。このクラスだけ評価が厳しい甘いといったバラつきはないと認識している。

評価手法については、学生作品の点数化を行っている。採点する際に、教員陣でミーティングを行い、一緒に作品を見ながら客観的な点数の擦り合わせを行っている。

下位層の学生の分け方については、定性的にはマンツーマンの指導が必要かどうかという基準であるが、定量的にも定期レベルチェック（実技）を行っており、その結果を受験指導経験豊富な複数の教員で確認して、国家試験に合格不合格かの基準で下位層の学生を特定している。

対面授業の際は、学生同士でお互いの実技をスマートフォンで録画させ、自己チェックを促している。自己チェックの結果はまず紙に記入させ、同じ内容を Google Forms に転記の上、作品の画像とともに Google Classroom にアップさせている。

実技・筆記試験以外の学生情報については、定期的な教員ミーティングにて共有している。

³³ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

³⁴ PROG は河合塾とリアセックが共同開発したジェネリックスキルの成長を支援するアセスメントプログラム。専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定・育成するツール。

情報漏洩リスクから、スプレッドシートで共有できる内容と口頭のみでの共有を行う内容がある。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

授業外時間においても、質問タイムや自己動画を通じたフィードバック並びにトレーニング機会を学生に提供している（図 3-21、3-22）。

技術工程チェック票などの授業ツールは、現在、ワインディングの部分のみを秋田氏が作り上げて都度ブラッシュアップを掛けている。その他の技術部分の整備に関しては、全教員がこの手法に共感して協力してくれている。



図 3-21 授業外のサポート体制（質問タイム）³⁵



図 3-22 授業外のサポート体制（自己動画を介した個別フィードバック&トレーニング）³⁶

³⁵ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

³⁶ 山野美容芸術短期大学 秋田氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

クラス運営上、上位層・中位層・下位層の全員に一言ずつ必ずコメントやフィードバックを行っている。

下位層の学生は対面授業の日の放課後に補習を行っている。その際に、細かく個別の指導を行っている。ただし、対面授業の日だけの対応のため、コロナ禍ゆえに毎週実施とはいかないのが現状である。

上位層・中位層の場合は、コンテストに出場したい等、高い目標を掲げる学生もおり、そのような学生には個別にコンテスト対策の別指導も行っている。

同校は専門学校ではなく短期大学であるので、技術だけを伸ばすというよりも、社会人教育や判断力・思考力なども伸ばすことを重要視している。例えば、学生がヘアショーをやりたいという希望があった場合、ヘアショーを開催するためにファッションや全体の構成など色々なものを企画・準備しなければならない。仲間と協力してヘアショーを作り上げていく協調性も求められる。いわゆるプロデュース力を伸ばせる機会を提供することや、コミュニケーション能力を高めるために、英語力を高めるために、ホスピタリティを養うために、といったように様々な学びの機会を学校側が用意している。それらの機会を通して、学生はやりたいことをやってみて、そこから学んで、引き出しを増やし、成長しているような教育を行っている。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

直近の課題として、学生が技術工程チェック票、作品完成度の評価票にチェックして、オンライン提出直後にその学生の結果の推移をグラフ等で可視化してフィードバックできるような仕組み作りができないかと考えている。

また、現時点で、全ての技術工程のチェック票類を作成し終わったわけではなく、残りの工程分作成にも多くの時間を要する。課題分析、つまり技術工程を細かく分けていく、その際の文言についても深い検討が必要である。学生に理解しやすいような文言にしなければいけない。学生にとって、どのような表現が分かりやすいのか、学生にとって学びやすい教材を用意するために、既存教材のブラッシュアップと、新しい教材作りを並行して行っていく。

指導法の改善の面では、学生に学力レベルの数値を可視化して示す必要があると考えている。下位層の学生に対する指導の在り方もより良い方法がないか考えていくこと、遠隔授業をもし今後も続けていくとなった際に学生のネット環境やPC等の端末を整備することなどが課題である。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

学生の技術指導面では、仕上がった作品だけに注目するのではなく、施術中の姿・行動といったプロセスにも注目し、系統的なフィードバックをすることが応用行動分析学の考え方である。学生の行動をよく観察して、適切なタイミングで適切なフィードバックを与えられるよう指導の中に取り入れていきたい。学生に寄り添い、一人ひとりに目を配りながら指導することが非常に重要であると考え。できていたら褒める、できていなければ何故できていないのかをきちんと言語化して伝えることが大切である。また、学生は一人ひとり異なり、Aの教え方でわかる学生もいれば、Bの教えの方がわかる学生もいる。したがって、各学生に合わせて教員が柔軟に対応していく必要があると考える。

教材コンテンツ面では、立体映像を学生が画面上で自由にまわして自分の好きな角度（上から、下から、表から、裏から、等）から教員の手つきや見本作品が確認できる、より個別最適的な教材を将来的に提供することが理想と考える。そのためには、VR、ARの技術を駆使した技術指導、技術学習が想定される。

秋田氏個人のスキル面では、G Suiteの効率的な使い方や動画編集スキル、エクセルやパワーポイントといったICTツールのスキル向上も必要と感じている。

3.2.3 横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 教授 浅川 正樹

大学紹介³⁷：

美術・デザインの専門的な表現技術の修得、美術・デザインの理論的な知識の修得、社会性と幅広い教養の修得の3つを教育目標としている。

美術学部 美術・デザイン学科の単科大学である。「絵画」「彫刻」「クラフト」「プロダクトデザイン」「テキスタイルデザイン」「ビジュアルコミュニケーションデザイン」「映像メディアデザイン」「写真」「アニメーション」「イラストレーション」「絵本」「修復保存」といった学びを提供している。

ヒアリング調査日時：2020年12月4日（金）13:00-15:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ
株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子
デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

浅川氏が担当しているコンピューターを含めた全ての実技科目は、デザインの能力アップを目標としている。将来的に学生が何を目標にしているかによる学生個人間の違いや、より専門的な職業に就きたいと考える学生の存在、年次が上がるにつれてデザインのスキルがアップしていくので、初心者から経験者に至るまで段階的なカリキュラム、科目を設定している（図 3-23）。美術学部美術・デザイン学科の単科大学であり1学年190名、1クラスあたり約35名が対象である。

³⁷ 横浜美術大学 <https://www.yokohama-art.ac.jp/department/>（最終検索日：2020年12月30日）

授業コード	21014	期間	前期	配当年次	1
授業科目名	デジタル表現基礎	要件区分	必修	単位数	1
備考	※授業の一部が集中授業形式となる場合もある	担当教員	オムニバス/浅川 正樹/齋藤 彰英		
授業概要	この科目は、制作を行うにあたって必要となる静止画像のデジタル表現の基礎を学ぶ科目である。コンピュータの基本的な使い方ならびに、写真の撮影・管理(Bridge/Lightroom)、ラスター画像処理アプリケーション(Photoshop)による画像の補正や基本的ツールの使い方、ならびにベクター画像処理アプリケーション(Illustrator)によるオブジェクトの生成、基本ツールの使い方を習得し、今後の制作に役立てることを目的とする。				
到達目標	① 正確なデジタル知識を身につけ、合理的なコンピュータの操作方法を習得する。 ② Adobe IllustratorとAdobe Photoshopの特徴を理解し、基本操作を習得する。 ③ 本授業で学んだデジタルスキルを、他の授業においても展開できる。				
	NO	テーマ	内容	事前・事後学修	
	1	作業環境、周辺機器の説明	・ 科目の概要と到達目標について ・ 周辺機器及び、Mac基本操作、環境設定の説明	『授業概要』を速読しておく	
	2	アプリケーションについて	・ IllustratorとPhotoshopの特徴とデータの違い ・ どのような作品が作れるのか	前回までの復習をしておく	
	3	Illustrator/基本操作	・ インターフェイス、画面操作、カラーモード、ファイル形式	前回までの復習をしておく	
	4	Illustrator/パス編集	・ [ペン] ツールによる描画 ・ パス、アンカーポイントの編集	前回までの復習をしておく	
	5	トレース課題	【トレース練習】 →モニタ上でチェック	前回までの復習をしておく	
	6	Illustrator/色、変形、文字	・ [塗り] と [線] の設定 オブジェクトの作成と編集 ・ 文字の操作	前回までの復習をしておく	
	7	クリエイターと著作権についてマーク課題	・ 著作権侵害の事例 ・ インターネットと著作権トラブルについて 【オブジェクト作成】 制作	課題のデザインを考えておく	

図 3-23 1 年次にまず履修する「デジタル表現基礎」のシラバス（一部） 38

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

横浜美術大学は開学が 2010 年という歴史が浅い大学である。最近では出願倍率が上がってきて学生を選抜できるようになってきたが、基本的には初心者から美術を勉強することを教育の特徴としている。学生の 3 分の 1 は、物を作ったりする経験を持っていない。逆に、残りは経験者であり、これらの学生が混在していることが教育上の悩みである。1 クラス約 35 名で運営しているので、一人ひとりの理解度や課題制作状況等をこまめにチェックしなければならない。

学生のコンピュータリテラシーについては、全体の 80-90%は初心者である。ただ最近では大学入学前までにスマホでお絵かきソフトなど使ってきている学生が増えてきているので、コンピューター初心者比率は、これからは下がってくると思われる。

このように、美術経験の程度、コンピューター経験度合、さらには美術を体系的に勉強してきたかどうか、そして学力まで含めると本当に多種多様の学生が集まってきている。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

コンピューター初心者を主な対象として、Adobe Illustrator と Photoshop を最初に学ぶ授業でアダプティブラーニングを実施している。内容的にはデザインを勉強する学生はじめ、アートやクラフト等を勉強する学生も含めた全員に対して必修の授業である。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

シラバス上では、Adobe Illustrator と Photoshop の基礎的な様々な機能を勉強する内容になっているが、マニュアル通りに教授しても学生のやる気を引き出せないため、浅川氏の長年の美術大学での教授経験・ノウハウを取り入れている。シラバス上の目標は「正確なデジタル知識を身につけ、合理的なコンピューターの操作方法を習得する」とあるように、スキルを伸ばすことが第一の目的であるが、実際の授業は、やはり美術やデザインを勉強しにきている学生のため、学生の個性を伸ばすという自覚を持たせつつ、同時にデザインスキルも身につくというようなこと意識して日々教授している。一緒に担当する他教員ともこの考え方を共有しており、これは最近始まった話ではなく約 15 年前から心掛けていることである。

例えば、学生がコンピューターのインターフェイスに慣れるために、色の付け方の教授を行う（図 3-24）。4 色のプロセスカラーを作る勉強について、コンピューター上で数字を打ち込んで色を作る。美術を勉強する学生は色に対して興味を持っているので、この作業を退屈に感じる学生は今までいなかった。美術大学にも実技が苦手な学生が多いのだが、この作業は楽しく取り組んでくれている。これを通して、色の付け方の勉強になり、コンピューターの操作の仕方の勉強にもなる、コンピューターでデザインをする感覚を体験できている。この達成感が非常に高い満足度を生んでいると考えている。次のステップへの意欲も引き出すことができる。

別の例として、トレースワークがある（図 3-25）。教員がまずデモンストレーションしてみせて、Illustrator のパス機能で形を学生に自由に作ってもらおうというワークである。Illustrator でデザインをする際に一番難しいのは、このパスワークである。パスで自由に曲線を作ることが苦手な学生が多いため、予めトライしやすい教材を用意しておいて、それ通りに操作することで課題を作り上げることができる内容に設定している。ゲーム感覚を意識して、学生が楽しみながら課題に取り組めるよう工夫している（図 3-26）。

最近の Adobe 等のソフトは機能が膨大についているため、機能を使いすぎない、教えすぎないように努めている。教えすぎると、どうしたら良いか学生が分からなくなるので、最低限の機能のみの教授に留めている。興味にある学生は自主的に追加の機能等を勉強するし、そこまで至っていない学生は最低限の機能の中で工夫しようとする、このように、勉強するコツの伝授や学生のモチベーション向上に教員として集中して、学生の自主性を促すようにしている。

学生のモチベーションを向上させる工夫の一例として、良質な作品の事例紹介、Instagram に学生の作品をアップさせることを行っている。後者は学生の作品にシリーズ性（テーマ性、ストーリー性）を持たせてアップしていくものである。このワークは学生大半が楽しんでおり、作品の上手下手の程度関係なく作品制作能力向上、表現することの喜び・大切さの理解深耕に繋がっている。特に、コミュニケーション能力が低い学生が多いので外に向けて自分の作品を発信する経験が良い勉強になっている（図 3-27）。



図 3-24 浅川氏が導入的な授業で使用する色に関する教材³⁹

デジタル表現基礎 **イルカトレース作業**

★イルカのトレース作業

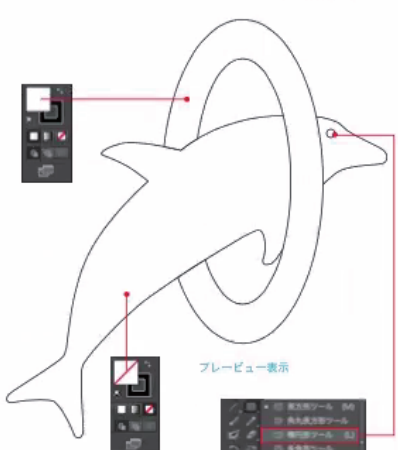
以下の指定でイルカをトレースしてください。

- ・線幅：0.5pt
- ・イルカ：塗り [なし]、線 [黒]
- ・浮き輪：塗り [白]、線 [黒]

画面の [プレビュー] と [アウトライン] 表示でモニタ上で採点します。

チェックポイントは……

- ・破線からズれていないこと
- ・滑らかな曲線であること
- ・曲線は、一直線の方向線がでていること
- ・アンカーポイントが適度な数であること
- ・クローズパスになっていること
- ・[塗り] と [線] が指定通りであること



プレビュー表示

色指定は [カラー] パネルか、ツールパネルで指定します

目は [楕円形] ツールで描きます

図 3-25 パスワークのための教材例⁴⁰

³⁹ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

⁴⁰ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

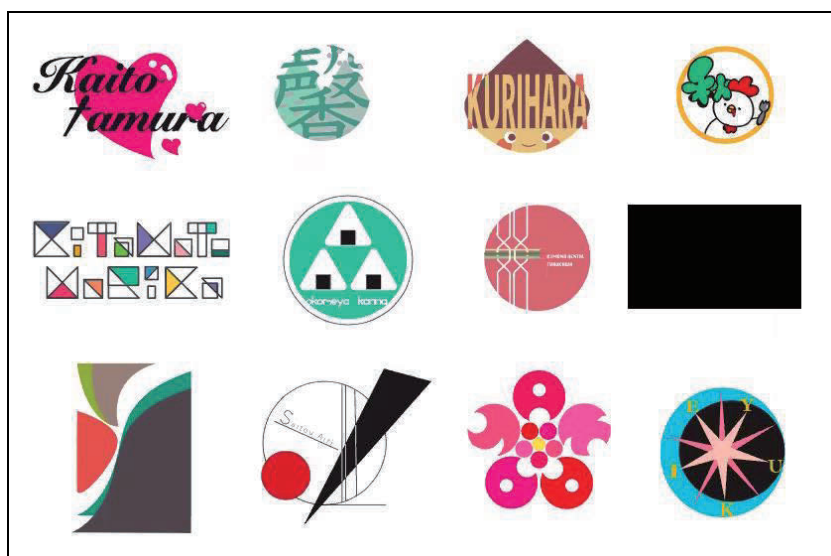


図 3-26 浅川氏の授業を受講している学生の作品例⁴¹

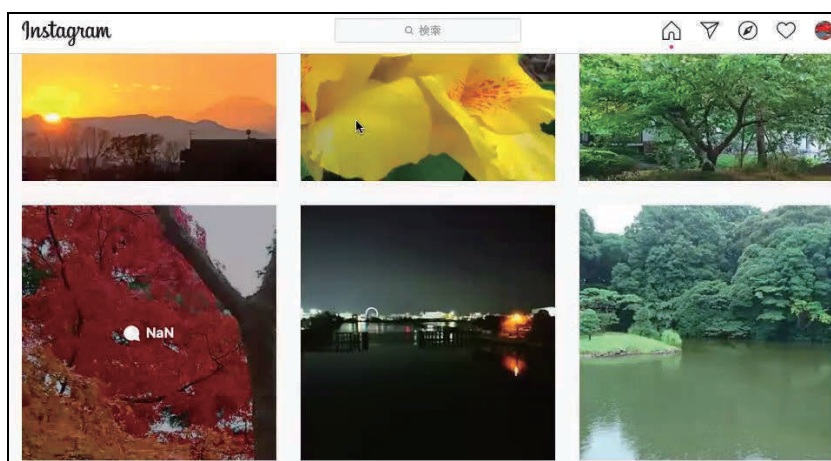


図 3-27 Instagram に学生作品をアップするワーク例⁴²

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

シラバス上の目標とは別に学生個別の目標も設定しており、能力によって目標レベルを変えている。例えば、作品性・デザイン性の高いものが作れる学生には専門家に近いレベルでのアドバイスをを行い、スキルを勉強するのも覚束ないような学生には授業内でやるべきことを出来れば評価するといった形である。学生個別に目標を設定して、ストレスをなるべくかけないようにしながら、能力を伸ばしていくことが学校の校風にもなっている。具体的な方法は、基本的には Google Classroom 上でのテキストベースのコミュニケーションである（図 3-28）。1 クラス 30 名以上の学生がいると大変ではあるが、テキストベースの他、スクリーンショットでの画像コミュニケーションも有効である（図 3-29）。ま

⁴¹ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

⁴² 横浜美術大学 浅川氏からの提供

た、ケースバイケースで Zoom での個別面談も行っている。ただし、Google Classroom コミュニケーションに参加していない学生のフォローが難しい。大学の方からメールや電話等の対応をしているが、コロナ禍により大学で会うこともできない現状下、このような落ちこぼれている学生や自宅で就学環境が整っていない学生へのケアは課題である。浅川氏の担当授業における評価については、絶対評価でなるべく学生個人の達成度を以て行っている。

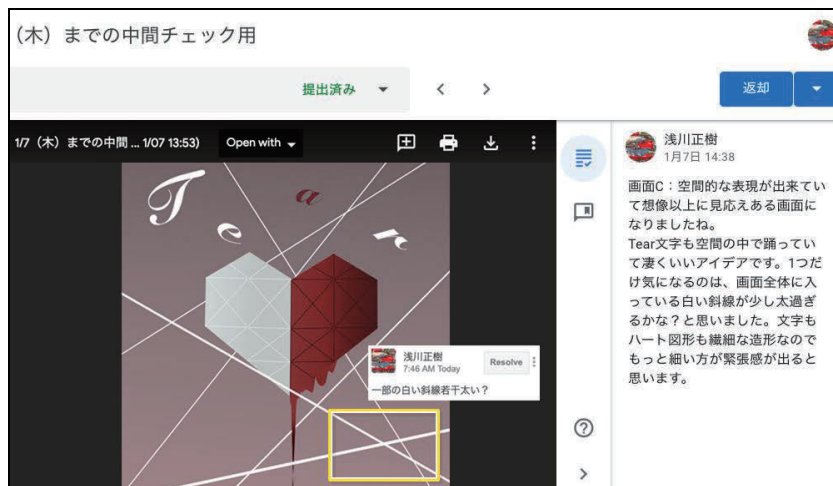


図 3-28 Google Classroom を活用した教員・学生間のコミュニケーション例⁴³

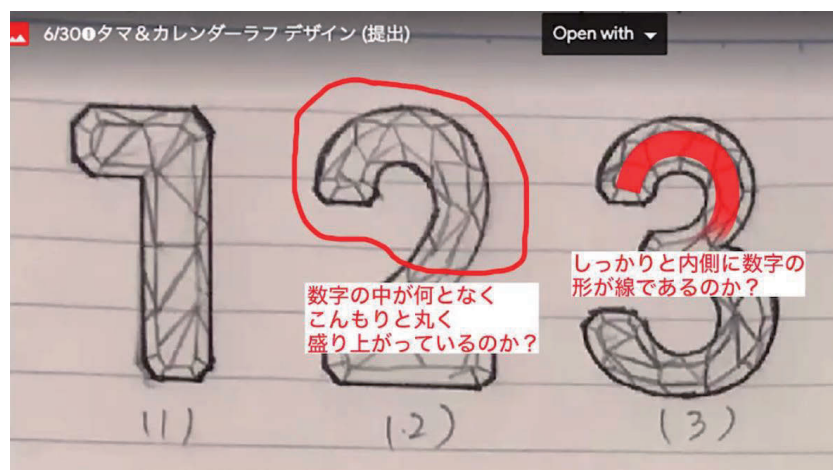


図 3-29 画像を活用した学生へのフィードバック例⁴⁴

⁴³ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

⁴⁴ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

2020年度はコロナ禍から、本来は対面での面談が主であったのに対して、Google Classroom や Gmail、学校メールアドレスを使ったテキストベースで行っている。学生個人面談を1年次から、教員同士分担をして半年に1回ペースで定期的に行っている。メンタル的な悩みを抱えている学生が多く、自己申告してくる場合は重点的にケアし、申告してこない学生についても注意深く観察するようにしている。ケースバイケースで顔出しのオンライン面談や、定期回とは別にイレギュラーなタイミングでの面談を行うこともある。テキストベースの面談の場合、かえって自己開示してくれるケースも多く、教員とキャリアサポート部門のスタッフが協力して、学生個人々の進路指導や成績状況、健康状態、授業出席状況等を把握している。

収集した学生情報については、パスワードを掛けてコンピューター上で管理して全学的に専任教員間で共有している。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

2020年度は、コロナ禍の影響もあり、Google Classroom と Zoom を使った遠隔授業を行っている。Google Classroom 上では教材・資料の提供、学生からは課題の投稿をしてももらった。1年生はPCを持っていない学生がたくさんいて、さらに Adobe ソフトも同様の状況であった。そこで代替のソフトを紹介して授業を進めた（図 3-28）。



図 3-28 Adobe ソフトの代替ソフトの紹介例⁴⁵

⁴⁵ 横浜美術大学 浅川氏からの提供

(8)学生個別にソリューションを提供する上での工夫

コンピューターの授業の場合、授業についていけない学生数は年々急激に減ってきている。例えば、Adobe Illustrator と Photoshop の授業では、1 クラス約 35 名の内、ついていけない学生は 2・3 名といった割合である。また、実技の授業はサポートしてくれるアシスタントがいるので、一緒になって学生の個別フォローを行っている。教員の方も一方通行な授業にならないよう、必ず学生各自がトライしてみる時間を用意している。そのような中でも、理解不足の学生については個別フォローを行っている。また、「目標設定」の手法と重なるが、Google Classroom を介してテキストコミュニケーション、画像コミュニケーションを行っている。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

Adobe Illustrator や Photoshop といったソフトが昔に比べ非常に使いやすくなっている。ソフトの操作のための勉強が、昔ほど時間が掛からなくなっている。そのような中で、デザイン教育のあるべき姿をどう考えるかが課題と思っている。ソフトの操作をわざわざ教える必要がないのではと考えている。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

ソフト操作のスキルが簡略化してきて、習得がそこまで困難でなくなってくるとすれば、教員の役割として、社会との繋がりをコーディネートするスキルが必要であると考えます。デザインのスキルだけを教えるのではなく、デザインがどのように人々に役立っているかという気付きが得られる機会を作ることが重要である。地域を支える企業の方や他校の学生等との接点を作って、彼らが実際に何を求めているのかといった情報交換の場を受け身ではなく主体的に作りたと思う。

また、ICT を活用して、対面でビジュアルプレゼンテーションを行っているレベルのものを遠隔授業でも再現できないか、学生の PC 内アプリケーション上で教員が直接作業しながら指導できる方法はないか、と考えている。

3.2.4 品川女子学院 教員 竹内 啓悟⁴⁶

学校紹介⁴⁷：

28 歳になった時に社会でいきいきと活躍する女性を育てるライフデザインを考える「28project」を実践する中高一貫の進学校。高校 1・2 年生がクラスで 1 つの模擬起業をする「起業体験プログラム」や、企業や大学など学校外の社会人とコラボレーションした「特別講座」など、キャリア教育・ICT・起業家教育において、先進的な教育を行っている。

ヒアリング調査日時：2020 年 12 月 7 日（月）14:00-16:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一
学校法人郷舎学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ
株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子
株式会社 NSG ホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

生徒の創造性、個性を伸ばすことを目的にアダプティブラーニングを取り入れている。竹内氏は高校情報科の教員であり、授業の内容は Adobe Illustrator や Photoshop を使ってグラフィックデザインの作品制作や、プログラミングの指導も行っていった。HTML、CSS、JavaScript を使って Web ページを作る、Swift 言語を使って iOS アプリを制作する、このようなことを生徒に積極的にさせていた。これらの活動の中で、生徒には必ず成果物を求めており、その過程で生徒各々の創造性や他者と違う部分を見出す個性を伸ばすような取組を意識して授業を行っていた。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

1 クラス約 40 名の生徒が在籍する規模で、竹内氏の情報科授業は中学 1 年生 6-7 クラス、高校 1 年生の 6 クラスを担当していた。

品川女子学院は私立なので中学受験をして入学してくる生徒が対象であり、偏差値的には中学受験塾の四谷大塚の指標では偏差値 50 に該当する。大学受験の偏差値に換算すると、63 ぐらいのレベルが目安になる。学校のカルチャー的にはアクティブな生徒が多い、例え

⁴⁶ 2020 年 Britannica（百科事典）が選ぶ 40 歳以下の 20 人（Education 部門）に選ばれた。
<https://www.britannica.com/list/20-under-40-shapers-of-the-future-in-education>（最終検索日：2021 年 2 月 8 日）

⁴⁷ 品川女子学院 <https://www.shinagawajoshigakuin.jp/>（最終検索日：2021 年 1 月 1 日）
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000001735.000000496.html>（最終検索日：2021 年 1 月 1 日）

ば自分で何かやりたいことを持っている、小学校の時に学級委員長をやっていた、といった積極的な生徒が多く在籍する学校である。また、女子校であるので大変自由な雰囲気で、「知的なゴリラ」を生徒自身のキャッチコピーとしているぐらい賑やかな生徒イメージである。このように進学校であり、東京大学に合格する生徒はほとんどいないものの、最上位学力の生徒で早稲田大学、慶應義塾大学に合格するレベル感である。下位層は不登校気味になる生徒がいる、授業に集中できない、朝起きることが苦手といった生徒もクラスに1-2名はいるという構成である。大半の生徒は大学進学するが、しない生徒も若干名いる。中学1年生の傾向としては、特に1学期は一番元気で活発で自由でのびのびしているという印象である。一方で高校1年生になると、会話のキャッチボールできることや情報処理の早さは大人に近いものができようになるが、正解を求め始めてくる。

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

一般的には、非常に難易度が高い教育内容・レベルであったと思われる。生徒には Mac の PC を使わせていたが、生徒の自宅には基本的に Mac がない、保護者も Windows 世代なので、まず Mac に慣れていない生徒が多かった。中学1年生から Adobe Illustrator を使わせていたので、完璧にやろうとすると難易度が高かったと思われる。プログラミングや Web ページ制作についても、他の学校では絶対出来ないレベルであったと思われる。例えば、スタートアップ企業のランディングページを作るといったレベル感の制作を成果物の目標にしていた。中学1年生だけでなく、高校1年生についてもレベルが高い内容を提供していた（図 3-29、3-30、3-31、3-32）。

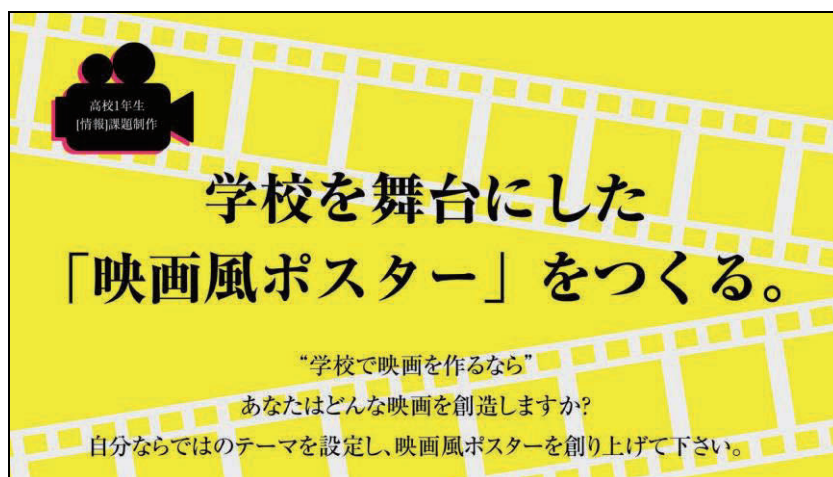


図 3-29 高校1年生向け Illustrator、Photoshop を使った制作課題例⁴⁸

⁴⁸ 竹内氏からの提供

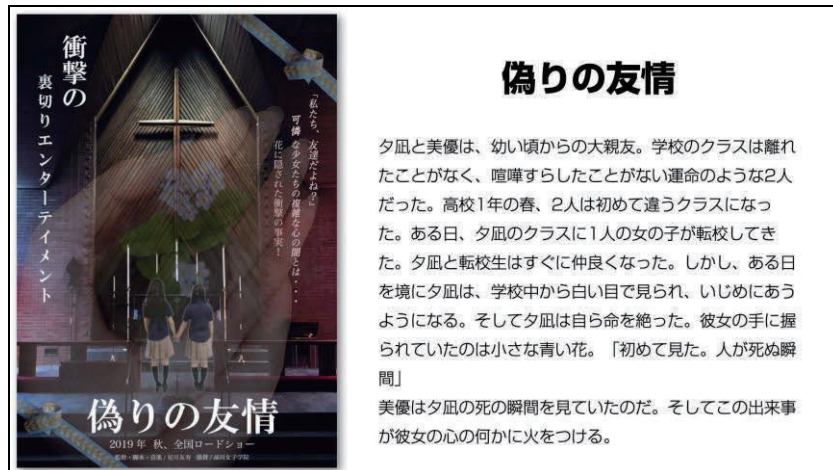


図 3-30 高校 1 年生の成果物例（目標の明確化により効率よく短時間で制作できる）⁴⁹

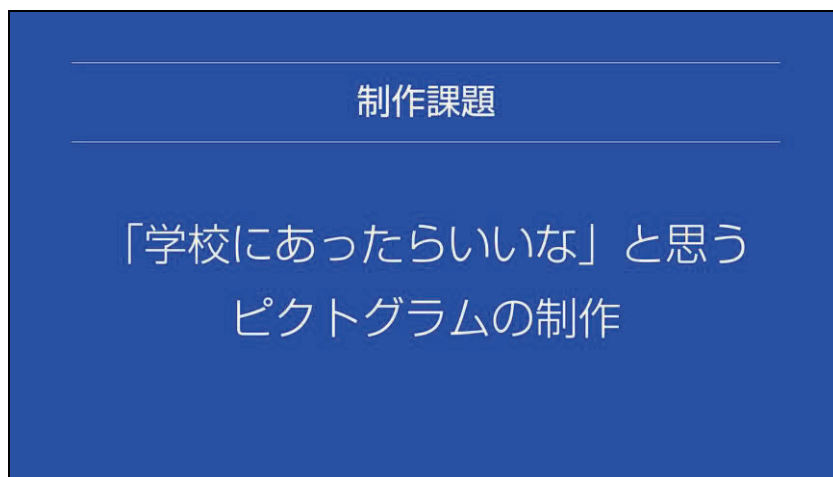


図 3-31 中学 1 年生向け Illustrator を使った制作課題例⁵⁰



図 3-32 中学 1 年生の成果物例（目的からデザインに落とし込んでいる）⁵¹

⁴⁹ 竹内氏からの提供

⁵⁰ 竹内氏からの提供

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

Adobe Illustrator や Photoshop について既に知っている生徒はほとんどいない。それに対して、竹内氏はこれらのソフトは普通に当たり前のようを使うものという感覚で生徒に接している。そして、生徒の興味を引くようなネタを用意している。生徒一人ひとりの人生のモチベーションを起点として取り組みやすいハードルの低いワークを多数用意しておき、段階的にハードルを上げていく工夫をしている。

授業の中では、圧倒的にインパクトを与えるプレゼンテーションを行っている。例えば、Illustrator や Photoshop を使う授業の際は、最初に生徒に圧倒的に格好良い、面白いと思わせるものを見せている。竹内氏自身が作ったものであると、より一層、生徒にとって身近な人が作れるという意味で自分事として感化されやすい。他、竹内氏自身が作ったビジネスプランや授業スライド等も非常に手間をかけて作り込んでおり、生徒の頭に入りやすい、残りやすいものを見せたいと意識している。

竹内氏の授業は年間を通して様々なことをやっている。そのため、生徒が興味を持ってくれやすい。学校が苦手な学生の方が竹内氏の授業に興味を持ってくれやすく、例えば、成績が悪い生徒、不登校気味の生徒が特に好んでくれている。普通の学校では評価されない範囲のところで、生徒は評価されたがっているように思える。生徒は自己承認欲求がとても強いと思われ、満たされていないのだと思われる。生徒を褒めること含め、外発的動機付けが重要だと思われる。中学生・高校生は基本的に異性からモテるかどうかが、お金稼ぎへの欲求、進路（大学進学等）に繋がる動機付けが強力である。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

例えば、成果物の Web ページを制作するにしても、高校 1 年生も中学 1 年生もまずはビジネスプランを作ってみる授業を行っている（図 3-33）。生徒一人ひとりが自分のスタートアップ企業のプレゼンテーションを行わせるイメージである。その際は、アンケートや人材のモチベーショングラフを書かせ、本当に自分が人生を掛けて何をやりたかみたいなことを考えさせるワークを行っている（図 3-34、3-35）。これらを通して、生徒自身の心の中のモチベーションをストーリー、そしてビジネスプラン⁵²としてアプトプットさせていき、教員はそれを引き出すことが役割である。生徒一人ひとりに固有の内容になるので、他の誰ともかぶらない個性と言える。アウトプットしたビジネスプランをもとに、生徒・教員のマンツーマンで実際にビジネスを形にするためのフィードバックを行っており、希望者には 1 人 15 分ずつ朝や放課後の時間を確保してさらなる面談を行っている（図 3-36、3-37、3-38、3-39）

授業運営的にはワークシートを提供したからといって、生徒は自主的に取り組むわけではなく、短時間（数分間）のタイムキーピングといったゲーム要素が必要である。

⁵¹ 竹内氏からの提供

⁵² 厳密には、竹内氏は中学 1 年生向けには「アイデアプラン」、高校 1 年生向けには「ビジネスプラン」と呼んでいる。

プログラム概要

- ▶授業を通して、1人5分以内のプレゼンテーションを作成
- ▶クラス内予選プレゼンテーション(※中絶試験後の授業)
- ▶クラス内代表プレゼンテーション
- ▶本学代表プレゼンテーション(11月7日(水)6時)
- ▶代表戦—一般社団法人SBP主催のSBP(ソーシャル・ビジネス・アイデア・プレゼンテーション)に参加(11月17日(土)PM)
- ▶優良する各種ビジネスコンテストに応募(応募自由)

授業の流れ

評価方法

クラス内の最終プレゼンテーション終了後に、以下2つの選出物により評価する。

【選出物】
 ①プレゼンテーション用スライド(keynoteまたはpowerpoint)
 ②問題解決ワークブック(本冊子)

【評価基準】

- ①強い動機のあるエピソードをベースに考えているか
- ②社会の共通価値を理想を掲げているか
- ③根本原因は明確かつ共通できるか
- ④問題の解決は強運かつ独自性があるか、また実行プランの実現可能性は高いか
- ⑤工夫のあるプレゼンテーションであるか

▶中絶試験からの評価の振り返り出しについて
 実行プランの発表への出席が著しく少ない場合は、実行の評価をつけることはできず、期末試験(筆記試験)からの振り返り出しとなる。
 ※中絶試験の欠席は同じ扱いとなる。

O. 問題解決とは

問題解決能力は「答えのない問題」に対して、自分で考え、決断し、行動するために必要な力で、具体的には4つの手順を踏みながら価値を立てて考えることとなります。

問題解決の4STEP

問題発見

自分自身のエピソードをベースに世の中の問題を抽出し、解決すべき現状を見つめます。その現状に対する理解を深め、現状とのギャップを大きく明確に意識します。

現状から実行可能(解決策)から考え、その解決策の本質を見つけていきたいと思います。また、自分が本当に解決したい課題(問題)を持つ課題を明確にすることも大切です。

原因特定

解決すべき問題を特定したら、次のステップはその問題を引き起こしている「根本原因を探る」となります。

抽出した問題に対して、「Why(なぜ?)」を考えアフローチャートします。ここで先発地する原因のフローチャートという考え方を、なぜその問題が起きているのか?さらにはそれは根本原因なのか?とWhy?を繰り返し、原因と結びつく理由を見つけていきます。

解決案の提案

特定した根本原因を解決するための解決策を考えます。

ここではとにかく「早く、多く」のアイデアを出すことが大切です。そしてその中の最も、自分(または自分たち)の強みを生かした解決策を見つけます。そのプランは実行可能な、自分が実行可能な解決策になります。

解決策のアイデアをたくさん出し、その中から最適な方法を選び、実行プランへと具体化させていきます。

実行プラン

自分が提案したステップ、自分が本当に実現可能な実行プランを提案します。また、自分が実行可能な解決策を、他の事業と結びつけ、より実現可能な実行プランへと具体化させていきます。

自分(自分たち)から考えることができないこと(コア)を提案。解決策(キーポイント)は、他の事業と結びつけて実行可能なプランを考えます。

問題発見

自己発見のエピソードをベースに世の中の問題を抽出し、解決すべき現状を見つめます。その現状に対する理解を深め、現状とのギャップを大きく明確に意識します。

現状から実行可能(解決策)から考え、その解決策の本質を見つけていきたいと思います。また、自分が本当に解決したい課題(問題)を持つ課題を明確にすることも大切です。

原因特定

解決すべき問題を特定したら、次のステップはその問題を引き起こしている「根本原因を探る」となります。

抽出した問題に対して、「Why(なぜ?)」を考えアフローチャートします。ここで先発地する原因のフローチャートという考え方を、なぜその問題が起きているのか?さらにはそれは根本原因なのか?とWhy?を繰り返し、原因と結びつく理由を見つけていきます。

解決案の提案

特定した根本原因を解決するための解決策を考えます。

ここではとにかく「早く、多く」のアイデアを出すことが大切です。そしてその中の最も、自分(または自分たち)の強みを生かした解決策を見つけます。そのプランは実行可能な、自分が実行可能な解決策になります。

解決策のアイデアをたくさん出し、その中から最適な方法を選び、実行プランへと具体化させていきます。

実行プラン

自分が提案したステップ、自分が本当に実現可能な実行プランを提案します。また、自分が実行可能な解決策を、他の事業と結びつけ、より実現可能な実行プランへと具体化させていきます。

自分(自分たち)から考えることができないこと(コア)を提案。解決策(キーポイント)は、他の事業と結びつけて実行可能なプランを考えます。

図 3-33 ビジネスプランを作るためのワークシート概要⁵³

1. 問題発見①

最初のステップは、強い感情を抱いた「自分自身のエピソード」から始まります。半径2m以内の身近でインパクトの強いエピソードを振り返りましょう。

「社会現象」を安易に「問題」と考えてはいけない

現象と問題は全く異なる。「現象」は人によっては問題にならない。

現象
少子化
高齢化
所得格差
地方の過疎化
など

≠

問題
どんな人が
どう思うか
具体的な明確な
状態

高齢者に優しく → 高齢者が増える → 高齢者がサービス提供
 高齢者に優しく → 労働人口の減少 → 企業経営者

「半径2m以内のエピソード」をベースに考える

自分自身、自分自身の回りで起きた具体的な体験を考えましょう。不満・不安・喜び・驚きなど、自分の体験と感情に基づくエピソードから、問題の原因を探ります。

秀逸なビジネスプランに見えた、身近な(半径2m以内)のエピソードの例

- 緑がまわったが、商業施設がなかった。 → 自分が中学生になってから商業が多く、買い物に行っても緑がない。 → 緑がまわるといってほしい。
- 母が「わん」を飼って、それを飼育できるのは面白い。 → LGBTを雇った企業で環境の良い仕事を得ることができた。 → うつ病になり、回復してしまっ...
- 隣の人が引っ越して、名前を知らなかったことに気づいた。 → 祖父が介護で暮らしていたが、祖父がなくなり祖母が一人寂しく暮らしていた気がした。
- 小さい頃に大病を患い、入院して。 → 旅行先でみんなから出るのが嫌だった。 → 父が海外で単身赴任をしていて、寂しい思いをして...
- 親と祖母がカーブの端をめぐって帰ってくる。 → 海外の友達から、チャットが金銭的でない...

⇒「人生モチベーショングラフ」を使って、自分にインパクトの強いエピソードを振り返ってみよう!

人生モチベーショングラフ

エピソード	感情	問題・価値観
緑がまわったが、商業施設がなかった。	寂しい	自分が中学生になってから商業が多く、買い物に行っても緑がない。
母が「わん」を飼って、それを飼育できるのは面白い。	楽しい	LGBTを雇った企業で環境の良い仕事を得ることができた。
隣の人が引っ越して、名前を知らなかったことに気づいた。	寂しい	祖父が介護で暮らしていたが、祖父がなくなり祖母が一人寂しく暮らしていた気がした。
小さい頃に大病を患い、入院して。	悲しい	旅行先でみんなから出るのが嫌だった。
親と祖母がカーブの端をめぐって帰ってくる。	寂しい	海外の友達から、チャットが金銭的でない。

54

図 3-34 人生モチベーショングラフを書いて、言語化していくワークシート⁵⁴

⁵³ 竹内氏からの提供。

⁵⁴ 竹内氏からの提供。本件は高校1年生向けワークシートであるが、中学1年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

1. 問題発見②

My エピソード

前ページのモチベーションマップを振り返り、自分にとって最もインパクトが大きい・自分のモチベーションに大きく影響したエピソードを文章で書きましょう (目安: 100文字以上)。ここでは、多くの読者の人に読んでほしいもののように、状況や経緯を省略して丁寧に文章で書きましょう。

このままだと何が起きるか - 「社会性」を考える

エピソードのテーマから、さらにもう一歩踏み込んで考えてみましょう。考えるポイントには「その状態が維持されるとは具体的に何が起きるか」と、具体的に「どんな人がいるか」です。これを考えることで、自分のエピソードから「社会性」を考えましょう。

「○○年人たちが△△△の状況が起きます」「○○年人たちが●●●という状況になります」という書き方で、「誰にとって」「どんな状態が起きるか」を具体的にイメージしましょう。
 (例) × 「痛くはなす」 → ○ 「地震被害に遭うとどんな人が困りますか？」
 (例) × 「LGBTの応援」 → ○ 「LGBTの応援の活動のLGBTの人たち」

このままだと…

にとって

という社会になります。
 という状況が起きます。

理想を描く

POBで考えたような「最悪の状況」の逆の理想が、理想です。「どんな人にとって」「どんな状況・どんな社会」が理想か、言葉にしてみましょう。

理想

↑

エピソード

↓ POBで考えた状況・社会

このままだと起こってしまうこと

現状分析 - データや情報で社会のニーズの裏付けを取る

理想に対して、現状はどんな状況でしょうか。インターネット上でわかりのデータを捜し、以下にメモをしてみてください。メモは、7文字以内のキーワードで検索してください。
 (例) 近所付きおにぎりのテーマ → 「近所付きおにぎり」 「おにぎりの人気」 を調べる
 (例) 地方と都市がテーマ → 「地域格差」 「地方と都市の格差」 「地方と都市の格差」 を調べる

メモ

新しいと感じる情報は、遠慮せずに質問をして下さい。(このページができてほしいと次のページができます)

図 3-35 モチベーションを分析するワークシート55

2. 原因特定

問題解決の基本は、「問題の根本原因に対し、有効な解を打つ」です。そして、問題の根本を探るために必要なのは、原因だと思われる「仮説」をたたく立てる事です。

最初から解決策のアイデアを出してはいけない

例えば、「頭が悪い」という人にどうアドバイスしますか？ 「漢字を覚える」「早く寝る」「数学は得意に行け」「ストレスを減らす」 「この問題を解決しよう」 これではあまりにも多岐にわたります。いかなる具体的な解決策のアイデアを出しても、効果的でない場合が多いです。まずは「頭が悪い」という問題を解決するための、具体的な原因を探ります。原因がわかれば、適切な解決策を提案することができます。

まずは仮説から

この仮説は、原因を探るための仮説や材料はいいかもしれません。ですが、**まずは思いこみ(仮説)を減らし、おおよその仮説をたたく**てみましょう。
 「仮説」→「データや情報」→「結論(または仮説)」のサイクルで思考を進めます。

【Why?】(なぜ?)を繰り返して原因をあぶり出す

ロジックツリー (Why?)

ロジックツリーで解決すべき問題の根本原因を探ろう

not理想

自分で「考える」というのはなかなか難しいですね。
 (この考えで大丈夫かな?) 「前にも原因はなにかあるかな?」と不安に思ったら、まずは「仮説」を減らしていきましょう。
 後半に必要なのは仮説がたたくことなので、不安の解消や質問は早めに!

重要な根本原因は何か

ロジックツリーで原因を探り出したら、この原因を解決すると、問題が解決に向かうか考えてみましょう。
 「これでいいかな?」と不安に思ったら、まずは「仮説」を減らしていきましょう。
 上記のロジックツリーで書き出した原因のうち、1-2つの根本原因に「できる」を付けてみましょう。

図 3-36 原因を特定するワークシート56

55 竹内氏からの提供。本件は高校1年生向けワークシートであるが、中学1年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

56 竹内氏からの提供。本件は高校1年生向けワークシートであるが、中学1年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

3. 解決策を考える

問題を解決するために、打ち手（解決策）を考えます。ポイントは、考えつくものは洗い出すことです。効果的かどうか、実現できるかどうかは、後で絞り込みます。

ブレインストーミングでアイデアを洗い出す

具体的な打ち手に番号 (①、②、③) をつけておこう。

「難易度 × 効果」マトリクスで最適な打ち手を考える

難易に実行するのにかかる難易度、最終的に及ぼされる効果によって、2次元のマトリクスを作ります。右上に行くほど実行するの難しく、上に行くほど効果が大きいということになります。洗い出した打ち手を、このマトリクスの上に乗せます。それぞれの位置によってお好みのようになります。これを参考に実行プランの大きな方向性を検討します。

「難易度 × 効果」マトリクスを作ろう

① 難易に実行する難易度、最終的に及ぼされる効果の2軸とした、2次元のマトリクスを作ります。② 洗い出した難易度の打ち手を、このマトリクスの上に乗せます。

図 3-37 解決策を考えるワークシート⁵⁷

4. 実行プラン①

もしかすると、既に存在するサービスがあるかもしれませんが、それでも、自分がやるならどうするか、どんな独自性を持たせることができるかを検討します。

既存のサービスを調べる

考えている解決策の類似のサービスがあるかを調べましょう。国内だけでなく、海外の情報も参考になります。また、何をどうやっているかというサービスの特徴だけでなく、そのサービスのターゲットや、料金、仕組みについても調べておきましょう。

まずはここでキーワードを検索！

サービス名・運営会社名	サービスの概要・特徴
(例) Fair Closet	(例) 7人のスタイリストがコーディネートしてくれる月額7,000円〜10,000円、月額9,800円や専用店舗、近くも数ヶ所店舗がネットワークあり。いつでも交換も、気に入ったら買い取れることもできる。

独自性を持たせることができる点はどこか

類似のサービスがあっても、自分ならではのユニークなやり方はないか、違うターゲットに展開できないか、より具体的な特徴に踏み込んだサービスはできないか、と考えてみましょう。また、自分の知識や経験、性格や行動の特徴、自分を活かした自分自身の強みから考えて、自分だからこそできることは何かを考えてみましょう。

(例) たたの翻訳アプリではなく、「スラング」に特化したアプリにする。
ちなみに英語検定のよみかた「スラング検定」も実施。同様の数字経験者やこれから留学に行く中高生たちからネタを募集する。

(例) 「使用言語を英語だけ」の中濃庄に特化した運動イベントの開発・運営。
参加費は無料。採集作業のブース出展料と印刷ブースの手動料を売上とする仕組み。

自分のサービスの概要・特徴

わかりやすく、かつシンプルはサービスをつける

自分のサービスに名称をつけましょう。既存のサービスを参考にしながら、わかりやすく、シンプルに。
(例) 車×ログ、メルカリ、ユニクロ、など4文字で。
(例) air Closet, SHOWROOM, Kitch'nike, など英字で、など。

自分のサービスの名称

図 3-38 実行プランを考えるワークシート①⁵⁸

⁵⁷ 竹内氏からの提供。本件は高校1年生向けワークシートであるが、中学1年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

⁵⁸ 竹内氏からの提供。本件は高校1年生向けワークシートであるが、中学1年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

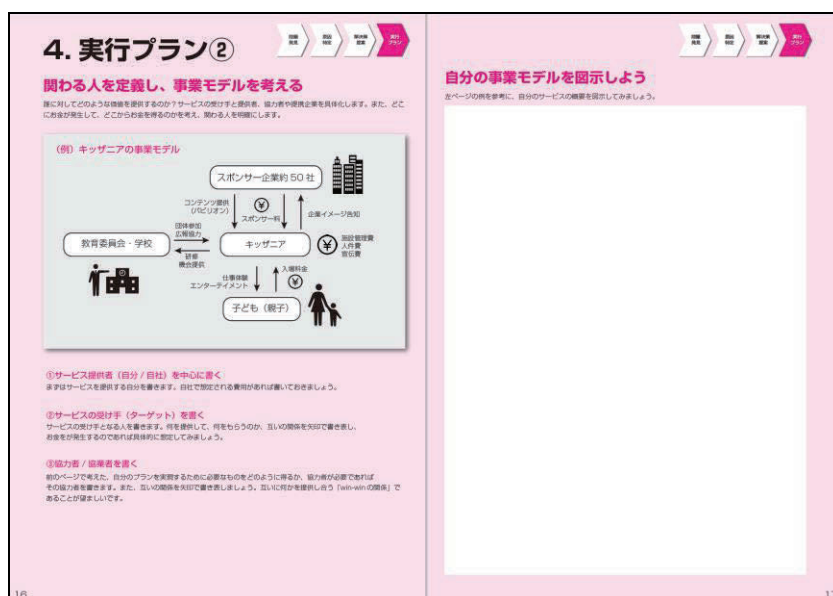


図 3-39 実行プランを考えるワークシート②⁵⁹

(6) 学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

品川女子学院全体で Google を採用している。竹内氏の授業では、毎回残り 5 分のタイミングで生徒に各々の学習進捗状況を定量・定性の両面で Google Forms に入力してもらい、そこから取得される情報をスプレッドシートで確認していた。

また、ビジネスプラン・アイデアプランのワークで、生徒各々から違う内容のものがアプトプットされるので、各生徒が今どのようなことを考えているのか、興味を持っているのか、どのようなエピソードを持っているのかといった内容を生徒 1 人ずつドキュメントで記録している。

学校全体としては、「学年担当の教員と生徒個人」単位で作る Google ドライブ上のフォルダで管理している。例えば、各生徒があげた成果等を画像データなどで管理・共有するという取組である。また、学年の教員が集まる毎週の会議で生徒状況を共有している。

(7) 学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

朝や放課後の時間を使って、生徒からの質問を受け付ける体制を組んでいた。竹内氏のスケジュールは Google カレンダーで生徒に公開されており、それを見た生徒にかつてはサイボウズ、2018 年度から Slack を使ったメールやチャットで予約連絡をしてもらい個別対応をするというルールであった。問題が見受けられる生徒（素行が悪い、授業中寝ている、やる気を見せないといった性質の生徒）には事前に竹内氏から声掛けすることにより自主的に予約連絡をさせている。実はこのような問題の生徒の方が、成果物が優秀なケースが多く、竹内氏の授業内容的に最上位のポテンシャルを秘めている生徒とのことである。

⁵⁹ 竹内氏からの提供。本件は高校 1 年生向けワークシートであるが、中学 1 年生向けには同様の内容でより簡易なワークシートになっている。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

竹内氏の全ての授業は自作のオンデマンド型動画教材を使っており、生徒が一人ひとり動画教材を受講しながら自分のペースで制作を進めていくという授業形式である。生徒一人ひとりがイヤホンをつけて、各々が学習しているところを自分のペースで進めていく（図 3-40、3-41）。教材は全て動画になっており、3分程度で1テクニックをまとめた動画を何百本と用意している。マイクロラーニングを意図している（図 3-42、3-43）。生徒の反応が芳しくない（質問数が多い等）場合は都度動画教材を作り直している、また、複数人から同じ質問があることが予想されるものはすぐに回答の動画教材を新たに作っている。常にその時点で最もクオリティの高い動画教材を生徒に提供しようとしている。

生徒の進捗状況は毎回の授業時に竹内氏が把握しており、遅れ気味の生徒や全体カリキュラムの最低レベルまでの到達が困難と思われる生徒については、授業内や放課後に個別にフォローを行っていた。全体カリキュラムの最低レベルというのは、例えば、レッスン 1 からレッスン 10 まで用意をしておき、レッスン 6 までは最低限学習を終えて下さいといったラインを引いている。このラインまで終わらない生徒は存在しないというレベル感で授業難易度設計をしている（実際に最低限のラインで学習が終わる生徒は1学年の中で2-3名程度である）。どんどん先に進める大半の生徒用に難易度が高めのレッスンも用意している。

このような授業形式にすると、生徒の集中力が大変高く、寝る生徒はいなかった。自分のペースで学習を黙々と進めている様子であった。あくまで評価対象は成果物のクオリティ（図 3-44）になるので、学習スピードはそこまで大きな問題視していない。



図 3-40 オンデマンド型動画教材を使った授業風景①⁶⁰

⁶⁰ 竹内氏からの提供

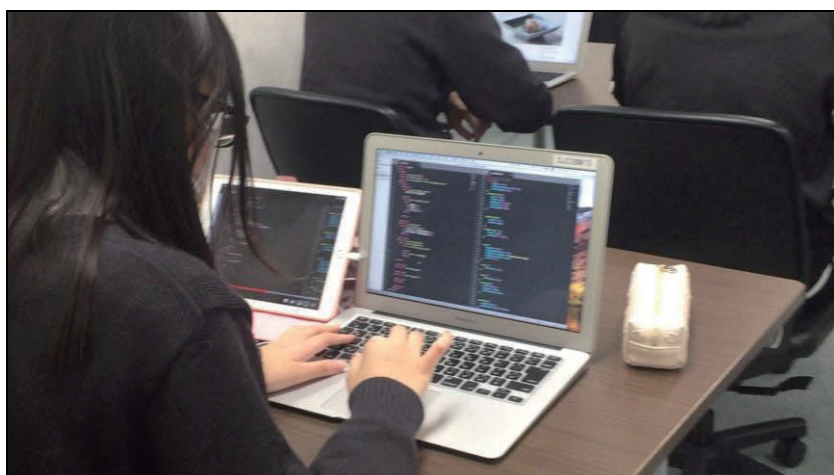


図 3-41 オンデマンド型動画教材を使った授業風景②⁶¹

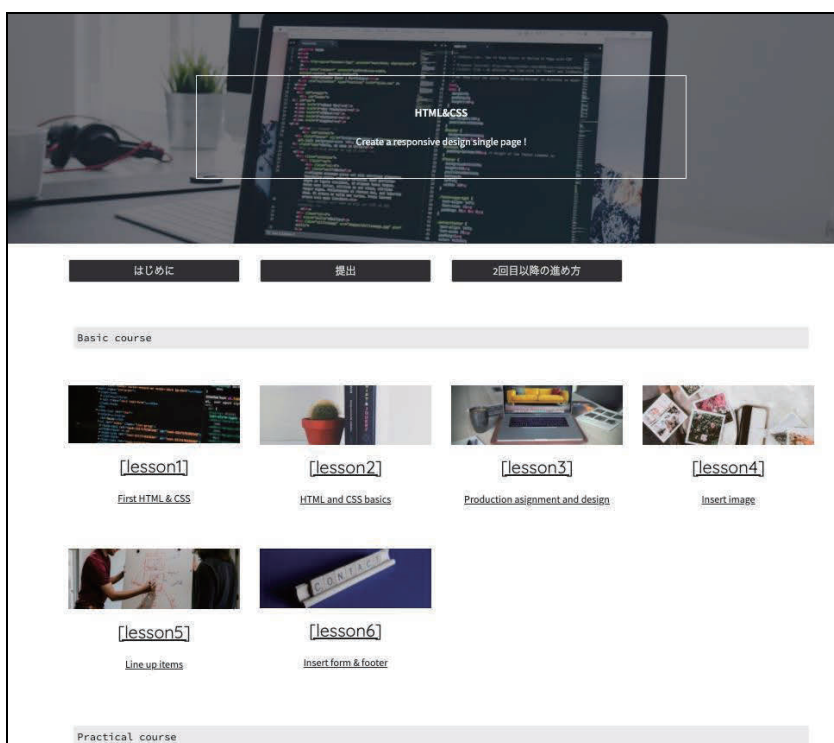


図 3-42 レッスン（動画教材）を複数用意しておき、授業の難易度設計をしている⁶²

61 竹内氏からの提供

62 竹内氏からの提供

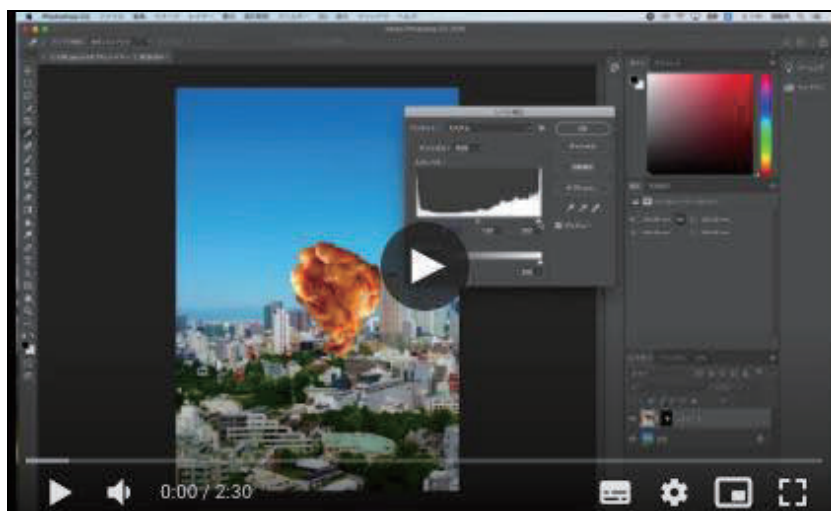


図 3-43 1本3分程度の自作動画教材例⁶³



図 3-44 高校1年生の成果物例（ビジネスプラン）⁶⁴

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

教員がトライアンドエラーして、時として失敗してしまうことに対して、学校としての長期的な寛容さが必要であると思われる。教員の成果を人事制度として評価する仕組みも必要であるとする。教員の多くは決まったカリキュラム、決まった教材を使って授業を行っているため、ゼロからアダプティブラーニングやアクティブラーニングの実施や生徒が何かゼロから生み出すことを伴走する授業を作り出したことがないように思われる。教員に授業を作らせる経験、機会を多く提供すべきであるとする。

⁶³ 竹内氏からの提供。自作の動画教材は編集していない。編集が不要な構成を考えているとのことである。

⁶⁴ 竹内氏からの提供。

ビジネスプラン作りの事例詳細については、<https://edtechzine.jp/article/detail/3056>（最終検索日：2021年1月1日）

https://www.recycle-tsushin.com/news/detail_2136.php（最終検索日：2021年1月1日）

学校の教員にとって、授業やコンテンツを作るには学校は最高の環境である。目の前に多くの生徒がいるわけで、そのような環境を生かしてより良い教育・授業をトライできることは教員本人にとって大チャンスであり良い経験値になると思われる。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

「ゼロベースで学習目標を作れるスキル」「教材等のコンテンツを具現化できる ICT スキル」「学習目標への過程で適切なステップを設定できるテクニック」の3つが必要であると考えます。

「ゼロベースで学習目標を作れるスキル」は、生徒の発達段階や年齢に応じた妥当なゴール設定をゼロベースでできることである。既存のカリキュラムや教材を批判的に捉えることも大切で、それは生徒によってその内容を習得するのに必要な時間が各々異なるからである。

「教材等のコンテンツを具現化できる ICT スキル」は、いかに生徒を魅了する教材をつくれるか、というビジュアルプレゼンテーションのスキルである。例えば、Word で作る教材はレベルが低いと思われ、市販の教材は明らかに Word で作っていない、そのために教員にもより高度な ICT スキルを求めたい。

「学習目標への過程で適切なステップを設定できるテクニック」は、例えば、ワークシート作りにおいて白紙の項目だけ作っても生徒は全然記入してくれないので、どういう順番でどういう設問の空欄を用意しておくか、対象生徒のレベルによっては自由記載の空欄ではなく、選択肢を用意した方が妥当といったことを、考えられるテクニックである。

3.2.5 株式会社学研塾ホールディングス 経営戦略本部 事業開発部 山下 彰洋

企業紹介⁶⁵：

学研グループの教室・塾事業の持株会社。教室・塾事業を統括し各グループ会社間の連携を促すことを目的とした企業である。次世代型個別学習塾「G-PAPILS」、「ZOOM」を活用したオンライン授業システム、生徒と講師と保護者が情報を共有するアプリケーション「マナミル」開発という 3 つのプロジェクトを推進している。これらのプロジェクトは、ICT や AI を活用して新しい学習システムやコミュニケーション手法を構築し、教育現場が抱える課題を解決するという使命を担っている。

ヒアリング調査日時：2020年12月8日（火）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一
学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子
株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子
株式会社 NSG ホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇
デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

先生という立場の役割は「教える」「励ます」「評価する」という3つに分けられ、今までは基本的に1人の先生が全て担ってきた。これからは、アダプティブラーニング（個別最適化）を進めていく上で、「教える」はデジタルテキストや動画教材、「評価する」はAIやLMS⁶⁶といった人以外のものが担い、「励ます」の部分はコーチングやメンタリングという言葉があるように人の強みをより一層発揮していきたいと考える。

以上のような、仕組み・役割分担を以て、生徒の学力を伸ばすことが目的であるが、それに至るまでの、塾・学校での「学習への意欲」、宿題を必ずやる、毎日コツコツ勉強する等の「学習への姿勢」も伸ばしていきたいと考えている。

⁶⁵ 株式会社学研塾ホールディングス <https://gakken-jhd.co.jp/>（最終検索日：2021年1月4日）
株式会社創造学園 <https://www.sozogakuen.co.jp/mission/3/>（最終検索日：2021年1月4日）

⁶⁶ LMSは Learning Management System（ラーニングマネジメントシステム）の略である。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

「デジタルテキスト」については、まずは中学生が対象であり、「マナミル」については、小学校高学年から高校3年生までが対象である。総じて、サービスの主対象は中学生となる。

現在取り組んでいるアダプティブラーニングの仕組みが、全ての生徒にとって合うとは思わない。現に、学校の授業、塾の授業を受けるだけで良く理解できており、例えば、学習量のアプリ管理といった手法が必要でない生徒もいる。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

基本的には5教科（国語、数学、英語、理科、社会）の指導において、主として中学生向けにアダプティブラーニングを実施している。

市場ニーズとして、まだまだ集団授業を求めている顧客が多いのは事実である。ただし、近未来の塾の在り方を創造していく必要があり、このようなアダプティブラーニングの仕組みを一部分で実験的に実施しているところである。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

動機付けケーススタディを言語化・標準化をして（図 3-45、3-46）、研修（eラーニング化含む）を通して先生に知識・スキルを習得してもらっている。研修は週1-2回という高頻度で行っている。また、学研グループ全体で年1回の合宿研修を行っており、そこでは教科指導やメンタリングのトレーニングを行っている。成功事例に限らず、失敗事例まで他者のものを見る機会を増やしている。また、東京都立大学と一緒にメンタリングメソッドを研究開発している。

目標設定・計画編①

生徒の状況	声かけの具体例
目標を口にしない	先生と一緒に次の定期テストに向けての目標を立てない？
将来の夢や進路についていくつかの選択肢が挙げられる	素晴らしいね。 その中で一番を探そうね。
なぜ勉強するのかわからない 「今の勉強は将来役に立たない」という発言	確かに役に立たないこともたくさんあるよ。 でもどんなことからも逃げずに頑張る気持ちが大切なんだよ。
高校に行きたいと考えている 将来就きたいと考える職業(夢)がある	素晴らしいね。 絶対にあきらめずに達成しようね。
いつ何をすべきか理解しておらず何を優先してすべきかわかっていない	今日家に帰ってから何をしよう？ 今日の宿題はいつしよう？
目標はあるが、それに向けて何をやるかが具体的にない	その目標を達成するためにまずは何が必要かな？
下位目標が設定されていない	この目標を達成するために必要なことを一緒に考えよう
志望校合格に必要な目安とその達成時期を知っている 入試(推薦含む)に役立つ資格を知っている	その目標は誰にも負けないくらい強く願おうね。 あとは行動をスタートするだけ。頑張れ！
いつ何をすべきか理解しており次に何をすべきかと問うと即答する	素晴らしい！先生は全力で応援するよ。 この計画がうまくいけばまた目標に一歩近づけるね
しなければならぬことばかり計画し、テストの点数をチェックポイントとして意識しない	素晴らしい計画を立てていたね？ 結果はどうだった？
学習を通して身につけられることが理解できていない	最後まで頑張ってやれば勉強の内容以上に 達成感が味わえるよ。がんばろう！
計画しなければならぬからしているという態度	目標や計画があるから達成するとうれしいし 失敗すると悔しいんだよ。いい計画を立てて頑張ろうね。
他者の進捗を意識しており、自分の進捗に着目できていない	他者を意識することはとても重要だよ。ライバルが自分を成長させてくれるから。 でも今までの自分が一番のライバルだよ。
他者がどうあれ、自分のペースで勉強できる計画になっている	自分のことをよくわかった計画がたてられているね。 さらに成長するためには他の人を意識することだよ。

図 3-45 動機付けケーススタディの言語化・標準化の例①⁶⁷

全体へのトーク具体例①

生徒の状況	宿題のやり方が良くなっている
<p>学校で各教科の担当してくれている先生が君たちに対して良い印象を持ってもらうコツを教えます！塾の宿題に対してもう一度強いこだわりを持って勉強してほしい！宿題をやっていて成績が上がる時間帯は、問題を解いている時間でもなく、丸つけしている時間でもなく、その後の間違い直しをしている時間帯です。ただ赤で正しい答えを書くだけでなく、ノートに「解き直しスペース」を作って、そこでもう一度間違えた問題を解き直してください。学校のワークも同様です。ワークを提出したときに学校の先生が「〇〇くんは頑張っているな！」と思ってもらえるように、今から塾でしっかりと宿題のやり方にこだわっていきましょう！</p>	
生徒の状況	確認テストに対する意識が下がっている
<p>塾のテストで一番大事なテストって何か分かりますか？まとめテストや模試も大事だけど、一番は日々の確認テストですよ。大きなテストでいい結果を出したいけど、いきなり結果をだすことは難しいことですよ。でも、前回の授業と宿題をきっちりやって確認テストで満点を取ることはできますよね？本番のテストで結果を出すためにたくさん練習をしていこう！1歩ずつ、少しずつでいいから毎回の授業で階段を上って行くことが大事。それを積み重ねていくことで気づいたらとんでもないところまで行き、100点満点のテストでもいい結果をだせるようになります。だから毎回の確認テストはすごく大切なテストやと思って取り組んでいきましょう！</p>	

図 3-46 動機付けケーススタディの言語化・標準化の例②

⁶⁷ 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

学習サイクル別に「励ます」シーンがある。例えば、目標設定シーン、計画立案シーン、遂行シーン、結果が出た後の内省シーンごとに「励ます」方法をスキームすべきと考えている。

(5) 学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

「マナミル」という学習支援アプリを通じて、生徒個々人の目標設定を行っている。このアプリは、「生徒の学習量を増やすこと」をサポートしている。例えば、学校の定期テストに関する目標を生徒と塾（の先生）の間で行う、お互いに約束を確認する。目標設定後に、学習計画を作り、アプリ上のカレンダーに計画を落とし込んでいく（図 3-47）。今までの塾へのイメージは、「塾に行くと勉強を教えてもらえる」といったものだったが、新しい塾のイメージは、「この宿題はいつやるのか？何時間やるのか？といった内容を生徒と先生が面談をしながら決めていく」といったものになっていく。生徒は自宅に戻ると、このアプリを起動して勉強を進めるという流れである（同時にアプリが学習量・時間を測ってくれている）。これらの学習行動と結果（成績）との関係を分析して、先生による「励まし」を行っている。

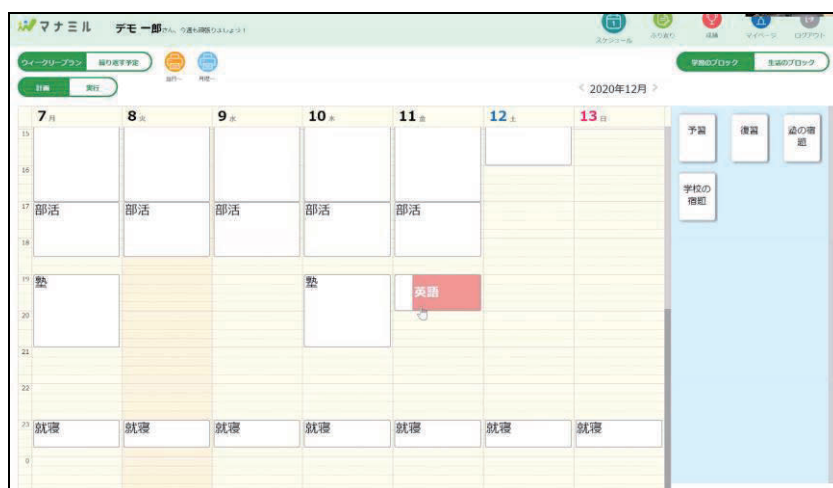


図 3-47 学習支援アプリ「マナミル」のインターフェイス⁶⁸

⁶⁸ 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

かつては、生徒の成績・表情・学習への姿勢から先生の肌感覚で生徒状態を把握してきた。これはある意味、先生の力量でありこれにより生徒の成績が向上、生徒数が増加といったことが先生の評価となっていた。

これに対して、現在進行形であるが、「マナミル」という学習支援アプリを導入することで、生徒個々人の目標設定と並行して、学習データの収集を行っている。学習データとは、自宅での学習方法（内容）、学習量（時間）、（自己申告による）理解度、学習時間帯といったデータである。学習習慣にスポットを当てたデータ収集であり、可視化することにより生徒メンタリング活動の参考にしていく。例えば、数学が得意な生徒・英語が得意な生徒の学習データから、成功ノウハウを抽出してこれらをメンタリング活動に応用していく。「評価する」機能としての AI は、生徒個別への問題のレコメンデーションの役割を担っている。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

アダプティブラーニングの仕組み推進により、学習進捗が遅い等の下位層の底上げが期待されているが、ここでは「励ます」機能の先生の役割が重要である。大半の生徒が自宅で自主学習し続けることは難しいので、塾に通って勉強するという「通う」ことの習慣化も重要である。精神的なケアは勿論であるが、進捗管理・ペースメーカー的な役割を担う必要がある。学期（3ヵ月）に1回、保護者面談も行っている。

塾の先生側のスキルアップ工夫として、各先生の成功ノウハウを動画でクラウド共有する仕組みがある（図 3-48）。成功ノウハウとは、「ある教科のこの部分の教え方」「テストを目前にした生徒の頑張らせ方」「テスト前にクラスで先生が話すべき内容」といったテーマの動画が3-4万本アップされている（出だしは、特定の先生に根回しで協力を募り、最初の1ヵ月間で動画1,000本アップした。これにより、その後の自然な投稿数向上に繋がっていった）。これは大変好評な施策とのことで、特に新人の先生はよくチェックされているとのことである。ノウハウ動画を全社的に奨励し、各先生のスキルをアップさせるために、月一回のペースで素晴らしい動画投稿者に社長賞的な表彰をする機会を設けている。

塾の先生の総合的な評価は、30%は学研塾講師検定（学力検定）、70%は全生徒アンケート（年2回）の合算である。10段階のレベル分けを行い、最高レベルはSS級である（2000名講師の内25名ほどの割合）。

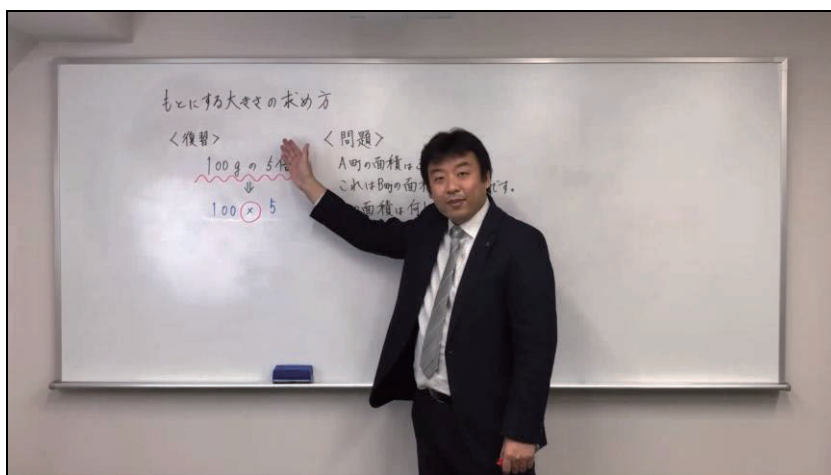


図 3-47 先生間で共有されているノウハウ動画例（教え方ノウハウ）⁶⁹

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

生徒の個別の目標設定の妥当性、目標に対する学習内容の妥当性、習熟度に関するサポートは「評価する（AIやLMSを活用）」並びに「教える（デジタルテキスト、動画教材等を活用）」で行っている（図 3-49、3-50）。

デジタルテキストは、視聴者が小中高生ということで大人より動画慣れしているため、制作上非常に注意している。制作ポイントは「分かりやすい」「短い（目安は5分）」「楽しい」の3つである。Youtubeにアップされている教育コンテンツテイストのものを大量制作している。登壇講師は上位2レベルの講師が担当している（図 3-51）。

学校の定期テスト前には、テスト2週間前に生徒・先生の面談でテスト対策の目標立て、テスト1週間前に進捗確認・目標修正、テスト後に振り返り面談を行うといったルーティンサイクルも回している。

⁶⁹ 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

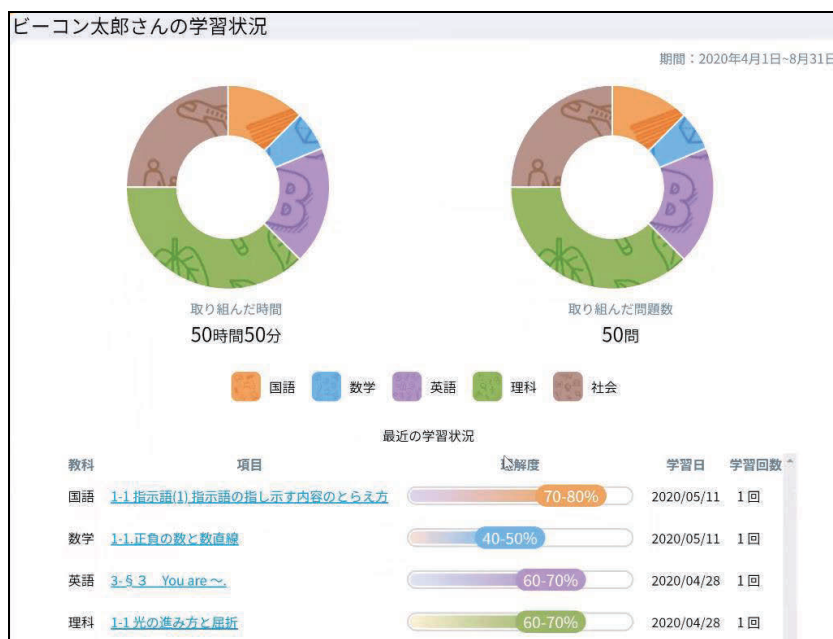


図 3-49 デジタルテキストのサンプル①⁷⁰



図 3-50 デジタルテキストのサンプル②⁷¹

70 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

71 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

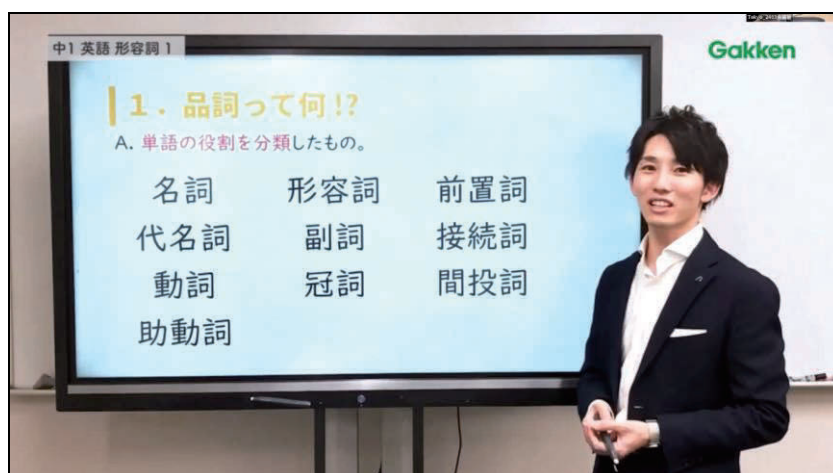


図 3-51 上位講師が大量制作している動画教材例⁷²

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

塾サイドとしては、アダプティブラーニングの重要性を認め、サービス開発・提供を行っているものの、生徒の保護者サイドは依然として集団授業といった従来型サービスを希望しているというギャップが問題になっている。〇〇高校合格といった目標達成だけでなく、途中過程（動画教材で勉強していて先生は何をしているのか？、先生から日々どういことを教わっているのか？、生徒はちゃんと勉強しているのか？、等）を気にしているのが保護者心理である。このギャップ解消が塾としての課題である。

また、アダプティブラーニングそのものについては、「デジタルテキスト」や「マナミル」といったテクノロジーはあくまで道具であり、これらをどのように集団授業に組み込むのか、個別指導に組み込むのか等、顧客ニーズに合わせてサービスパッケージに仕上げているのが新たな先生の役割であり今後の課題である。この新たな役割を現場の先生に全て期待するのではなく、本部（学研塾ホールディングス）がある程度のスキーム・ガイドラインを作り、現場の先生に細かなカスタマイズを行ってもらおうという役割分担を行っている。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

多くの先生が肌感覚でやってきたことを標準スキーム化した上で、先生という仕事への想い、情熱といったマインドセット研修を改めて重視したいと考える。

また、アダプティブラーニング実施により得られた各種データ（成績、学習量、理解度、学習姿勢等）を分析し、生徒個別にアドバイス提供等のソリューションを具体的に言語化、行動するスキルが必要である。

⁷² 株式会社学研塾ホールディングス 山下氏からの提供

3.2.6 湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 教授 内海 太祐

大学紹介⁷³：

1974年に学校法人ソニー学園により設立された、総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科、保育学科の3学科を持つ総合短期大学である。

(総合ビジネス・情報学科)

ビジネス知識・ICT活用能力・ビジネスの実践的スキルを備えた社会で役に立つ人材を育てる。

(生活プロデュース学科)

心身ともに快適で豊かな生活を創り出していくとともにビジネス社会で活躍する女性を育てる。

(保育学科)

保育に必要な知識とスキルを修得し、実践的指導力と創造性を身につけ、乳幼児の豊かな心と想像力を養うことができる人材を育てる。

ヒアリング調査日時：2020年12月11日（金）15:00-17:00

形態：オンライン面談（Zoom）

参加者：

学校法人YIC学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

初年次教育における基礎学力（算数・数学）の向上が目的である。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

内海氏は総合ビジネス・情報学科に存在する経理・金融コース、ICTコース、メディアデザインコースの3コースにおいて初年次教育（算数・数学）を担当している。本来は4年制大学に行きたかったが経済的に厳しく短期大学を選択した学力が高い学生タイプと、学力が厳しいタイプの学生が混在している。学生には入学時にプレイスメントテストを受験してもらっているが、算数・数学のレベルは、下位層は小学校4年生レベル、上位層は高校3年生レベルになっている。また、学生の多くは算数・数学に苦手意識がある。

このように、学力面でバラバラな多くの学生を相手に一斉授業では、基礎学力向上が望め

⁷³ 湘北短期大学 <https://www.shohoku.ac.jp/aboutus/feature.html>（最終検索日：2021年1月5日）
<https://www.shohoku.ac.jp/aboutus/purpose.html>（最終検索日：2021年1月5日）

ないという判断からアダプティブラーニングを取り入れている。

以前までは、非常勤講師による初年次教育（算数・数学）を対面授業で行っていたが、その講師授業のレベルに合う学生はよいが、ミスマッチの学生は寝てしまう、脱落してしまうといった事象が発生していた。そのため、数年前から e ラーニングサービス「すらら⁷⁴」を導入している。

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

算数・数学の基礎学力教育を行っている。株式会社すららネットの「すらら」を導入しており、無学年方式の e ラーニング教材のため学生の学力状態に合った問題を提供できることが特徴である（図 3-52）。

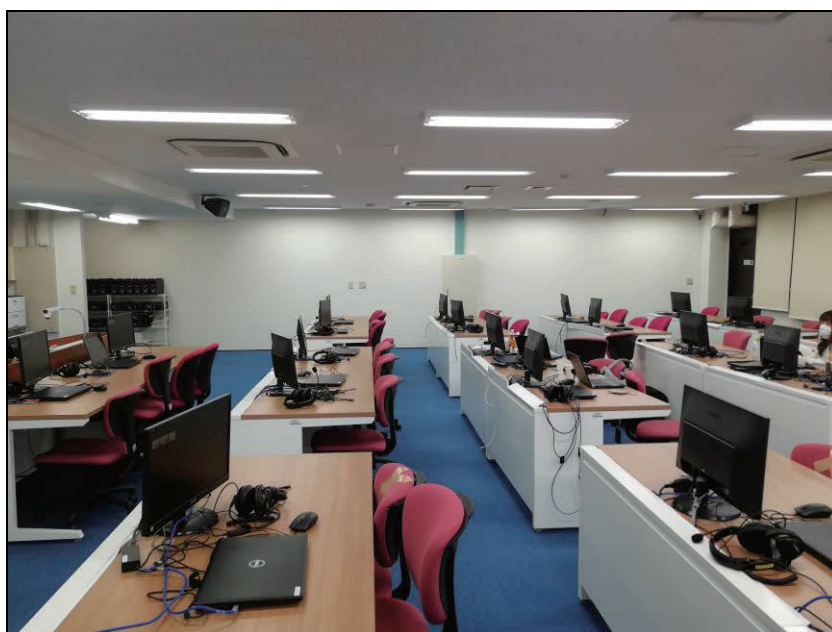


図 3-52 コロナ禍前に、「すらら」を使った授業を行っている教室風景

(4) 教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

「すらら」というコンテンツを学生に与えただけでは学習はしない、結果的には脱落してしまう。「すらら」の中にも、ゲーミフィケーションの機能はあるが役に立っていない。どうしても教員が介在して動機付け、伴走の仕掛け・仕組みが必要である。

各授業回の冒頭に学生のモチベーションが上がる話をしている。基礎的内容の学習の重要性をスポーツや経営者、ビリギャル⁷⁵のエピソードなど、学生が親近感を持ちやすいテー

⁷⁴ すらら 無学年方式の e ラーニング教材 https://surala.jp/school/case/remedial_01.html（最終検索日：2021年1月5日）

⁷⁵ ビリギャルの事例 <http://birigal.jp/>（最終検索日：2021年1月5日）

マを介して伝えている（図 3-53、3-54、3-55、3-56、3-57、3-58）。対面授業の際は、飴玉などのご褒美的なものを用意して刺激やエンタテインメント性を提供している。このように冒頭の盛り上げ如何によって、その後の学習継続・脱落に影響してくる。

数理を学ぶ重要性 2

- 数字に感覚がある人 = 数覚者は社会で生きるのに重要

- 100円の20%引きがわからない人に販売は任せられない
- 1mが60cmだと思っている人に、建築現場は任せられない

- もちろん、経理もITも任せられない

図 3-53 学生の動機付けのための第 1 回目授業時のトーク例①⁷⁶

「基礎学力」の不足は、人生の可能性の芽を摘みます。
慌てて取り返そうとしても、「体得」不可能な年齢になってしまっていては手遅れなのです。

第5代 ソニー社長 大賀典雄

図 3-54 学生の動機付けのための第 1 回目授業時のトーク例②⁷⁷

⁷⁶ 湘北短期大学 内海氏からの提供

⁷⁷ 湘北短期大学 内海氏からの提供

大学で数理を学ぶときの問題

- いつまで数学をやっていたかは人によって違う
- 小学校から高校まで学んできて、それぞれの段階で躓きがある
- 小4で躓いた人に小6の算数を教えても…
- しかし、**実はそんなに難しくない**ので、わかるところから始めれば、比較的短時間でリカバーできる

図 3-55 学生の動機付けのための第1回目授業時のトーク例③⁷⁸

そうだ、すららを使おう！

- 学生のレベルに合わせた資料・問題を提示する
- 多人数向けの個別指導を実現するための方法
- ICTを使った学習システムは日本では「すらら」が先駆的
- PCでもタブレットできるし、スマホでも（非推奨だが）できないことはない

図 3-56 学生の動機付けのための第1回目授業時のトーク例④⁷⁹

⁷⁸ 湘北短期大学 内海氏からの提供

⁷⁹ 湘北短期大学 内海氏からの提供

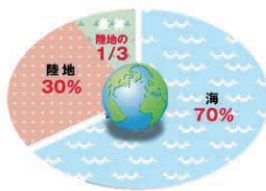
私の役割

- さらさらにはドロップアウトしない仕組みがあるが、人が応援した方がよい場合もある
- システムの解説でどうしても分からないことに解説する

図 3-57 学生の動機付けのための第 1 回目授業時のトーク例⑤⁸⁰

最初にして最大の目標

割合の意味をわかるようになろう！
頭の中で絵が描けるようになればOK!



5: 商品 ¥80,000 をクレジット払いの条件で販売するとともに、債権会社へのクレジット手数料（販売代金の5%）を計上した。

6: 上記5.の代金が当座預金口座に入金された。

午前18

プログラムのCPU実行時間が300ミリ秒、入出力時間が600ミリ秒、その他のオーバーヘッドが100ミリ秒の場合、ターンアラウンドタイムを半分に改善するには、入出力時間を現在の何割にすればよいか。

図 3-58 学生の動機付けのための第 1 回目授業時のトーク例⑥⁸¹

⁸⁰ 湘北短期大学 内海氏からの提供

⁸¹ 湘北短期大学 内海氏からの提供

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

一般社会で生活していく上で最低限必要な算数・数学的スキルが「割合」であると学生には説明しており、「割合」レベルの学習到達を全員に対するボトムラインとしている。このボトムラインの引き方が重要である。

最初は全員、「小数の計算」から学習スタートし、その後は各学生のペースで学習が進んでいくので、進度に差が出てくる。3倍以上の差がつくとのことである。

尚、ボトムライン以降の最終ゴールは「数列」であるが、ここまで到達する学生はなかなかいないとのことである。

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

達成したステップ（学習内容の小分類）とログインしている時間（勉強している時間）をベンチマークとして重要視している。この2つの指標を以て、全体評価の50%としている。そして、年度前期のプレイスメントテスト点数からの伸びを以て、全体評価の30%としている（マイナス査定はないとのこと）。残りの20%は素点（テストの点数そのもの）としている。このように一番の評価対象は「各学生の努力」としている。

表3-1のような各学生の個別データをもとに、授業内での声掛け（2020年度のオンライン授業では、Zoom ブレイクアウトルームでの個別フォロー）や授業外の個別フォローを行っている。状態データが可視化されるため、学生同士で学習時間量や進度といった指標を以て競争しながら勉強しているという事例もあった。

表 3-1 学生の学習進度、理解度、学習時間量、復習レコメンデーション等の可視化⁸²

テスト4 (10分)	P_5	1	1	A	記号を使った式(1)	30	○	○	○	%
	P_5	1	1	B	記号をつかった式 記号を使った式(1)	10	-	○	-	%
	P_5	1	2	A	記号をつかった式 記号を使った式(2)	30	○	○	○	%
	P_5	1	2	B	記号をつかった式 記号を使った式(2)	10	-	○	-	%
	P_5	1	3	A	記号をつかった式 数量の関係を表す式(1)	35	○	○	○	%
	P_5	2	1	A	文字をつかった式 文字をつかった式	40	○	○	○	%
	P_5	2	1	B	文字をつかった式 文字をつかった式	10	-	○	-	%
	P_5	2	1	C	文字をつかった式 文字をつかった式	10	-	○	-	%
	得点	P_5	2	2	A	文字をつかった式 数量の関係を表す式(2)	35	○	○	○
100点	P_5	2	2	B	文字をつかった式 数量の関係を表す式(2)	10	-	○	-	%
量と単位の計算						総復習時間: 3時間20分				
テスト5 (10分)	P_6	1	1	A	いろいろな単位 時間の単位	30	○	○	○	%
	P_6	1	1	B	いろいろな単位 時間の単位	10	-	○	-	90%
	P_6	1	2	A	いろいろな単位 長さの単位	30	○	○	○	%
	P_6	1	2	B	いろいろな単位 長さの単位	10	-	○	-	%
	P_6	1	3	A	いろいろな単位 面積の単位	30	○	○	○	%
	P_6	1	4	A	いろいろな単位 体積と容積の単位	30	○	○	○	%
	P_6	1	4	B	いろいろな単位 体積と容積の単位	10	-	○	-	100%
	P_6	1	4	C	いろいろな単位 体積と容積の単位	10	-	○	-	71%
	得点	P_6	1	5	A	いろいろな単位	35	○	○	○

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

「すらら」の学習は、授業内で行うことが一番のポイントである。授業外の自主学習も奨励しているが、なかなかうまくいっていない（一部の学生は自主的な学習もできている）。授業回で復習が必要な項目が判明した学生には、1週間後の次の授業回までにその部分の復習をしてくるよう指導している（授業外の自主学習として）。

「すらら」の説明だけでは分からない学生については、内海氏が授業外に個別にフォローしている。また、学生同士のピアラーニングも奨励している。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

「すらら」は、基本的には小学校・中学校・高校の児童生徒への教材であるので、これを高等教育機関の初年次教育の実情にどうフィットさせるかが課題であった。そこで、内海氏は SPI⁸³の問題を分野別に要素分解して、例えば「分数・小数の計算」「割合」の分野まで遡って学習させている。最初に学生にテストを受けさせて8割得点できている場合は次のステップに進んでもらい、8割以下であればその分野の復習コンテンツを提供する仕組みを採った（図 3-59）。その後、この仕組みをすららネット社が「すらら」機能として実装してくれたとのことである。

⁸² 湘北短期大学 内海氏からの提供

⁸³ 株式会社リクルートマネジメントソリューションズが提供する適性検査サービス
<https://www.spi.recruICT.co.jp/>（最終検索日：2021年1月5日）

その結果、「すらら」を使って学習している学生と一斉授業を受けている学生とで比較したところ、前者がより高い成果を出した。2019年度実績（毎年12月頃に実施しているテスト）において、前者は学生全員の得点が2019年度前期プレースメントテスト時の点数以上になった。2018年度についても、概ね同様の結果であった。その影響からか、日商簿記や基本情報技術者試験等に合格する学生が例年以上増えたとのことである。

表3-2は、内海氏の実践結果をまとめた成績推移の散布図である。この散布図の特徴として、すべての点数領域において一点鎖線（前期と12月で同じ点数であることを表している。この線より上にある点は前期に比べて高い点であることを示し、下にある点は前期に比べて低い点であることを示す）近辺か上方にあり、点数は少ないものの、近似曲線（点線）の傾きは1に近く、どの領域においても均等に学力が伸長していることが示されている。⁸⁴

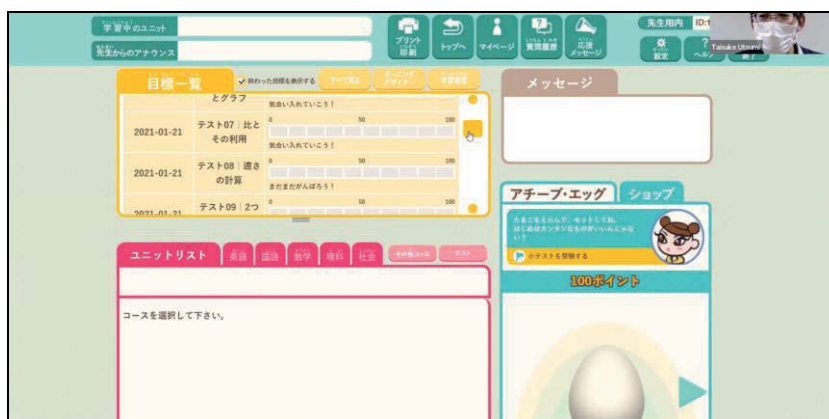


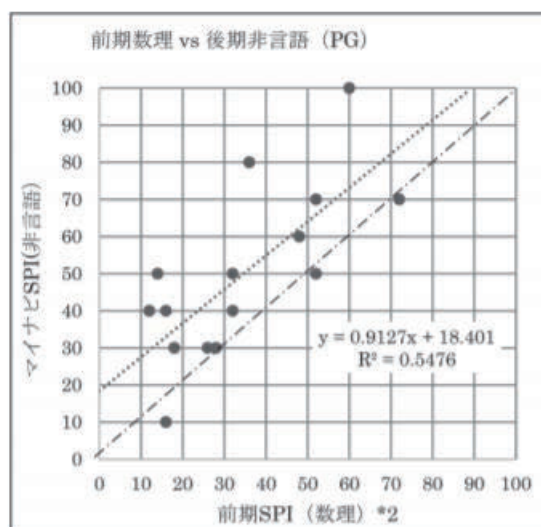
図3-59 学生が学習する「すらら」の画面（目標一覧の箇所で、進度の個人差が出る）⁸⁵

⁸⁴ 内海 太祐「適応学習を用いた SPI 非言語分野学習の効果」（湘北短期大学 湘北紀要第40号、2019年、p.8）

https://shohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=reposICTory_view_main_ICTem_detail&ICTem_id=931&ICTem_no=1&page_id=13&block_id=21（最終検索日：2021年1月6日）

⁸⁵ 湘北短期大学 内海氏からの提供

表 3-2 2018 年度の成績の推移（前期と 12 月のテスト結果から）⁸⁶



(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

2020 年度、コロナ禍によりオンライン授業（Zoom）が主体となっている中、学生の動機付け・伴走の仕組み作りに苦勞している。特に、基礎学力下位層については「すらら」でフォローしきれない部分が多々あり、対面での個別フォローの方がまだ優れているという感想を持っている。

オンライン授業におけるインストラクショナルデザインの実践知を貯めていく必要がある。アフターコロナを見据えると、全部がオンライン授業、全部が対面授業ということではなく、併用パターンが主流になると思われるので、併用のバランスを見極めていきたい。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

オンライン授業の場合、学生の反応が見えにくいので、授業としてうまくいっているのかどうかタイムリーに把握できない、手応え感がない、気楽にコミュニケーションがとれないといった課題がある。学生サイドからすると、授業への寂しさ感があると思う。この課題を VR 等のテクノロジーの力⁸⁷で乗り越えられないかと考えている。また、基本的な内容や FAQ については AI で回答するという仕組みを希望する。

学生の ICT に対する感情と、教員の ICT に対する感情の間にはギャップがあることを教

⁸⁶ 内海 太祐「適応学習を用いた SPI 非言語分野学習の効果」（湘北短期大学 湘北紀要第 40 号、2019 年、p.8）

https://shohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=reposICTory_view_main_IC_Tem_detail&ICTem_id=931&ICTem_no=1&page_id=13&block_id=21（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

⁸⁷ 内海氏からは参考例として N 高等学校のオンライン授業例を挙げられた。

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/04787/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

<https://nnn.ed.jp/learning/premium/detail/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

員側はまず理解しないといけない。新しいテクノロジーが出てきた場合に、教員が躊躇なく学んでみる姿勢が必要である。

学ぶべきコンテンツはネット上含め優秀なコンテンツがたくさん存在する。そのために、教員は認知心理学的なアプローチから、学生の学びをサポートするファシリテーションスキルを学びたい。

3.2.7 クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス 教員 藤田 果世

学校紹介⁸⁸：

「Boys,Be AmbICTious!」で知られるクラーク博士の精神を教育理念に受け継ぐ唯一の教育機関として 1992 年に開校。北海道深川に本校を設置し、全国 50 を超える拠点で 1 万人以上が学んでいる。通信制でありながら全日制と同様に毎日制服を着て通学して学ぶ「全日型教育」という新たな学びのスタイルを開発・導入。カリキュラムの柔軟性を生かし、生徒のニーズに合わせた様々な特徴ある授業を展開している。毎年、海外大学や国公立、有名私立大学などへの進学者も多数輩出している。

コースの一つとして、オンライン教育と対面教育を融合させた「CLARK SMART」（2020 年度までは「net+（ネットプラス）」）ブランドで展開）を全国の拠点にて新開講する。CLARK SMART では、場所や時間に縛られることなく、個人のペース・目標に合わせて、教員がコーチングをしながら、EdTech を活用した個別最適型教育を実践する。

ヒアリング調査日時：2020 年 12 月 15 日（火）11:00-13:00

形態：オンライン面談（Zoom）、現地訪問面談

オンライン面談参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子

デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

現地訪問面談参加者：

熊本大学大学院 准教授 合田 美子

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

各生徒のバックグラウンドに配慮した上で、学力だけではなく、その生徒にとって一番必要な力、内在している力を引き出すという意味で個別の能力開発も行っている。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

不登校の生徒が多い通信制の高校である。不登校になっているのには色々と事情があり、「学力面で厳しく不登校になるケース」「コミュニケーションが不得手で友人や教員と対立して不登校になるケース」「家庭の事情等により引きこもってしまうケース」に大別される。

藤田氏はネットプラスコースを担当しており、（ヒアリング調査時期の時点で）49 名の生

⁸⁸ クラーク記念国際高等学校、CLARK SMART について <https://www.clark.ed.jp/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

徒をサポートしている。福岡中央キャンパス全体の生徒数は300名超えである。中学校卒業後、ストレートでクラーク記念国際高等学校に入学する生徒もいれば、高校途中からの転入してくる生徒がいる。転入してくる生徒には進学校からのパターンも多く、その場合、進学校出身の中でも学力のバラつきが多い。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

生徒一人ひとりの個性を生かす進路指導を行っている。例えば、絵を描くことが得意な生徒には美術コースを提案したり、関連する資格習得を提案したりしている。プログラミングに興味がある生徒には、プログラミングコースを提案している、といった状況である。個別に提案できるコースやコンテンツを学校として豊富に用意している。学力面も生徒一人ひとりで状況が異なっている。小学校・中学校レベルの内容ができない生徒には基礎学力の習得のために、ウイングネット⁸⁹の小学校・中学校レベルのコンテンツを活用している。進学校から転入してきた生徒には、同じくウイングネットの高校レベルや大学受験レベルのコンテンツを提供している。ただし、コンテンツを提供するだけでは意味はなく、学習計画を一緒にたてて週単位のスケジュールを組んで、実行のサポートを行っている。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

ネットプラスコースが一番大事にしているのはスタート面談（一番最初に行う個別面談）である（図3-60、3-61、3-62、3-63、3-64）。その生徒がどういう部分で躓いているのか、悩んでいるのか等を丁寧にヒアリングし、今後の成長のための作戦をたてていく面談である。しっかり生徒の声を聞き、例えば、好きなものや趣味といったテーマでヒアリングしている。最近では将来の目標を持っていない生徒が多いが、小さな目標を決めていくようにしている。「朝起きられるようになりたい」「〇〇大学に行きたいけれど、どう勉強したらよいか分からない」といった小さな、身近な目標から立てていく。生徒1名あたり1時間半から2時間くらいをかけて、可能な限り対面で面談している（対面が難しい場合はZoom開催）。まずは、信頼関係を作ることを優先している。ここで信頼関係の素地を作れないと、その後も定期的にある面談機会に参加してくれないおそれがある。信頼関係作りのコツは、教員側が笑顔でいること、生徒に決して無理強いをしない、学校に来てくれている時点である程度前向きな気持ちを持ってくれているのは確かなので、心を開いてくれるまで根気よく待つ姿勢が重要である。

⁸⁹ ウイングネット <http://www.ichishinwingnet.co.jp/>（最終検索日：2021年1月6日）

net+
Standard

自分のペースで安心して取り組める！！
大学進学準備ができる！！
自律した「学びと探究」のプラン

1. 充実した教科学習
2. コーチング・サポート体制
3. 課題解決型学習

図 3-60 動機付けの工夫についての生徒・保護者への説明資料①⁹⁰

1. 充実した教科学習

予備校講師による映像授業で、自分に必要な学習を
いつでもどこでも効率よく学べる
(完全習熟度別・個別学習)

<p>+ 学び直し</p>  <p>完全習熟別 Web授業 ウイングネット 習熟度別学習</p>	<p>+ 予備校映像授業</p>  <p>市道予備校の授業収録</p>
--	---

中学内容の
復習 →
 高校内容の
定着 →
 大学受験

図 3-61 動機付けの工夫についての生徒・保護者への説明資料②⁹¹

⁹⁰ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

⁹¹ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

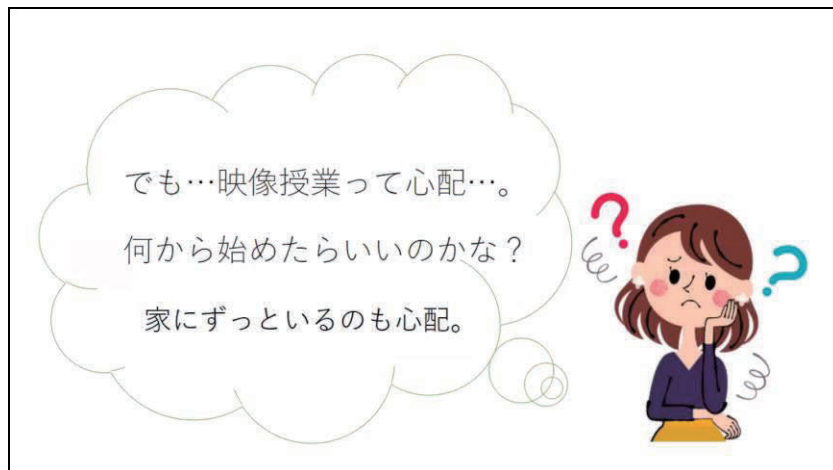


図 3-62 動機付けの工夫についての生徒・保護者への説明資料③⁹²

2. コーチング・サポート体制

Communication

- ・ **目標設定のためのスタート面談**
- ・ 毎朝のHR (zoom/メッセージ)
- ・ **週1回～月2回のコーチング面談**
- ・ 担任からのメッセージ
- ・ 保護者との定期連絡
- ・ **三者面談**

藤田 兼哉 先生 2019/05/20 11:54
こんにちは。
勉強は進んでいますか？
体調管理をしながら、今週も少しずつ頑張ってくださいね。

2019/05/20 12:04
こんにちは！
土日は勉強を進めることができませんでした。
今日は自宅で学習に取り組みようと思います。
明日は自習室に行こうと思っています！
よろしくお願いします。

図 3-63 動機付けの工夫についての生徒・保護者への説明資料④⁹³

2. コーチング・サポート体制

Study

- ・ **学習進捗管理**
- ・ チューター質問教室(zoom)
- ・ 教員への質問 (対面OK)
- ・ 自習室完備
- ・ 模試の定期実施
- ・ 進路指導

学習時間の比率

国語(ウイングネット)	10%
数学(ウイングネット)	10%
英語(ウイングネット)	10%
社会(ウイングネット)	10%
理科(ウイングネット)	10%
アログタラニング講座 (DH・CD)	10%
International講座 (EC・E4S)	10%
クラークWEBスクーリング・報告課題	10%
自学自習	10%

学習時間の推移

活動時間	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	05/29	05/30
学習時間	100	150	200	250	300	350	400	450

図 3-64 動機付けの工夫についての生徒・保護者への説明資料⑤⁹⁴

⁹² クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

⁹³ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

(5) 学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

基本的には生徒との定期面談を通して目標設定を行っている。

ウイングネット（図 3-65）を中心に学習を進める生徒には、ウイングネットの学習管理ツールに学習計画の日にちを生徒自ら考え入力してもらっている。（ウイングネットだけの話ではないが）ここでの教員の役割は、計画の妥当性チェック、計画の進捗状況確認と、計画未達の場合はその理由のヒアリングと今後の対応策を生徒と一緒に考えていく。

難関大学を目指す生徒は受験コンパス⁹⁵を使って行っている。

このように各生徒の目標に合った外部調達のデジタルコンテンツが多数用意されている。デジタルコンテンツの自社開発はしていない。

教科	講座コード	通年基幹授業・講座名	講師	レベル 基礎—応用
英語	3EB	私大英語（基礎）	丸山 大地	★★★★
	3ES	私大英語	石橋 渉	★★★★
	3EN	難関私大英語	石橋 渉	★★★★
	3EWK	早慶大英語	石橋 渉	★★★★
	3EK	国公立大英語	石橋 渉	★★★★
数学	3MB	入試理系数学（基礎）	城能 博	★★★★
	3MS	入試理系数学	天野 貴直	★★★★
	3MS	入試数学ⅠA・ⅡB	城能 博	★★★★
	3MN	難関大数学ⅠA・ⅡB	市川 進	★★★★
国語	3LGB	入試現代文（基礎）	児玉 克順	★★★★
	3LGS	入試現代文	児玉 克順	★★★★
	3LGV	早大国語（現代文）	児玉 克順	★★★★
	3LCB	入試古文（基礎）	野村 静	★★★★
	3LCS	入試古文	山岡 俊也	★★★★
理科	3LW	早大国語（古文・融合文）	山岡 俊也	★★★★
	3K	入試漢文	山岡 俊也	★★★★
	3P	入試物理	田中 義一	★★★★
歴史・公民	3C	入試化学	吉村 直樹	★★★★
	3B	入試生物	三浦 忠義	★★★★
歴史	3J	入試日本史	中務 康弘	★★★★
	3J2	入試日本史（基礎）	佐藤 四郎	★★★★
	3W	入試世界史	鈴木 悠介	★★★★
35	入試政治経済	北原 一郎	★★★★	

教科	講座コード	講座名	講師	レベル 基礎—応用
英語	G3EK	学研 難関国公立大英語	竹岡 広徳	★★★★
数学	G3M	学研 難関大理系数学	小山 功	★★★★
国語	G3LKG	学研 難関国公立大現代文	池上 和裕	★★★★
	G3LCB	学研 基礎強化古文ゼミ	萩野 文子	★★★★
	G3LC	学研 難関大古文ゼミ	萩野 文子	★★★★
	G3LK	学研 難関大漢文	宮下 典男	★★★★
理科	G3P	学研 難関大物理	高橋 法彦	★★★★
	G3C	学研 難関大化学	藤田 真樹	★★★★
	G3B	学研 難関大生物	山川 義輝	★★★★
歴史	G3J	学研 難関大日本史	野島 博之	★★★★
	G3W	学研 難関大世界史	斎藤 聖	★★★★

教科	講座コード	講座名	講師	レベル 基礎—応用
英語	G3ET	東大英語	竹岡 広徳	★★★★
数学	3MT	東大理系数学	市川 進	★★★★
	3NT	東大文系数学	市川 進	★★★★
国語	G3LGT	東大現代文	池上 和裕	★★★★
	3LCT	東大古典	山岡 俊也	★★★★
理科	G3PT	東大物理	高井 隼人	★★★★
	G3CT	東大化学	藤田 真樹	★★★★
歴史	G3WT	東大世界史	斎藤 聖	★★★★
	G3JT	東大日本史	野島 博之	★★★★

図 3-65 外部調達のデジタルコンテンツのいろいろ（一部）⁹⁶

(6) 学生（生徒） 状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

生徒の学習管理ツールは、2020 年度までは Classi⁹⁷を使っているが、2021 年度からは Studyplus⁹⁸を本格採用する（Studyplus に移行する最大の理由は、Studyplus はストップウォッチ機能があるので生徒が時間カウントしやすい点、多くの市販の紙の教材もデジタル管理でき学習時間数を管理できる点である）。リアルタイムに誰が何を勉強しているのかといった学習状況を把握することででき、各生徒の計画と実績の差分を以て個別サポートをしている（図 3-66、3-67）。学習管理ツール上で「いいね」ボタンを使った、毎日の些細なコミュニケーションも重要である（図 3-68）。こうすることで、「一人で勉強して

⁹⁴ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

⁹⁵ 受験コンパス <https://jukencompass.jp/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

⁹⁶ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

⁹⁷ Classi <https://classi.jp/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

⁹⁸ Studyplus <https://www.studyplus.jp/>（最終検索日：2021 年 1 月 6 日）

いる」「淋しい」といった感情を持たせないよう努力している。「先生が見ているので頑張らないと」と思わせる効果もある。

オンラインでの学習履歴や定期的な個人面談内容を以て生徒個別のカルテを作っている（図 3-69）。日頃オンラインでの接点メインであるが故に、教員目線では一人ひとりの生徒が近い存在になり、細やかにサポートできている実感がある。

卒業後の生徒の進路状況、進学状況を追跡調査している。卒業後もサポートできるような体制作りが組織的な課題である。

コーチング担任が学習状況を日々チェック！
リアルタイムなフィードバックで、生徒のモチベーションが継続します。

教員ポータル リアルタイム受講状況 クラーク 単位制キャンパス

最終更新日時 2020/09/10 18:44:10 (全ての字串) 更新 表示切替

氏名	学年	講座名 / 単元名	科目名 / コンテンツ名	標準単元 学習時間	開始時刻	終了時刻	想定終了 予定時刻	自己評価
■■■■	高1	ベーシックTG数学 中1 第7章 資料の整理	28 代表係と総題 ① 問題2	7分	12:05	12:09	-	○
■■■■	高3	ベーシックマスター 政治経済 国内経済 (7) ~ (10)	第10回 租税と財政 第10回 租税と財政	20分	18:29	-	18:49	-
■■■■	高2	ベーシックマスター 世界史B 戦間期の欧米諸国とアジアの長...	第5回 ロシア革命 第5回 ロシア革命	20分	18:28	-	18:48	-
■■■■	高2	ベーシックマスター 生物基礎 生物の体内環境の維持 第8回...	第8回 体内環境の維持の仕... 第8回 体内環境の維持の仕...	22分	10:54	11:22	-	△
■■■■	高3	ベーシックマスター 生物 定期... 生命現象とタンパク質	第2回 細胞の活動とタンパ... 第2回 細胞の活動とタンパ...	21分	16:30	16:50	-	○
■■■■	高3	ベーシックマスター 古文 (文... 助動詞 (1) ~ (5))	第1回 る・らる(1) 例題 第1回 る・らる(1) 例題	20分	15:33	15:59	-	△
■■■■	高3	私大英語【基礎】模成演習夏期...	第6回 基礎からの英文読解6 問題1	1時間6分	16:22	16:46	-	-
■■■■	高3	ベーシックマスター 英文法 入... 総合演習	第5回 演習問題⑤ 第5回 演習問題⑤	18分	17:10	17:25	-	○

図 3-66 ウイングネットの学習管理画面⁹⁹

Studyplus for School

クラーク記念国際高等学校 藤田

学習時間 学習量 滞在時間 個別メッセージ 一斉メッセージ

2020/12/9 ~ 2020/12/15

名前	学習時間	12/9(木)	12/10(金)	12/11(土)	12/12(日)	12/13(月)	12/14(火)	12/15(水)
1 ■■■■	43時間 17分	9時間 30分	8時間 37分	9時間 30分	0分	7時間 30分	7時間 0分	1時間 10分
2 ■■■■	30時間 10分	5時間 0分	6時間 0分	6時間 10分	6時間 30分	6時間 30分	0分	0分
3 ■■■■	23時間 32分	3時間 40分	2時間 44分	7時間 29分	5時間 0分	2時間 12分	2時間 19分	0分
4 ■■■■	19時間 20分	57分	4時間 14分	0分	5時間 47分	2時間 34分	4時間 11分	1時間 37分
5 ■■■■	18時間 49分	1時間 53分	3時間 34分	2時間 31分	2時間 51分	5時間 30分	2時間 30分	0分

図 3-67 Studyplus での学習管理画面¹⁰⁰

⁹⁹ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

¹⁰⁰ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供



図 3-68 Studypplus での学習管理画面②（「いいね」コミュニケーション）¹⁰¹

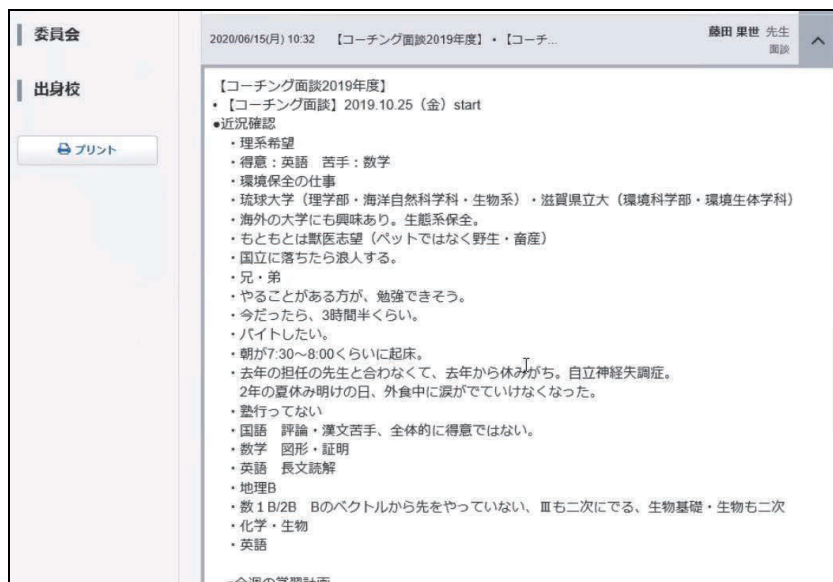


図 3-69 生徒個別のカルテ例¹⁰²

(7) 学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

現在、藤田氏は原則毎週 49 名の生徒と面談を行っている。一部生徒は 2 週間に一回ペースで対応している。そのため、藤田氏は授業を持っておらず、毎日のスケジュールは朝から夕までほぼ面談になっている（図 3-70）。

ネットプラスコースでは担任制を敷いており、原則学年が変わると担任も変わるが、福岡のネットプラスコースはコース新設からまだ 2 年の歴史なので、藤田氏が全生徒の担任を続けている。また、藤田氏自身が学習塾業界出身であるがゆえに、教科担当の別教員もいるが、各教科の質問対応（対面、チャット、Zoom）も行うことができている。大阪梅田キャンパスに大阪大学の大学生チューターを配置しており、ネットプラスコースを設置して

¹⁰¹ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

¹⁰² クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

いる5キャンパス（千葉、名古屋、大阪梅田、京都、福岡中央）をネットで繋いで生徒対応をしている。

ICT ツールを活用して、保護者との情報交換も気軽にできるような関係作りを心掛けている（図 3-71）。

高校ではeポートフォリオが重要であり、生徒には学習管理ツール（2020年度現在では、Classi）に日々のニュースを見て自分の考えを書き留めるよう指導している。生徒の記載に対して教員からフィードバックコメントを返している。

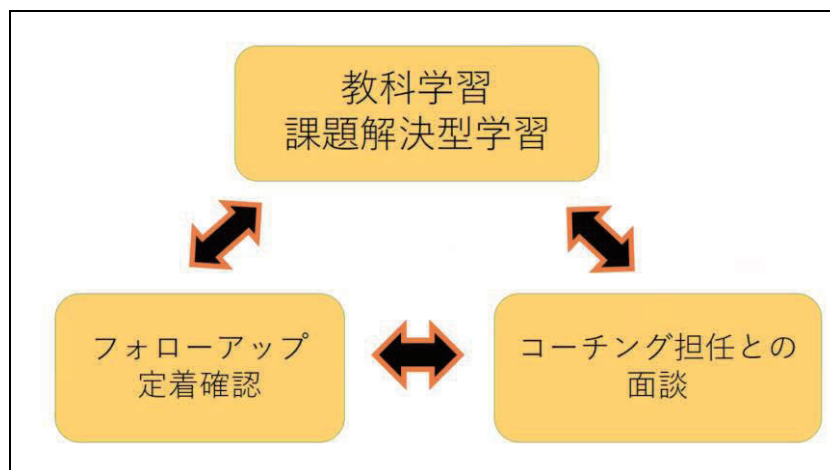


図 3-70 3 機能の連携で生徒個別フォローを実現¹⁰³

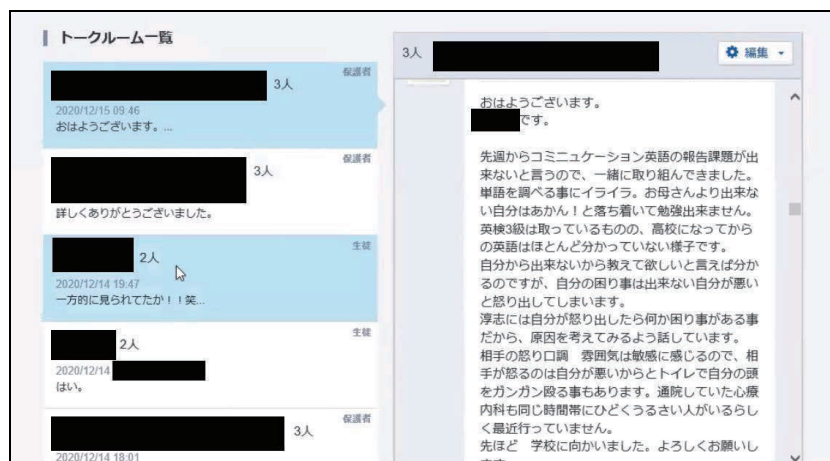


図 3-71 3 保護者とのコミュニケーション例¹⁰⁴

103 クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

104 クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

学力面は、ウイングネットの動画教材を生徒個別の目標・状態に合わせて提供している。インプット面の学習だけではなく、アウトプット面の学習提供にも注力している。必修ではなく希望制で、いろいろな外部企業と連携して課題解決型学習やゼミ授業（料理ゼミ、Youtuberゼミ、ボランティアゼミ、保育ゼミ等）を数多く用意している（図3-72、3-73）。生徒からの希望で参加するパターンや、生徒状態から判断しての教員からの提案で参加するパターンがある。課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）は原則学校に登校してもらい対面で行っている。このように、学力面以外で生徒自身が、どのような仕事が将来あるのか、何が好きなのか・得意なのか等をまだ見いだせていない生徒が多いので、いろいろなテーマで体験的に学べる学びの機会を用意している。



図 3-72 課題解決型学習の概要¹⁰⁵



図 3-73 課題解決型学習の様子¹⁰⁶

¹⁰⁵ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

¹⁰⁶ クラーク記念国際高等学校 藤田氏からの提供

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

オンラインで学習したものがどれだけ生徒の学力はじめ能力習得に結びついているのか手応え感に不安がある。この課題は生徒からの意見としてもあがっているという。全日制の学校の場合、登校するたびに確認テストや定期テストがあるので、ある意味、学習のマイルストーンとして生徒の学習進度に良い影響を与えている。一方でオンラインでの学習になると、その点でゆるくなってしまう弱点がある。

ネットプラスコースが複数キャンパスに設置されているが故の課題として、生徒への接し方、どういう関わり方をすべきかに関するノウハウ開発・共有がある。コーチングのやり方、ツールの使い方等の知識面については、教員間での共有が比較的容易であるが、生徒への実際の接し方については研修化を急いでいる。現時点の研修内容仮説として、「実際に生徒にどう接しているのか」というリアルの事例を見せ合うこと、心理学系の資格を学ぶ必要があるのではと考えている。

尚、クラーク記念国際高等学校の教員は1年目に「学習心理支援カウンセラー」の資格習得が課せられ、系列の環太平洋大学の科目等履修生として特定科目を研修として履修する必要がある。また、最近、ネットプラスコース教員メンバーで SEL (Social Emotional Learning) 研修と PBL 研修を受講した。このように、理論的な研修は受けてきたものの、これらの学びをどう実践、実地で活用できるかを目的とした研修が今後期待される。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

生徒と適切な距離感をとれるスキルを欲する。生徒と仲良くなりすぎても駄目、怒りすぎても駄目な中、適切なバランス感覚を身に付けたい。理論、経験談、事例を学びたい。

3.2.8 京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 澁川 幸加

大学紹介¹⁰⁷：

京都外国語大学（外国語学部）は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

「英米語学科」「スペイン語学科」「フランス語学科」「ドイツ語学科」「ブラジルポルトガル語学科」「中国語学科」「日本語学科」「イタリア語学科」「ロシア語学科」「国際教養学科」がある。

ヒアリング調査日時：2020年12月17日（木）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ

デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

学生一人ひとりの理解、発達に応じた学びを提供している。

澁川氏が京都外国語大学で担当している科目は、「CG 演習」という Adobe Photoshop の使い方を学ぶ実習である。学部1年生から4年生を対象とした抽選科目である。この科目で学んだスキルを他の場面でも応用できる力、物事を批判的にみる力、自分の考え等を言語化する力を伸ばすことを目的に実施している。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

外国語大学ということから学生全員が文系である。外国語の具体的な専攻は学生により異なる。学生間で読み書きの基礎学力面のバラつきがある印象である。総じて、学習意欲が高く、真面目で、褒めると学習意欲が高まるような純粋な学生が多い。

科目履修者数が30名のクラスであり、最後まで受講した学生はそのうち27名である。

¹⁰⁷ 京都外国語大学 https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html（最終検索日：2021年1月7日）

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

例年だと京都外国大学のパソコンルームで授業を行っていたが、2020年度はコロナ禍によりフルオンライン（Microsoft Teams と manaba）でやる必要があった。しかし、大学から「履修学生用にパソコンや Adobe Photoshop を用意することはできない、無料の代替ソフトを活用して授業を実施して欲しい」との要請があり、2020年度はスマホで使える無料の Photoshop ソフトを使って授業を行った。図 3-74 のシラバスは、パソコンルームでの授業を前提としたシラバスであるため、2020年度授業は学生環境にあわせて授業内容を修正した結果、到達目標の Photoshop の技術レベルは例年より低くせざるを得なかった。そのかわり、2019年度までは授業に取り入れることができなかった「情報デザインの分析(審美眼課題)」ワークを新たに取り入れた。

展開 キャリア・スタディ科目群					
CG演習					
Computer Graphics Practice(CD242)					
配当年次	2年次	単位	2	開講学期	春学期
履修条件	授業形態 アクティブラーニング				
能力要素(メイン)	創造力・企画力 [DP①]	能力要素(サブ)	プレゼンテーション力	その他	
使用する言語	日本語(100%)			ナンバリング	CD242
到達目標	CG (コンピュータグラフィックス) に関する基本的な知識について学び、実際にCGを作成することができる。				
シブカフ サチカ 澁川 幸加 Sachika SHIBUKAWA					
授業内容・計画					
CG (コンピュータグラフィックス) に関する基本的な知識について学び、実際にCGを作成することができる。具体的には、Adobe社のPhotoshopの基本的な操作方法、デザインの基本、画像の合成・加工の方法などを知り、自分で活用できるようになることを目標にする。今季はモバイル版のPhotoshop Fix, Photoshop Mix, Comp CCなどを使用する。 また、良いデザインのルールを適用して、写真を加工した作品を作成できるようになることを目標とする。具体的には、自分がデザインした作品の草図を、デザインや色の知識に基づいて表現できるようになること、なぜ心に響くデザインを良く感じるのかを自分の言葉で説明できるようになることを目指す。					
[主な予定項目]					
第1週 Photoshopの基本					
第2週 写真との付き合い方と選択範囲					
第3週 文字ツールとフォントの基本					
第4週 レイアウトの基本、レイヤーの基本					
第5週 色の基本					
第6週 色調補正・レタッチ					
第7週 画像の補正					
第8週 画像の合成					
第9週 画像の加工 (1)レイアウト・配色					
第10週 画像の加工 (2)フィルター機能					
第11週 画像の加工 (3)画像の合成・加工					
第12週 最終課題(1)ポスター作成					
第13週 最終課題(2)チラシ作成					
第14週 最終課題(3)オリジナル課題の作成					
授業についての留意点					
※抽選科目：事前申請による抽選を行います。					
授業の進度については、Photoshopをこれまで使用したことのない学生に合わせて行う。					
授業外の学習（自学自習）についての留意点					
ビデオ教材をもとに、デザインに関する基礎知識を習得する。また、ビデオ教材をもとにスマホで実際に画像編集を行い、課題に取り組む。					
評価基準					
授業への取り組み	70%				
レポート	30%				
教科書					
なし					
参考文献					
(1) 授業中に指示する					
評価方法					
平常試験 (小テスト・オーラルテスト・レポート等)					

図 3-75 澁川氏担当の「CG 演習」シラバス¹⁰⁸

¹⁰⁸ 京都外国語大学のシラバスより引用

<http://kyomu2.kufs.ac.jp/syllabus/viewsyllabus?year=2020&gocid=1013728> (最終検索日：2021年1月7日)

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

新たに学んだ知識を身近な題材に適用することや、多角的に考えること自体の面白さを、グループワーク¹⁰⁹を通じて理解してもらおうという「活動を伴う」動機付けを行っている（図 3-75、3-76、3-77、3-78）。具体的には、学習内容を身近にあるポスターを分析する視点や自由制作課題の相互評価の観点に設定したり、日常生活に可能な限り関連するように解説したりして視野を広げてもらう。グループワークがあらゆる学生にとって意義¹¹⁰のあることを繰り返し伝えている。

毎回の授業アンケート回答をもとにコミュニケーションをする、必要に応じて学生に個別対応を行い、SOSを逃さないようにして不安要素を解消している。

制作課題を指定条件で制作する回と自由制作可能な回を織り交ぜることで、学生が飽きにくいようにしている。

¹⁰⁹ 京都外国語大学のコロナ禍下の他授業では、グループワークを取り入れた授業が少ないとのことで、グループワークを取り入れた「CG 演習」に対して学生から好評の声が多かった。「CG 演習」のグループワークは、基本的に毎回固定メンバーで行っているので、3-4 回目の授業からメンバーが仲良くなりワークが活発になってきた。

¹¹⁰ この事例では『良いデザインがなぜ「良い」かを説明できるようになる』という学習目標に到達することを「意義」として説明している。

審美眼育成のグループワークについて

狙いと流れ

- ・ 良いデザインを作るには、たくさん良いデザインに触れること、なぜそれが「良い」かを語れる審美眼を磨くことが不可欠です。
- ・ この授業では、学んだ知識を活用して「良い」デザインを説明するグループディスカッションをしてもらいます。
- ・ 毎週、グループの1人が授業テーマに合ったデザインの事例を持参し、みなさんが良いと思った、もしくはイマイチだと思った理由を話し合ってもらいます。

グループと役割

- ・ ランダムでグループを作成しました。毎週このグループでディスカッションをしてもらいます。
 - 下の表から該当するグループを確認してください。
- ・ 各授業回で① 審美眼課題の題材を持ってくる人、②発表する人を割り振りました。
 - この資料の下の方に掲載しています。
 - 全員がすべての役割を1回は担当するように構成しています。
 - ①や②を担当したことを授業評価に含めます。
 - 万が一欠席することが決まっている週と役割が重なっていたら、グループ内で役割交換の交渉をしてください。

審美眼課題について

- ・ 毎週、授業テーマにあったお題を出します。そのお題に合ったデザインの題材を探して1つ持ってきてください。ただし、**出典がわかるもの**にしてください。(入手したURL、○○○というイラストレーターの作品など。)
- ・ 例：テーマが「色の組み合わせ」の場合…
 - 色の組み合わせが特徴的な作品を1つ探す。
 - あなたの好きなアーティストのCDジャケットや商品の広告、Webデザインなど、なんでもOKです。反対に、これはイマイチだなど思う題材をもってきてもかまいません。
- ・ できるだけ鮮明な画像を選択してください。
 - 例えばアーティストのCDジャケットの場合、自分で撮影するのではなくアーティストのHPに掲載されている画像をDLしてアップロードしてください。

☆ 対面授業開始前までに

1. 自分のグループの「投稿」に**画像の出典元と画像**を書き込んでください。(必須!!)

審美眼課題探しに役立つリンク集

- ・ Pinterest (<https://www.pinterest.jp/>)
 - デザインに特化した画像共有サイト。フリーワード検索できるのが便利。
 - Pinterestのリンクを貼るのではなく、元の画像のリンク先を報告すること
- ・ 美術手帖 (<https://bijutsutecho.com/>)
 - 歴史のある美術系の雑誌。
 - 6月15日まで、2019年のバックナンバーを無料で閲覧できる。ただし無料会員登録が必要。
- ・ 朝日広告賞 (<https://www.asahi-aaa.com/>)
 - 朝日新聞社が毎年開催している広告賞。
 - 過去の入賞作品を見ると勉強になる。
- ・ 毎日広告デザイン賞 (<https://macs.mainichi.co.jp/design/ad-m/>)
 - 毎日新聞社が毎年開催している広告賞。
 - 過去の入賞作品を見ると勉強になる。

などなど！みなさんも自主的に探してみてくださいね！

グループワークの進め方

1. 今週の題材を持ってきた人からなぜそれを選んできたか説明してください。
2. その後、グループで作品の良い点などを議論してください。
3. グループワーク終了後、「一般」の会議に戻ってから、発表者がグループで話し合われた内容を説明してください。

図 3-75 グループワークをやることの意義¹¹¹

¹¹¹ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

CG演習：授業の概要

2020年5月7日 1:27

授業の目標

- ・Photoshopの基本的な操作方法を認識し、操作できるようになる。
- ・良いデザインのルールを適用して、写真を加工した作品を作成できるようになる。
- ・自分がデザインした作品の意図を、デザインや色の知識に基づいて表現できるようになる。
- ・なぜ心に響くデザインを良く感じるのか、自分の言葉で説明できるようになる。

授業のサイクルと課題

授業外学習（事前学習・事後学習）

1. ビデオ教材をもとに スマホで操作に取り組む。わからないことは「一般」のチャットで質問をする。
2. ①今週の課題と②リフレクションコメントをmanabaで提出する。（※切は次の週の月曜日・15時まで）例：2回目の授業後～3回目の授業後15時まで
※Teams上で画像を提出する課題を出せないようなので、manabaを活用します。
3. 担当者は審美眼育成用のデザイン題材を探して、対面授業の前までにアップロードする。

対面授業（30分）

1. 今週の課題や質問へのコメント
2. 審美眼育成のグループワーク
3. 次週の課題の説明（課題提出※切は次の週の月曜日・15時まで）

※以降は、各自課題に取り組んだり、対面の質疑応答の時間になります。質問のある人は「会議」に残ったまま、画面共有をするなどをして質問をしてください。それを聞きたい人は残っていただいてもかまいません。

☆ 課題の提出
①毎週の課題と②リフレクションコメントをmanabaで提出してください。
※Teams上では画像を提出する課題を出すことができないようなので、manabaを活用します。

図 3-76 基本的な一回の授業の流れ¹¹²

MC

Mon1-CG演習

一般

グループA
グループB
グループC
グループD
グループE

質問・情報共有

グループワークの進め方

テーマ「たくさんの写真を使ったデザイン」
キーワード：組写真、アドランダム、比率、余白、向き

- ◆ 全員マイクをONにしてください
- ◆ 毎週、発表担当の人が司会も担当してください。

1. 全員で挨拶をする（例：「こんにちは～」 「よろしく～」）
2. 課題担当の人が、持ってきた作品と、それを選んだ理由を説明してください。
* 課題担当の人が作品の「画面共有」をしてください。
3. グループ全員で、作品について議論してください。
* 全員マイクをONにして相機や反応を示しましょう！
* (必須) まずは今週のテーマに基づいて、どんな工夫があるか分析してみましょう。講義映像で学んだ知識で説明することを意識してください。
* (必須) 全員が一度は発言するようにしましょう。
* 今週のテーマ以外で工夫されていることがあるか分析してみましょう。
* 自分がデザインするときどう活かせるか考えたり、もっとこうした方がいいのでは？と批判的に考えたりしてみましょう。
* 議論の内容は適宜メモを取ってください。
4. 終了後、「一般」の会議に戻ってから、発表担当がグループで話し合われた内容を説明してください。

図 3-77 活動を伴う動機付けワーク例（Microsoft Stream を活用）¹¹³

¹¹² 京都外国語大学 澁川氏からの提供

¹¹³ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

オンライン授業のため、教員側が細かく授業設計しないと学生が無言になってしまうおそれがある。そのため、指示等を非常に細かく設定している。毎授業時の発表者兼司会者を教員側で予め決めておく。各グループの学生発表後に、教員からフィードバックを行っている。グループディスカッション自体は評価対象にしていない。

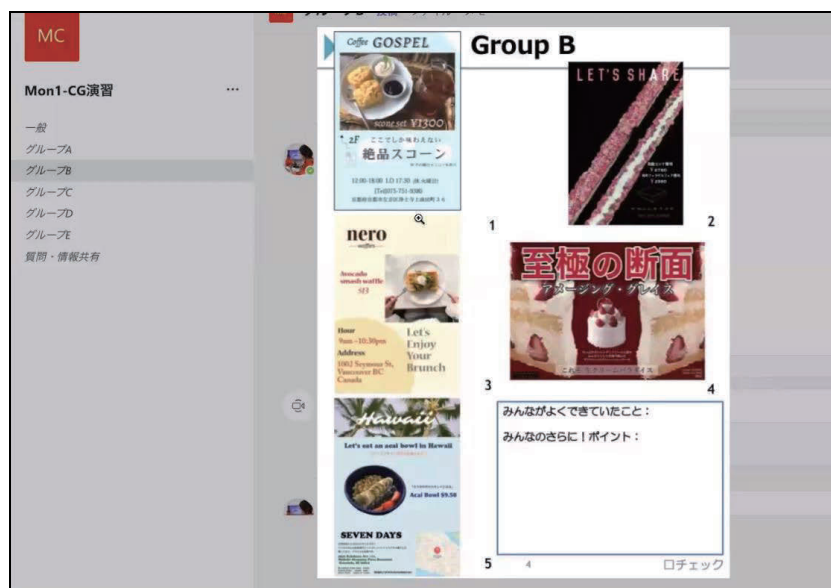


図 3-78 活動を伴う動機付けワークの授業回を重ねた後に学生に作品を作ってもらい相互評価する¹¹⁴

	【Basic】授業で学んだ技術と知識を部分的には適用できているが、十分ではない	【Proficient】授業で学んだ技術と知識を十分に適用しているが、改善の余地がある	【Advanced】授業で学んだ知識と知識を十分に適用しており、作品の魅力に繋がっている
【①レイアウト】組写真、アトランダム、比率、余白、黄金比、三角構図、対比、シンメトリー、情報の優先度、Z型・N型・F型	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【②配色】色相、明度、彩度、色調、配色	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【③フォント】明朝体・ゴシック体・セリフ体・サンセリフ体、プロポーショナルフォント、フォントファミリー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【④レタッチ・色調補正】解像度、ピント、画質、明るさ、ホワイトバランス、水平・垂直、白飛び	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図 3-79 相互評価で用いるルーブリック (Google Forms)¹¹⁵

¹¹⁴ 京都外国語大学 澁川氏からの提供
相互評価の際には、作品の作り手（学生）の名前を伏せている。

¹¹⁵ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

(5)学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

学生個別の目標設定はしていない。基本的にシラバス上の到達目標と、毎回授業の目標が学生全員の共通目標となる。

(6)学生（生徒） 状態の確認（記録・分析・評価） する上での工夫

授業回ごとに学生アンケート（manaba を活用）をとっている（図 3-80、3-81、3-82、3-83）。アンケート内容を以て次回授業内容や課題量のチューニングの参考としている。アンケート設問には、悩みや不安、不満を書けるようなものもあり、その内容から個別フォローを行うこともある。履修学生全員のアンケート回答への個別テキスト返信は負荷的にできていない。

なお、アンケートへの回答を評価対象としている。

第7回リフレクションコメント:	さんの回答詳細
回答	
6月22日の対面授業の満足度を教えてください。(選択必須)	
1.1	
1. <input checked="" type="radio"/> とても満足	
2. <input type="radio"/> まあまあ満足	
3. <input type="radio"/> どちらかという満足	
4. <input type="radio"/> どちらかという不満	
5. <input type="radio"/> 不満	
6. <input type="radio"/> とても不満	
対面授業の感想や要望、リクエストなどを記入してください。(入力必須)	
1.2	
写真の基礎知識や、調整など、普段自分がInstagram等で使用していた身近なものだったし、よりスキルアップできる内容だったのですごく嬉しかったです。	
I	

図 3-80 学生アンケートの回答例（毎授業の共通質問）①¹¹⁶

¹¹⁶ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

▼第7回目授業後～第8回目授業前の授業外学習について

どのように授業外学習に取り組みましたか？

知識の部(選択必須)

1.3

1. 動画の視聴+講義資料(PDF)を読んだ
2. 動画を視聴した
3. 講義資料を読んだ
4. どれも見ていない

知識の部で動画を視聴していた場合… どのように視聴していましたか？※複数選択可

1.4

1. 一時停止や巻き戻し機能を使った
2. 一回だけ視聴した
3. 二回以上視聴した
4. 倍速で視聴した
5. とばしとばしで視聴した

図 3-81 学生アンケートの回答例（毎授業の共通質問）②¹¹⁷

操作の部（アプリ操作）(選択必須)

1.5

1. 動画の視聴+講義資料(PDF)を読んだ
2. 動画を視聴した
3. 講義資料を読んだ
4. どれも見ていない

操作の部（アプリ操作）の講義映像の視聴方法 ※複数選択可 (選択必須)

1.6

1. 一時停止や巻き戻し機能を使った
2. 一回だけ視聴した
3. 二回以上視聴した
4. 倍速で視聴した
5. とばしとばしで視聴した
6. 視聴していない

図 3-82 学生アンケートの回答例（毎授業の共通質問）③¹¹⁸

¹¹⁷ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

¹¹⁸ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

授業外学習にどれくらいの時間をかけましたか？

知識の部（～～時間～～分と回答してください）

技術の部（～～時間～～分と回答してください）

図 3-83 学生アンケートの回答例（毎授業の共通質問）④¹¹⁹

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

オンライン授業はグループワークが非常にやりやすく、学生満足度も高かった。授業方法（例えば、グループワークを行う等）について、学生コンセンサスを事前にとるようにしており、教員の意図を丁寧に伝えるための工夫として、また、後から追加条件を出すことによる学生不安・不満発生を予防している（図 3-84）。

今後の授業の仕方に関する質問

今後、皆さんに作品を作ってもらい、それをグループの人同士見せ合うような取り組みを導入しようか悩んでいます。これまでに学んだ審美眼を実際に適用して作品を作っていくときに、他者からのフィードバックはとても有益になります。（実際、美大では「作品の講評」という時間が重視されています。）そこで、自分の作品を見せ合うことに対する皆さんの意見を教えてください。

自分が作ったポスターなどの作品をグループで見せ合う活動を取り入れることに対して、どう思いますか？**(選択必須)**

1. 導入してもよい
 2. どちらかというをやめてほしい
 3. 精神的苦痛を伴うので絶対に避けてほしい

このような活動に対する意見・要望などあれば自由に記述してください。

図 3-84 授業方法についての学生コンセンサス作り¹²⁰

¹¹⁹ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

¹²⁰ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

2020年度の授業形態は、反転学習に近いオンデマンド型授業を行っている。基本的な技術の操作面は毎週の講義動画教材や補足内容の動画教材を自作していた（図 3-85、3-86）。これらの動画教材を以て、学生が自分のペースで学習を進めてもらう仕組みを作った。Microsoft teams を使った遠隔授業では、授業時間内で操作に関する講義はせずにディスカッション中心の内容とした。

自作の動画教材作りの工夫として、「動画教材冒頭にその回のポイントを整理する」「尺があまり長くないようにする。長くても15分に収められるようにしている」「作り手（澁川氏）が頑張りすぎない、自作を続けられる程度にほどほど頑張る。つまり、動画クオリティを求めすぎないこと」の3点を注意している。動画教材作りには、Zoomの収録機能を使って編集はしていない。



図 3-85 各回のオンライン授業に紐づいた基本技術を解説する自作の動画教材例¹²¹



図 3-86 自作の動画教材例¹²²

¹²¹ 京都外国語大学 澁川氏からの提供

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

現行の授業方法は非常に準備に時間が掛かる点が課題である。毎週、スライド準備に 1-2 時間、講義映像の収録に 2 時間程度、合計で 4 時間くらい掛かっている。

オンライン授業の場合、学生個々のペースで学習を進められるメリットはあるが、学生が本当に理解しているのか、実際に操作できているのかを教員が分かりかねる点が課題である。グループワークも同時に全グループの状況を把握できず、断片的にしか分からない点が課題である。対面授業の場合、観察からフォローすべき学生を把握しやすいが、オンライン授業では学生アンケートで言語化してくれない限り、教員側が状況を把握できない点も課題である。グループワーク中のプロセス、パフォーマンスの質の振り返り、可視化がリアルタイムにできる仕組みが欲しい。

個別最適化を考える上での不可欠な要素を知りたい。自身の授業を振り返るための指針・基準として使いたいとのことである。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

学習障害を持った学生など学生の多様性を知ることが重要であると考えており、氏も今後学びたいと述べている。

3.2.9 山野美容専門学校 教頭 吉田 真希

学校紹介¹²³：

山野美容専門学校は美容師を育成する教育において、超高齢社会の到来を先取りし、美容福祉とジェロントロジー¹²⁴教育を提唱し、社会の要求に対応した教育体制を整備している。「髪」「顔」「装い」「精神美」「健康美」の「美道五大原則」を基に、美容の理論と実践をとおして教育の向上を目指し、常に変わりゆく多様な文化のなか、学生を美容界のリーダーに育てるとともに、生涯の学びへと導くことを教育目標とする。

ヒアリング調査日時：2020年12月18日（金）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子

熊本大学大学院 准教授 合田 美子

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

吉田氏の実践事例は、山野美容芸術短期大学勤務時にエステティック専攻¹²⁵の40名（1学年あたり。40名を3ゼミに分けて各担任を付けている。）の学生に実技と理論の授業担当していた頃のものである。

エステティシャンを目指す職業教育と資格試験対策を行っている。エステティシャンは「髪の毛を切る」「髪の毛を染める」「パーマする」「まつ毛エクステンション」以外は全部できる職業である。ネイルもメイクもできる職業である。美容部員や美容皮膚科に入ることを職業として志す学生が非常に多い。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

山野美容芸術短期大学には3専攻あり、美容師専攻、エステティック専攻、国際コミュニケーション専攻の3つである。

吉田氏が担当していたエステティシャン専攻が、入学時は他2専攻と比較して、学生の偏差値含め主体的能力等のレベルが最も低い。具体的には、すぐに正解・答えを欲しがる、学生間で学力面において大きな差がある。目的意識についても大きな差がある「なんとなく美容に興味がある学生」が入学してくる。個性差も大きく見られ、発達障害の学生も多くなってきている。

¹²³ 山野美容専門学校 https://www.yamano-bc.jp/sinfo_sinfo-info.html（最終検索日：2021年1月8日）

¹²⁴ 加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会における個人と社会の様々な課題を解決することを目的とした、加齢・高齢化を科学する学問

¹²⁵ 山野美容芸術短期大学 エステティック専攻 https://www.yamano.ac.jp/course_esthetic.html（最終検索日：2021年1月9日）

なお、卒業時の満足度調査においては、吉田氏が担当されていた8年間は3専攻でずっとトップの満足度であった。

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

エステティック専攻の理論と実技の授業を担当していた。

次(来週)の授業回に行くテスト内容を先に宿題として公開しておく。別の事例として、解答が書かれたテストを配布する。同じ設問が表裏に印字されており、裏面は解答が空白になっているテストプリントである。表面の解答を5分間で覚えて、ペア相手に解答を説明するというペアワーク¹²⁶を行っていた。これを行うことで、学生は分かっていなかった箇所が分かる、結果として必ず覚えることができたという。この経験が、実技試験の口頭試問対策に非常に有効になる。このテストは、資格試験の対象範囲からの出題であり、学生の「勉強の方法が分からない、どこを勉強したらよいか分からない」という課題への対応策となっている。

上記は、勉強下位層だけではなく、上位層や留学生にとっても再復習の機会として大変有意義であったという。

(4) 教育内容(学習内容)への学生(生徒)の動機付けの工夫

入学式での施策が最も重要であり効果的である。山野美容芸術短期大学では、入学式の際に保護者も出席してもらい専攻別説明会を行っている。そこで、エステティック専攻の2年間の流れとルールを保護者に口頭並びにプリントアウトしたものを以て説明する。学生だけでなく保護者にも2年間の学校生活にワクワクしてもらおう。このような「教示」が大変重要であるという認識である。

その上で、学生主体でいろいろなイベント¹²⁷(5月開催の1・2年生によるウェルカムイベント、保護者へのサンクスイベント等)の企画・運営を行ってもらおう。学生主体とは「学生を放置、放任する」ことではない。必ず、学生を「コーチングする(授業外時間の面談を通して、企画アイデア出しの手伝い、進捗確認等)」ことが重要である。このイベント作りにおいて、吉田氏は応用行動分析学を応用した企画アイデア出し手伝い等の学生サポートを行っている。

¹²⁶ ペアワークを起立させて行っている。ワークを無事終わると着席する。事前のこのようなルールを教示した上でペアワークを行うことが必要である。学生の席が毎授業同じだったのでペアが同じメンバーになりやすいことが課題であった。特に実技科目においては、実際の接客シーンを想定して、同じペアにならないような工夫をしていた。

¹²⁷ 山野美容芸術短期大学 <https://www.yamano.ac.jp/campus-life/schedule.html> (最終検索日: 2021年1月9日)

(5)学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

前期・後期各々で個人目標を紙に記入する形で作ってもらい、期末にゼミ担任との面談で振り返り・フィードバックを行う。現状、ICT ツールで管理できていない。

(6)学生（生徒） 状態の確認（記録・分析・評価） する上での工夫

「学習成果票」と「主体性等の求める人物像カルテ（行動指標）」の2種類の学生自己評価カルテ（紙）がある。この自己評価と教員からみた客観的評価を照らし合わせて、個人面談で振り返り・フィードバックを行っている（図 3-87）。以上は紙での管理であるが、補足データとして、ゼミ担任がエクセルで日頃の面談記録や学生観察を記録しており、教員間共有している。

学生の性格・個性を把握する仕組みは、上記のカルテとゼミ担任記録とは別に存在している。外部企業のアセスメントサービスを使って、入学時に学生の性格等診断を行っている。このアセスメントを複数回（1年次終了時、卒業時）実施することで差分を以て、学生へのフィードバックを行っている。

非常勤講師が多い学校でもあるので、教員ミーティングを頻繁に行っている。授業内容や教授方法、学生状況、学生への接し方等の情報共有を毎日朝の当日出勤教員ミーティング、週1回の常勤のゼミ担任教員ミーティング、月1回の全体ミーティング、前期・後期の1-2回ずつのミーティングで行っている。

	【入学前・入学時】 アドミッションポリシーを充たす人材か どうかの検証	【在学中】 カリキュラムポリシーに則って学修が進め られているかどうかの検証	【卒業時・卒業後】 ディプロマポリシーを満たす人材になっ たかどうかの検証
機関 レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学生アンケート 調査書等の記載内容 	<ul style="list-style-type: none"> 休学率 退学率 GPA 修得単位数 学修行動調査 課外活動状況 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率 就職率 進学率 学位授与数 資格・免許取得率 卒業時満足度調査 卒業生アンケート 企業アンケート
教育課程 レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学生アンケート 面接、志願理由書等 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 単取得状況 進級率 休学率 退学率 学修行動調査 課外活動状況 インターンシップ参加者の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA） 就職率 進学率 学位授与数 資格・免許取得率 卒業時満足度調査 卒業生アンケート 企業アンケート
科目 レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学前学習 ポテンシャルチェック プレイズメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート 成績評価 学修成果カルテ（ルーブリック） ポテンシャルチェック 外部英語カテスト 	

図 3-87 アセスメントポリシー¹²⁸

¹²⁸ 山野美容芸術短期大学の Web サイトより引用 <https://www.yamano.ac.jp/idea2020.html>（最終検索日：2021年1月8日）

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

保護者との密な連携（保護者から直接吉田氏はじめ教員に直接連絡してもらうことを奨励していた）、多種多様な産学連携のプロジェクト、多種多様な（学生主体の）イベント開催を行っている（図 3-88、3-89、3-90）。

学生主体のイベントは実行委員を立候補制で募っている。これは、ボランティア活動を複数回行うことを山野美容芸術短期大学の必修項目としており、なんらかのイベントの委員長または副委員長をやるのがボランティア活動換算されるというルールであったため、立候補制が機能していた。

この仕組みにおいても、事前に立候補ルールに関する「教示」を行うことが重要で、後から、こういうルール・条件が追加されるといった「後出しじゃんけん」的なものがないようにしている。

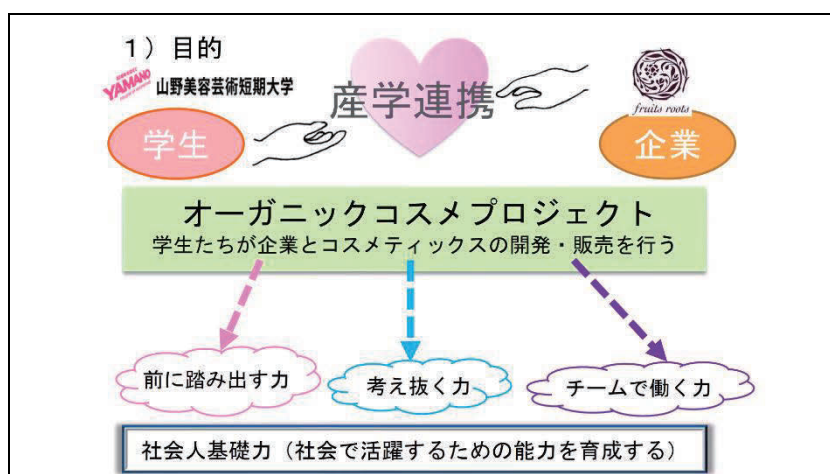


図 3-88 産学連携プロジェクトの例①¹²⁹

1. 目的

昨年度 ◎ 主に商品の開発を行いました。

自分たちの手で化粧水を作る→オーガニックコスメがどういうものか理解する

配合する成分の決定・手作りパンフレット制作

化粧水本体のデザイン決め等

そして今年は....

売り切る！
2019年4月時点
残り250本強

図 3-89 産学連携プロジェクトの例②¹³⁰

¹²⁹ 山野美容専門学校 吉田氏からの提供

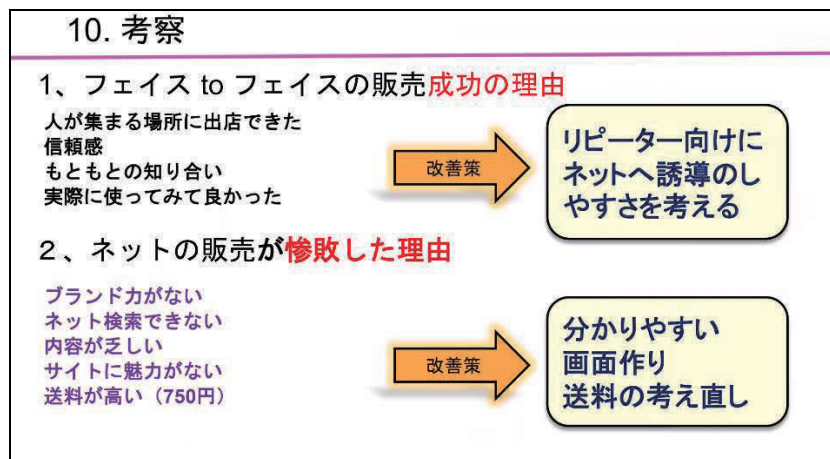


図 3-90 産学連携プロジェクトの例③¹³¹

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

学力面（特に実技）の下位層は、個別指導が最も効果的であった。課外授業という形で補講を行っていた。補講が必要な学生は教員から指名していた。実技指導でスマートフォンを使って学生自身の所作を撮らせて客観視させている。

それ以外の面では、産学連携のプロジェクト、学校イベント等の活動を通して、学生自らが自分の得手不得手、興味の有無を気付いて次の目標を自ら選択できるようにしている。吉田氏の教育活動経験から「教える」ことの限界を感じ、応用行動分析学を勉強したという経緯がある。そこから学んだ重要なことは、「教示」すること、つまり事前に先々のスケジュールやゴール、ルールを伝えることである。そして、できたこと、成長できたことには必ず「褒める、褒美を提供すること」、出来なかったことには必ず「具体的なフィードバックをする、改善策を考えてもらうこと」を行う、ということを現場で実践している。「ご褒美」とはモノに限っておらず、声掛けといった些細のものから、学生成果の発表会、対外的な PR（Instagram や facebook といった学校管理の SNS 利用含む）も含まれている。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

学生の学習状況・成果、行動指標等の情報のデータベース化を紙ではなく ICT で行いたい。それによって、学生自己評価と教員からの評価を以て客観視の精度を上げていきたい。そのためには、この改革への他の教員からの深い理解・協力が必要である。

学生の就職先の社員教員の考え方・方法が変わってきているので、学校・教員側もそれに対応できるようにならないといけない。まずはその業界変化に関する理解深耕と、心理学的アプローチ、コーチングのスキルがますます重要になってくる。

¹³⁰ 山野美容専門学校 吉田氏からの提供

¹³¹ 山野美容専門学校 吉田氏からの提供

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

ハラスメント（パワハラ、アカハラ、セクハラ）への理解をさらに深める必要がある。SNS についての知識、ソーシャルリスクに関する理解を深める必要もある。

かつての「師匠⇄弟子」の関係の技術教育にありがちな「見て覚える」「性格を批判する」というような曖昧ものではなく、教育内容を具体的な行動に言語化できるスキル、学生がとった具体的な行動に対してフィードバック¹³²ができるスキルが必要である。

教員としての達人技を全員が全部習得できないにしても、必要最低限の要素の特定とそれを習得できるような機会を希望している。

¹³² 例えば、褒める他、「いつまでに〇〇する」といった改善策のアドバイス、理解が追いつかない学生にはメモの取り方といった具体的な行動に移せるフィードバックを指す。

3.2.10 株式会社ウィザス 第二教育本部 教育運営部 倉澤 弘明

企業（第一学院高等学校）紹介¹³³

第一学院高等学校は、創立からの「生徒第一」「1/1の教育」の想いを大切に、生徒をプラス思考に変える独自の「プラスサイクル指導」をベースとした生徒一人ひとりの「『もっともっと自分を好きになる』自分づくり」をサポートし、「社会で活躍できる人づくり」に全力で取り組んでいる。

2020年4月時点で、全国主要都市を中心に52キャンパス設置している。生徒一人ひとりの状況や興味・関心、目指す進路・目標に合わせて、様々な学び13つのコースを展開している。

ヒアリング調査日時：2020年12月18日（金）13:00-15:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人YIC学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子

株式会社NSGホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

アクティブラーナーになることを目的にアダプティブラーニングを取り入れている。アクティブラーナーとは、「生涯にわたって主体的に前向きに学び続け、自ら考え行動できる人」を指している（図3-91）。

アクティブラーナーの育成
生涯にわたって主体的に前向きに学び続け
自ら考え行動できる人！

■アクティブラーナーが必要な社会的背景

人生100年時代 → 様々なライフステージにおいて自分を変えていく必要性
VUCAの時代 → 変化の大きな社会において自ら考え選択行動することが必要

※VUCA…Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）
という4つのキーワードの頭文字から取った言葉で、現代の経営環境や個人のキャリアを取り巻く状況

高校にいる間から、間だからこそこれから出ていく社会を先取りし、
社会を自由に歩める自走する力をつける。

図3-91 アクティブラーナーの定義と社会的背景¹³⁴

¹³³ 第一学院高等学校 <https://www.daiichigakuin.ed.jp/about/>（最終検索日：2021年1月10日）

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

生徒の半数は中学校卒業から直接入学してくるグループであり、このグループは学習に対する意欲が相対的に低い。残りの半数は高校途中から転入してくるグループであり、学習面が課題というよりは人間関係が課題というパターンが多い。

特に学力面では、小学校の内容が抜けている、中学校の内容が抜けている、ある特定の教科がとても得意、といったように非常に多様な学生が入学してくる。

進路としては、大学進学が3割、専門学校進学が4割、残りの1-2割が就職、1-2割がその他という内訳であり、進路面でも多様な状況になっている。

第一学院高等学校は直営で38校舎あり、生徒数合計は約8,000名である。アダプティブラーニングの対象になっているのは、校舎に通っている約6,000名の生徒が対象になる。1校舎あたり200名程度である。2018年度までは担任制を敷いていたが、2019年度からは担任制をやめ、全員で生徒をみていくという体制になった。ただ、大規模校舎の場合は、実質的にチーム担任のような形になっている。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

アダプティブラーニングを成長実感型教育「マイプラ」という仕組みで展開している（図3-92、3-93）。

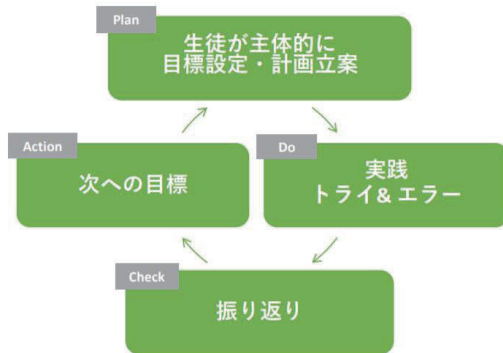
自分理解、教科学習（学力）だけではなく、様々な学びを生徒自身でカスタマイズできる。学びの内容には、コミュニケーション力、社会的・職業的自立ができるようになる力等が含まれている。

成長実感型教育を支えるマイプラの考え方

未来社会で活躍（社会自立）できる

学びの思考・実践習慣を身につけるための

マイプラ



学力定着に留まらず、PBL、体験チャレンジ、すべての「学び」が対象

図 3-92 成長実感型教育「マイプラ」の仕組み①¹³⁵

Road to an Active Learner

生涯にわたって主体的に前向きに学び続け
自ら考え行動できる人

を第一学院では、アクティブラーナーと呼んでいます。

アクティブラーナーになるためのマイプラサイクル

Plan **マイプラン・計画**

「自分のなりたい姿」や「1年後の自分の目標設定」「希望進路」を描きながら、今の自分を出発点にして、「自分だけのマイプラン（計画）」を作ろう！

※学習内容はもちろん、どんな体験をするか？オンライン・オフライン？どこで学ぼう？というような学習だけでなく、学びのスタイルも自分で決めよう！

Action **内省やフィードバックから
次の行動目標を設定しよう！**

新たな目標設定
振り返りを元に次はどうやるかを考え、新たな計画や実践を！
成長実感発表会（年2回）
自分が興味を持った事例をテーマに設定して学びを認め、プレゼンテーションや資料の展示などで、毎日に学びの成長を発表します。日々の生活で感じる「成長実感」を自信に変えて様々なことにチャレンジしよう！

Check **プラス思考と素直な心で振り返り**

デジタル自分未来史ファイル
“様々な学び”を整理！自身の学びの履歴・参考書に!!
日々の学び、気づきを「マイプラログ」として記録！振り返りや自分の成長、フィードバックを整理！なりたい姿に向けて、また、1か月一週、自分自身を振り返る「成長実感シート」でチェック。自分の成長実感をもとに考えながら、実践計画を立てよう！

様々な学びを自分でカスタマイズしよう！
自分の成長のきっかけは、教科学習だけでなくたくさんあります。

学力的定着

スタート学力診断

まずは自分の現在地を知るところから！
自分の分かっていることと分からないことははっきり分けて、自分の学習のスタートラインを決定しよう！**周りと比べるのではなく、今の自分から変化できたか意識しよう。**
得意なことまで見て学習を始めることが、「できる！」につながるスタートライン。

学びの基礎診断
1月実施【文理科学者推奨】
1年間のまとめとして、成長実感型の基礎学力の定着度を測定

学習到達度診断
7月・12月実施
学んだ内容の定着を確認しよう!!

マイプラン(計画)

個のしくみを理解し、効率的に学んでいこう！
自分の分かっていることと分からないことははっきり分けて、自分の学習のスタートラインを決定しよう！**周りと比べるのではなく、今の自分から変化できたか意識しよう。**
得意なことまで見て学習を始めることが、「できる！」につながるスタートライン。

教科学習

キャンパスでの講義や配位授業、レポート、テキスト、ICT教材を活用して学習を進めよう！
TERRACE オンライン

コミュニケーション力

充実のキャンパスライフ
コミュニケーションが苦手な学生も、友だちがサポートしてくれる。毎日楽しくなるきっかけ！
伝え方・聞く方を習い、仲間との信頼関係を築こう！

- ホームルーム
- ガイダンス
- キャリアセッション
- サークル活動
- コミュニケーション講座
- セルフケア講座
- BQ
- ピアサポート活動

体験チャレンジプログラム
仲間との絆を強め、もう1年進み出す自分づくりを！

- 海外短期研修留学
- フィリピン短期留学
- 国内留学留学
- 海外ボランティア
- WILPAYS DANCHE CUP
- オンライン文化祭
- ネットプロパティ

社会的・職業的自立

コミュニティ共創
地域や社会に熱く、深く関わり大切さを伝えることで、未来を創出！

- 1-仕事を知る～
- 2-地域(社会)に貢献する～
- 3-自分の未来を創造する～

独自のプロジェクト型学習(PBL+SEL)
正解のない課題(課題)を通して問題解決へのアプローチ方法を身につけ、「主体的・協力的に問題を発見し、解決する能力」を養うことを目的に取り組もう！

※マイプラは、マイ・プラスサイクル学習法、マイ・プラス思考、マイ・プラン、マイ・プラットフォームの総称です。

2021年4月改訂

図 3-93 成長実感型教育「マイプラ」の仕組み②¹³⁶

135 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

136 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

PDCA をその順番に回していくことが理想的ではあるが、必ずしも目標（P）から立てていける生徒ばかりではないのが実情である。そのため、「P」「D」「C」のどこからでも、まずは手を付けてみやすいところから始めてみよう、というスタンスで臨んでいる（図 3-94）。「D」のように、まずは行動してみるというスタートでもよいし、「C」のように自分の気持ち、考えていることを素直にアウトプットするプロセスから始めてみてもよい。結果的に、「P」に繋げて行けたらよいと考えている。

生徒個別にどこから始めていこうという点での話し合い面談は重視しており、上記のように「P」「D」「C」の入口の多様性を認めた上でまずは取り組んでみることを推奨している。

授業時間として「マイプラ」タイムという枠が用意されていて、生徒自身の PDCA 状況を確認できる時間がある。その際、教員は進捗状況に対して、まずは頑張り・努力を認める、評価する声掛けを行っている。

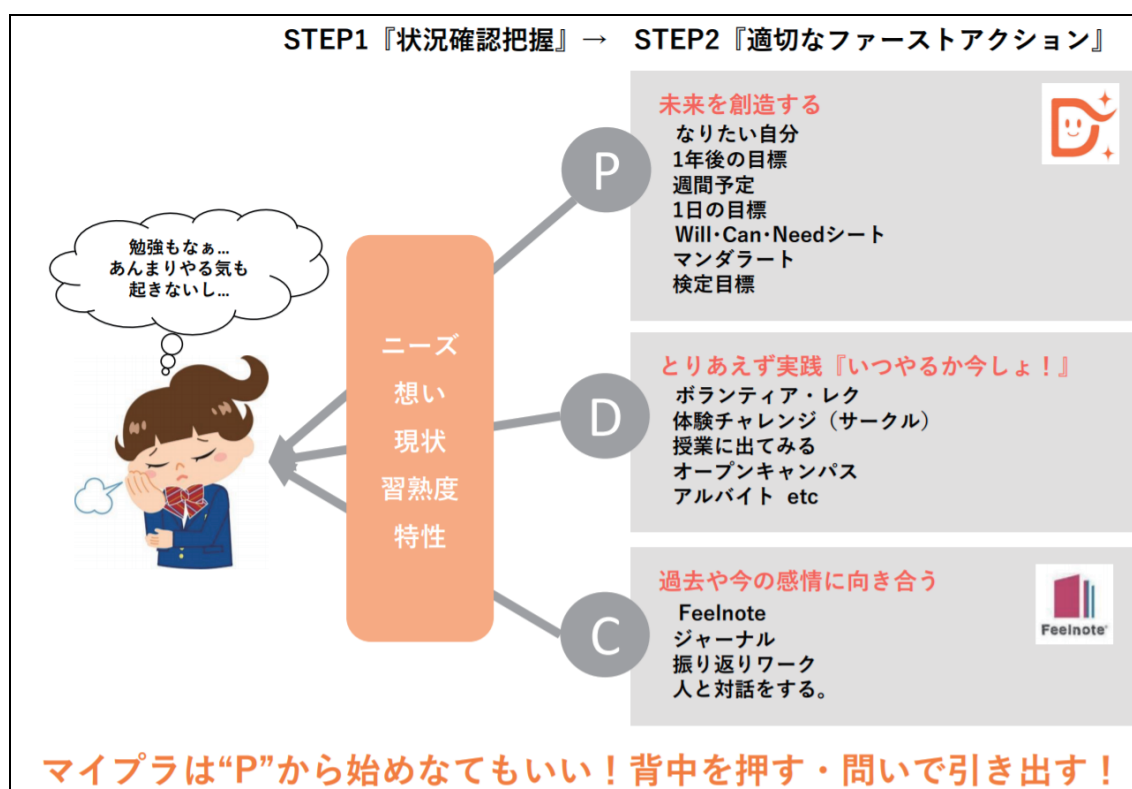


図 3-94 ファーストアクションは必ずしも「P」からでなくても良い¹³⁷

¹³⁷ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

(5)学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

なりたい自分像を設定し、年度末までの具体的な目標（成長度マップ¹³⁸活用）を設定している（図 3-95 の右半分部分）。目標に向けて、日々の時間割を生徒自身に決めてもらっている（図 3-96）。図 3-95 の左半分の横軸にあるように、目標設定上で軸になる項目を 4 つ用意している。「生活習慣・行動」「良好な人間関係」「学習」「進路」の 4 軸である。これら横軸と縦軸の達成度合いを以て、折れ線グラフを書くことで自己評価を行っている。生徒個人の成果、グループプロジェクトの成果、成長度合いを発表できる場（成長実感発表会）を年 2 回開催している（図 3-97）。

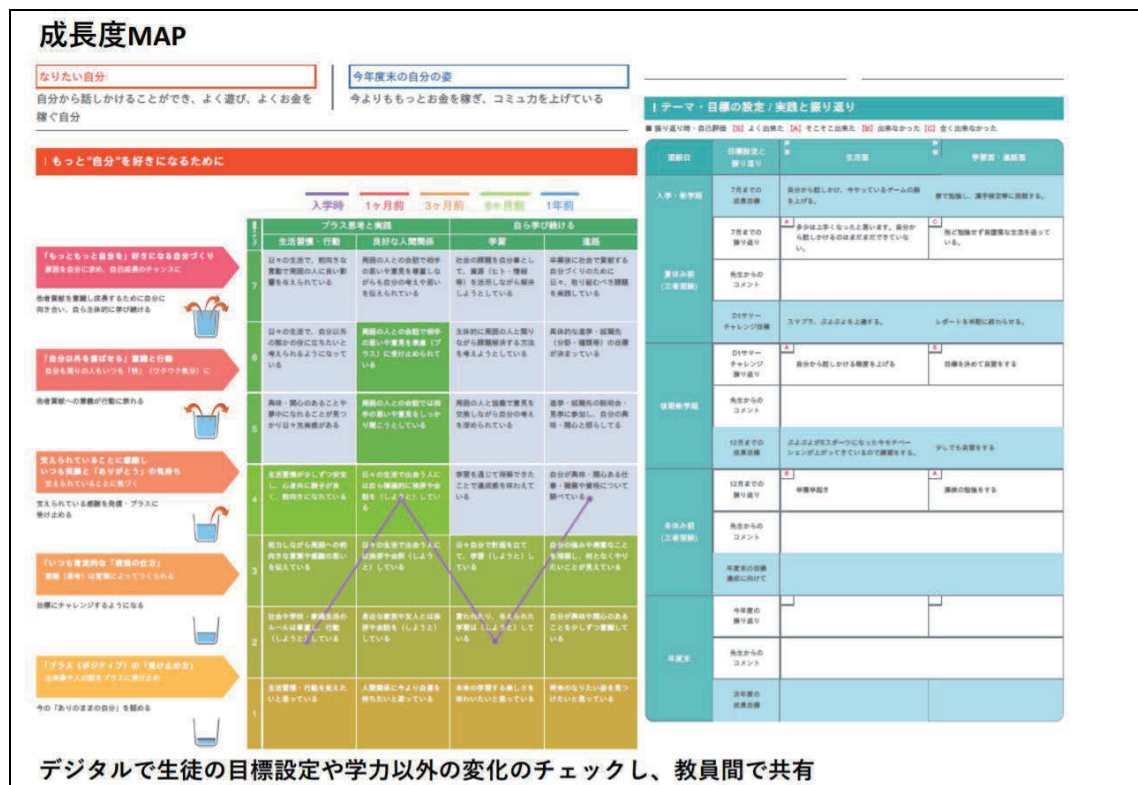


図 3-95 生徒個別の目標設定¹³⁹

138 Web アプリで使えるデジタルツールになっている。

139 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

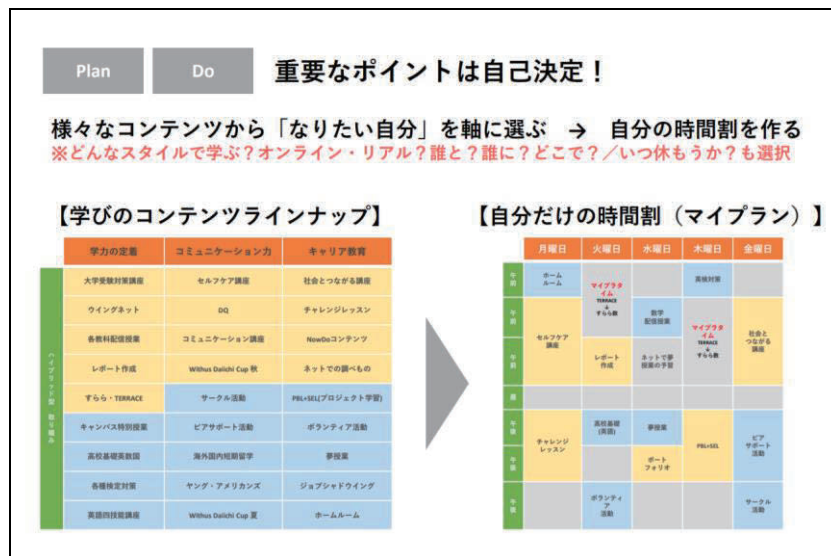


図 3-96 生徒自身の自己決定で時間割を作る¹⁴⁰



図 3-97 目標に対する振り返りの仕組み¹⁴¹

¹⁴⁰ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

¹⁴¹ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

定期的な面談、電話ヒアリングといった教員側から動いて取りに行く情報と、成長度マップや Feelnote¹⁴²といったツールを介して生徒がアウトプットする情報を以て、生徒状態を把握している状態である。成長度マップと Feelnote は教員全員に共有されている。レポート提出状況等、高校卒業に必要な各生徒情報はデータベース化されている。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

各校舎の教員が PBL 型教育、SEL 型教育を現場で円滑に運営できるように研修を組織的（リトリート研修として 2 日間合宿形式で実施している）に行っている（表 3-3）。このようなスキルを身に付けた教員の存在が、第一学院高等学校のストロングポイント、魅力になると考えている。

学生の学力以外の特性・タイプをどのように察知して対応するかの課題については、臨床心理士会による研修を定期的に行っている。ただ、実際は OJT でのトレーニングが中心である。

表 3-3 PBL 型教育、SEL 型教育に関する教員研修内容の項目¹⁴³

研修大項目	小項目
気づく／見つける	何でもプロジェクト
	好き得意の言語化
	感情の和
	先輩のプロジェクト
	ちょうどいい距離感の課題
コンパッションを育む	五感のフィールドワーク
	近くの 1
	共感インタビュー
	感情時系列マップ
アプローチを考える	アイデア会議
	自分ごと発掘
	構造的な分析
	レバレッジポイントの発見
チームで進む	背中を預ける仲間
	関係性のチューニング
	エンパシーサークル

¹⁴² 日々の活動をアーカイブして、ポートフォリオ作成を支援する学習サービス。
<http://www.feel-note.com/>（最終検索日：2021 年 1 月 11 日） 第一学院高等学校では、毎日もしくは毎週単位で生徒に記録をつけてもらっている。

¹⁴³ 株式会社ウィザス 倉澤氏の説明を基に、筆者が表を作成した。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

教科学習については、eラーニング教材の「ベーシックウイング¹⁴⁴」「ウイングネット¹⁴⁵」「すらら」「TERRACE¹⁴⁶」を導入している。

生徒個別に対して、自己決定を円滑に促すファシリテーションができるように教員スキルの向上を図っている（図 3-98、3-99、3-100、3-101、3-102、3-103）。



図 3-98 生徒個別への教員ファシリテーションスキル向上①¹⁴⁷

¹⁴⁴ <https://www.ichishin.co.jp/preSchool/tabid/262/Default.html>（最終検索日：2021年1月11日）

¹⁴⁵ <http://www.ichishinwingnet.co.jp/>（最終検索日：2021年1月11日）

¹⁴⁶ <https://speedreading.co.jp/products/terrace/>（最終検索日：2021年1月11日）

¹⁴⁷ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

重点項目におけるファシリテーションの要点

生徒の自己決定を促すファシリテーションのフレームORID

4ステップで順番に問いを投げかかけていくことで内省を促す

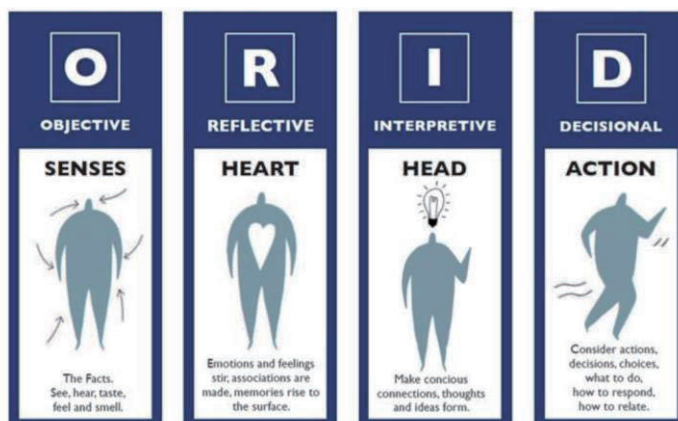


図 3-99 生徒個別への教員ファシリテーションスキル向上②¹⁴⁸

ファシリテーションのフレームORID

- ◆Objective Question **事実**を整理する問い
 - ・ どうしたの？
 - ・ 事実は何？
 - ・ どのくらいの量？
- ◆Reflective Question **感情**や反応を引き出す問い
 - ・ どう感じた？
 - ・ どのような反応があった？
- ◆Interpretive Question **解釈**や意味を確認する問い
 - ・ どのように捉えてる？
 - ・ どういう意味ですか？
 - ・ なぜそうなったと思う？
- ◆Decision Question 次のステップ・自己**決定**を引き出す問い
 - ・ 次はどうする？
 - ・ もう一回やるとしたら何を变える？

図 3-100 ファシリテーションの具体的トークスクリプト例①¹⁴⁹

¹⁴⁸ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

¹⁴⁹ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供 ファシリテーションのフレーム ORID そのものについては、
© ICA・UK the Institute of Cultural Affairs, 2014 である。

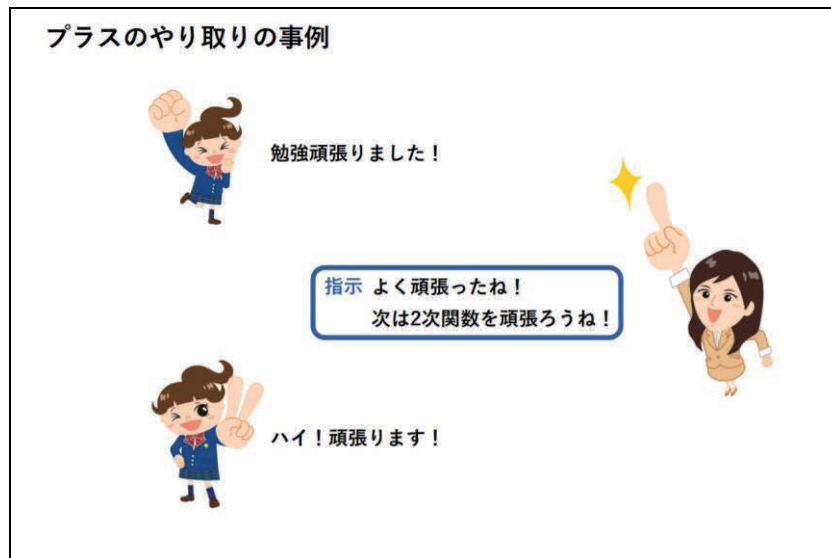


図 3-101 ファシリテーションの具体的トークスクリプト例②¹⁵⁰

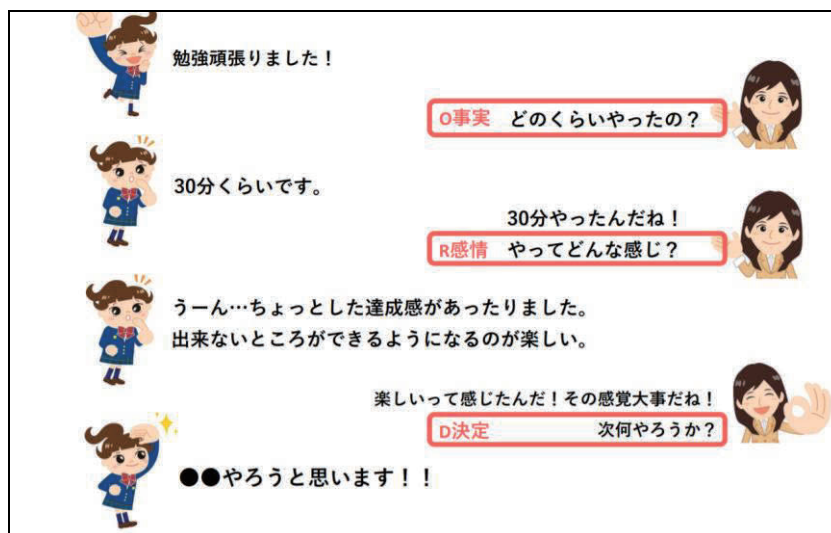


図 3-102 ファシリテーションの具体的トークスクリプト例③¹⁵¹

¹⁵⁰ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

¹⁵¹ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供



図 3-103 校舎で生徒が主体的に学習を進めている様子（秋葉原キャンパスの例） 152

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

教員間で「従来の教員イメージ」から「アダプティブラーニングに求められる教員像」への展開を行うために、呼称を「フェロー」としている。ただ、生徒からの呼ばれる際は「〇〇先生」が普通であり、「フェロー」は使っていない。あくまでも教員間の呼称としての「フェロー」である。同様に、「指導」という言葉を使わず、「支援」に統一している。このように、まずは教員側の意識改革のはじめとして定義・呼称の課題に取り組んでいる。引き続き、教員のファシリテーションスキルを伸ばしていきたい。生徒から「〇〇先生と話す」と、自分の考えが整理され、今後の方向性が見えてくる」といった良いファシリテーションの反応を多くもらえるような状態にしたい。

保護者ニーズとして一斉授業等の従来型教育へのイメージが強く、個別最適化の自立的学習（マイプラ）への理解獲得が課題である。学校側と保護者のコミュニケーション方法についても課題であり、現状、保護者面談以外は定期的な学校通信のようなニュース配信と生徒を介した学校状況の伝達が主になっている。校舎間の現場教員の工夫に差も見られる。高校卒業に必要な情報や、成長度マップと Feelnote 等で得られる学力・その他の学生情報について一元管理できる学生カルテのようなものを作ることも課題である。これは保護者理解を促進するためにも、生徒成果の可視化は重要である。

図 3-104 のように、様々な対面のライブ授業や PBL や SEL といったコンテンツをより一層充実させていこうとしている。

152 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

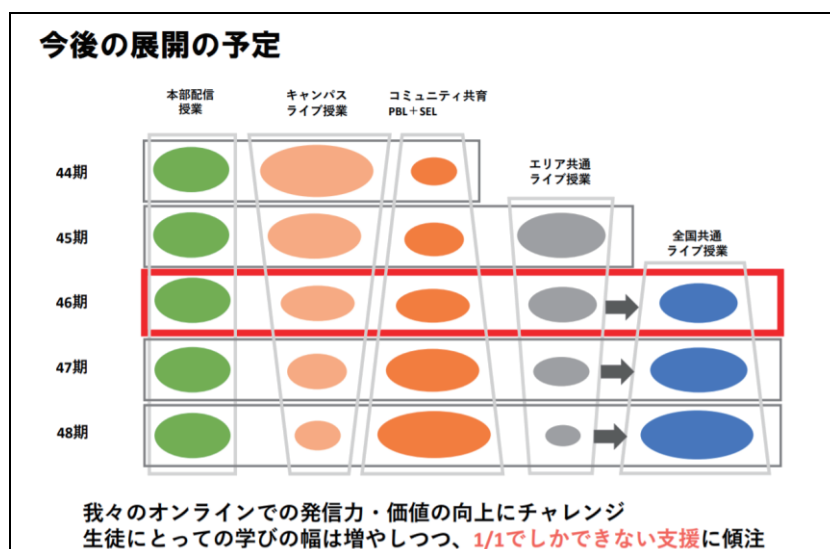


図 3-104 今後の提供コンテンツ充実の予定（45期=2020年度）¹⁵³

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

生徒にとっての最適な解は結局のところ、生徒が自ら考えて、見つけて、決めていかなければならない。そこで、教員に求められるのは「教える」ことではなく、適切な問いを投げかけることで生徒の考えを深める、促進させることができるスキルである。これが SEL のスキルであり、引き続きこのスキルを伸ばしていく必要がある。

¹⁵³ 株式会社ウィザス 倉澤氏からの提供

3.2.11 東京国際大学 商学部 教授 河村 一樹

学校紹介¹⁵⁴：

1965年、「真の国際人の養成」を教育理念として、商学部のみ単科大学として誕生し、現在では5学部9学科、大学院4研究科を擁する文科系総合大学に発展している。

(商学部)

実学重視のカリキュラムで確かな専門知識と、やわらかな思考力、時代の先を読み取る眼を養い、激動する社会で活躍できるビジネス力を磨く。

(経済学部)

経済の理論と応用を学び、経済活動の現場で活躍できる総合力を身に付ける。グローバルに展開される経済活動の流れを把握し、経済問題の解決策を考察する。

(言語コミュニケーション学部)

国際社会で求められる幅広い専門知識を背景に“生きた英語”を身に付ける。

(国際関係学部)

JTB総合研究所との産学連携による「観光立国プログラム」を開講し、将来の進路とダイレクトに結びついた学びを提供する。

(人間社会学部)

環境や福祉、情報、歴史、スポーツなどのアプローチにより、人が互いに支え合い、豊かに生きていける社会を考える。

(医療健康学部)

2021年4月に開設する新学部。人の心に寄り添いながら身体の機能を回復させる医療専門職を目指す。

ヒアリング調査日時：2020年12月19日(土) 16:00-18:00

形態：オンライン面談 (Zoom)

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

¹⁵⁴ 東京国際大学 <https://www.tiu.ac.jp/department/> (最終検索日：2021年1月11日)

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

プログラミングの基礎力を伸ばすことが目的である（図 3-105、3-106）。具体的には、JavaScript の構文理解と簡単なオリジナルゲームを作れることをゴールとしている。

授業内容 Course Description	問題解決方法やアルゴリズムについて、机上ではなく、プログラミング言語を用いて実験することが中心となる。実際に自分で考えたアルゴリズムが正しく動作するかどうかに ついて、コンピュータを用いて確認することができる。 プログラミング言語については既存のものが数多くあるが、最近ではブラウザにその処理 系が搭載されているスクリプト言語が登場している。本科目では、その中の一つであるJav aScriptを取り上げる。 JavaScriptは、Webクライアントでのプログラミングを可能にし、HTMLに組み込んで使う ことができる。この結果、エディタでスクリプトを入力後、すぐにブラウザを起動するこ とで実行結果を得ることができる。しかも、画面での動的処理もできることから、より高 度な動作を取り入れることができる。
到達目標（授業の狙い） Objectives	JavaScriptの構文を覚えることが目的ではなく、あくまでアルゴリズムとはどのようなも なのかを中心に、コンピュータを用いた問題解決技法について習得してもらうことが到達 目標となる。 ※ 学位授与方針と当該授業科目との関連は、 【こちら】 を参照してください。
授業方法 Method of Instruction	プログラミングとデバッグを繰り返しながら、基礎から応用へと進める。基礎について は、アルゴリズムの基本構成（順次、選択、反復）や配列、および、関数を取り上げる。 そのうえで、応用として、各種のアルゴリズム（整列、探索、再帰）や画面制御について 実習中心に進める。なお、Moodleの利用を前提とする。
準備学修および所要学修時間 Class Preparation	基本的には自学自習ベースとなるので、自分のパソコン/タブレット（Windowsマシンを推 奨、プログラミングのためのキー入力作業を伴う）を持っていること、および、自宅に通 信環境（有線LAN、無線WiFi）があることが望ましい。 プログラミングを経験する機会はありませんが、ホームページの制作にはHTMLが 用いられている。できれば、自分でオリジナルのホームページを、JavaScriptを組み込ん で作り上げるような気構えを持ってほしい。 毎回の予習と復習は、Moodleでやってもらうことになるが、毎回1時間以上は費やすこと になる。
試験・課題等フィードバック方法 Assignment Feedback	実習中心の授業なので筆記試験はしません。その代わりに、課題提出状況で評価を行いま す。プログラミングの課題は全64問あり、到達目標を設定します。それをクリアできれ ば、合格とします。もちろん、到達目標以上の課題を提出すれば、その分を加点対象とし ます。
教科書 Textbooks	河村一樹著「JavaScriptによる情報教育入門」大学教育出版、2,000円
参考文献 Reference Books	古旗一浩著「改訂第5版JavaScriptポケットリファレンス」技術評論社、2,500円 園田誠著「HTMLとCSSで基礎から学ぶJavaScript」秀和システム、2,100円

図 3-105 プログラミング基礎のシラバス①¹⁵⁵

¹⁵⁵ 東京国際大学のシラバスより引用 <https://tiu-op-prtl.tiu.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp>
(最終検索日：2021年1月11日)

授業計画 Course Outline			
第1回	科目ガイダンス, プログラミング環境の設定(エディタ, デバッガ, 保存方法など)	第16回	関数 (function文)
第2回	実習の進め方 (グループウェアの操作方法)	第17回	数 (function文) のプログラミング
第3回	HTMLとJavaScript, JavaScriptの処理系	第18回	再帰アルゴリズム (階乗計算, ハノイの塔)
第4回	HTMLとJavaScriptのプログラミング方法	第19回	再帰アルゴリズム (階乗計算, ハノイの塔) のプログラミング
第5回	画面出力 (document.write)	第20回	整列アルゴリズム (バブル選択/挿入/マージソート)
第6回	画面出力 (document.write) のプログラミング	第21回	整列アルゴリズム (バブル選択/挿入/マージソート) のプログラミング
第7回	データ型と代入文	第22回	探索アルゴリズム (順次/2分探索)
第8回	データ型と代入文のプログラミング	第23回	探索アルゴリズム (順次/2分探索) のプログラミング
第9回	画面入力 (prompt)	第24回	画面制御アルゴリズム(1) (入力チェック)
第10回	画面入力 (prompt) のプログラミング	第25回	画面制御アルゴリズム(1) (入力チェック) のプログラミング
第11回	選択文 (if文)	第26回	画面制御アルゴリズム(2) (画面操作)
第12回	選択文 (if文) のプログラミング	第27回	画面制御アルゴリズム(2) (画面操作) のプログラミング
第13回	繰り返し文 (for文, while文, do while文)	第28回	画面制御アルゴリズム(2) (画面操作)
第14回	繰り返し文 (for文, while文, do while文) のプログラミング	第29回	画面制御アルゴリズム(2) (画面操作) のプログラミング
第15回	まとめと総括	第30回	プログラミング課題の提出状況の確認
成績評価基準			
Evaluation Components			
平常点% Class Evaluation	70	平常点詳細 Details	課題等はすべてMoodleにアップしてある。全部で64問あるが、それぞれの課題提出状況に基づいて判定する。
試験% Examination	0	試験詳細 Details	
レポート% Report	0	レポート詳細 Details	
その他% Others	30	その他詳細 Details	
			毎時間、個別指導を行うので、そこで、課題に対する取り組み方についても評価対象とする。

図 3-106 プログラミング基礎のシラバス②¹⁵⁶

¹⁵⁶ 東京国際大学のシラバスより引用 <https://tiu-op-prtl.tiu.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp> (最終検索日: 2021年1月11日)

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

高校時代にプログラミングに触れてきた学生が一部いるが、大半の学生はプログラミング初心者である。タイピングができない学生はいない。

PCを学生全員が持っているわけではなく、スマートフォンで履修している学生もいる。東京国際大学の全学部の学生が履修できる科目であるので、広くコンピューターに関心がある学生が集まってきている。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

プログラミング基礎は2016年度から「月曜日1コマ、木曜日1コマ」組と「火曜日1コマ、金曜日1コマ」組という形で週2コマ受講のペア科目を2クラス（1クラスあたり20名在籍）担当している。スキル習得の実習科目は週1回よりはサイクルを早く学べる週2回受講形式の方が学習効果的に良いと考えている。プログラミング基礎は4単位の科目である。

JavaScriptは開発環境が求められないので、コロナ禍の中、学生が置かれている状況下で学習を進められることがこの言語を選択した理由である。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

プログラミング基礎科目の到達目標はゲームを作ることである。ゲーム自体は昨今の学生にとって関心高いテーマである。授業1回目の90分間のガイダンス時に、JavaScriptで作られたゲームの実物を見せることで、ゲームを作るという目標へのイメージを喚起させ学習の動機付けとしている（図3-107、3-108）。

毎回の授業冒頭に全学生の学習進捗状況を公開し、各学生の現在位置を確認してもらうことと、同級生がどの程度まで進んでいるかも認識してもらうことで、各学生の学習の励みにしてもらっている。

2019年度に限った施策として（2020年度は実施していない）、「毎回の課題提出の早さ」を評価対象にしていた。早さもスキルアップの一つの指標だという考えで実施していたが、学生からの反応として、「自分のペースで勉強したい」「他人の課題提出スピードは気にしていない」という声が多く、2019年度で終了した。

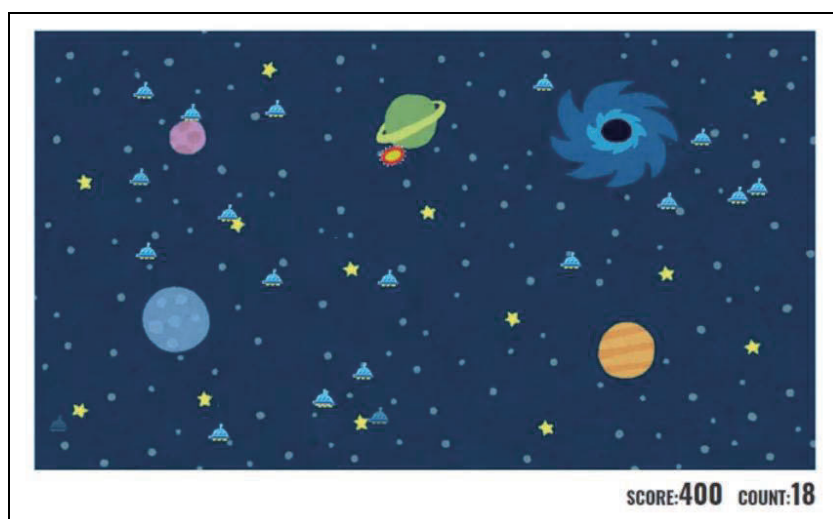


図 3-107 JavaScript で作った目標のゲームイメージ¹⁵⁷

```

index.html - TextPad
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) ウィンドウ(W) ツール(T) ヘルプ(H)
1 <!DOCTYPE HTML>
2 <!-- 文書型の定義を表したり、この文書タイプはHTMLである。-->
3 <html lang="ja">
4 <!-- HTMLの文書は日本語である。-->
5 <head>
6 <meta charset="utf-8">
7 <title>UFO大集合!</title>
8 <link href="https://fonts.googleapis.com/css?family=Oswald:700" rel="stylesheet"
9 type="text/css">
10 <link href="base.css" type="text/css" rel="stylesheet" media="all">
11 </head>
12 <body>
13
14 <div id="stage">
15 ...<div id="start"></div>
16 ...<button class="UFO"></button>
17 </div>
18 <div id="text">
19 ...<div id="count">COUNT:<span>30</span></div>
20 ...<div id="score">SCORE:<span>0</span></div>
21 </div>
22
23 <script src="https://ajax.googleapis.com/ajax/libs/jquery/1.12.4/jquery.min.js">
24 </script>
25 <script>
26

```

図 3-108 目標のゲームのソースコードを説明¹⁵⁸

(5) 学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

簡単なゲームプログラムを作ることを全員の最低限の目標としている（図 3-109）。最低限の目標をクリアした学生には、その後の目標・学習内容を用意している。最低限の目標以上の課題をこなしている学生は加点対象となる。

¹⁵⁷ 東京国際大学 河村氏からの提供

¹⁵⁸ 東京国際大学 河村氏からの提供



図 3-109 JavaScript の応用編として簡単なゲームプログラムを作る¹⁵⁹

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

2016 年度から全学レベルで moodle を導入している。moodle は授業（教育）のみに活用しており、研修用には使っていない。

毎回の授業時に、学生の学習進捗の記録をとっている（図 3-110）。この記録を毎回の授業冒頭に公開して学生に刺激を与えている（表 3-4）。

moodle でのアンケートにて、オンライン授業に対する学生評価をもらっている。自分のペースで勉強できる、個別フォローを受けられるといったポジティブな意見もある一方で、1 人の学生からの質問が多くなってしまったこと、他学生の質問時間を奪ってしまうことへの申し訳ない気持ちを学生が持っていること、課題ヒントをもう少し充実させてほしいといったネガティブな点、改善点の指摘も受けている（表 3-5）。

進捗状況			
新しいディスカッショントピックを追加する			
ディスカッション	ディスカッション開始	返信	最新の投稿
2020年12月14日分 (最終回)	河村 一樹	0	河村 一樹 2020年 12月 15日(火) 12:41
2020年12月10日分	河村 一樹	0	河村 一樹 2020年 12月 13日(日) 13:14
2020年12月7日分	河村 一樹	0	河村 一樹 2020年 12月 9日(水) 20:52
2020年12月3日分	河村 一樹	0	河村 一樹 2020年 12月 6日(日) 12:39
2020年11月30日分	河村 一樹	0	河村 一樹 2020年 12月 1日(火) 13:26

図 3-110 学習進捗の記録付け¹⁶⁰

¹⁵⁹ 東京国際大学 河村氏からの提供

¹⁶⁰ 東京国際大学 河村氏からの提供

表 3-4 学習進捗を公開¹⁶¹

氏名	小テスト 前5-7-10	小テスト 前5-7-11	小テスト 前5-8-1	小テスト 前5-8-2	小テスト 前5-8-3	小テスト 前5-8-4	小テスト 前5-8-5	小テスト 前5-8-6	小テスト 前6-1-1	小テスト 前6-1-2	小テスト 前6-1-3
	10	10	10	10	10	10	10	10	-	10	0
	10	10	10	10	10	10	10	10	-	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	-
	10	10	10	10	10	10	10	10	-	-	-
	10	10	10	10	10	10	10	10	0	-	-
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	0
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

表 3-5 オンライン授業への学生評価¹⁶²

(23) コロナ禍の中で、このようなオンラインでの授業についてどう思いますか？

- 実習系の授業をオンラインで受けるのは難しく感じた。
- 自分のペースで取り組みやすく時間の活用がしやすかった。
- 講義がほとんどなく、実習だけで、わからない箇所を何回か検索しても出てこないところは先生に聞いたりして進めてきましたがだいぶ苦戦しました。ウェブアプリ論もプログラミング基礎も友達と受けていなかった分分からない箇所はだいぶ先生に質問してしまってお迷惑おかけしてすみません。オンライン授業ではなく対面授業で受けたかった授業でした。
- いいと思います。ただ分からなくなったときに先生に尋ねようかとも思ったけど、他の人もいるのであまり時間取っちゃうのも他の人に申し訳なく感じてしまって、独学でやるってなっていました。もう少しヒントとかくれると嬉しかったなというのが率直な感想です。
- オンライン授業は交通費がかからず好きな場所で受けられるところが良いと思うが、質問するときや詳しく知りたいときに対面のほうが良いと思う瞬間がある。
- 個人指導という形は集中できる。
- もともとプログラミングはパソコンを使って実行するものだから、わざわざ学校に行かず、かえってコロナが好都合でした。

短い期間でしたが、ありがとうございました

- この形式はすごく助かりました。
- オンラインだと自分でやる時間が増えるので、自分だけになると授業によって怠ってしまうことが起きてしまいがちなので、私は対面のほうが良いと思います。

通学時間がないのはいいことだと思います。

- 通学が必要ないので楽で、先生との距離も対面より近いので自分はオンライン授業は良いと思いました。
- 同じ授業を履修した友人などもいなかった分、コロナ禍で学校に通わずともMoodleを活用して先生に直接フォーラムを送れる機能があつてとても助かりました。最初は課題が絶対終わらないと思っていましたが少しずつ分かってくと楽しい授業でした。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

授業は Zoom を使ったオンライン授業形式を採っている。授業中は、学生個人専用の Zoom のブレイクアウトルームを作って、そのルーム内で自学自習を進めてもらっている（図 3-111）。河村氏は順番にブレイクアウトルームに入って、学生・教員 1 対 1 の個別フォローを画面共有しながら実施している。授業 90 分間で 20 名の学生に個別フォローできている。この 1 対 1 個別フォロー終了後も、授業時間内は随時質問等を受け付けている。授業時間外のフォロー体制として、学生・教員 1 対 1 のフォーラムを用意している（図 3-112）。授業時間外で分からない箇所があればいつでもアップしなさい、というスタンスで運営している。河村氏からの返信にタイムラグはあるものの、必ず返信を行っている。

¹⁶¹ 東京国際大学 河村氏からの提供

¹⁶² 東京国際大学 河村氏からの提供

連絡事項 (3時限目)

○一番下にある「最終アンケート」をやるように。

Zoomのミーティングルームの入室について

【月曜日】
 ○URLの場合
<https://zoom.us/j/> [REDACTED]

○「ミーティングに参加する」の場合
 ミーティングID: [REDACTED]
 パスコード: [REDACTED]

【木曜日】
 ○URLの場合
<https://zoom.us/j/> [REDACTED]

○「ミーティングに参加する」の場合
 ミーティングID: [REDACTED]
 パスコード: [REDACTED]

○ブレイクアウトルームで必ず個人指導を受けること。

○実習課題の提出は、2020年12月14日(月)23時59分までとします。これ以降は、Moodleの方で遮断するため、提出ができなくなるので注意すること。また、評点が満点になっていない場合は修正して再提出となるわけですが、再提出も23時59分以降できなくなるので、早めに対応するように。

図 3-111 授業は Zoom を使ったオンライン授業¹⁶³

フォーラム [REDACTED] のフォーラム

5-7-1 起動しませんでした。
 2020年 12月 5日(土曜日) 00:07 - [REDACTED] の投稿

Re: 5-7-1 起動しませんでした。
 2020年 12月 5日(土曜日) 12:13 - 河村 一樹 の投稿

Re: 5-7-1 起動しませんでした。 2
 2020年 12月 5日(土曜日) 20:09 - [REDACTED] の投稿

Re: 5-7-1 起動しませんでした。 2
 2020年 12月 6日(日曜日) 11:02 - 河村 一樹 の投稿

5-8-1 わかりません。ごめんなさい。
 2020年 12月 7日(月曜日) 18:03 - [REDACTED] の投稿

Re: 5-8-1 わかりません。ごめんなさい。
 2020年 12月 8日(火曜日) 12:08 - 河村 一樹 の投稿

フォーラム [REDACTED] のフォーラム

フォーラム [REDACTED] のフォーラム

問5-8-7についての質問
 2020年 12月 13日(日曜日) 15:18 - [REDACTED] の投稿

Re: 問5-8-7についての質問
 2020年 12月 14日(月曜日) 11:18 - 河村 一樹 の投稿

図 3-112 フォーラムを使った授業時間外フォロー¹⁶⁴

¹⁶³ 東京国際大学 河村氏からの提供

¹⁶⁴ 東京国際大学 河村氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

プログラミング教育は学生個人によってスキルの習得スピードが異なるため、一斉授業だとうまくいかない。講義内容が分からない学生は本当に分からないままになってしまう、またプログラミング授業の性質上、コピーペーストが横行してしまうというおそれもある。この状況は教員・学生ともに悲劇であるため、2016年度の moodle 導入をきっかけに自学自習形式の授業作りにシフトした（図 3-113）。

moodle 内で、「自学自習での勉強方法」を解説するコンテンツからシラバスに紐づく学習コンテンツまでを整備している。教科書は、河村氏の自著¹⁶⁵を出版社に了解を得た上でデジタルコンテンツ（PDF のテキスト教材）化して moodle に掲載している。

学習の進め方は、まず教科書を読み、節毎に課題に取り組んで提出する、という流れである。ただし、ただ教科書を読んで進めてもらう形であると学習をうまく進められない学生がいるので、フォローアップ施策としてヒントと課題の実行結果を予め公開している。

課題を提出しないと評価対象にならないので、学生はもくもくと真面目に学習を進めているとのことである。なお、授業をフェードアウトしてしまった学生は授業を放棄しているため、個別フォロー対象としていない。



図 3-113 moodle 上での自学自習用 e ラーニングコンテンツ例¹⁶⁶

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

学生の ICT 環境の整備が必須である。ICT 環境不備による授業フェードアウトしてしまう学生の存在は大変もったいないと思っている。

オンライン授業での自学自習は 1 人で学習する時間が長く寂しかった、心細かったという学生意見が多かった。対面授業では、分からない内容を学生同士でピアラーニングできたところ、オンライン授業ではできてないことが課題である。

アダプティブラーニングの一環として、反転学習を取り入れているが学生が予習してこない現状がある。予習せずに授業に臨むことが非常にまずいことであるというマインドセットをどう学生に定着させるかが課題である。

¹⁶⁵ 河村一樹（2011 年）『JavaScript による情報教育入門』 大学教育出版

¹⁶⁶ 東京国際大学 河村氏からの提供

尚、2021年度は対面授業形式に戻すことが東京国際大学の方針である。オンライン授業のメリットが分かったことが2020年度の成果である。大学の垣根を越えたオンライン授業共有という展開は推進すべきと思う。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

教育にICTツールを導入するためには、教員にICTツールの知識・スキルが必要である。ICTツールの知識・スキルとは、コンピューターに関するもの（使い方、ネットの接続、OS、ファイルの管理、トラブルシューティング等）を指している。

このICTツールをこのように活用したら、こういう成果（成功事例、失敗事例の両方）が出たという事例を可視化して教員に広く啓蒙していく必要がある。

3.2.12 クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス 教員 岩崎 毅

学校紹介：

「Boys,Be AmbICTious!」で知られるクラーク博士の精神を教育理念に受け継ぐ唯一の教育機関として 1992 年に開校。北海道深川に本校を設置し、全国 50 を超える拠点で 1 万人以上が学んでいる。通信制でありながら全日制と同様に毎日制服を着て通学して学ぶ「全日型教育」という新たな学びのスタイルを開発・導入。カリキュラムの柔軟性を生かし、生徒のニーズに合わせた様々な特徴ある授業を展開している。毎年、海外大学や国公立、有名私立大学などへの進学者も多数輩出している。

コースの一つとして、オンライン教育と対面教育を融合させた「CLARK SMART」（2020 年度までは「net+（ネットプラス）」）ブランドで展開）を全国の拠点にて新開講する。CLARK SMART では、場所や時間に縛られることなく、個人のペース・目標に合わせて、教員がコーチングをしながら、EdTech を活用した個別最適型教育を実践する。

ヒアリング調査日時：2020 年 12 月 21 日（月）15:00-17:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子
株式会社 NSG ホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

アダプティブラーニングのことを「個別最適化の学習」と呼んでおり、生徒各々のステージに合った学習であり、教員・学校側から押し付けるのではなく、なるべく生徒自身が考えて自分たちのゴールを見つけられるような支援を心掛けている。学びの内容は全員必修内容の他には学力面だけでなく、英語、プログラミング、esports など各生徒が興味関心のある分野を学べるよう支援をしている。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

岩崎氏が担当しているネットプラスでは、コースの仕組みとして週 5 日間登校してくる生徒、ほとんど登校しない生徒がいるが、後者の方が多い状況である。現在、岩崎氏 1 人で 73 名の生徒を担当している。大きく分けると 3 つのタイプに分けられる。

1 つ目は、「過去に何らかの体験・経験があって全日制での生活が困難、苦手意識を持っている生徒」である。このタイプが最も多く、このような生徒向けには「環境を変える」「教員・学校からの支援を変える」ことで、以前の困難・苦手意識を覚える前の生活に戻っていきけるケースが多い。

2 つ目は、「特性、持って生まれたもので得意・不得意に偏りがある生徒（発達障害、自閉スペクトラム症等）」である。このタイプの生徒には、できないことを強いても意味が

ないと考えており、如何に「できること・得意なこと」を伸ばし、如何に社会で上手に活用できるかを支援してあげることが重要である。

3 つ目は、「自分が得意なこと、やりたい事を平均的ではなく尖らせて磨いていきたい生徒」である。このタイプは現時点では少数派ではあるが、徐々に増え始めているタイプである。通常の高校のカリキュラムは総合的に能力をつけていくために作られているので、そうではなく得意分野を集中的に伸ばしていきたい生徒が集まってくる。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

プログラミング、英語、大学受験の3つ分野を岩崎氏は担当している。その他、生活支援も行っている。学習の力の掛け方・ペース配分・内容について、生徒一人ひとりに合ったものを提案している。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

各生徒がどうやって自己実現を果たしたいのかという観点をベースに、教員・学校側が問いと生徒反応からの提案を繰り返して、生徒に気付いてもらう、自ら決めてもらうという流れを意識している。そして、生徒が成果をあげた際は、褒めるフィードバックを行っている。褒める際も岩崎氏からだけではなく他の教員からも褒めてもらう等、どのタイミングで誰がどのように何を言うか、という点も意識している。

最近では、保護者や中学校の教員からの影響か、〇〇大学に行きたいという思いを持った生徒が多く、大学に行きたくらいか？その先どうなりたいのか？という考えが抜けたまま学習を進めている傾向がある。進学はあくまでもアプローチに過ぎないという考え方で岩崎氏は生徒の進路等の支援を行っており、将来どうしたいのか？どういう生活をしたいのか？の観点からバックキャスト的に生徒個別にヒアリングをしている。そこから、何故その大学・専門学校に行きたいのか？という目的を明確に持ってもらうことが、そこに至るまでの途中の目標を設定していく上で大切であると考えている。ここをしっかりと生徒が納得していないと、途中で何か困難にぶつかった際に生徒が方向を変えてしまう。その結果、何も決まらない、決められない生徒を多く見てきたという。

生徒は高校卒業後、大学・専門学校の生活、社会人の生活といったリアルな情報を正確に理解できていないケースが多い。岩崎氏はそのリアルな情報を生徒に提供することが重要であると考え、卒業生の活躍情報や、逆にキャリアに悩んでいる卒業生など良い情報・悪い情報を敢えて共有している。

(5)学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

生徒と教員との心理的安全性を整えることが大切である。生徒・教員の面談の場が、生徒にとって心地よいものでないと生徒は参加したがりないとする。例えば、叱られる場や、やってきたことを否定されるような場であると、生徒は言いたいことを言えない、教員も聞きたいことを聞けない場になってしまう。最初から、目標や勉強といった硬めの話はせずに、好きなことや今までどうやって生きてきたか、といった内容を意識して質問するようにしている。その中で生徒のニーズとして、勉強への悩みや人間関係の悩み等が出てきて初めてそのテーマについて具体的に深掘りや目標設定など次のステップをするようにしている。

(6)学生（生徒） 状態の確認（記録・分析・評価） する上での工夫

ネットプラスコースはコーチング（面談）が主軸になることを生徒・保護者には入学前から説明をしている。生徒状態の確認は面談を通じて行うことが多い。73名の生徒を2週間に1回のペースで面談している。必要ないと自己申告してきた生徒には面談しないが、現状90%の生徒は面談を希望している。面談回数が多い生徒で年間20回くらいである。1回の面談あたり20分で、授業や会議、出張以外の時間は基本的に全て生徒面談のための時間としている（表3-6）。このように、授業をするというよりは、生徒面談が日々のメイン業務となっている。

図3-114は、生徒Aとの面談記録である。この生徒は、進学校からの転校してきている。進学校のガチガチの大学受験のスタイルに疲れてしまっている、また納得できないと学習を前に進められない性質の生徒である。面談記録から分かることは「学習がうまくいかない」というワードが多い。進学校出身なので勉強が嫌いというよりは、大学受験対策を高校受験対策と同じ方法でやってきて、大学受験対策の総量にキャパシティオーバーしていることが面談を通して分かった。そこから改善を行い、目標が明確になりやるべきことを理解できたが故に今は順調に学習が進んでいるという。以前は1-2週間に1回の面談ペースであったが、自立学習ができるようになったので面談ペースが1ヵ月以上になっている。図3-115は、生徒Bとの面談記録である。体調が大変優れない生徒である。普通高校では登校が難しく転校してきた。体調が悪い以外は、真面目でプログラミング学習を現在頑張っている生徒である。体調が悪いと自宅から外出できない。自宅にいたままだと興味のない勉強しかなく、自分がやりたいことが出来ていないという生徒の気持ちを面談から把握できた。そこで、自宅でもできるプログラミング学習を岩崎氏から提案したところ、プログラミング学習に現在熱中しているという。プログラミング学習を進めていった結果、視野が広がったようで、勉強にも精を出すようになったという。

2020年度までは、生徒状態管理にClassiを使っているが、2021年度からはStudyplusを導入する。Studyplusへの移行理由は、教員の業務オペレーションの簡素化である。生徒全体を一目で俯瞰できる術を最も希望しており、その点でStudyplusの方が優れていることである。

表 3-6 岩崎氏のある 1 週間の面談スケジュール（黒部分に生徒名が入っている）¹⁶⁷

		月	火	水	木	金
		12/14	12/15	12/16	12/17	12/18
1	9:00~9:30		黒	オンライン	校外学習	黒
2	9:30~10:00		黒	終業式		黒
3	10:00~10:20		黒			黒
4	10:20~10:40	黒	黒			黒
5	10:40~11:00	黒	黒			黒
6	11:00~11:30	黒	授業	黒		黒
7	11:30~11:50	黒		黒		黒
8	11:50~12:10	授業		黒		黒
9	12:10~12:25			黒		黒
10	13:00~13:20			黒		黒
11	13:20~13:40			黒		黒
12	13:40~14:00			黒		黒
13	14:00~14:20	黒	黒	黒	PBL	会議
14	14:20~14:40	黒	黒	黒		
15	14:40~15:00	黒	黒	黒		
16	15:00~15:20	黒	出張	出張	会議	
17	15:20~15:40	黒				
18	15:40~16:00	黒				
19	16:00~16:20	黒				
20	16:20~16:40	黒				黒
21	16:40~17:00	黒				黒
21	17:00~17:30	黒				黒
22	17:30~18:00	黒				
23	18:00~	黒				

¹⁶⁷ クラーク記念国際高等学校 岩崎氏からの提供



図 3-114 生徒 A との面談記録¹⁶⁸

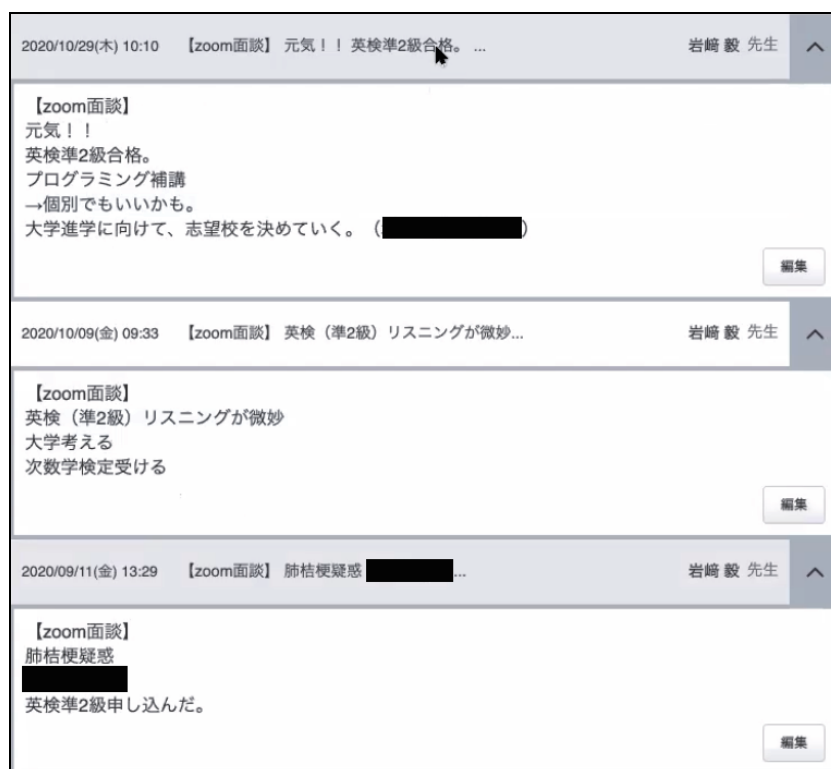


図 3-115 生徒 B との面談記録¹⁶⁹

¹⁶⁸ クラーク記念国際高等学校 岩崎氏からの提供

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

基本的に、Classi（現在、Studyplus へ移行中）での生徒の学習記録（日々の学習内容、学習時間）、登校状況のデータと定期的な面談、そして状況に応じた臨機応変の面談を以て生徒サポートを行っている（図 3-116、3-117）。

生徒がたてた目標に対して、生徒の自立的行動では達成できないと判断される場合は、教員からの直接指示を行うこともある。一方で、生徒が置かれている状況の程度次第ではあるが、敢えて失敗経験を積んで欲しいという目的から放任する場合もある。

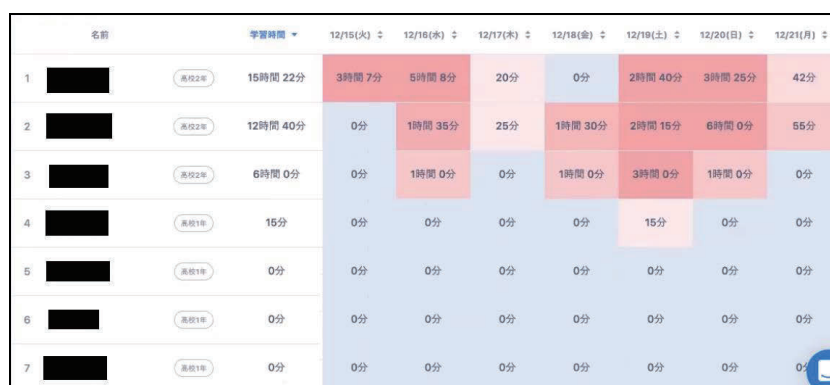


図 3-116 各生徒の日別学習時間を一目で把握できる¹⁷⁰



図 3-117 ある生徒の日別の学習内容と学習時間¹⁷¹

169 クラーク記念国際高等学校 岩崎氏からの提供

170 クラーク記念国際高等学校 岩崎氏からの提供

171 クラーク記念国際高等学校 岩崎氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

教員個人でソリューション・コンテンツを作っているわけではなく、クラーク記念国際高等学校・ネットプラスコースとして、基本的には外部からの調達¹⁷²で多様なソリューション・コンテンツを用意して生徒個別に提供している（図 3-118）。

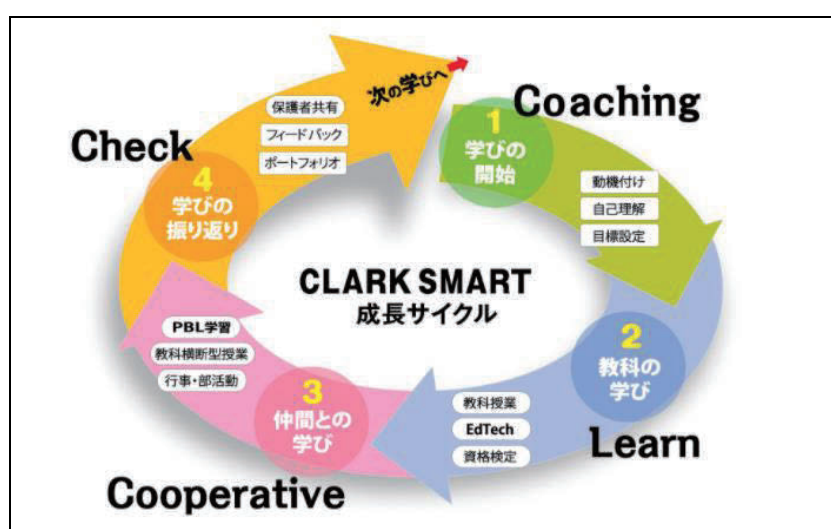


図 3-118 「自己理解」→「動機付け」→「目標設定」→「個別の学び」のサイクル¹⁷³

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

生徒のタイプ別での動機付け・目標設定等のファシリテーションノウハウとその成果（成功事例、失敗事例）を他教員に体系化して共有することが課題である。現在、各教員がマンパワー、肌感覚、属人力で対応しているため、「マニュアル・メソッド・普及のための研修」作りが必要である。各教員のカラーを出すための最低限のマニュアル化を進めたい。尚、心理的安全性の構築方法、進路指導といったテーマの研修は学校として行われている。心理的安全性¹⁷⁴を構築した中でも心を閉ざしたまま生徒への対応に苦労している。従来の教員役割であれば、生徒がやらなければならないことを提示して、やっていないことがあれば叱責するといった形で、高校卒業・大学受験の指導を行えば良いのかもしれないが、岩崎氏の支援方針として、卒業・進学した先の目的・目標が生徒・教員の間でお互いにならない状態が非常に不安という。

¹⁷² 「創学ゼミ」 <https://www.sougaku.jp/>（最終検索日：2021年1月13日）

「受験コンパス」 <https://jukencompass.jp/>（最終検索日：2021年1月13日）

「English Central」 <https://ja.englishcentral.com/browse/videos>（最終検索日：2021年1月13日）

「デジタルハリウッドアカデミー」 <https://academy.dhw.co.jp/>（最終検索日：2021年1月13日）などを用意している。

¹⁷³ CLARK SMART <https://www.clark.ed.jp/about/choice/netplus/>からの引用（最終検索日：2021年1月13日）

¹⁷⁴ クラーク記念国際高等学校の教員は全員、「学習心理支援カウンセラー」の資格をとる必要がある。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

各生徒のニーズ、思っていることを対話の中でどのように引き出すかというカウンセリングスキルを伸ばす必要がある。このスキルに、生徒と教員の間、生徒同士の間での心理的安全性を構築する力も包含される。事例の蓄積を多く教員と協力して行い、ケーススタディを通して教員としての引き出しを増やしていきたい。

キャリアコンサルタントの資格取得に向けて勉強中であり、いろいろなキャリアのルートを知識として理解しておきたい。

3.2.13 学校法人河合塾学園 トライデントデザイン専門学校 講師 上田 光孝

学校紹介¹⁷⁵：

トライデントは、1976年「名古屋外国語専門学校」が愛知県下初の専門学校として認可を受けて以来、40年間にわたり社会に求められる人材の育成に努めてきた。卒業生は30,000人以上輩出、信頼される専門教育機関として成長を続けている。

トライデントがめざすのは、企業で「即戦力」としてのみ重宝される人材の育成ではなく、独自の教育を通じて、生涯にわたりその企業を、さらには業界を牽引していくことのできるマネージャー・リーダーを輩出することが、真の目標である。そのために、志望する職業にはどのような知識、技術、責任感が必要か、産学協同で生み出すカリキュラムやインターンシップなどの具体策を講じて学生一人ひとりの意識を高め、高度な職業人として社会へ送り出している。

ヒアリング調査日時：2020年12月22日（火）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子

学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ

デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1) アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

ベーシックプログラムとして、先々の進路指導（業界就職）も意識した社会人基礎力の教育において、学生の個別対応を行っている。社会人基礎力とは、「大人と自然に会話できる」「人の話に頷ける」「相槌が打てる」「自分の意思表示ができる」といった社会人としての基本的なコミュニケーション姿勢・所作を指している。最終的には、自分から進んで物事に取り組んでいく人材に育成することにある。

社会人基礎力の授業は1年生の前期15週で行っている。この授業を5年間実施している。

(2) アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

学力面では、あまり高くない学生が多い。勉強が苦手だから、絵を描く等のデザインの世界に興味を持った学生が多いように見える。社会経験が少なく、人と話をするのが苦手、内気な学生、のんびりな学生、対面ではコミュニケーションをあまり取りたがらないがネット上では積極的に発信する学生が多い。特に最近増加が顕著な学生タイプは、課題を提

¹⁷⁵ トライデントデザイン専門学校 <https://design.trident.ac.jp/school/education-policy.html>（最終検索日：2021年1月13日）

示した際にゴールへの道筋・正解をすぐに聞いてくるタイプ¹⁷⁶である。過程のトライアンドエラー、失敗を避けたがる学生が大変増えてきた。

上田氏は「社会人基礎力」授業を1人で担当しており、1クラス60名で合計2クラス約120名の学生を担当している。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

人とのコミュニケーショントレーニング等、「目標・ワーク・他者からフィードバック・自己内省」のサイクルを中心とした教育内容になっている（図3-119、3-120）。例えば、90秒や120秒という制限時間内で自己紹介をやる、といった1グループ4名程度のワークである。ワークのお題¹⁷⁷は色々と用意している。実態として、社会人基礎力の授業1回目の時点で自己紹介が出来る学生が全体の20%から30%とのことである。

デザインの専門学校なので、デザインについての教育は重要であるが、その前に社会人としての土台の育成する教育を重視している。まず社会人基礎力を学んだ上で、その後の専門教育においても、その社会人基礎力が繰り返し問われることでその定着を図っている。

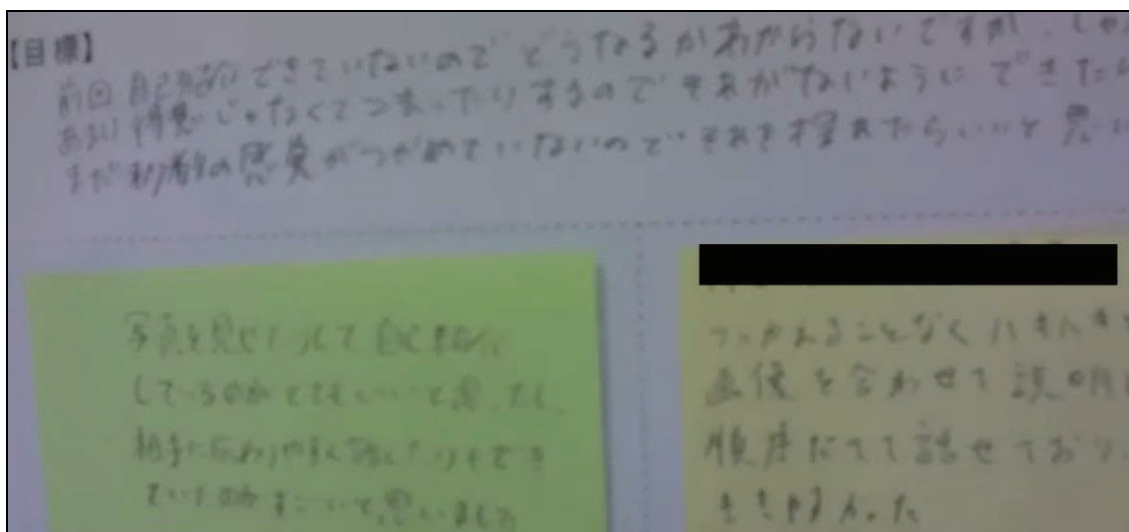


図3-119 自己紹介ワーク（目標と他者フィードバックの記載）¹⁷⁸

¹⁷⁶ 例えば、「どういう作品を提出したらA評価をもらえますか？」といった正解を求めがちな学生がとも増えてきた。

¹⁷⁷ 他のお題例として、有名企業のロゴを口頭で説明して、グループの他学生が再現して描くワークがある。分かりやすい説明内容、説明の順番等、考えなければならないポイントが多く存在する。

¹⁷⁸ トライデントデザイン専門学校 上田氏からの提供

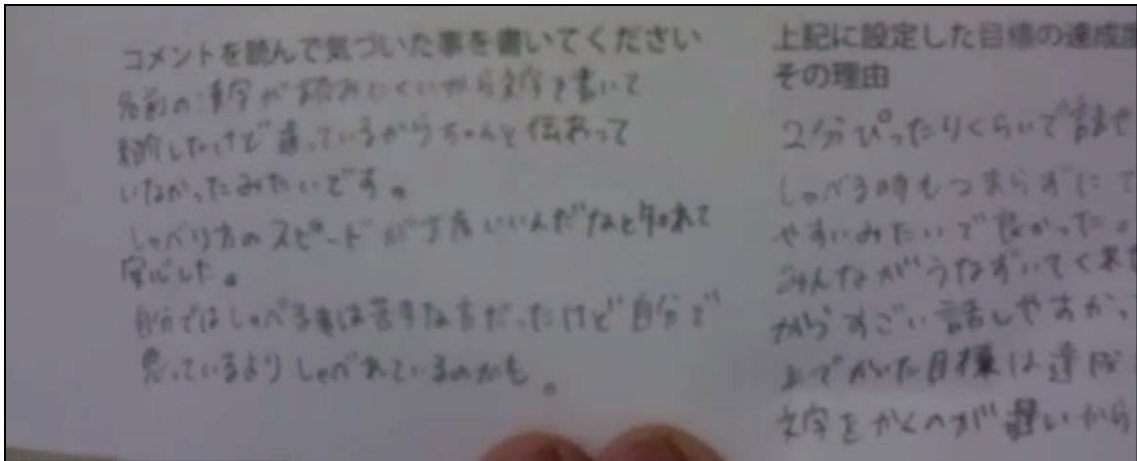


図 3-120 自己内省¹⁷⁹

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

失敗をしても良い環境であること、成功するために失敗できる機会を教員・学校として何度も提供することを繰り返して学生に伝えている。

良い成果物（過去の卒業生の作品、ポートフォリオ等）を先に生徒に見せるようにしている。ただし、その際に「良い理由」は言わないようにしている。同クラスの他学生の成果物と比較しながら、各学生が自分なりに「良い理由」を考えてもらい、気づきを成果物作りに反映してもらおう。学生によって一定の到達目標に着くまでに掛かる時間は異なるが、各学生のペースに合わせて成果物作りを教員がサポートしている。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

「社会人基礎力」授業の目的である進路指導において、学生に「進路活動レポート（手書き）」を毎月記載して提出することを課している。今月やっていること（やったこと）の報告と来月に何をするかについて学生に毎月記載させている。例えば、アルバイト状況、インターンシップ参加状況、業界研究状況、企業リサーチ状況、企業訪問状況、企業エントリー状況等である。このレポートを以て、毎月の個別面談を行っている。このように、教員・学校側で学生の活動を伴走しないと、活動がペースダウンしたり、ストップしたりすることがあるので、伴走は必須である。

¹⁷⁹ トライデントデザイン専門学校 上田氏からの提供

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

「社会人基礎力」ワークの他者フィードバック（図 3-119 のように付箋に書かれている内容）は、担任教員¹⁸⁰に共有している。

担任による定期的な面談も行っている。面談指導記録シート（図 3-121）を以て、学生状況を記録・管理しているが、紙でファイリングという保管・共有方法がまだ残っているのが現状である。「紙に記載する」という行為の方が、学生・教員ともに記憶に残りやすいというメリットがある。

「家庭の環境」、「就職にあたって県外に出られるかどうか」、「2 年生の中間時点で行う保護者含めた 3 者面談での会話内容」についても記録している。

情報共有のもう一つの実態として、教員同士が職員室等で会った際に口頭共有するケースも多い。

氏名	面談日時	面談内容	面談者氏名
		① 社会人基礎力ワークの他者フィードバックについて、担任教員に共有している。	
		② 担任による定期的な面談も行っている。面談指導記録シートを以て、学生状況を記録・管理しているが、紙でファイリングという保管・共有方法がまだ残っているのが現状である。	
		③ 「紙に記載する」という行為の方が、学生・教員ともに記憶に残りやすいというメリットがある。	
		④ 「家庭の環境」、「就職にあたって県外に出られるかどうか」、「2 年生の中間時点で行う保護者含めた 3 者面談での会話内容」についても記録している。	
		⑤ 情報共有のもう一つの実態として、教員同士が職員室等で会った際に口頭共有するケースも多い。	

図 3-121 面談指導記録シート¹⁸¹

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

同じ内容の声掛けやアドバイスを複数の教員から行うようにしている。1 人の教員からのアプローチだけだと説得力（学生視点でいうと納得度）が弱いケースがあり、そこに複数人からのアプローチにより説得力を向上させる工夫をしている。そうすることで、学生の学習や制作の質に向上が見られる。

¹⁸⁰ トライデントデザイン専門学校では、1 クラス 30 名程度としており、1 学年約 120 名在籍している。よって、担任教員は 1 学年 4 名いる。

¹⁸¹ トライデントデザイン専門学校 上田氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

「社会人基礎力」授業はグループ作業が多くなる。グループ作りは学生が好きな子同士でかたまり過ぎないように教員が決めている。理解・スキル習得が早い学生にはグループ内で別の役割を本人に提案している。例えば、前回授業では司会の役割だったのに対して、今回は別学生の司会業をサポートする役割をといた提案である。特定の学生に特定の役割が固定化しないように、教員側である意味強制的にグループ内役割をチェンジさせている。以上のような工夫をした上でも、どうしても閉じこもったままの学生が20%弱存在しているのが現状である。

学生が希望する業界に合わせたポートフォリオ指導（卒業生等の過去事例を活用することが多い）を、学生個別に提供している。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

学生が自発的にこれをやりたい、作ってみたいという欲求・希望を喚起することが課題である。そのような気持ちを学生が持つタイミングも個人差があるため、教員・学校としてはキッカケを与えながらも時間を待つしかないというのが現状である。そして、喚起後の努力の過程を量・質で定量管理できないかと考えている。

面談等を通して得た学生情報の管理の仕方が教員それぞれで異なっていることも課題である。ノートに手書き記録している教員もいれば、エクセルで記録している教員もいる、ここを学校として統一していくことが課題である。なかなか統一が進まない理由として、教員の業務負荷・時間的制約が大きいことがある。

非常勤講師の中には、教育手法に興味がなく、講師自身の実務経験ベースに授業を作っている人がいる。これ自体も課題認識しており、学校として講師向けに教育手法研修¹⁸²を実施しているが、研修結果が現場に満足に反映されているわけではないのが現状である。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

学生の成長状況・過程の把握を主観的ではなく客観視できる仕組みを作る必要がある。デザインの学校であるので、教員各々の主観的な把握が根強く残っている傾向があり、客観視のための評価指針（シラバスの精緻化等）の言語化にも教員負荷や時間的制約面から手を付けられていない状況である。

¹⁸² 最近の学生のタイプの紹介、そのような学生に対してこのようなアプローチをした所、このような成果が出た、といった事例ベースで議論する研修である。

3.2.14 株式会社ゼネラルパートナーズ atGP ジョブトレ事業部 野田 明子

企業紹介¹⁸³：

「社会問題の解決」を起点に事業を創造している。企業や個人に対し、今までにない価値を提供することで、ビジネスとして長く継続できることを志向するのが特徴である。前向きで意欲がありながらこれまでチャンスを得られなかった人が、持てる能力を発揮し、活躍できる機会を創り出している。

(障害のある方向けの総合就職・転職サービス)

10年以上にわたり障害者の就職・転職をサポートしてきた「アットジーピー」は障害者の雇用支援を専門に、採用企業とのよりよいマッチングの実現を目指している。

(就労移行支援事業)

長く働き続け、活躍したい障害のある方に向けた就職のためのスキルアップ研修や、就職活動のサポートを行っている。就職はもちろん、就職後も長く働き続けることを見据えてサポートしている。障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの一つである。症状別または得られるスキルに特化した専門事業所を運営しているのが特徴である。

(農業生産事業)

精神障害がある方が安定的な就労を目指し、しいたけの生産を行っている。

ヒアリング調査日時：2020年12月22日（火）14:00-16:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

¹⁸³ 株式会社ゼネラルパートナーズ <http://www.generalpartners.co.jp/business/>（最終検索日：2021年1月15日）

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）¹⁸⁴の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

株式会社ゼネラルパートナーズが運営する事務職就労を目指す就労移行支援事業所の事例を取り上げる。

障害者が就職することが目的であるが、就職することだけではなく、就職後に「働き続ける力」の養成も含まれている。「働き続ける力」は一人ひとり違うものなので、それを身に付けてもらうことを大事にしている。特に発達障害、精神障害を持っている人は、働く上でボトルネックになりやすい力、例えば、コミュニケーション力、計画を立てて段取り良く仕事を進めていく力を養成している。そして、障害者が自分の障害を理解して自分とうまく付き合い続ける力（自己理解力、自己対処力¹⁸⁵）を養成している。これらは、本を読んだり、講義を受けたりして知識で身につく力ではなく、活動を通して身につけていくしかないものである。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

今回の事例の就労移行支援事業所には、大学卒業時くらいの年齢から 40 代の年齢まで幅広い年齢層が集まっている。ボリュームゾーンは 20 代後半から 30 代である。障害・病気に別れて事業所（コース）分けをしており、事業所ごとに「発達障害の人特化」「うつ症状の人特化」「統合失調症の人特化」「聴覚障害の人特化」等に分けている。男女比は男性 70%、女性 30%である。大学卒業している利用者は全体の約 80%、職業経験を持った利用者が全体の約 60%といった割合である。1 事業所に 25-30 名の利用者が在籍している。

以上の概要の事業所を職員 6-7 名で担当している。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

擬似的な職場環境¹⁸⁶を作り、実践トレーニングを行うカリキュラムを敷いている（図 3-122、3-123、3-124、3-125、3-126、3-127）。例えば、上司の役割を担うスタッフを置き、利用者とのコミュニケーションを介して、納期までに求められる品質の成果物を利用者に納品してもらう、といったプログラム（1 プログラムに 2 週間くらいの時間をかける）を用意している。上司役からのコミュニケーションは意図的に曖昧さを残しておき、その曖昧箇所の確認・期待水準の確認等を利用者が上司役とのコミュニケーションの中で行っていく。換言すると、失敗体験をしてもらう内容になっている。2 週間のプログラム後のリフレクションも大切にしている。どのような学びがあったのか、どこに躓いたのか等を振り返り、気づきを得ることが重要である。職トレ以外にも、1 日単位、1 ヶ月単位、3 ヶ月単位の目標設定とリフレクションを行っている。


¹⁸⁴ 就労移行支援施設では「学生（生徒）」に当たる人のことを「利用者」と呼ぶ。

¹⁸⁵ 「自分はどういう点で躓きやすいのか」「自分はどういう点で気持ちが落ち込みやすいのか」「自分にはどのような得意・不得意があるのか」といった面で自己を客観的に捉えて、対策を身に付けておくことを大切にしている。

¹⁸⁶ 株式会社ゼネラルパートナーズでは「職トレ」と呼んでいる。

- 1. 職トレは何を学ぶためのもの？**
- 1-1.能力を発揮するための自己理解
 - 1-2.即戦力として活躍できるビジネススキル
- 2. 効果的な職トレの進め方**
- 2-1. 職トレの3つのサイクル
 - 2-2. 振り返り
 - 2-3. 報連相・進捗管理・ビジネスマナー

図 3-122 職トレを利用者に説明する際のポイント¹⁸⁷

 **職トレは何を学ぶためのもの？【自己理解】**

自分のことを理解していないとこんなことが…


就職後に、担当業務が苦手な仕事であることに気づく	上司からの評価が低い、理由が不明なので改善できない
同じミスを繰り返してしまう	なぜか人間関係がうまく築けない
体調不良の原因が分からず対策ができない	気持ちや体調の波が大きく、仕事が進まない

自分の能力を最大限に発揮するために、自己理解は大切です！

図 3-123 自己理解ができていないことによる弊害¹⁸⁸

¹⁸⁷ 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供

¹⁸⁸ 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供

 **職トレは何を学ぶためのもの？【自己理解】**

ご自身にとって、**得意／苦手な仕事**
働きやすい／働きづらい環境 理解できていますか？

<例>




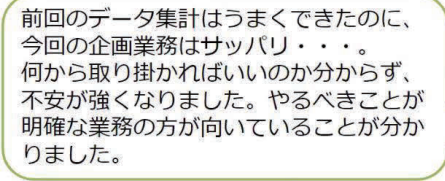

<p>【得意な仕事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールが決まった作業 ・数字を扱う仕事 <p>例：データ入力・集計</p> <p>【苦手な仕事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいことを考え、判断する業務 <p>例：企画業務</p> <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭ではなく、文字情報（チャットなど）でコミュニケーションをとる ・変化が少なく落ち着いた雰囲気 		<p>【得意な仕事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章作成 ・業務効率化 <p>例：資料作成、校正、業務フロー策定</p> <p>【苦手な仕事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ作業の繰り返し ・手先を使う細かな作業 <p>例：データ入力、封入作業</p> <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境 ・相談しやすい雰囲気 	
--	---	--	---

図 3-124 職トレにおける自己理解①¹⁸⁹

 **職トレは何を学ぶためのもの？【自己理解】**

- ・自分にあった仕事や職場を知るためには、経験が大事！想像するだけではなかなか分かりません…
- ・職トレは「模擬職場」の環境の中で、様々な事務作業を体験します
- ・体験から自分にあった仕事・環境を見つけましょう！


 前回のデータ集計はうまくできたのに、今回の企画業務はサッパリ……。何から取り掛かればいいのか分からず、不安が強くなりました。やるべきことが明確な業務の方が向いていることが分かりました。




苦手なことを発見できたことも、大きな成果です！


図 3-125 職トレにおける自己理解②¹⁹⁰


¹⁸⁹ 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供


¹⁹⁰ 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供

 **職トレは何を学ぶためのもの？【自己理解】**

仕事の場面でご自身がつまづきやすいことを理解できていますか？


 完璧思考があり、上司が求めているレベルまで、よいものを作ろうとしすぎてしまう。自分でプレッシャーを強めてしまい、体調を崩しがち。

 会議で自分の主張をしすぎてしまう。負けたくない気持ちが強くなり、感情的になることも。人間関係が悪くなってしまう。

 自分ではちゃんとやっているつもりだけど、注意力が散漫になってミスが多発してしまう…。特に午後の時間に、集中力が低下している。

自分のパターンが分かっていると**対策**を打つことができます！

図 3-126 職トレにおける自己理解③¹⁹¹

 **職トレは何を学ぶためのもの？【即戦力】**

職トレで身につけたい「即戦力」とは・・・

- ・ **上司が期待する成果を出しやすくするためのスキル**
- ・ **すでにある能力を最大限に発揮するためのスキル**

と言えます

- ・ 上司に対する報告・連絡・相談
- ・ 同僚との協業（議論、役割分担、協力）
- ・ 納期までに業務を進める段取り力
- ・ 一般企業に相応しい振る舞い・マナー
- ・ 実践的なPCスキル など

図 3-127 職トレで学ぶ即戦力スキル¹⁹²

¹⁹¹ 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供

¹⁹² 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏からの提供

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

各利用者が自己肯定感を感じてくれる、達成感を感じてくれるような目標を、利用者自身と話し合いながら立てていく。その目標を軸に動機付け、声掛けを行っている。また、職員側で役割分担をしている。職トレでの上司役は、職トレの趣旨がリアルな職場環境を模すことであるので、現実に近い辛めの接し方に意図的に徹している。そこで、上司役以外の職員が、動機付けのためのフォロー役を担っている。職員側はチームで利用者を支援するという認識を持っている。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

職トレを繰り返して行っている中で、各職トレ別に利用者個別の目標設定を行っている（表3-7）。前回の職トレの振り返りを活かして、次の職トレの目標設定を行うサイクルである。利用者は目標をエクセルに入力してもらい、グループを作って利用者同士で目標を共有している。障害別に事業所運営を行っているので、同じ障害を持った利用者同士のピアラーニングを意識しており、自己開示しやすい環境となっている。職トレ以外にも、1日単位、1ヵ月単位、3ヵ月単位での個別目標をたてている。

目標設定後の利用者の様子を観察して、職員が利用者に目標修正を促す場合もある。これは、利用者に目標について自己肯定感、達成感を味わってもらうことを重視しているためである。

表 3-7 目標&振り返りシート193

課題 1			
取り組みたい課題	勝手な判断で業務を進めてしまいがち 上司の期待とズレが発生する		
課題に対する目標	定期報告をすることで上司とのズレを解消する		
具体的なアクション	1日1回報告をする		
目標達成度	50%	アクション実行度	80%
職トレ後に記載	振り返り	1日1回の報告は忘れることがあったが、ルール化しておくことである程度実行できることが分かった。報告をこまめにすることでズレを防止できることを体感できた。	
	職員からのフィードバック	依頼したことが正しく理解されていないことがあったが、報告頻度が高くなったことで早めに判明して修正することができた。このやり方で業務を進めていくのがよいと思う。	

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

担当制で職員が利用者を必ず月 1 回の定期面談をして、クラウドに記録・保管している。利用者によって面談ペースは異なっており、週 1 回ペース、毎日といった形でケースバイケースとなっている。毎日のケース会議で面談記録や日々の利用者観察情報を共有して、利用者個別の支援ストーリーを検討している。ケース会議で決まった各支援ストーリーもクラウドに記録・管理している。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

可能な限り、利用者同士のピアラーニングや話し合いで物事が進むこと、解決されることを期待しており、職員にとって「見守る¹⁹⁴」ことも重要な役割・支援であると考えている。事業所の運営は、職員だけの仕事ではなく利用者も一緒に主体的に運営するという文化・場を作っている。そのため、事業所ルールを利用者と一緒に作ること、月 1 回開催される事業所運営会議¹⁹⁵に利用者にも参加してもらっている。各利用者に事業所運営のためのそれぞれの役割¹⁹⁶を担ってもらっている。利用者をお客様扱いせず、利用者が受け身で〇〇をやってもらえらると思う姿勢ではなく、主体的に学んだり、活動したりする姿勢を奨励している。職員はなるべく「教えない」ようにしており、利用者がやりたいことを「応援する」「伴走する」スタンスを採っている。それにより、利用者からの不満やトラブルが減ったという。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

株式会社ゼネラルパートナーズとしての、利用者の支援方針を策定した。職員間で価値観や判断軸の統一を図るためである。具体的には、日々の利用者支援の場面ごとで職員間の判断内容のバラつき、各々のバイアスが目立ってきたことに拠る。

毎日の職員によるケース会議において、利用者個別の支援方針を話し合っている。職員 A さんが利用者 B さんにこういうフィードバックをするので、その際こういう反応をされる可能性があり、その場合、職員 C さんはこのように個別フォローを入れて欲しい、といった形で利用者個別に対する支援ストーリーを役割と一緒に毎日検討している。

職トレの目標、1 日単位・1 ヶ月単位・3 ヶ月単位の目標設定とその進捗状況、振り返りから各利用者の課題を本人に理解させることが、個別ソリューション提供にあたり重要である。

他の具体的なソリューション例としては、事業所内で出来ること以外に障害者版の企業インターンシップも行っている。

¹⁹⁴ ただし、利用者同士の問題が收拾つかない場合には職員が介入する。

¹⁹⁵ 事業所をより良くするためにどういうことを行ったらよいかを話し合う会議

¹⁹⁶ 例えば、「新人の利用者をサポートする役割」「パソコンスキルを教える役割」「清掃に関わる役割」などである。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

新しい職員が増加しているため、利用者を支援する立場である職員スキルの標準化、新人職員の早期戦力化が課題である。新しい職員は福祉業界出身よりは企業経験の持ち主を積極的に採用している姿勢からも、この課題の緊急性を上げている。2021年度からは職員研修を強化していく方針である。前述の支援方針をベースに、お互いの価値観・判断基準・バイアスの確認と組織として標準化された支援サービスを提供できるようケーススタディ型の研修をさらに増やしていきたい。

なお、職員の支援力の定義は、「障害特性の知識をベースに適切なアセスメントが出来ている」「個別支援計画に則った支援が出来ている」「チームで支援出来ている」の3点である。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

前述のように「文化・場」作りや「応援する」「伴走する」スタンスを重視した現場運営方針のため、職員の方針理解と現場でのファシリテーションスキルはより一層必要だと考えている。ファシリテーションスキルの向上と、職員の支援力の定義である「障害特性の知識をベースに適切なアセスメントが出来ている」は関連しているスキルであると考えている

3.2.15 河原デザイン・アート専門学校 教頭 露口 武志

学校紹介¹⁹⁷：

河原デザイン・アート専門学校は「もの創り」を通して、地域社会に貢献できる人材育成を目指している。本校の校訓「創造・挑戦・貢献」に基づき、教育カリキュラムは次の2点を大きな柱として策定している。

- ・「もの創り」に関する深い知識や高度な技能と、クリエイティブな活動に対し、決して妥協しないクリエイターマインド（通常授業や課題・公募展作品制作活動を通して）
- ・ビジネスにおいて最も必要とされる「コミュニケーション能力」をはじめとした人間力（様々な学園・学校行事や産官学連携による特別活動を通して）

（デジタルデザイン科）

3DCG や映像制作を学び、クリエイターとして業界就職を可能にする愛媛県内で唯一の学科である。本学科ではパソコンの使い方、ソフトウェアの使い方、デザインの基礎など一から学ぶ事が出来る。

（グラフィックデザイン科）

グラフィックデザイン科では、ロゴマークやポスター、キャラクターデザイン等世の中に“なくてはならないもの”のデザインを学ぶ。

（漫画クリエイター科）

「画力の向上」をスローガンに学生個々の適性を見極めて徹底的に画力を向上させる為のトレーニングを中心に、入学した全ての学生の画力を向上させる漫画家・イラストレーター養成学科である。

（インテリア・建築デザイン科）

中四国地方で初の「大卒資格」と在学中の「二級建築士」のダブル取得が可能な学科である。

ヒアリング調査日時：2020年12月23日（水）10:30-12:30

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

学校法人麻生塾 教育推進部 教育推進グループ 岩切 直子

学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ

デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

¹⁹⁷ 河原デザイン・アート専門学校 <https://idea.kawahara.ac.jp/about/peculiarICTv/>（最終検索日：2021年1月16日）

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

学生1年生の基礎学力向上を目的にしている。特に「読解力（文章を読み解く力）」の向上に注力している。デジタルデザイン科、グラフィックデザイン科、漫画クリエイター科は学生が検定試験を受けるにあたり、出題に対してどのようなことが問われているのか理解が乏しい学生がいることが、「読解力」対策の理由である。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

デジタルデザイン科、グラフィックデザイン科、漫画クリエイター科の3学科（約30名×3学科）の学生は、他人と比べられたくない、絵を描くことが好き、中学校・高校時代は美術部に在籍していたタイプが多く、スポーツの部活をやっていたようなタイプは圧倒的に少ない状況である。学生の入学形式が全体80～90%がAO入試のため、総じて偏差値は決して高いわけではなく、学力のバラつきが大きい。漫画クリエイター科については、10%弱の学生は社会人経験を経てからの入学であり、高校卒業後の18歳世代と混在した学科となっている。

別の視点で最近顕著なパターンとして、通信制高校からの入学が年々増えており、これはつまり、毎日学校に通学する習慣がついていない学生が増えていることを意味している。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

2020年6～8月の3ヵ月間、「すらら¹⁹⁸」を導入して、1年生の学生（特に学力下位層）の基礎学力向上を行った（図3-128、3-129）。「すらら」を使った学習は週1回のホームルームの時間（60分）と宿題形式で行っている。上手に管理されているクラスについては、週平均2時間の学習時間量が見られた。結果的に、数値的に学力向上¹⁹⁹が見られたため、2021年度からは学習期間を6ヵ月に拡大して継続していく予定である。

就職指導においても有益な施策となっている。特に大きな企業の選考試験においては、漢字の書き取り、計算問題等の学力試験を課されることが多く、その対策になっている。

¹⁹⁸ リメディアル教育として「すらら」を導入している。 https://surala.jp/school/case/remedial_03.html
（最終検索日：2021年1月16日）

¹⁹⁹ 「すらら」開始時期と終了時期のテストを行い、伸び幅を検証した。全体の平均で10点以上向上した。



図 3-128 「すらら」での学習風景²⁰⁰

9/11

かへ新聞を作ろう
資料 紙面イメージ

日射しの強いところや、気温や湿度の高いところではげい運動をした場合に起こるイメージがあるが、室内でも起きることがある。

「データ」によると、熱中症になった人の約半数は室内にいた。

答え

5月～9月の気温

「熱中症」を聞いたことがあるか

熱中症ではん送された時期

「熱中症」になったときいた場所

Q Aの記事の下には、資料にある「データ」を用いて図表を入れます。内容に合う図表をひとつ選びましょう。

暑い環境などで体内の水分や塩分のバランスがくずれたり、体温の調節がうまくいかなくなったりして、さまざまな体の不調が引き起こされることを熱中症という。

日射しの強いところや、気温や湿度の高いところではげい運動をした場合に起こるイメージがあるが、室内でも起きることがある。とくに、梅雨明けなど暑さに身体が慣れていない時期の場合や、高齢者や幼児など体温の調節機能がうまく働かずに、室内でも起きやすく、注意しなければならない。

再生 終了

©SaiRola Net Co., Ltd.

図 3-129 「すらら」での国語の問題例²⁰¹

²⁰⁰ 河原デザイン・アート専門学校の Web サイトより引用 <https://idea.kawahara.ac.jp/blog/31019/> (最終検索日: 2021 年 1 月 16 日)

²⁰¹ 株式会社すららネット 「無学年式 AI×アダプティブラーニング「すらら」小学校高学年版国語が新学習指導要領対応を強化」 PRTIMES 2020 年 10 月 30 日 <https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000306.000003287.html> (最終検索日: 2021 年 1 月 17 日)

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

就職活動（就職試験）で基礎学力を問われるという事実を学生に提供すること、クラス²⁰²によっては、「すらら」の管理画面を学生に見せることで、各学生の進捗状況・学習時間等の一覧情報を共有している。このことにより、教員・学校が学習状況をきちんと把握していることが「管理されている緊張感」として、学生に良い影響を与えているようで、ホームルーム以外の時間でも意欲的に学習を進めている学生が現れた。このクラスで良い成果を創出できた要因として、担当教員が「ICT ツールに慣れていたこと、学生の基礎学力向上が重要事項であることを理解しており「すらら」は有効な手段であることを認識していたこと」が考えられる。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

学科ごとに「すらら」学習の達成レベルを決めている。学科ごとに「どのような人材を目指しているか」の人物像ゴール²⁰³から逆算して、学生生活 2 年間でここまでは最低限の学力として向上させたいという学力ゴールを設定している。例えば、同じ河原学園²⁰⁴の美容系の専門学校の場合、求める人材像が「経営者」「店長」「スタイリスト」の各ゴールによって、学力面でどこまで担保しなければいけないのかが異なってくる。

このように、「すらら」を機械的に 3 ヶ月間実施しているわけではなく、ゴールからの逆算で必要な学力レベルを確認し、その達成のために「すらら」という手段を活用している。

「すらら」は特に学力下位層向けの学力底上げ施策であったため、下位層のニーズには合致していると思われるが、中位層・上位層にはミスマッチな施策であったかもしれない。人物像ゴール設定は業界・企業状況と連動しており、年々によって業界・企業状況が変化するため、人物像ゴールから逆算されるカリキュラム、各シラバス、「すらら」到達レベルを都度見直す必要がある（表 3-8、3-9、3-10、3-11）。

²⁰² グラフィックデザイン科の担任教員が特にうまく「すらら」を活用していた。

²⁰³ 人物像ゴールの検討については、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに関連してくる。

²⁰⁴ 河原デザイン・アート専門学校は学校法人河原学園に属する専門学校である。

https://www.kawahara.ac.jp/school_guide/（最終検索日：2021年1月17日）

表 3-8 河原デザイン・アート専門学校のディプロマポリシー²⁰⁵

<p>(1) 称号授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</p> <p>本校では、地域の問題を教育課題として取り上げ、それを解決するプロセスがデザイン教育として重要であるとする。自己満足型のものづくりではなく、常に社会の変化やニーズの動向に対応できる者に専門士を授与する。具体的には、以下の三つの能力および態度を以って卒業要件とする。</p> <p>① 「もの創り」の多様な技法や歴史に関する深い知識と高度なデザイン技術を有すること。</p> <p>② 自己の好悪感覚や狭隘なデザイン観にとらわれず、常に、デザイン消費者の志向性、および、文化・社会の風潮に開かれた広い視野をもち、デザインに期待される使命を果たそうとする価値観を有すること。</p> <p>③ 地域社会や外部関係者との組織的な取り組みに寄与できるような活動能力を有すること。</p>
--

表 3-9 デジタルデザイン科のカリキュラムポリシー²⁰⁶

<p>(デジタルデザイン科)</p> <p>プリプロダクションからポストプロダクションまで、全体の流れを把握し上で、得意分野で特化できる人材を育成する。①カメラ・三脚・ライト・マイク等。撮影機材に精通し、適切に扱うことができる知識と技術を有する②Photoshop, Illustrator, Premiere, AfterEffects, 3dsMax など 3D・映像分野で必要とされるソフトウェアに関する知識を有する③時期・ニーズに即したコンテンツの企画、シナハン、スケジュール管理、外部折衝を円滑に行える知識、経験を有す④3DCG を製作する上で正しく構造を理解できる観察力、立体把握力、空間認識力を有する</p>

表 3-10 グラフィックデザイン科のカリキュラムポリシー²⁰⁷

<p>(グラフィックデザイン科)</p> <p>広告・写真・Web・イラスト・商品開発など様々な分野で、社会のニーズを意識しデザイン提案することができる能力を習得する。①Illustrator, Photoshop, InDesign といったアドビ社のアプリケーションソフトの基本操作ができる。②構図・配色・文字の配置などの美的センスを持ち、目的に合わせたレイアウトをする能力を有する。③常に人の心に響くデザインを探求し、研究や情報収集などの努力を怠らずに最新のトレンドに敏感である。④文字を組む基本知識として、書体・フォントの選定、文字のサイズ・字間・行間・ルビのふりかた等の組版の知識を有する。④クライアントに対してそれぞれ相応しい媒体で企画提案する能力を有する。</p>

²⁰⁵ 河原デザイン・アート専門学校の Web サイトより引用
https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sICTes/4/2019/06/idea_3houshin.pdf (最終検索日：2021年1月17日)

²⁰⁶ 河原デザイン・アート専門学校の Web サイトより引用
https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sICTes/4/2019/06/idea_3houshin.pdf (最終検索日：2021年1月17日)

²⁰⁷ 河原デザイン・アート専門学校の Web サイトより引用
https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sICTes/4/2019/06/idea_3houshin.pdf (最終検索日：2021年1月17日)

表 3-11 漫画クリエイター科のカリキュラムポリシー²⁰⁸

<p>《漫画クリエイター科》</p> <p>多種多様な表現方法や技術力をもって、様々な業務に適応できる柔軟な思考性①漫画のネームやコマ割りの法則、アナログでのペンタッチやデジタルtoonなどに関する知識や技術を有する。②photoshop や Illustrator、Live 2D などアニメ・ゲーム開発現場で必須とされるソフトウェアに関する知識を有する。③一枚の原稿完成に要する時間やイラスト制作における各工程のスケジュール設定など時間の概念を持って作業を行える能力。④編集部の意向や担当の意見を捉えニーズに沿ったネームやゲームの企画意図、イラストの特性などを理解し表現する事が出来る柔軟な思考性やコミュニケーション能力。</p>

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

個別の学生カルテ（毎年5月頃の面談、夏休み後の面談、11月面談、進級前の年度末面談の記録）を管理しているが、目的が休退学防止寄りになっている。

上記とは情報が紐づけられていない現状であるが、IR活動における学生の学習成果の確認という意味で、毎日毎コマの学生出席状況、授業評価テスト結果を記録、分析（実施率、標準偏差、合格率、点数分布等）している。毎週開催の教務会議、毎月開催の学園全体での教務会議の場で、IR活動の定量的な分析結果の共有と問題が見られる個別学生への対策を検討している。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

毎年5月頃の面談、夏休み後の面談、11月面談、進級前の年度末面談以外にも、1年生の12月に就職3者（担任教員・学生・保護者）相談会を実施している。出席状況・成績・保護者の就職に対する考え・学生の就職希望といった情報をもとに、3者で進路の方向性を確認する面談を行っている。業界・企業・職種等の個別のマッチング提案を教員・学校として行っている。このように決まった面談以外にも、学生の状況次第で臨機応変な面談機会を設けている。

また、県内外の卒業生の仕事・活躍状況を可視化しており、学内に情報展示している。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

河原学園全体で毎コマの授業評価テストの分析結果を出しており、その結果を受けて担当教員が学校単位・学科単位・クラス単位・学生個別単位でのフォローを行っている。

²⁰⁸ 河原デザイン・アート専門学校の Web サイトより引用

https://idea.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sICTes/4/2019/06/idea_3houshin.pdf（最終検索日：2021年1月17日）

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

学校として目指す人物像ゴールを、より具体的にディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに落とし込み、ベテラン教員・若手教員問わず教員間で理解を深めることが課題である。それに関連して、「すらら」の到達レベルについても学科全体で議論・決定していく必要がある。

「すらら」を使った授業内外での学生の学習促進について、担任教員によって成果に差があった。その理由の1つである「教員のICTツールへの慣れ」の改善を進めていきたい。教員・学校として、学生の進路指導におけるマッチング提案の精度を上げていきたい。教員の経験値によってこの精度のバラつきが大きいと考えている。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

ICTツールの基本的な使い方を教員に理解してもらいたい。授業評価に活用しているIR指標の入力、Word・Excel・PowerPointの基本的な使い方について、年齢による影響はあるかもしれないが不慣れな教員がいるためである。

同じ分野の他学校の教員同士で各種事例等の情報交換ができる機会を希望する。学んだ事例等を参考に、日々の教育活動をより良いものにして各学生の能力を上げて欲しい。

3.2.16 専門学校中央医療健康大学校 理学療法学科 学科長 大石 法子

学校紹介²⁰⁹：

専門学校中央医療健康大学校は4年制の専門学校であり、次の5つの特徴がある。

（医療系総合専門学校）

現在、さまざまな現場で専門性を持った医療スタッフが患者さんの治療のために専門性を活かし、最良のケアプランを立てる「チーム医療」が推進されている。そのため、“医療人”となった際、他医療職種の役割や専門性、自身の専門性や責任を理解し情報共有を行うためのコミュニケーション能力が必要とされている。医療系総合専門学校のメリットを活かし、学科の枠を越えてお互いに学びあう『多職種連携教育』を通じ、医療スタッフとしての下地を作ることができる。

（教育研修の充実）

さまざまな研修先で力をつけることができる。Jリーグのメディカルスタッフとの交流、付属接骨院・治療院や病院、歯科医院での実習など現場での研修・実習で力をつけることができる。

（万全な国家試験対策）

すべての学科が1年次より国家試験対策を行っている。国家試験対策ソフトを活用し、個々の成績推移から問題作成までを行っている。学内外での模擬試験で自分のレベル判定や授業以外での補修補講で一人ひとりのバックアップも充実している。入学後の「学び」を確実にするための入学前教育も実施している。

（安心の就職）

県内外から多くの求人票が寄せられ、就職希望者の数を大きく上回っている。担任のきめ細やかな指導、学内外での就職説明会、キャリアコンサルタント・キャリアカウンセラーによる履歴書の書き方から面接指導も丁寧に個別指導を行っている。卒業生の就職先・実習先からの求人も多く、将来の姿を相談しながら希望の就職を叶えることができる。

（学生と教員の距離が近い）

教員・学生間の交流会や学科間の交流会も行っている。先生方は“医療人”の先輩、困ったことを何でも相談できる先生であり、学科を越えた先生と学生の仲の良さは本校の自慢である。

²⁰⁹ 専門学校中央医療健康大学校 <https://www.suzuki.ac.jp/chuoiryo/feature/>（最終検索日：2021年1月17日）

ヒアリング調査日時：2020年12月23日（水）13:30-15:30

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ

株式会社 NSG ホールディングス X-Tech 推進室 室長 猪俣 昇

現地訪問面談参加者：

株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

理学療法士の国家試験を合格するために学力の向上を目的としている。アダプティブラーニングを実施してから、模試成績が全国平均以下から全国平均プラス 20 点という高い水準に伸び、国家試験の合格率も非常に低いところから全国平均を越える 90%超の合格率まで向上した。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

ここ最近の学生の学力層は、大学受験は厳しいと思われる層が大半となっている²¹⁰。今まで勉強する習慣がない、受験勉強の経験を持っていない学生が多い。

学力面以外では、非常に素直で、理学療法士という職業に興味を持ち、教員・学校側はきちんと学びのルールを引いてあげることで学ぶことに意欲を持ってくれる学生が多くなっている。

学生の性質面では、明るく、コミュニケーション等の活発な学生が多い。高校時代に運動の部活を頑張ってきたというタイプも多い。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

理学療法士の国家試験合格に繋がる数々の教育を行っている。国家試験の問題演習、国家試験の過去問 10 年分を 3 回転する、問題文の読解力養成、分からないことの調べ方（教科書の索引の使い方）、日々の継続的な学習の習慣化、リーダーの育成（グループワークでのピアラーニングの先導、成績の良い学生の勉強方法の共有）等を行っている。

²¹⁰ 学生は偏差値 45 程度の高校出身であるケースが多い。

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

入学時に何故この分野の職業に行きたいのか、何故この分野の学校を選んだのかといった目的意識を喚起する話をしている。

1 年次から成績や模試結果等の順位を発表している。そのため、自己成長意識、競争意識から学習に意欲的に頑張れる学生も多い。

目標達成シート等で決めた内容を実行したこと・努力したことによる変化・成果という事実を以て、複数の教員から褒めるといった声掛け等のアプローチを行っている。複数の教員からのアプローチということで、1 名の教員からのアプローチだけでは得られない学生の納得度・自信向上に繋げている。

上級生の先輩との情報交換会や OBOG 講話が、学生の動機付けに役立っている。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

自己学習ノート²¹¹を使って毎日の自己学習の癖付けと担任教員からの週 2 回ペースでのフィードバックを徹底している。フィードバックとは、例えば、学生個々の自己学習ノートをチェックして、各人がどのような学習をしているのかを確認して、褒める・アドバイスするなどの返信をしている。

毎年度、個人の目標達成シート²¹²を作っている（図 3-130、3-131）。学生に 1 年間の学習の到達ゴールを決めてもらい、逆算で具体的な行動内容まで計画してもらい。学習に関する行動だけではなく、学生によっては授業態度や遅刻をしない等の生活態度についても記載する場合がある。目標達成シートは、学生に配布しただけでは記載できないことがほとんどであるので、教員・学生で授業時間を共有して、個別フォローしながらシートに記載してもらっている。目標の高い低いの妥当性や、記載内容の具体化といった個別フォローを行っている。半期末（前期、後期）に個別面談時に、当該期の成績表と一緒に目標達成シートについて振り返り、後期への対策を行う。

尚、目標達成シートは学生にはデータをクラウド共有、PC で内容を記入してもらい、プリントアウトして教員に提出してもらっている。教員はそのプリントアウトされた紙を学生個別にファイリング保管している。

²¹¹ キャンパスノート、ルーズリーフ等、形式は問わない。

²¹² 学年によりフォーマットは異なっている。

目標達成シート

理学療法学科4年 学籍番号 () 氏名 ()

<卒業時目標>

国家試験：(280点中何点取りたい？国家試験の合格発表をどんな気分で確認したい？)

就職：(いつまでに、どんな施設に就職したい？)

<4年次後期目標>

模擬試験：(業者模試で何点取りたい？全国順位は何割以内？判定は AorBorC?)

過去問 TRY：(10年分を3クールいつまでに終わらせる？)

図 3-130 目標達成シート (4年生用) ①²¹³

<4年次前期目標>

臨床実習：どんな評価をもらいたい？どんな実習にしたい？

卒業論文：どんな取り組みをしたい？

<目標達成のための実践内容>

出席について：

授業態度について：

国試対策について：

実習対策について：

卒業論文について：

家庭学習について：

その他：

図 3-131 目標達成シート (4年生用) ②²¹⁴

²¹³ 専門学校中央医療健康大学校 大石氏からの提供

²¹⁴ 専門学校中央医療健康大学校 大石氏からの提供

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

学生状態を都度確認できる接点として以下のようなものがある。

入学前教育を行っており、そこではノート作りのトレーニングも行っている。これらは、3月のオリエンテーション時に提出してもらうので、その際に学生状態を確認することができる。

入学後は、「入学時確認テスト」「その職業に就きたい気持ちを10段階で記載してもらうアセスメント」「学校成績、模試成績、目標達成シート（1週間の学習スケジュール、学習時間実績、10年分の国家試験過去問3回転解く進捗状況等）、病院実習の様子、風紀状況をベースとした個別面談、保護者面談」といった仕組みで学生状態を確認している。2020年度からは新しい学生管理システムを導入し、個別の学生カルテに情報を入力している。この新システムを以て、今まで分散していた学生情報が一元管理できるようになる。以上の収集された学生情報をもとに、週1回ペースで開催される学科会議で対策を検討している。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

1クラス学生40名、1日90分授業が4コマである。教員が40名を対象に一斉授業を行う形態だと各学生のレベルがバラバラなため、授業運営そのものが、例えば、低学力層の学生への質問対応に時間を取られ、他層の学生にとって授業進行が止まっている状態など非効率な部分が多いと思っている。そのため、副担任の配置、実技科目に関しては、現在、アシスタントを投入することで、各学生へのフォロー力を高めることを検討している。講義科目には全学年、必ずグループワークを入れることで、40名クラスであっても可能な限り個別フォローが行いやすい授業運営の工夫をしている。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

低学力層への支援として、1年次から補講等の時間を使って、国家試験の問題演習をやっているが、ただ問題を解かせるだけではあまり効果が上がらず、「問題に何が書いているのかが分からない」「分からないことを調べることや教科書を読むことができない」学生が非常に多いが故に、グループワークを通じて、問題文の読解、分からないことを教科書等で調べるトレーニング、高学力層が実行している勉強方法のレクチャーを行っている。教員からの個別フォローを行うだけでなく、学生同士のピアラーニングも推進している。4年次に行う業者模試の場合、結果（全国順位や偏差値等の成績情報）が返却されるのが1-2週間掛かってしまい、素早いフィードバックができないことが課題であった。そこで、即日フィードバックできるようにするために、個人成績分析表として学校保有の専用ソフトを使って採点・分析できる体制を整備している（図3-132、3-133）。学生は個人成績分析表を通して、自身の弱点を把握し、次回模試の目標点を考えてもらっている（図3-134）。専用の問題作成ソフトを使って、各学生の苦手分野や難易度別の問題集を作成して演習を

行うといった個別対応も行っている。全国リハビリテーション学校協会²¹⁵が制作している動画教材も活用している。

理学療法士国家試験 模擬試験 試験結果						
学籍番号	■■■■	氏名	■■■■	1		
試験日	■■■■	試験回数	■■■■			
模擬試験名	医歯薬 第3回					
得点	175 / 280	クラス 順位	16 / 34	偏差値	50.2	
最高点	219	最低点	112	平均点	174.6	
	午前		午後		計	
実地問題 (1-20)	36 / 60点	39 / 60点	75 / 120点			
一般問題 (21-100)	53 / 80点	47 / 80点	100 / 160点			
合計	89 / 140点	86 / 140点	175 / 280点			

図 3-132 個人成績分析表①²¹⁶

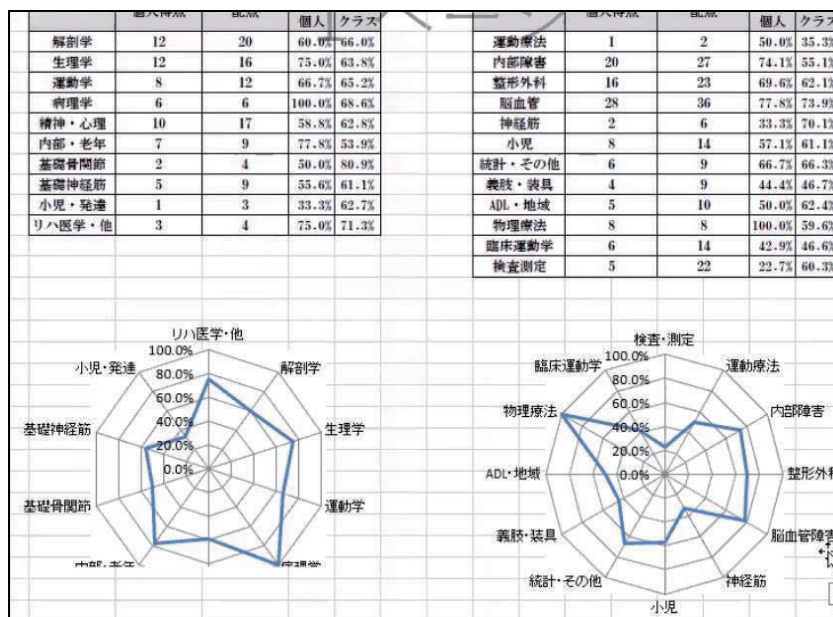


図 3-133 個人成績分析表②²¹⁷

²¹⁵ 全国リハビリテーション学校協会 <http://reha-school.jp/> (最終検索日: 2021年1月18日)

²¹⁶ 専門学校中央医療健康大学校 大石氏からの提供

²¹⁷ 専門学校中央医療健康大学校 大石氏からの提供

次回の目標点	
	点
～模試の総括～	
本人のコメント（感想・反省・今後の決意など）	
保護者のコメント	
	保護者のサイン

図 3-134 模試の振り返りと次回目標点を記載する²¹⁸

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

入学時点ではお互いに学力差が相対的に小さいものが、年月が経つにつれて全国模試 10 位以内という成績上位の学生もいれば、順位的に最下層の学生もいるように学生間の学力差が広がっていることが問題である。全体での平均学力は上がっているものの、バラつきが広がっており、意欲・行動量の両面で真面目に努力しているけれども結果が出ない学生を早期に抽出できる仕組みを作って、これらの学生向けに対策を取る必要がある。学生に PC を購入してもらっており必携化になっているが、教員・学校として教育内容への ICT 活用拡大が遅れている点が課題である。1 クラス 40 名の学生を 1 名の担任教員で対応していることからマンパワー不足であるにも関わらず、PC 必携化の環境を上手に活かしてきれていない状態である。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

学生との面談技術（傾聴スキル、モチベーション向上技術、メンタルケア）を向上させたい。特に新人の教員とベテランの教員とでは面談技術に差があり、面談は学生の将来を左右する重要な仕事であることから、一定レベルまでの面談技術標準化をしたい。面談技術について、初任者研修、中堅者研修のように階層別内容が明確になればよいと思う。そのような研修は対面受講に限らず、オンラインでも受講できるようになって欲しい。

²¹⁸ 専門学校中央医療健康大学校 大石氏からの提供

3.2.17 株式会社イング 次長 塾戦略ブレインリーダー 山本 昌敬

企業紹介²¹⁹：

株式会社イングは、幼児から社会人まで幼児、小学生、中学生、高校生、社会人に至る様々な年代に対して教育のサポートをする「総合学習館」である。人材育成を軸に、個々の特性を生かした指導をしている。パートナー支援に徹し、地域貢献 No.1 を目指している。

(主な事業内容)

- ・ 幼児教育
- ・ 小中高生に対する学習指導、進学受験指導（クラス/個別指導/映像授業）
- ・ 大学生社会人に対する資格や技能講座（福祉住環境など）
- ・ 幼児児童英語教育、高校生～社会人 TOEIC テスト指導、実用英会話
- ・ 小中学校での放課後事業（学童保育、アフタースクール、学習支援など）
- ・ 学校法人、企業団体対象各種出張講座
- ・ 就労支援事業、人材紹介、人材派遣事業

ヒアリング調査日時：2021年1月6日（水）11:00-13:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一
学校法人郷学舎 アルスコンピュータ専門学校 教員 長瀬 あゆみ
株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

山本氏は「次世代型個別学習塾 G-PAPILS²²⁰」を担当している。

生徒が自立学習できるようになることが目的である。可能な限りメンター²²¹が「教える」のではなく、生徒の能力を引き出すことがメンターの役割である。メンターは直接的には教科指導はほとんど行わない。生徒が前向きに能動的に学習に向かっているのかの確認を行い、向かえていない場合は声掛け等フォローすることで向かえるよう促している。

²¹⁹ 株式会社イング <https://www.ing-edu.com/static/outline/>（最終検索日：2021年1月20日）

²²⁰ <https://www.ing-edu.com/g-papils/>（最終検索日：2021年1月20日）

²²¹ 次世代型個別学習塾「G-PAPILS」では先生役のことを「メンター」と呼んでいる。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

次世代型個別学習塾「G-PAPILS」を堀江校²²²と鳳校²²³の2校舎で展開している。堀江校付近には大規模な小学校があり、その小学校の子供²²⁴たちが堀江校生徒の80%～90%を占めている。この小学生を高校入試まで導いていく役割を担っている。数年後に、堀江校の近所に堀江中学校が移転する予定もあって、今の場所に堀江校を戦略的に立ち上げた経緯がある。一方で、鳳校は中学生メインになっている。2020年度初頭から次世代型個別学習塾「G-PAPILS」を導入している。

次世代型個別学習塾「G-PAPILS」は「通い放題」形式である。塾が営業している時間帯であれば何時通塾しても良いというルールになっている。1日あたり何時間塾にいても、月当たり何回通塾しても月謝は定額である。そのため、共働きの世帯の生徒が多く、保護者目線からは「子供を預けておきたい」「進学塾に行かせるには時間割の都合でニーズに合わない」「(堀江校周辺は教育熱の高いエリアということもあり)習い事をさせたいし、勉強もしっかりさせたいのでスケジュールが大変であり、柔軟に対応してくれる塾に行かせたい」といったニーズに同塾はフィットしている。鳳校の中学生の場合は、「集団塾だと学習スピードについていけない、不安」「あまり知り合いのいない塾に行きたい」といったニーズに応えている。その結果、鳳校には学力の上位層の生徒、下位層の生徒の両端2層が集まってきている状態である。ボリュームゾーンの間層は少なく、その層は集団塾に行っている。

保護者タイプの点では、生徒（子ども）の学力に一定レベル以上を求めるものの、勉強だけではなく他に好きなこと、興味を持っていることにも取り組ませたいと考えている若い世代の保護者層が多い。つまりは、時短で勉強できる、効率良く勉強できることに関心を持った保護者の子どもが入塾している。

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

生徒によって通塾する時間帯を自由に設定できる。学習内容は事前に決められており²²⁵、1ヵ月間の時間割の中で、各生徒がいつ通塾して何を学習するのかといった計画が反映されている。

小学校4年生以上は教科別の動画教材とテキストが用意されており、タブレットで動画教材を視聴しながら、テキストの例題を解くなどの学習を進めていく。同じ教科であれば、各生徒ともに動画教材・テキストは同じものであり、学習スピードにより学習している箇所が異なってくる。動画教材にはテキストとは別に、レクチャー内容に紐づく確認テスト（プリント）²²⁶が用意されている。メンターは座席を机間巡視しながら、生徒の様子を観察して、観察結果に応じたアクションをとる（図3-135、3-136、3-137、3-138）。最後に

²²² 大阪府大阪市西区にある校舎 <https://www.ing-edu.com/horie/>（最終検索日：2021年1月20日）

²²³ 大阪府堺市西区にある校舎 <https://www.ing-edu.com/ootori/>（最終検索日：2021年1月20日）

²²⁴ 現在は小学校低学年の生徒が多い。

²²⁵ 生徒によっては、保護者の考えにより、通塾の度に生徒自身に与えられた時間内で行うべき学習内容を決めさせるという塾の使い方をさせているケースもある。

²²⁶ AIより生徒個別最適な確認テスト（プリント）が出力される。

生徒のテキストを確認して学習進度を把握する、そして、宿題を出して帰宅させる。
小学生低学年向けには、各生徒のレベル別に市販教材を提案している。この市販教材を使
って、塾で学習を進める形式を採っている。

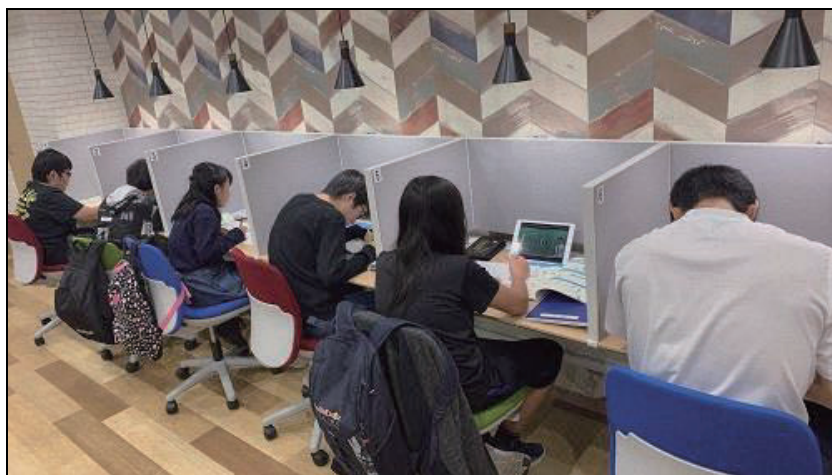


図 3-135 塾で生徒が学習しているイメージ²²⁷

²²⁷ 株式会社学研塾ホールディングスの Web サイトより引用
<https://gakken-jhd.co.jp/news/201911/20191107.html> (最終検索日：2021年1月20日)



図 3-136 塾での学習の流れ²²⁸

²²⁸ 株式会社学研エル・スタッフィングの Web サイトからの引用 <https://www.g-papils.com/flow/> (最終検索日: 2021年1月20日)

	一般の個別学習塾	自立型個別学習塾 G-PAPILS
授業	経験豊富な講師が必要 優秀な先生がいるかが塾のイメージを左右 オーナー、または雇用した講師が授業を実施。 講師の人材確保・教育・研修・管理が必要。 講師の雇用経費が莫大にかかります。	講師確保の必要なし！ POINT 1 講師雇用がないため、人材に関わる障壁なし！ 実力派講師陣による豊富な「授業映像」を導入。 生徒は、自分にあった授業映像をタブレットで 視聴して学習。繰り返しや早回しも可能です。
教材	生徒個別に教材選択 教材選びが個別指導の一つのウリに 教科書準拠や受験対策など、生徒の目的や成績の状況によって 選択が必要。 キャリアや経験が問われます。	教材作成の必要なし！ POINT 2 教材選択に必要な経験は要りません！ 塾業界TOPレベルの約15万題の問題数がAIと融合。 人工知能 (AI) が、生徒一人ひとりに対してフィットしたものをセレクト します。
管理	講師業務は授業以外も 多岐にわたる管理業務も必至 講師が授業に加え、生徒の成績管理や やる気のサポートも兼務。 授業以外の拘束時間も長くなりがちです。	成績分析の必要なし！ POINT 3 プリント問題採点は生徒自身で！ 成績データ分析は、人工知能 (AI) に任せ。 生徒の自己採点結果が分析され 「学習アナリティクス」が行われます。

図 3-137 自立型個別学習塾 G-PAPILS の仕組み①²²⁹

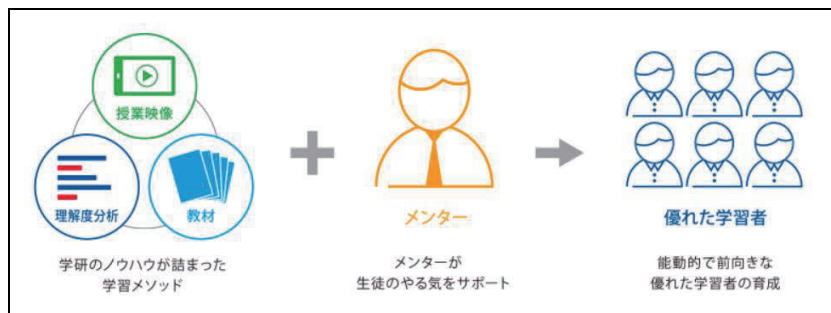


図 3-138 自立型個別学習塾 G-PAPILS の仕組み②²³⁰

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

社員メンターの他、アルバイトの大学生メンターが存在する。大学生メンターの場合は「大学生」であることを公表しているものの、生徒と連絡先交換禁止やメンターとしての言葉遣いといったルールがある。その上で、メンターは「教科内容を教えない」「生徒の様子（手を動かして勉強に集中しているか、集中力が途切れてきて姿勢が乱れてきていないか等）を観察して、適切なアクションをとる」「生徒が塾に来た際、休憩時間、帰宅する際には、生徒に積極的にメリハリのあるコミュニケーションをとる」「特定の生徒に対応が偏らないようにする、そのためメンター全員で全生徒を対応する体制」等のアプローチを

²²⁹ 株式会社学研エル・スタッフィングの Web サイトより引用 <https://www.fc-g-papils.com/system/>（最終検索日：2021年1月20日）

²³⁰ 株式会社学研エル・スタッフィングの Web サイトより引用 <https://www.fc-g-papils.com/system/>（最終検索日：2021年1月20日）

行っている。

同じ内容を生徒に伝えるにしても、誰が伝えるかが重要である。ケースバイケースで社員メンター、大学生メンターの誰からのアプローチが良いかまで考えて行動している。

(5) 学生（生徒） 個々人の目標設定の工夫

毎月、保護者に1ヵ月カレンダー（塾の営業時間が記載されたもの）を紙で配布し、そこに生徒（子ども）の通塾希望日時を記載してもらい、回収したものを塾でエクセルに入力し、最終確定版の1ヵ月カレンダーを保護者に紙で配布する。

1ヵ月カレンダー内の学習教科の割り振りはある程度、塾側で決めておき、細かな点は生徒や保護者と対話しながら最終決定する（表3-8）。生徒の目標は、小学校の教科テスト・中学校の定期試験・高校受験といった共通のものもあるが、検定試験のように個別目標が設定される場合もある。例えば、1月下旬に漢字検定受験が控えている生徒の場合、合格に向けて11月から注力していきたいという希望があれば、11月カレンダーでは国語の漢字の勉強時間を増やして、算数の勉強時間を減らすといった形で生徒現況や目標に合わせてカレンダーをカスタマイズしている。

塾と保護者のコミュニケーションについては、年3回開催の定例保護者の他、堀江校の場合は近隣に住んでいる生徒が多いので自ずと保護者のなにか用事のついでに塾に立ち寄ることが多く、その際が格好の接点となっている。また、メールでのやり取りも多い。

表 3-8 堀江校の各生徒が通塾する時間帯と学習内容と指定座席²³¹

²³¹ 株式会社イング 山本氏からの提供

(6) 学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

動画教材とテキストで学習した後に、確認テスト（プリント）が出力される。確認テストの正誤結果はデータベースに保管されていくことで、各生徒の得意分野・苦手分野に関する情報が蓄積されていく。この蓄積データを AI が解析して、以後の確認テストで生徒個別最適なものが提供可能になっている。

教科指導以外の部分は、メンターによる生徒観察による情報共有を行っている。その場にはいないメンターとは ICT ツールを使って共有している（児童・生徒カルテのようなものは作っていない）。生徒観察結果に対するアクションは、過去事例や社員メンターの経験値からも判断して実施しているが、基本的なコーチングメソッドについては東京都立大学の松田岳士教授²³²監修の研修を通じて学んでいる。この研修は、2 日間の反転学習型の研修である。事前に講義動画で学習し、研修当日は確認テスト・グループワークを通して、実例の生徒にどのような声掛け・アドバイスをどのタイミングで行うべきか、どのような学習計画を立てるべきかを議論・発表し、研修講師からフィードバックを受ける研修内容である。教科内容的な声掛け・アドバイスではなく、進路の決め方²³³・職業の種類といったよりバックボーンに関わるアプローチをするように指導を受けている。

(7) 学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

メンターの役割は、生徒に「計画の立て方を伝える」「効率良く学習する方法（英単語暗記、定期テスト対策等）を伝える」「生徒の様子を観察し、観察結果によっては適切なアクションをとる（声掛け、悩み相談等）」である。教科的な話等は、メンターは可能な限り「教えない」ことに徹している。生徒が質問してきた際は、「答えすぎない」様に注意している。メンターが見極めないといけないことは、「生徒は本当に分かっていないのか」「生徒は甘えて質問してきているのではないか」の違いである。多いのは後者である。質問を受けた際には、「どこまでは分かって、どこからが分からないのか？」と逆質問するようにしている。このような会話を繰り返すことで、生徒は自ら解決していくことができる、自立的学習を進めていくことができる。

保護者には「生徒（子ども）が自宅で勉強しなくても、塾で勉強していればよいのでは？」と提案している。保護者は「生徒（子ども）が勉強しているという事実」を欲しているわけで、その事実を塾で作ってあげたらよいと考えている。塾だからこそ得られる生徒情報は保護者に基本的に（状況的に表現を変えながらも）伝えている。

²³² 東京都立大学 <https://www.tmu.ac.jp/stafflist/data/ma/11545.html>（最終検索日：2021 年 1 月 20 日）

²³³ 例えば、「中学 3 年生にはいつのタイミングで高校進学後の話をしていくべきか？」というテーマで議論した。

(8) 学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

教科別に動画教材とテキストを用意しており、生徒のペースに合わせて学習を進められるようになっている。また、確認テストの出題は AI 解析により生徒個別最適化が為されている（図 3-139）。

現行の動画教材は 1 本あたり 10 分程度の長さになっている。リニューアル中の新しい動画教材は 1 本あたり 5 分に凝縮される予定である。時間短縮・凝縮は生徒の学習効率向上が狙いである。



図 3-139 確認テストの個別最適化と学習ペース並びに理解度の可視化²³⁴

(9) アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

求められていない「教科指導という従来型の先生の役割」に偏りがちで、求められている「メンターとしての役割」を徹底できるよう自己研鑽と同時に、それをサポートする育成体制が必要である。また、「これからの教育がどう変わっていくのか」「どういう教育をしたいのか?」「子どもたちにどう成長してもらいたいのか?」「人の価値観がどう変わっていくのか?」について学び、考えていく必要がある。

大学生メンターは大学卒業と同時にいなくなるので、先輩の大学生メンターのノウハウをどのように後輩大学生メンターに引き継いでいくかも課題である。

²³⁴ 株式会社学研塾ホールディングスの Web サイトより引用

<https://gakken-jhd.co.jp/news/201911/20191107.html>（最終検索日：2021年1月20日）

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

多種多様な生徒が入塾してくる中で最初から自立型な生徒はいない。その素地の部分は大人が最初に育成してあげる必要があると思われるが、どれだけのものを最初に提供できるかが大人に求められている。

新人メンターの即戦力化という視点では、まずは、「生徒（子ども）を観察するとは、どういうことなのか？」「これからの時代の子どもたちに求められている教育はどういうものなのか？」「今の保護者（大人）の価値観がどう変わってきているのか？」を新人メンターに伝えていく必要がある。そして、生徒（子ども）と普通にコミュニケーションできるスキルが必要である。

3.2.18 デジタルハリウッド大学大学院 専任助教 石川 大樹

学校紹介²³⁵：

21世紀からの超高度情報化社会において、デジタルコミュニケーションを駆使して、社会に対する「変革」を起こす人材を輩出するために設立された社会人のための専門職大学院である。

デジタルハリウッド大学大学院の7つの特長²³⁶は以下の通りである。

(CHALLENGER)

ビジネス、クリエイティブ、ICTから学生自身の得意とするポイントを足がかりに、強化したい分野を基礎から学ぶことができる。ビジネスプランやコンピュータのソフト&ハードの基礎知識、クリエイティブスキルといった基礎科目を配置しているため、自分の目的に合わせて、重点的に学びたい科目を履修することが可能である。新しいコンテンツ開発や理想とするビジネスの実現に挑戦する力を、体系的に身につけることができる。

(PROTOTYPING)

修了時は、「ビジネスプラン」だけでなく「プロトタイプ」の制作を重視。実効性の高いプロトタイプを手にすることで、机上の空論で終わらず、現実社会でのスタートアップへスムーズにつなげることができる。これを可能にしているのは、実効性の高いプロトタイプを生み出す専門科目である。授業を担当する業界の第一線で活躍中の実務家教員が、アイデアをサービスやアプリケーション、プロダクトへと昇華させる手法を伝授している。

(START-UP MIND)

独自のスタートアップカリキュラムにより、ベンチャー起業家の創出数は国内大学として第11位²³⁷である。私立大学のなかでは、慶応義塾大学、早稲田大学に次ぐ第3位の実績である。デジタルハリウッドから輩出された起業家を支援するインキュベーション事業と密接に連携し、スタートアップに必要な様々な支援を実施。起業はもちろん、自社の新規事業プランニングのために入学する社会人院生も多く、デジタルコミュニケーションに強いビジネスが生まれる環境が整っている。多様な実務家教員からつながる業界との人脈も、ビジネス実現への大きなチャンスとなる。

²³⁵ デジタルハリウッド大学大学院の Web サイトより引用 <https://gs.dhw.ac.jp/profile/> (最終検索日：2021年1月23日)

²³⁶ デジタルハリウッド大学大学院の Web サイトより引用 <https://gs.dhw.ac.jp/profile/feature/> (最終検索日：2021年1月22日)

²³⁷ 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室 「令和元年度大学初ベンチャー実態等調査 結果概要」2020年5月15日 <https://www.meti.go.jp/press/2020/05/20200515003/20200515003-2.pdf> (最終検索日：2021年1月22日)

(DIVERSICTY&NETWORK)

9 万人以上の卒業生を擁するデジタルハリウットの校友会組織を通じて、人材募集やビジネスマッチングを行うことが可能。ナショナルクライアントとの産学官共同開発案件への参画や、研究室に所属し教員とのプロジェクト立ち上げなど新しいビジネスを生み出すことができる機会が豊富である。また、22 歳から 60 歳までの幅広い年齢層や世界 17 ヶ国の留学生との刺激で、世代や国境を越えた未知のアイデアの創出を促す。

(NIGHT&WEEKEND)

授業は平日夜間と土日のみ。全授業の 7 割が平日 21 時以降、または土日に開講しているため、忙しい社会人も通いやすい環境です。映像補講として、録画した授業をいつでも閲覧できるので、欠席時のフォローや復習に役立つ。また、授業料最大全額免除の特別奨学生制度を設置。所属企業からの推薦状があれば、奨学生での入学可能性も高まる。

(CREATIVE ASSOCIATION)

学部（4 年制大学）と専門スクールを運営。ビジネスプランの考案やプロジェクトマネジメントに長けた院生と、コンテンツ制作能力を発揮する学部生、専門スクール生とが連携することで、企画からコンテンツ化まで学内での完結が実現する。映像教材で無料視聴できる講義が充実しているほか、専門スクールでクリエイター育成を行うプロ講師が大学院でスキル教育を担当しており、制作技術を身につけると同時に、実践的なクリエイティブマネジメントを理解することができる。

(DIPLOMA)

修了時には、デジタル技術とコンテンツで新しい産業や文化を創造する「DCM 修士」の学位が授与される。海外では同ステージの学歴をイコールパートナーとしてみる概念が浸透しており、修士号は非常に重要視されるため、学位取得はグローバルで活躍するチャンスにつながる。

ヒアリング調査日時：2021 年 1 月 7 日（木）10:00-12:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

熊本大学大学院 准教授 合田 美子

株式会社リソースフル 代表取締役 中田 明子

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

デジタルクリエイティブ 5 領域の基礎的な技術（デジタルツールの使い方）、継続的で能動的な学習姿勢・習慣の習得が目的である。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

学生は大きく 2 つのタイプに分けられる。「社会人学生」と「デジタルハリウッド大学や他の大学の学部からすぐに進学してきた学生」である。両者に広く共通するのは「デジタルクリエイティブスキルを使ったビジネスを研究する」学生が多い。「社会人学生」は働きながら通っている学生が多く、最近では医者や企業内で新規事業を考えているタイプが目立っている。それゆえに多忙な学生が多く、デジタルツールの基礎の習得には効率性を求めている（図 3-140）。

＜デジタルハリウッド大学院の学生＞

- ・デジタルクリエイティブスキルを使ったビジネスを研究する
- ・働きながら通う 社会人学生 が多い
- ・クリエイティブスキル習得がメインでないので授業が少ない

ツール基礎は、効率的に行う必要がある

図 3-140 デジタルハリウッド大学大学院の学生の特徴²³⁸

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

石川氏はデジタルハリウッド大学大学院にて「デジタル表現基礎」（選択科目、2 ヶ月間の授業）を担当している。制作系の授業が本大学院では現状少ない点と、かつてはデジタルクリエイティブの領域別のデジタルツールの基礎を学べる授業が存在していたが、多忙な大学院生視点では学習効率が悪い、ひいては当該授業の履修率が低いということで、1 つの科目で多くのデジタルクリエイティブ領域に対応できる授業が作られた経緯がある。本授業では、デジタルハリウッド²³⁹が開発した動画教材を活用して、学生が能動的な学習を促しながら、自分自身で各種デジタルツールの基礎を学んでもらうスタイルを採っている。対応しているデジタルクリエイティブ領域は「Web」「グラフィック」「3DCG」「映像制作」「プログラミング」である（図 3-141、3-142、3-143）。学生が 5 領域から学びたいものを選び、自分自身で目標をたてて動画教材を活用して基礎を習得していく。「基

²³⁸ デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

²³⁹ デジタルハリウッド大学大学院の経営母体のデジタルハリウッド株式会社を指す。

礎」の内容には「各領域で成果物を制作する上で必要最低限のツールの一通りの使い方とそれらを組み合わせて応用する考え方」が含まれている。教員は石川氏1名であり、技術領域の質問には一切答えないという姿勢で行っている。教員の属人力に依存せず²⁴⁰に一定以上の学習効果が見られる授業をどのようにして成立させるかが、石川氏のこの科目運営に対する命題である（図3-144）。



図 3-141 石川氏の授業で対応している領域²⁴¹

²⁴⁰ この5領域のスキルを知らない教員であっても、学生の能動的学習を支援できることを目指している。極力、技術内容を教えるのではなく、どのようにして動画教材を使って学んでもらえるかに注力している。

²⁴¹ デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

- 単位:1単位
- 履修区分:選択
- 履修年次:1・2年次
- 時間割:4/24開講 前期1Q 金曜7限
- 定員:24名

担当教員
石川大樹

到達目標

- ・Web/グラフィック/3DCG/映像/プログラミング5領域のうち、希望する制作スキルを動画教材で習得できる。
- ・アダプティブラーニングを通じてデジタル時代の効果的な自己学習方法を体験する。
- ・自ら調べ、選び取り、試し、修正する 能動的な学びのクセを身に着ける。

授業概要

ビジネスプランや企画を実現するためにはプロトタイプを作ってプレゼンすることが大切である。本講座では、効率的に最短で目指すアイデアを”見せられる形”にして表現するための”制作スキルの基礎”を習得するため、各自が希望・選択したデジタルハリウッドの動画教材を、1つの教室に集まって、また自宅で、各自のペースで学習をしてもらう。講師は内容に関する質問は答えないが、学習進捗から学び方をアドバイスする。さらに毎回制作のヒントになる講義や、仲間とのグループディスカッションを通じた気づきを得ながら動画を活かした”能動的な学びと実践力の習得”を目指していく。

主な内容

回数	授業タイトル	授業内容
1	イントロダクション 課題確認面談	・全8回の講義の流れ・取り組み方の解説 ・事前に設定した目標と学習方針を本人と固める個別面談
2	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
3	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
4	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
5	動画教材での学習	・講師と中間面談(前半での学習状況から後半の学習方針と設定目標の見直しをする) ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
6	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
7	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談)
8	動画教材での学習	・講師から各ジャンルの制作のヒントになる講義 ・各ジャンル別のグループで情報共有するディスカッションタイム ・各自、動画教材による個別学習(適宜講師に悩み相談) ・この日に提出した学生は授業中に課題を発表(加点対象)

図 3-142 「デジタル基礎表現」のシラバス①²⁴²

²⁴² デジタルハリウッド大学大学院 「デジタルハリウッド大学大学院 2020年度シラバス 駿河台キャンパス 2020.10.07 更新」 <https://gs.dhw.ac.jp/files/docs/syllabus2020.pdf?202010> (最終検索日: 2021年1月22日)

基礎・理論	デジタル表現基礎A(アダプティブラーニング)
<ul style="list-style-type: none"> ●単位:1単位 ●履修区分:選択 ●履修年次:1・2年次 ●時間割:4/24開講 前期1Q 金曜7限 ●定員:24名 	担当教員 石川大樹
成績評価方法・基準 平常点 20% 難易度別の課題選択と完成度 50% デジタルハリウッドの動画学習の課題への反映度 20% 目標の到達に向けた学習姿勢・積極性・他の学生への貢献度 10%	
【前提条件】 ・合計点が50%以上を可とする ・50%未満または提出がなかった場合の評価は 不可 とする ・教員から提供する動画教材以外で学習した場合は不可とする(進捗と習得判断ができないため) ・提供した動画を学習せず課題のみ提出した場合も不可とする(進捗と習得判断ができないため) ・元々習得しているスキルでのみ作成・提出した課題は評価を減点する(授業を受講した意味がないため) ・別途配布する各項目の評価基準を記したループリックを自分で確認すること	
【下記4点を合計して評価】 ①平常点:20% ②難易度別の課題選択と完成度(※あくまで参考的な指針でこれが絶対ではない) ★★★プラチナ : 80%~60% ★★ゴールド : 50%~40% ★シルバー : 30%~10% (グラフィック) ★★★プラチナ : テラシや冊子の作成 XDでのオリジナルカンパの完成 ★★ゴールド : オリジナルのグッズ・グリーティングカード・XDカンパ2~3ページ提出 ★シルバー : パナー、ロゴの作成、XDカンパ1ページ提出 (Web) ★★★プラチナ : 3ページ程度のオリジナルWebサイト ★★ゴールド : ランディングページ(1ページ)サイト ★シルバー : 動画教材の課題サイトを完成 (3DCG) ★★★プラチナ : 30秒までのムービー(モデル・テキスト・アニメーション・エフェクト) ★★ゴールド : 15秒までのムービー(モデル・アニメーション) ★シルバー : モデリング静止画(モデリングデータとレンダリングした静止画) (映像) ★★★プラチナ : イラストをベースにしたモーションインフォグラフィクスムービー ★★ゴールド : 実写・CG画像・映像などを駆使したMIXムービー(AfterEffectsとPremiereを組み合わせて) ★シルバー : 実写ムービー(Premiereのみで編集・文字入れ) (プログラミング) ★★★プラチナ : オリジナル または動画教材以外のサンプルを制作 ★★ゴールド : 動画内サンプルを改造(改造ポイントのプレゼン含む) ★シルバー : 基礎編の動画内サンプル・課題をすべて提出 (Unity等ゲーム開発環境系) ★★★プラチナ : オリジナル または動画教材以外のサンプルを制作 ★★ゴールド : 動画内サンプルを改造(改造ポイントのプレゼン含む) ★シルバー : 基礎編の動画内サンプル・課題をすべて提出 ③デジタルハリウッドの動画学習の課題への反映度 ・目標設定の時点での、目標を達成するための要件分析が出来ている ・要件分析を元に、動画学習の中でも特に注力する部分が明確になっている ・修了課題提出と同時に、動画教材のどこがどこに反映できたかを明言できている ・動画教材に目標を実現するための要素が足りない場合は、動画教材をベースに どういった追加の学習を自分で行ったかを明言できている ④目標の到達に向けた学習姿勢・積極性・他の学生への貢献度 別途評価の指針となるループリックを用意しているので確認	
	34

図 3-143 「デジタル表現基礎」のシラバス②²⁴³

²⁴³ デジタルハリウッド大学大学院 「デジタルハリウッド大学大学院 2020年度シラバス 駿河台キャンパス 2020.10.07 更新」 <https://gs.dhw.ac.jp/files/docs/syllabus2020.pdf?202010> (最終検索日: 2021年1月22日)

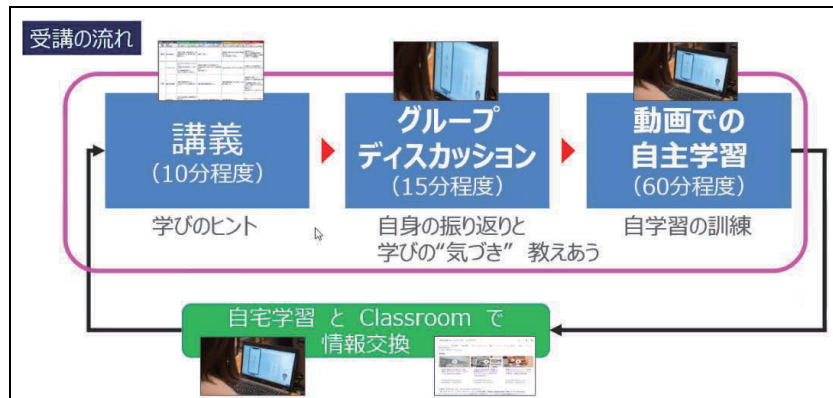


図 3-144 「デジタル基礎表現」の授業の流れ²⁴⁴

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

少なくとも学生が興味を持っているからこそ、デジタルハリウッド大学大学院を選択して在籍しているわけである。石川氏の授業は「教える」よりは「学生自身が作りたいものを作る」を中心とした基礎技術習得型にしている。目標設定にも繋がる内容であるが、「興味を持っているもの」「作りたいもの」を起点に科目履修、目標設定へ促している。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

「デジタル表現基礎」のシラバスと受講の手引きには、「この授業は単位をとるためではなく、自分が作りたいものを作れるようになる授業である」「動画教材を活用して、学生自身に能動的に学習を進めてもらう、技術のレクチャーはない」「評価はループリックに基づいて行う」という趣旨を明記している。クリエイティブ教育で最も重要なことは、クリエイティブ欲求を持っていることである。教養や知識として目的・目標をしっかりと持っていない中でクリエイティブを学ぼうとしてもなかなか続かないという現実があるからである。

第1回目の授業までに、「学生が作りたいもの、作りたかったもの」をベースに目標設定してもらい、第1、2回目の授業時の個別面談にて石川氏はその目標の具体性・妥当性・学習内容の要素分解を確認している（図 3-145、3-146）。石川氏からこうした方が良いという話はしないようにしており、あくまでも学生自身に自ら納得のいく意見・答えを出してもらっている。その意見・答えを引き出すための質問を投げかけている。面談を通じて、学生自らが立てた目標達成にコミットしてもらうことが重要である。その結果出来上がった目標・計画に則って毎週の進捗確認を行っている。なお、第1回目の授業前に目標・計画が記入できている学生は全体の約80%である。残りの20%の学生については、第1回目の授業時に記入してもらっている。

脱落する学生もゼロではない。このタイプの学生は年齢や大学院入学の経緯はバラバラで

²⁴⁴ デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

あるが、「教えてもらえると思って履修したけれど、実際は自分自身が能動的にやっていく必要がある授業スタンスだったので履修継続を見送った」という点はほぼ共通している。

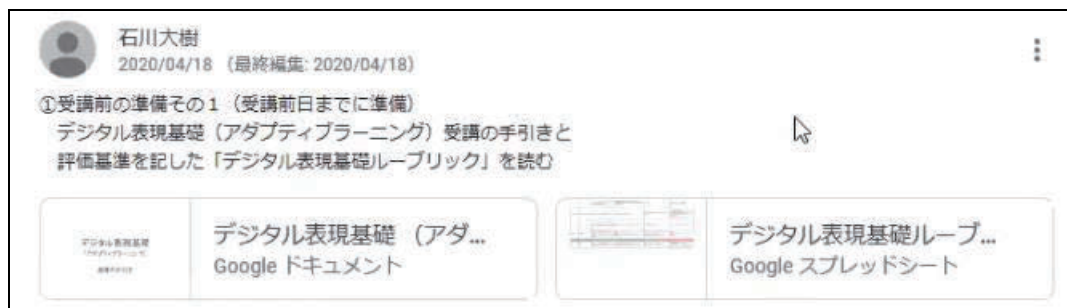


図 3-145 第 1 回目の授業までに学生が行うこと (GoogleClassroom で共有) ①²⁴⁵

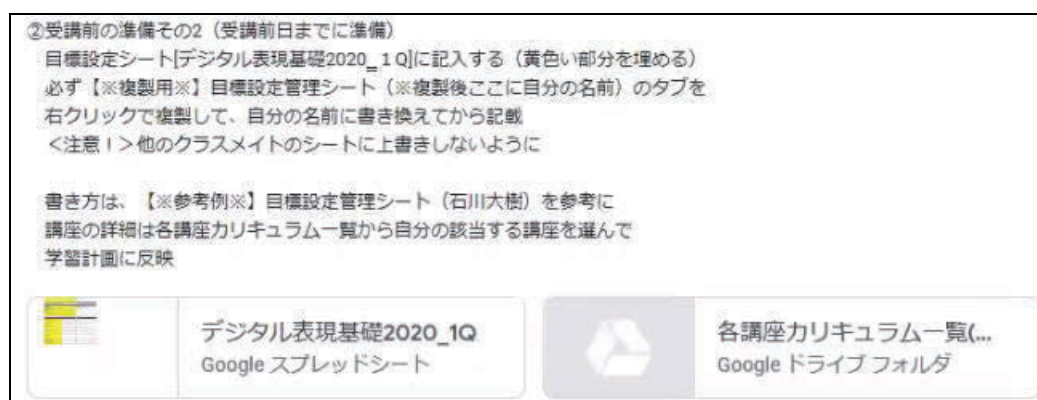


図 3-146 第 1 回目の授業までに学生が行うこと (GoogleClassroom で共有) ②²⁴⁶

(6) 学生 (生徒) 状態の確認 (記録・分析・評価) する上での工夫

学生による進捗の記録と石川氏による分析・フィードバックはスプレッドシートで作った目標設定シートとディスカッションタイムを介して行っている。

学生には、目標設定シートに「達成したい目標 (作りたいもの)」「目標に対する要素分解」「週単位の学習スケジュール」「週単位スケジュール実績に対する振り返り」を記入してもらっている (表 3-10、3-11、3-12)。学生記入内容に対して、石川氏がすぐに分析・フィードバックを行っているわけであるが、技術内容に関わるフィードバックは行っておらず、進捗や努力に対して認める・讚えるコメントしかしていない。この部分で技術的なフィードバックをしてしまうと石川氏以外の教員の場合に再現できなくなる。技術内容に依らないフィードバックを工夫することで学生のモチベーションの維持・向上を図っている。

全 8 回の授業の途中で目標修正を行う学生に対応できるよう、途中で中間面談を配置し各

²⁴⁵ デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

²⁴⁶ デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

学生の状況に柔軟に対応している（図 3-147）。その場合は、目標設定シートの書き直しが発生する。中間面談においても、学生自らが立てた修正目標の達成にコミットしてもらうことが重要である。

ディスカッションタイムは、指定されたグループ（リーダーと書記を決めておく）で「1週間の学習の振り返り」「悩みや苦勞している所」「学習方法で良かった気付き」「有益な情報共有」を皆で共有し、発表者へ他メンバーがアドバイスをを行っている。その様子は、スプレッドシートでリアルタイムに共有できるようにしている（表 3-13）。

評価はループリックに基づいて行っている（表 3-9）。各学生が作りたいものに対する技術習得をどこまで達成できたかについては評価の主対象としていない。あくまで、全授業回が終わった後も各学生が作りたいものに対して、継続的に能動的学習できる基礎が習得できているかどうかの「態度」を評価している。具体的なループリックでの評価軸（縦軸）は、「目標設定・目標遂行」「選択した動画教材の学習」「授業態度（ディスカッションタイム時の貢献、授業中の自主学習態度、GoogleClassroomでの貢献）」「修了課題」である。配点軸（横軸）は「期待以上にできている（12点）」「十分にできている（8点）」「一応できている（6点）」「評価が難しい or 努力を要する（0点）」としている。また、目標難易度（例えば、目標としている技術レベルの高低）で不公平が起きないように、追加的な教員加減点の基準も設けている。

表 3-9 「デジタル基礎表現」のループリック²⁴⁷

評価項目	ループリックの軸	A 期待以上にできている (12点)	B 十分にできている (8点)	C 一応できている (6点)	D 評価が難しい or 努力を要する (0点)
目標設定 目標遂行	目標設定	・目標シートに対してのスキルがどこに必要かを明確に理解しており それを元に動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた ・学習の途中でもゴールを振り返り、設定した学習目標がクリアした うえで ・進捗や達成感を講師、教員とすり合わせて再設定できた	・目標シートに対してのスキルがどこに必要かを明確に理解しており それを元に動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた ・目標シートに対してのスキルがどこに必要かを明確に理解しており それを元に動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた	・講師とすり合わせて必要なゴールの設定を行った ・目標が明確になっている ・目標設定シートを自分で記入し、目標を定めず ・目標設定シートへの記入も最後まで完了していない ・動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた ・目標設定シートへの記入も最後まで完了していない ・動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた	・目標設定シートへの記入も最後まで完了していない ・動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた ・目標設定シートへの記入も最後まで完了していない ・動画学習 + α の学習目標を講師と相談して決定し、それを スキルシートに記入し、自分でシートに記載できた
	目標設定の遂行	・設定した学習スケジュール通りまたは期待以上進捗がとれている ・進捗状況の把握も定期的に行っている	・設定した学習スケジュールの進捗が期待以上進捗がとれている ・進捗状況の把握も定期的に行っている	・学習スケジュールの進捗が期待以上の進捗がとれている ・進捗状況の把握も定期的に行っている ・進捗状況の把握も定期的に行っている	・学習スケジュールの進捗が期待以上の進捗がとれている ・進捗状況の把握も定期的に行っている ・進捗状況の把握も定期的に行っている
動画学習	選択した動画の学習	・動画をすべて学習し、2週目の学習に入っている ・動画学習の進捗も自分で把握し、講師に学習の進捗を報告した	・動画をすべて学習した	・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分	・動画を学習できていない ・動画 1 つの学習時間講師が非常に短い ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分
	授業態度	・高グループリーダー役となり、ファシリテートしていた ・他のメンバーの発言にも積極的に参加していた ・他のメンバーが悩んでいるときにアドバイスをしていた	・自分の発言も積極的に参加していた ・他のメンバーの発言にも積極的に参加していた	・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分	・状況が他人にないで発言しなかった ・状況が他人にないで発言しなかった ・状況が他人にないで発言しなかった
授業態度	授業中の自主学習態度	・授業中でも動画学習を進められていた ・他の学生へのアドバイスなども積極的に行っていた	・授業中で積極的に動画学習を進められていた	・授業内で動画学習を進めているが、関係ないサイトなども見たり ・授業内で動画学習を進めているが、関係ないサイトなども見たり ・授業内で動画学習を進めているが、関係ないサイトなども見たり	・動画を学習せず、内職をしていた ・自主学習もしていない ・授業時間講師が非常に短い ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分 ・選択した動画のうち必要と判断した部分を学び、教員に質問を伝え、 5分
	GoogleClassroom	・共有して他の学生の参考になる情報を積極的に共有できた ・学習中に気づいた動画の不足点を共有して指摘出来ていた	・共有して他の学生の参考になる情報を積極的に共有できた	・教員に積極的に質問が出来ていた	・教員に積極的に質問が出来ていない ・教員に積極的に質問が出来ていない
修了課題	修了課題自体	・内容が明確 ・オンライン上で動画を学習し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが	・非提出 ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが
	修了課題	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが	・非提出 ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが
修了課題	修了課題自体	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが	・非提出 ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが
修了課題	修了課題自体	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・内容を明確に説明し、講師がしっかりと説明されている ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた ・講師の質問に対して一部の内容でも質問が返ってきた	・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが	・非提出 ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが ・動画を学習して作成した作品を応用して美術や文章を交えてはいるが

247 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

表 3-10 目標設定シート（黄色部分は学生記入）①²⁴⁸

目標設定管理シート	講師記入欄
<p>名前</p> <p>Googleアカウント名</p> <p>① 興味のある領域（プルダウンで選択）</p> <p>Web</p> <p>② 今まで使ったことのあるクリエイティブツール・ソフトと、使えるレベル <small>(例) Photoshop ツールの一通りは理解済み、写真加工やロゴまでは出来る)</small> Photoshop ツールの基礎知識はあるが、作成経験は豊富ではない Premiere : 未使用 AfterEffects : 未使用 Illustrator : 一通りのツールの基礎、操作は理解しているが、作成経験は豊富ではない</p>	<p>③講師からスキルに關しての質問</p> <p>グラフィックソフトは学習の中での作業はやったことがあるレベルでしょうか 決断をするにあたっては、モチベーションは自分で作る必要があるのでは、 もし必要であればIllustrator/Photoshopのスキルも上げておくことよいかもしれません。</p>

表 3-11 目標設定シート（黄色部分は学生記入）②²⁴⁹

<p>① 達成したい目標・制作できるふようになりたいモノ <small>(90分の学習時間で自由発表、出来る限り具体例)</small> 第一目標としては自分のOHPを自由に作成する技術を習得する</p> <p>② ①を達成するために必要な条件の分解（優先度まで）ソフトやプログラムの名前や、作りたいものを構成している要素を考えて <small>【目的に必要な条件】</small> ・WEBページを作成する <small>【学習条件】</small></p>	<p>③ 講師アドバイス</p> <p>今回はWebの習得ですね。まずはHTML/CSSの基礎を習得するのをメインに進めましょう</p> <p>④ 授業設計について ()</p> <p>HTML/CSSワークを進めてください。カフェサイトの制作をまずゴールにして4週目くらいまでに学習を完了してください。</p>
---	---

表 3-12 目標設定シート（黄色部分は学生記入）③²⁵⁰

名	学籍スケジュール	講師記入欄
学籍スケジュール	スケジュール通り進めたいか？取り廻り	講師より
① 1 項目 Chapter1-3 Webサイトの制作にあたり基礎知識の理解、Dreamweaverのインストール、HTMLの基礎の習得、実践	今回はStep3の途中まで学習が完了しました。WEBサイトの基礎知識やツールを一通り理解しました。Dreamweaverも触り、HTMLの具体的なルールを覚えていくところです。目標としては来週までにStep3までを完了させ、トップページの作成まで進める予定です。	1項目お疲れ様でした。進捗としては悪くないですね。まずはHTMLをしっかり理解することから進めようと思います。
② 2 項目 chapter4-6 HTMLにてトップページの作成	HTMLの構文作成を勉強。今回はあまり暗記が限られず、やり手いなくなったのが良かったです。来週は早急にビジュアル学習を終わらせ、自分のOHP作成に専ら集中させてほしいです。	2項目お疲れ様でした。毎日1時間でも進められると良いですね。
③ 3 項目 chapter7-14 CSSにて装飾を加える	一通りの学習学習は完了しました。並行して今週以降は自分のOHP作成課題まで着手していきたいです。動画学習は自分のスケジュール管理が大変ですね。	3項目もお疲れ様でした！学習進められているのは素晴らしいことです。昨年の学生さんよりもしっかりと学習を進めているので問題ありません。スケジュール管理が重要です。1日のペースや1週の進捗の定期的な確認からペースを少し落としていいかもしれません。OHPで進めることも進めよう！
④ 4 項目 chapter15-20 OHPデザインを作成する	少し遅れています。来週でカフェサイトの作成は完成し、OHPデザインに取り掛かっています。	カフェサイトお疲れ様でした！コーポレートサイトに気づいたことがあれば教えてください。
⑤ 5 項目 chapter21-22 性上から実際のアップロードまで進める	今週コーポレートサイトを完成させる予定が、また来週出かけてしまったので、次回でリカバリ致します。合わせてOHPの課題として自分のOHP作成ですが、本日のOHP制作を整理致しました。残り3週、本も買ったので勉強しながら進めたいです。	5項目お疲れ様でした。サイト制作の整理ができれば、あとは何が必要かを整理して足りない部分は学習を進める感じでやっていきましょう。参考図書も学習開始前に配布をお願いします。
⑥ 6 項目 chapter23-24 プロフィールサイトへの改修、課題の作成	遅れませんが、。仕事等の影響でほとんど手が付けられませんでしたが、来週までに自分の課題に手を付けプロトタイプを作成します	6項目お疲れ様でした。なかなかお仕事が忙しい運もあると思います。なので進められる運にほとんど進めて、リカバリできるまで進めてください。
⑦ 7 項目 自分のホームページの作成	動画学習はカフェサイト終了、コーポレートサイトがもうすぐ完了ですが、自分のホームページ制作を開始しました。まずはカフェサイトの改修を空欄に、簡単なカンプを作成。あと2週間で完成させる予定です。コーポレートサイトからの反映も必要です。	ペース進められているので1つ作った事例を改造でもいいですし、オリジナルでHTML/CSS組んだものだとより評価が高くなります。ぜひ残り2週、作
⑧ 8 項目 自分のホームページの改修、様々な機能の追加、完成		

248 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

249 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

250 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

表 3-13 ディスカッションタイムでの各学生状況の共有²⁵¹

名前	・ 1週間の学習の振り返り ・ 悩みや苦労している所	・ 学習方法でよかった気づき ・ 有益な情報の共有	他のメンバーから 発表者へのアドバイス	
■■■■ (サブ書記)	グラフィックワークのStep2まで進めた 自分から作るデザインはなかなか難しいと感じた ラフスケッチをした	ない	もっと練習しましょう。 フラットデザインを参考にしてください。	6
■■■■ (リーダー)	色々なサイトを観ました。 シンプルかつオシャレなデザインを探していた	ペンタブレットが必要と感じる。 ブラシツールを使ったが面倒と感じた。 パスツールが難しい。	見やすい資料の一生使えるデザイン入門という参考書がおすすめ フラットデザイン参考にしてください。	6
■■■■ (書記)	グラフィックの動画を全て観た ペンツールの使った後のパスの部分のコントロールが難しい 90パーセントの完成度のアイコンを作成した 曲線の部分を頑張った まず最初に紙で描いて、写真に撮り、スキャンして、ペンツール 企画書が完成しました。 ポートフォリオが紙と重なる	自分の作りたいものに似ているものをネットで検索して真似したら作りやすくなる ペンツールが一番役に立つと感じた 最初からペンツールで描くのは難しいと感じた。	もっと練習しましょう。 https://takuo4649design.com/weblog/note/archives/4565	6
		プロの作ったジアートオブシンゴジラを観て参考にしたい	動きのある絵を動かしたいと思う。 パワポポイントのアニメーションを使えばいいと思う	

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
目標面談					中間面談			修了課題相談
ガイダンス	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義
個人面談	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション	グループ ディスカッション
動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習	動画 自主学習

図 3-147 中間面談を入れることで各学生の目標修正に対応している²⁵²

251 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

252 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

各回の授業冒頭 10 分程度でワンポイント講義を行っている。そこでは、学習方法や必要な情報を入手する方法・調べる方法といった能動的学習を支えるヒントになる内容を提供している。そして、宿題としてクラスメートと情報を調べてシェアできるような誘導を行っている（図 3-148、3-149）。コメントをすると評価が加点される。今後、ワンポイント講義内容も動画教材化する可能性があるという。



図 3-148 宿題として有益な情報を調べてシェアする①²⁵³



図 3-149 宿題として有益な情報を調べてシェアする②²⁵⁴

253 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

254 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏からの提供

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

デジタルクリエイティブの5領域の動画教材はデジタルハリウッドが制作している。石川氏が各領域の専門教員（Subject Matter Expert²⁵⁵）と「最低限、必要なスキルの特定」「それをどの順番でどのように教えていくか」を議論しながら各動画教材を制作している。動画教材の制作方針・軸は石川氏がディレクションしており、細部のシラバスは各専門教員が作っている体制である。

動画教材制作にあたり、可能な限りデジタルクリエイティブ各領域に関する質問が受講生から発生しないレベルの丁寧で詳細な内容に作り上げている。それでも、質問がある場合は、あくまで自分自身で調べて解決してもらい、同じ領域を学んでいる学生同士のピアラーニングを通して解決してもらおうスタンスである。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

2020年度「デジタル基礎表現」への学生満足度（毎回授業後のアンケート調査と全8回授業終了後の総合アンケート調査から算出される）は93%であり、デジタルハリウッド大学全体の教員ランキングで3位を受賞した。具体的な学生満足内容は表3-14の通りである。

表 3-14 2020 年度「デジタル基礎表現」への学生満足内容（原文ママ）²⁵⁶

感想 フリーワード
石川先生が優しく、今回のグループメンバーたちがおもしろくて、楽しかったです。
毎週のディスカッションタイムでたくさん情報をいただいたので、助けられました。
授業内の学生をディスカッショングループで分けて、毎週ディスカッションタイムを行うことがとても良いと思います。やはり他人の意見を聞くのは重要です。自分が気を付けなかった所を洗い出して、すごく役に立ちました。
受講者は初心者から経験者までレベルが違うので、基礎と高級な授業が区別して設けられると良いと思います。
この授業を通して、 data structure の知識を身につけて、もっと効率的なプログラムができるようになりましてよかったです。
自習を中心としての授業は作品制作に相応しいと思います。そしてコミュニケーション時間、先生との相談は私の制作の推進に深い意味があると思います。
大変貴重な授業だった。先生は動画学習の大切さなどを教えていただき、自主学习なのですが、どうしても気持ちが変わりつつあるところをフォローアップしていただける本当に貴重な授業だった。このような授業もあるのか。と最初は驚きましたが、最後の授業になるにつれ、先生のメンタリングの重要さが痛感できました。

²⁵⁵ 略称で SME と呼ばれる。

²⁵⁶ デジタルハリウッド大学大学院 事務局からの提供

<p>一つ一つ動画学習をこなして学ぶことの重要性を先生の説明でもいただいております、身体へ徐々にシミつけられたのは良かった。気持ちとして、もっと学びたいという思いが強いが、やってきて少し前進するだけでお確実にゴールへ近づいているのが実感できた。次の期においてもさらに学習を重ね、ステップアップしていきたい。</p>
<p>デジハリの動画教材はとても有益だと改めて感じた。全ての動画教材を幅広く網羅するだけでも1年分の学費の価値はあるなと思った。ブレイクルームでディスカッションする時間がとても有意義だったため、今後も継続してほしいと思う。</p>
<p>1Qから毎週継続して学習し続けたことで、3DCGとAdobe製品(映像ソフトメイン)の使い方を一通り身に付け、アウトプットを出せる水準までのスキルを習得することができてほんと良かった。自分の必要な分野について動画学習で進めていくスタイルは、個人的にとっても取り組みやすかった。授業後半になってくると、メンバーの制作物を実際に見ながら技術的な話ができることも有益だった。</p>
<p>今までの感想としては1回から8回目を通じて動画をみながら自分が作り物を作って非常に良かったと思います。</p>
<p>あと一週間と少し、どうにかして、前向きに取り組んでいきたいと思います。頑張って、頑張りたいと思います。</p>
<p>教材が自分のやりたいことのど真ん中であってもそうでなくても、非常に濃密に学べる授業だと思います。ただ、初級者には授業外にかかる時間が非常に多いので大変かもしれません。もう一度履修したい気持ちはありますが、他のスケジュールとの兼ね合いで検討したいと思います。</p>
<p>ありがとうございました。動画教材主体で、先生からコメントをいただきながらスキルを高めていくという授業は初めての体験でした。</p> <p>自分の主体性が問われる。計画的に進めないと無為に時間が過ぎてしまうだけだ。この経験はこれからの自身の研究の進め方に大きな力になると考えております。また、班のリーダーをさせていただき、メンバーの意思疎通に注力しましたが至らない点多々ありましたが、これもいい経験でした。修了課題提出後みんなで見せ合おうと計画しています。</p>
<p>1つの課程で異なる課程を学ぶことができ、私はとても面白いと感じます。同時に同じ目標、違う考えの学生と交流することができて、多くのことを学ぶことができます。</p>
<p>授業を勉強する前に、先生はみんなとの面談を通じて、学生の勉強したい内容を理解していません。そして、学生の学習計画と案を構築してくれます。計画の内容によって、先生が提供する教育ビデオを勉強します。教育ビデオの内容は詳しく説明しています。その後毎週自主的に勉強し、学習状況報告書を提出し、毎週授業前に学習の資源と素材を提供し、効率的な学習方法を毎週グループで討論し、先週の学習成果を分かち合います。それ以外にグループ討論では、お互いに交流し、学習の方法を提供します。問題がある場合は、先生と面?してもいいです。先生は相応の意?を提出します。后期の授?で他のソフトの内容を引き続き勉?したいです。</p>
<p>この授業を受けて、初めてデジタルハリウッドの人達はお話する機会ができ、とても楽しかったです。特に16期生の先輩方がデジタルハリウッド近くの美味しいオススメのお店や、他の授業での課題などを一緒に考えてくれたり、いろんな雑談ができて、とても楽し</p>

<p>く授業が受けられました。デジタル表現基礎 C も受講しようと思っていますのでまた、よろしくをお願いします。</p>
<p>たくさんの分野が勉強できてとても嬉しいです。</p>
<p>この授業で色んなものが学べるのが一番いいところです。ですが、全く未経験なものを勉強してみたいと思っていたら、最初の目標設定で本当に迷っていました。全然浮かんでこなかったのです。でも、今振り返って見れば、ちゃんと目標を持って勉強するのが良かったです。今できているものは全然大したものではないですが、自分なりに誇ってもいいと思っています。</p> <p>それに、プログラミングをやる方がすごく少なくて、私の選んだ Swift に来れば私しかないの、孤独感が凄かったです。毎回グループディスカッションをいい感じでやっていましたが、やはり同じく Swift をやる仲間がいたら良かったなと思います。</p> <p>Swift 動画教材はとても良かったです。説明が分かりやすく、内容も面白かったです。できれば、もっと量を増やして、細かい部分も説明していただければと思います。とても個人的な意見ですが、何か初めて出てくる構文を使う前にまずその構文の説明があれば大変助かります。</p>
<p>最後石川先生にお礼を申し上げたいです、本当にありがとうございました。</p>
<p>毎回のグループワークは雰囲気がいいで、たくさんの情報を受けています。その後もセルルックを勉強して、もっと多くの知識を勉強して、もっと良い作品を作りたいです</p>
<p>とても学習が出来ました。2Q も引き続きよろしくお願いします</p>
<p>いい先生です。自由な授業は私たちに大きな成長空間を与えてくれました。</p>
<p>とても役に立つと思います、いろいろな知識を学んでた。たくさんを考えてて。悪かった点はありませんと思います。</p>
<p>学習の過程は自分と戦う過程だと感じました。自分こそ自分の最大の敵です。</p>
<p>指導教員の適切な指導の下、学習スケジュールが組まれていったと思いますが、自身は路線変更を決める回で、コーポレートサイトからポートフォリオサイトへと切り替えました。指導教員の方からはカフェサイトの方から進めていった方がいいという事だったので、しばらくそれを続けていたのですが、そのボリュームが思いの外多く、コーポレートサイトのチャプターに入る事なく、路線変更をした感じです。過去のポートフォリオが眠れぬ内に公開出来るのはいい事なのですが、最初の目標設定に沿った形で指導して下さった方が嬉しかったです。でも、これで基礎固めは出来たと思うので、後に必要になりそうな時までには機会を改め直すことにします。全 8 回の講義お疲れ様でした。</p>
<p>自分の制作能力が向上して、新しい知識をたくさん学びました。趣味と同じクラスの人たちと交流して、お互いに促進して、本当によかったです。</p>
<p>UnICTy に関する知識は确实勉強になりました。</p>
<p>目標設定管理シートの通りにお家で学習してきました。自分と先生に感謝します。</p>
<p>自分での学習のポイントは何とかわかりました。自分での学習はつまりただの勉強だけではなく、自己管理も大切なんです。</p>

今後の課題については、依然として「動画教材のさらなる改善」「授業運営方法の工夫」である。後者は「学生の動機付け」に関連しており、「デジタル表現基礎」が現状は選択科目であるため、ある程度、科目内容に興味関心を持っている学生が履修してくるのに対し、履修選択前に興味関心を喚起する仕掛けを以て、（最初は興味関心が顕在化していなかった）履修学生を増やす必要性を感じている。仕掛けの例として、事前に過去履修の学生の制作物を紹介して、自分自身の作りたいものをイメージできる機会を作ることを考えている。

そして、「ルーブリック」をしっかりと学生に意識させる促しの機会を作りたいと考えている。配布だけだと見ない学生がいるかもしれない、解釈が異なっているかもしれない怖れがあるので、第1回授業時に解説する時間をとる予定である。

科目履修後の学生の継続的な制作物を把握したい。それは、この科目の目的である技術の習得と能動的学習の習慣化を示すエビデンスになるためである。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

教員の資質に依らない授業設計を行っている中で最低限必要なものは「コーチング」の基礎である。「コーチング」とは学生の成長を促すために、気付きや答えを問いかけによって学生から引き出すことであると考え。 「なんでも自分でやってみる、解決してみる」という気質の持主の教員の方が学生に適切な助言ができるように思える。

デジタルクリエイティブ領域の話に限定すると、どのジャンルでも構わないので、自分で学習して企画して制作したという経験を持った方が望ましいと考える。

3.2.19 探究学舎 講師 木村 光太郎

学校紹介²⁵⁷：

受験も勉強も教えない教室。探究学舎は勉強のやり方や問題の解き方を教えるような、いわゆる学習塾ではない。成績アップも合格も目指していない。その代わりに、子どもたちが「好きなこと」「やりたいこと」を見つけることができるように、「もっと知りたい!」「やってみたい!」という興味の種をまき、ひとりひとりの探究心に火をつける、そんな興味開発型の学び舎である。学びの特徴の以下の通りである。

(五感で体感する)

例えば宇宙の授業であれば、ビー玉を地球の大きさに見立てて、太陽の大きさの巨大風船を膨らませて触れる。元素の授業であれば、本物の元素を見てみる、触ってみる、実験する。五感すべてで体感することで、イキイキとした驚きと感動が生まれる。

(まるで映画をみているように、ストーリーで学ぶ)

人々は長い年月を経て自然の神秘を解き明かし、人類の英知を積み重ねてきた。蒸気や電気といった自然の力を利用して、鉄道やコンピューターといった技術を発明してきた。この長く壮大なストーリーと共に科学や数学、経済や芸術を学ぶからこそ、深い驚きと感動と出会うことができる。探究学舎は全ての授業を通して、この「知のバトンリレー」を伝えている。

(1つのテーマを盛り立てる複数のアプローチ)

例えば歴史の授業であれば、武将カードを使って並べ替えたりカルタをしたり、ジオラマを使って陣形を考えたり、替え歌の合唱やクイズ大会に挑戦したり、複数のアプローチを組み合わせることで、色とりどりの驚きと感動が教室にあふれる。

ヒアリング調査日時：2021年1月11日(火) 12:00-14:00

形態：オンライン面談 (Zoom)

オンライン面談参加者：

学校法人 YIC 学院 理事・統括本部長 岡村 慎一

デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

²⁵⁷ 探究学舎 <https://tanqgakusha.jp/about/> (最終検索日：2021年1月22日)

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

アダプティブラーニングという言葉は使っていないが、探究学舎の目的は「各生徒の好きなものを見つけて、将来それで楽しく食べていけることを目指す」というものである。

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

大きく分けて2タイプに分かれる。1つ目は保護者²⁵⁸が探究学舎を見つけて生徒（子ども）を入塾させるタイプである。教育に興味を持っているが受験ばかりさせている風潮が正解かどうか少し疑問に思っている保護者である。2つ目は学校になじめない、浮いてしまうような生徒が集まってきている。探究学舎としては、上記タイプ以外にも、より広範の生徒を集めていきたいと考えている。授業への保護者参加を歓迎している学校である（図3-150）。

生徒の年齢層は小学2年生から5年生がメインである。ルール上は幼稚園の年長から、高校3年生までを受け入れているが、メイン年齢層以外の実際の生徒数は少ない。授業クラスは「小学生低学年の部」と「小学生高学年の部」と「中高生の部」に分けており、授業内容の編集を変えている。



図 3-150 保護者も授業に参加²⁵⁹

²⁵⁸ Facebook 等 SNS でほぼロコミで顧客獲得ができている状態である。

²⁵⁹ 探究学舎の Web サイトより引用 <https://tanqgakusha.jp/about/>（最終検索日：2021年1月22日）

(3)どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

探究学舎の教育メソッドとして、「生徒（子ども）に如何に驚きと感動を与えられるか」という大きなメッセージを持っている。生徒（子ども）に好きなものを発見してもらいたい時に何が必要なのかを考えた時、手段が「驚きと感動を与える」という結論に行きついた。「驚きと感動」を与えることで、生徒（子ども）の認識との間に大きなギャップを作れる。ギャップが発生すると生徒（子ども）はその理由等を考えたくなる。このように「驚きと感動」は生徒（子ども）の興味関心のトリガーになり得る。

そして、生徒（子ども）に伝えるために「驚きと感動」をストーリー化する必要があるが、ストーリーは調べれば誰でも分かってしまうので、そのストーリーを組み立て（順序、言い方、問い掛け）て如何に驚きと感動を与えられるかという編集ポイントこそがメインファシリテーター²⁶⁰・学校の価値がある。

探究学舎の教育内容は、2ヵ月全8回をワンセットで1つのテーマ（宇宙編、音楽編、食編、アート編、等）に絞って授業を提供している。1回の授業はリアル授業90分間、オンライン授業75分間である（図3-151、3-152、3-153）。宇宙編の授業を行っても、生徒全員が宇宙に興味を示してくれるわけではないので、生徒個別が好きなもの・好きになれるものが何かあるはずと信じて、色々なテーマを投げている。同じテーマの中でも色々な小テーマを組み込んでいるというのが探究学舎の教育内容の姿勢である。なにか1つでも興味を示せるものを見つけて欲しいと考えている。

探究学舎の教育レベルは、クラス毎（「小学生低学年」「小学生高学年」「中高生」）で同じ「テーマ・内容のレベル感」であってもストーリーの編集ポイントを工夫している。リアルの授業は生徒定員36名とその保護者が参加すると合計80名程度になる。オンライン授業は生徒定員が約150名である。リアルとオンライン両方の生徒数は合計1,800名程度である。

²⁶⁰ 探究学舎では、授業を行う講師のことを「メインファシリテーター」と呼んでいる。



図 3-151 探究学舎のオンライン通塾²⁶¹



図 3-152 探究学舎の授業テーマ例²⁶²

²⁶¹ 探究学舎の Web サイトより引用

https://online.tanqakusha.jp/?utm_source=tanqhp&utm_medium=referral&utm_campaign=20200820join（最終検索日：2021年1月22日）リアルな教室への通塾コースはコロナ禍により2021年1月22日現在停止中。

²⁶² 探究学舎の Web サイトより引用

https://online.tanqakusha.jp/?utm_source=tanqhp&utm_medium=referral&utm_campaign=20200820join（最終検索日：2021年1月22日）



図 3-153 探究学舎のオンライン授業模様²⁶³

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

まずは、授業の冒頭に生徒が言いやすい場を作ることをノンバーバルで伝えることが重要である。この場は自由に意見を言える場所であることを理解してもらうことで心理的安全性を作る。その上で「見立て」「仕立て」「仕掛け」という動機付けに関わる工夫がある。

「見立て」は、生徒（子ども）の前提を知っておくということである。どのくらいの知識レベルなのか、どのような言葉・振りに喜ぶのか、ということを確認しておくべきである。これは、ミハイ・チクセントミハイ²⁶⁴の言う、人が熱中している状態（フロー状態）に必要な要素は、「明確な目標」「適切な難易度」「即時フィードバック」という考え方をベースにしている。

「仕立て」は、メインファシリテーター自身が授業前にできることをしっかりやっておくという意味である。例えば、授業内容の下調べ、説明の仕方・順番の検討等を通じて自信を持って授業に臨める状態にしておくことである。

「仕掛け」は、授業をどのように展開していくか、授業中の各タイミングで誰にどのようなカードを切って、どのような場の雰囲気にして、授業のゴールに持っていくかという授業運営のスキルである。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

各生徒個人の目標は設定していない。各テーマの授業において、生徒にそのテーマのことが好きになってもらうことが目標である。

²⁶³ 探究学舎の Youtube チャンネルより引用 <https://youtu.be/eJNMeONQnc>（最終検索日：2021年1月22日）

²⁶⁴ ハンガリー出身のアメリカの心理学者。フロー理論の提唱者。

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

各テーマの授業について、保護者アンケートをとっている。生徒アンケートもやった方がよいと思うが、現状は出来ていない。

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

オンライン授業の後に Zoom でホームルームを 30 分程度開催している。1 クラス生徒数が 25 名程度であり、メンターが 1 名ついて生徒観察している。各生徒の成長具合や興味度合を測る指標として（図 3-156、3-157）、そして興味をより開発することを目的として、「クエスト」を提供している（図 3-154、3-155）。「クエスト²⁶⁵」は、やりたいと思えるようなワクワクする宿題である。やるやらないは任意である。火のついた好奇心、探究心を持続させる仕組みである。「クエスト」は 6 種類のカテゴリーに分かれており、「表現系クエスト（歌ったり、踊ったり、プレゼンしたり）」「体験系クエスト（足を使って、色々な場所に行ってみる）」「創作系クエスト（手を動かして、何かを作り出す）」「協力系クエスト（他人と一緒に協力しながら取り組む）」「思考系クエスト（頭を使って、考え抜く）」の 6 つである。

「ディスコード」というクローズドな SNS アプリを使って、ホームルームの 25 名生徒が所属するスレッドを立てて、各生徒のクエスト状況等をシェアしてもらう。メンターは「即時フィードバック」を意識して、ディスコード上でその生徒に「クエストに取り組んだこと」という努力の事実をフィードバックする。生徒がクエストをやって良かった・楽しかったという気持ちをメンターが認知する、担保する。そのことにより、生徒のテーマへの没入感や興味深耕を促進している。

²⁶⁵ たくさんの生徒たちにやってもらうためには、如何に家庭で新たに用意してもらう必要備品・機材が少なく、面白い内容かどうかは鍵である。

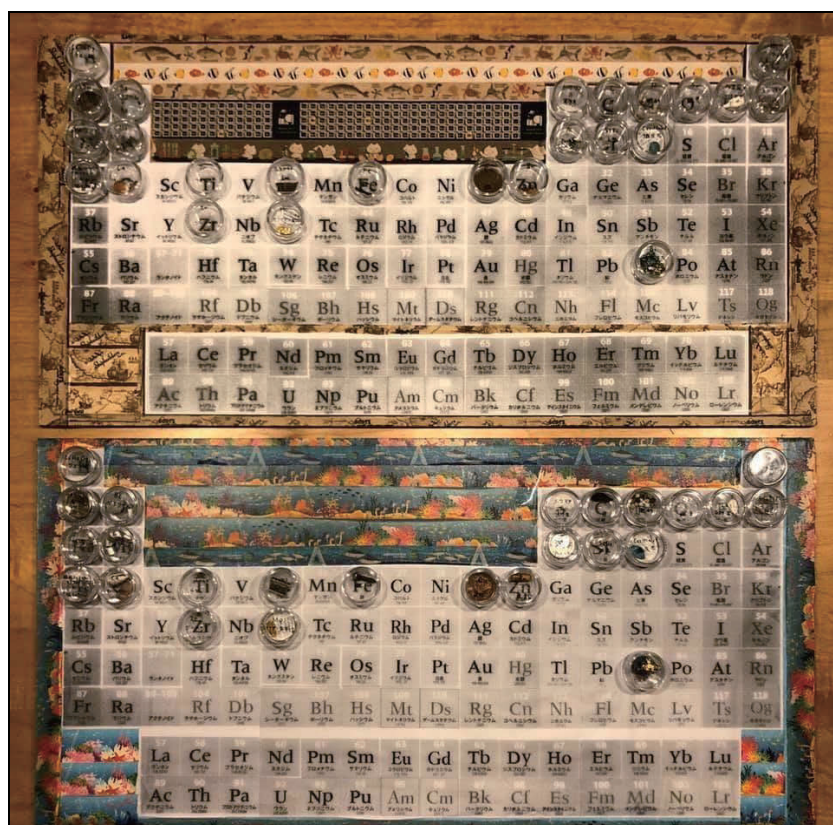


図 3-154 クエストの例（元素編：自分だけの「マイ周期表」を作ってみよう！） 266



図 3-155 クエストの例（建築編：橋構造を探究し、パスタでオリジナルの橋を作ろう！）

266 探究学舎の note より引用 https://note.com/tang_unofficial/n/n594fab3fce35（最終検索日：2021年1月22日）



図 3-156 各種クエストの実施・クリア記録²⁶⁸

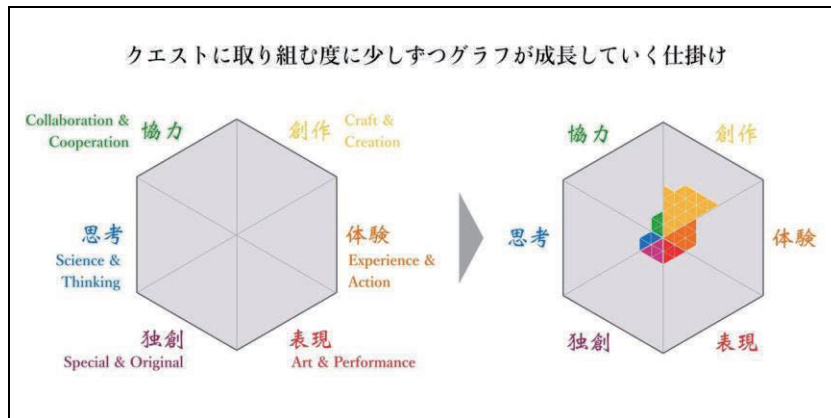


図 3-157 各種クエストの実施・クリア状況から生徒の特性可視化²⁶⁹

(8) 学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

「クエスト」による授業後も興味関心を継続させる仕組みと、ディスコードを使った各生徒の活動へのフィードバック体制が主たるものである。

²⁶⁷ 探究学舎の note より引用 https://note.com/tanq_unofficial/n/n594fab3fce35（最終検索日：2021年1月22日）

²⁶⁸ 探究学舎の note より引用 https://note.com/tanq_unofficial/n/n594fab3fce35（最終検索日：2021年1月22日）

²⁶⁹ 探究学舎の note より引用 https://note.com/tanq_unofficial/n/n594fab3fce35（最終検索日：2021年1月22日）

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

探究学舎を日本全国に広めていく上での、ボトルネックの1つはメインファシリテーターの人数確保であり、育成²⁷⁰に取り組んでいる。探究学舎のメインファシリテーターに求められるスキルは、例えば、授業中の話であれば、「うまく説明できるスキル」「子どもを惹き付ける話し方、話す順番、問いの立て方」「子どものたちの乗せ方」「楽しそうに授業をやるかどうか」である。ただし、スキルを得た所でその人に魅力がないといけない。自分が好きな事を心から信じてとことんやっている人、そのような生き方・思想を持った人をメインファシリテーターに求める。それゆえに、「育成」が難しいという考えから、少人数のメインファシリテーターで対応できるオンライン授業を強化している所でもある。理念に共感して人間的に面白い人をメインファシリテーターとしてどう集めるかの視点も重要である。

ボトルネックの2つ目は授業構成の面白さ担保（情報収集、授業ストーリー作り²⁷¹、授業スライド作り）である。どれだけ情報収集して、そこから面白いストーリーを作れるかが重要である。この授業構成がしっかりしていないと、探究学舎の授業価値が提供できていないと考える。情報は Youtube 等のインターネット上にたくさんある中で、それらを如何に楽しく伝えられるかの編集力が商品価値であると考えている（表 3-15、3-16）。現状、授業構成が完璧できているとは全く思っていないため、もっと時間を掛けてより良いものにしていくことが課題である。

以上のボトルネックから言えるオンライン授業に特定した課題については、授業への没入感設計であり、現状は「驚きと感動」提供はリアル授業の方が有利であると思っている。

²⁷⁰ メインファシリテーターの育成のための MF 道場という研修体制があり、スキルの伝授を行っている。

²⁷¹ 「授業ストーリー作り」においては、1つ伝えたいことを絞ることが重要である。

表 3-15 食編の授業ストーリーの例①²⁷²

<p>■食編第7章 食材に込められた生産者の思いとフードロス、食べ物は命である。</p> <p>ブロック1 テーマ：〈素材の良い料理は美味しい〉</p> <p>先週は、様々な職人技をみた。 職人たちの素晴らしい技によって美味しい料理が作られていたよね。</p> <p>しかし！ 職人たちが作るだけでは美味しくなるとは限らない。 美味しい料理に欠かせないものがもう一つある。 それが、</p> <p>「食材」（スライドの左右に食材と職人。音楽編の楽器と楽譜的なイメージ。）</p> <p>こんなもので美味しいもの作れる？ 干からびた、食材。 腐りかけの食材。 スカスカの食材。</p> <p>前回の見てきた、職人たちの技術。それらはすべて、素材の味を引き出すことを大事にしていたよね？だからこそ、その素材自体がいいものでなければ、どれだけ職人たちが優れた力量を持っていても引き出しようがない。 →以下の表現の方がいい「その素材自体が、いいものであればあるほど、職人たちはより美味しく食べてものを作ることをできる！」</p> <p>では、そのいい素材とはどのように生み出されているのか。そもそも、「美味しい食材」とは何か？今回は、そこを見て行こう！</p> <p>ブロック2 テーマ：〈うまい食材を見抜け！食品目利きクイズ！（Kahoot!）〉</p> <p>それでは、みんなは美味しい食材を見抜くことができるのか！ 食材目利きクイズ！ →比較が明確になる画像を探す。ないしは許可とる。撮影する場合はスマホ縦で撮影。</p> <p>このトマトと、このトマト、どっちが美味しい？ このレタスと、このレタスは？ この肉と、この肉、どっちがうまい？</p> <p>・レタス</p>

²⁷² 探究学舎 木村氏からの提供

表 3-16 食編の授業ストーリーの例②²⁷³

葉の巻きや全体の形がしっかりしているものを選びましょう。外側の葉がくたびれておらず、切り口が10円玉くらいのサイズで、白く変色していないのが良いでしょう。ズシりと重いレタスは、苦味が強くなっています。

・キュウリ

手で触ると痛いくらい表面のイボがしっかりしているもの、ハリのあるものが新鮮です。

・トマト

できるだけ色むらがない、濃い赤色のものがオススメです。鮮度が落ちるとヘタがまるまってきます。

・ピーマン

きれいな緑色のものを選びます。ヘタが灰色がかっているものは、鮮度が落ちています。

・なす

ツヤがあり皮がピンと張っているものは新鮮です。ヘタが黒々として、痛いくらいのとげがあるものが良いでしょう。

<参考サイト>

<https://pakuveqe.com/column/oisiyasai>

みんなどうだった?? 美味しい食材を見抜くことができたかな??

このように美味しいものには、特徴がある。

こうしたものを見抜けるかは、皆さんの知識にかかっている。

しかし、美味しい食材には見た目だけではわからないもう一つ重要なことがある!

Q: 美味しい食材のもう一つ重要なものとは?

それは、食材への思いだ。

例えば、

広～い農場で、たくさん取れるように、機械を使って種を撒いて、虫がつかないようにたくさん農薬を巻いて、作業が楽になるようにスプリンクラーで水を撒いて、大きな収穫機で一気にとった食材と

小さな農場だけど、こだわった食材を作るために、一つ一つ手作業で、農薬も使わないで手作業で虫をとったり、機械で食材を傷つけないように手作業で草を刈ったり、収穫も優しく手作業でとった食材。

みんなだったらどっちを食べたい?

→手作業の方!

だよな、僕たちがこれを美味しいと感じるのはやはり理由がある。

それは「気分的な美味しさ」だ。

やはり僕たちは人が愛を込めて一生懸命に作ったものを美味しく感じるようにできている。

そんなめっちゃ愛を込めて、作った人も納得するくらいの食材あったら食べたくない?

→食べたい!

それでは、美味しい食材を作るために、農薬を使わずに本当に手間暇をかけて奇跡と呼ばれる食材を作り出した人物を紹介しよう!

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

授業構成の面白さ担保の要素である「授業ストーリー作り」については、基本はやってみて得意な人からフィードバックを受けることが一番であると思われる。授業ストーリーのロジック視点では、「帰納的な学習（結論を最初に教えるのではなく、いろいろな事実を拾ってきて結論を導くことを体験させること）」と「ドラマツルギー²⁷⁴を参考したストーリー作り（主人公が登場する→主人公が葛藤する→主人公が解決する）」と「人はギャップを印象深く受け取るため、ストーリー内に対比・比較対象を見せておくこと」が再現性のあるテクニックである。

社会的に「生きるための職業、そのための能力開発」ではなく「楽しむための職業、そのための興味開発」にシフトしてきている、面白さ・楽しさということにフューチャーすることが社会的に求められるようになってきた。好きな事をやる人は能力を自走で伸ばしていけると思っている。

²⁷⁴ 戯曲創作の方法論

3.2.20 アルスクール株式会社 代表取締役 村野 智浩

学校紹介²⁷⁵：

アルスクールは探究型プログラミング教室である。アルスクールでは、子供たちの「おもしろい！」を大切に、一人ひとりに合わせたレッスンを行っている。その結果、プログラミング以外にも使える「思考力・創造性・課題解決力」を育てている。そして、エンジニア、起業家、アーティスト、どんな未来にも大切な、テクノロジーを使って価値を創造するスキルを伸ばす。特徴は以下の通りである。

(好きなものから学び始める)

アルスクールでは、プログラミングを使って好きなものを作ることができる。豊富な工作材料やレゴブロックがあるので、好きなものを自由に使いながら作品をつくることができる。何が作りたいか分からない子には、たくさんの選択肢を用意して選んでもらっている。

(おもしろい学びだからこそ継続できる)

課題を与えられるばかりだと、子ども達はすぐに飽きてしまう。逆に、好きなものだと少し難しくても頑張る。おもしろい学びだからこそ継続でき、スキルが身につく。

(子どもが夢中になる環境)

プログラミングでもっとも大切なのは、つくってみたい、やってみたいという気持ちである。こだわりが強い、やりたいことが見つからないなど、一人ひとり違う子どもたち。アルスクールでは、一人ひとりに合わせたレッスンを少人数制で行っている。そして、STEM教育、アクティブラーニング、探究学習、モンテッソーリ教育など先端教育を取り入れ、子どもたちが夢中になるレッスンを行っている。

ヒアリング調査日時：2021年1月12日（水）12:00-14:00

形態：オンライン面談（Zoom）

オンライン面談参加者：

学校法人三友学園 岡山情報ビジネス学院 常務理事 高岡 信吾
デジタルハリウッド株式会社 まなびメディア事業部 細野 康男

²⁷⁵ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/>（最終検索日：2021年1月24日）

(1)アダプティブラーニングを学生（生徒）の何を伸ばすことを目的に実施しているのか

アルスクールは「プログラミングスクール」という立ち位置で運営している。本質的な教育の理念としては、単にプログラミングスキル（制作を通して面白いもの、価値創造できるスキル）を教えるだけでなく、非認知能力（思考力、理系センス、やり抜く力、知的好奇心、創造性、協働スキル）の育成も目指している（図 3-158）。

獲得スキル

テクノロジーで価値創造できる人に

プログラミングができるだけでなく、
使いこなして面白いものを作れるようになる

4つの思考プロセス

Decomposition 要素分解
Pattern Recognition パターン認識
Abstraction 抽象化
Algorithm アルゴリズム

5つの学びの姿勢

!? 発見
🏍️ 挑戦
👤 共創
🏆 達成

※上記獲得の結果として、プログラミングスキルもプログラミングへの得意意識もすこく伸びる自信があります。

ArSchool

図 3-158 アルスクールでの獲得スキル²⁷⁶

(2)アダプティブラーニングの対象となる学生（生徒）はどのようなタイプか

アルスクール自由が丘校の場合、小学校1年生から4年生の層が最も多くなっている。校舎によって若干の違いはあるが、小学生が主対象²⁷⁷であることは変わらない。生徒の性格面では、力強く、伸び伸びとしており、ヤンチャな生徒が多い。私立の小学校受験経験を持つ生徒や、インターナショナルスクールに通う生徒も在籍している。

保護者のタイプは、総じて教育に関心が高い層が多く、具体的には「将来プログラミングが必要と言われているので、その際に困らないようにしたいと思うタイプ」が 50%程度、残り 40%程度が「子どもが何か夢中になることを見つけて欲しい、ゲーム好きな子どもが多く、おそらくプログラミングも好きだろうと考えるタイプ」、最後の 10%が「不登校、

²⁷⁶ アルスクール株式会社 村野氏からの提供

²⁷⁷ 少数の幼稚園生、中学生も在籍している。

発達障害など教育で悩みを持っており、子どもの居場所を見つけてあげたいと考えるタイプ」である。

(3) どのような教育内容・レベルにおいて、アダプティブラーニングを実施しているのか

アルスクールには原則、定まったフォーマットでのコース・テキスト・教科書は用意していない。この時期までにここまでのスキル到達をしていなければならないといった塾としてのゴールもない。完全に自由創作の場となっている。生徒のレベル・通塾頻度²⁷⁸は様々である。通塾して学習する生徒がいれば、自宅学習の生徒もいて、進度もバラバラである。アルスクールでは、プログラミングは生徒がやる気を持たないと全く伸びないと考えている。学校の役割は「生徒が学びたい気持ちを作れるよう背中を押すこと」である。各生徒に合わせて、半歩先のスキルをうまく刺激して、やる気を醸成するようにしている。例えば、「頑張れば制作できるくらいのレベルの作品を見せて、こういうの作ってみよう！」といった声掛けを行っている。このように、生徒がやりたいことをベースで学習を進めていくスタイルである（図 3-159）。

教室で使用する主なプログラミング教材は、「BBC micro:bICT」「Scratch」「レゴ BOOST」「キュベット」「CodeMonkey」である（図 3-160、3-161、3-162、3-163、3-164）。これらは、あくまで自由創作のツールである。


入塾したばかりで、どのようなものを制作したらよいか分からないという生徒、ナビゲートがないと活動できない生徒も多く、その場合は初心者が学習しやすいテンプレート化されたコースを多数用意している。その多数のコースの中から生徒が取り組んでみたいものを選んでもらっている。

非認知能力育成のための手段は、必ずしもプログラミングである必要はないと考えており、例えば、レゴブロック、将棋、スポーツ等でも対応できると思うが、プログラミングならではの利点が存在している。それは、「データを保存できる」、「コピーできる」、「お互いの作品を共有できる」、「実行結果がすぐに確認できる」という点であり、試行錯誤しやすいので生徒の挑戦心を育みやすい。

²⁷⁸ 現在、月 2 回のコースと月 4 回のコースがある。月 4 回コースを 2 つ申し込んで、月 8 回通塾している生徒も存在する。1 コマ 90 分クラスと 1 コマ 60 分クラスがあり、学年によってどちらかになる。



図 3-159 レッスン風景例²⁷⁹



BBC micro:bit (マイクロビット)

英国BBCを中心に教育目的で開発された、約8g、名刺サイズよりも小さいコンピューターです。

イギリスで11歳~12歳の子供全員に無償で配布され、シンガポールなどでも教育現場での活用が進んでいます。

図 3-160 BBC micro:bit²⁸⁰



Scratch (スクラッチ)

Scratchは、マサチューセッツ工科大で作られた、小学生でもかんたんにプログラミングができるソフトです。世界中で2,500万人以上が使っています。

図 3-161 Scratch²⁸¹

²⁷⁹ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/feature> (最終検索日: 2021年1月24日)

²⁸⁰ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/learn> (最終検索日: 2021年1月24日)

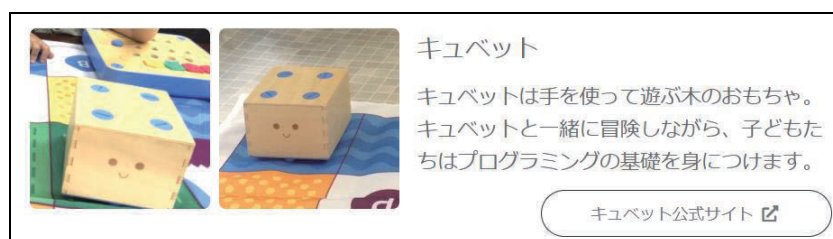
²⁸¹ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/learn> (最終検索日: 2021年1月24日)



レゴBOOST (ブースト)

タブレットからレゴを動かせるレゴシリーズです。2018年2月に日本で販売開始されました。車をカーブさせたり、カラーセンサーがあるなど、今までのレゴよりオモシロいことができます。

図 3-162 レゴ BOOST²⁸²



キュベット

キュベットは手を使って遊ぶ木のおもちゃ。キュベットと一緒に冒険しながら、子どもたちはプログラミングの基礎を身につけます。

[キュベット公式サイト](#)

図 3-163 キュベット²⁸³



CodeMonkey (コードモンキー)

CodeMonkeyは、子どもから大人まで楽しめるプログラミング学習ゲームです。プログラミング教育が盛んなイスラエルの全土の小学校を始め、世界中で600万人以上がCodeMonkeyでプログラミングを学んでいます。

図 3-164 CodeMonkey²⁸⁴

²⁸² アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/learn> (最終検索日: 2021 年 1 月 24 日)

²⁸³ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/learn> (最終検索日: 2021 年 1 月 24 日)

²⁸⁴ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/learn> (最終検索日: 2021 年 1 月 24 日)

(4)教育内容（学習内容）への学生（生徒）の動機付けの工夫

現在、スタッフ²⁸⁵マニュアルを作成中である。2021年1月に校舎が2つ増えるなど、拡大フェーズであるため、スタッフ間で「アルスクールの基本的な価値観（レッスンでの教え方・接し方²⁸⁶、生徒を夢中にさせる方法）」を共有する必要がある。また、村野氏の教育観がアルスクールの天井になってしまうとつまらないと考えており、基本的な価値観を踏まえた上で、個性的な各スタッフの工夫を発揮して欲しいと考えている。東京コミュニティスクール²⁸⁷とモンテッソーリ教育のノウハウも取り入れている。

(5)学生（生徒）個々人の目標設定の工夫

各生徒が作りたいものがベースでレッスンが進んでいる。よって、生徒個別の作りたいものが目標になっている。

(6)学生（生徒）状態の確認（記録・分析・評価）する上での工夫

各生徒を複数のスタッフでフォローしているので、各回レッスン内容（作品作りの現況、生徒の状態²⁸⁸）と次回への提案内容（スタッフ間共有資料として）をレポート化して管理している。

3カ月に1回、学びの発表会を行っている。生徒が作った作品を自ら紹介するスライドを作り、皆の前で発表する（図 3-165）。作品制作にあたって、工夫したポイントや感想をまとめる。お互いに発表し合うことで刺激し合い、良い作品作りに繋げている。

各生徒のスキルの現状と成長度合いを見える化（加点形式）している（図 3-166、3-167）。他のスキル種類を見せることで学びの全体像を生徒、保護者に伝えることも目的である。各生徒のスキル認定は3カ月に1回のスタッフ会議にてディスカッションして決めている。認定カードのどのスキルを伸ばしていくかは、各生徒の希望それぞれであり、生徒同士で優劣をつけるものではない。これに関連して、時間当たりで生徒のスキルを大きく伸ばすスタッフが良いスタッフであるという安直な評価はしていない。

²⁸⁵ アルスクールでは講師のことを「スタッフ」と呼んでいる。

²⁸⁶ 一例として、講師は「教える人」ではなく、生徒と「一緒に作る人」という認識である。

²⁸⁷ 探究学習ノウハウで有名な特定非営利活動法人運営のコミュニティスクール。非1条校。

<http://tokyocs.org/>（最終検索日：2021年1月24日）

²⁸⁸ 例えば、「指示待ちになっている」「すぐに答えを聞いてくる」「すぐ遊んじゃう」等の情報が含まれている。

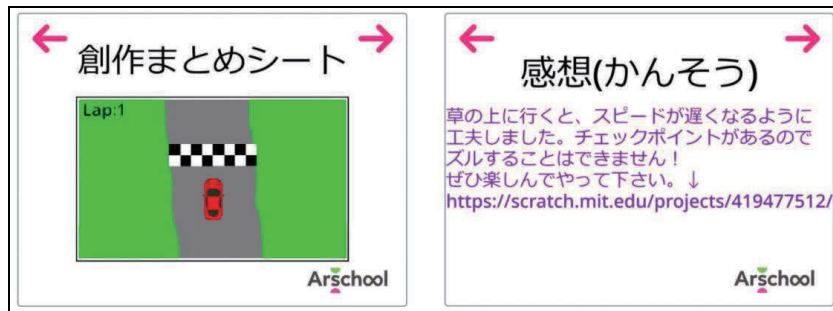


図 3-165 3 ヶ月に 1 回の発表会スライド例²⁸⁹



図 3-166 認定カード（名刺大の大きさ）²⁹⁰

²⁸⁹ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/feature>（最終検索日：2021 年 1 月 25 日）

²⁹⁰ アルスクールの Web サイトより引用 <https://arschool.co.jp/feature>（最終検索日：2021 年 1 月 25 日）

アルスクール にんてい 認定カード

リーダーカード

発見する力 <small>ほっけん ちから</small>	
挑戦する力 <small>ちょうせん ちから</small>	
自考する力 <small>じこう ちから</small>	

なまえ
名前

共創する力 <small>きょうそう ちから</small>	
遂行する力 <small>すいこう ちから</small>	



スペシャリストカード

ゲームプログラミング

企画・構想 <small>きかく こうきょう</small>	
共有・リミックス <small>きょうゆう りみっくす</small>	
システムデザイン <small>しすてむざいん</small>	
見た目・背景 <small>み め はいけい</small>	
スプライトの操作 <small>すぷらいとのそうさ</small>	
効果音・BGM <small>こうかおん BGM</small>	
イベント・処理連携 <small>いべんと しゅりれんけい</small>	
状態を調べる <small>じょうたい しら</small>	
条件分岐 <small>じょうけんぶんき</small>	
ループ処理 <small>ループしゅり</small>	
ランダム・確率 <small>らんだむ かくりつ</small>	
変数・リスト <small>へんすう りすと</small>	
クローン	
ブロック定義 <small>ていぎ</small>	

IoTプログラミング

企画・構想 <small>きかく こうきょう</small>	
プロダクトデザイン <small>ぷろだくとざいん</small>	
エンジニアスキル <small>えんじニアスキル</small>	
機器の接続 <small>きき せつぞく</small>	
条件分岐 <small>じょうけんぶんき</small>	
ループ処理 <small>ループしゅり</small>	
ランダム・確率 <small>らんだむ かくりつ</small>	
変数・リスト <small>へんすう りすと</small>	
関数 <small>かんすう</small>	
ボタン・入出力 端子 <small>ボタン にはうしゅつりょくかんし</small>	
ゆれ・傾きセンサー <small>ゆれ かなり</small>	
明るさ・磁石・温度センサー <small>あかるさ じまき ぬるど</small>	
スピーカー出力 <small>しゅつりょく</small>	
LED 出力 <small>しゅつりょく</small>	
外部モジュール出力 <small>がいぶ しゅつりょく</small>	



図 3-167 認定カードを以てスキルの可視化²⁹¹

²⁹¹ アルスクール株式会社 村野氏からの提供

(7)学生（生徒）の活動進捗を円滑に支える上での工夫

生徒の信頼を得ることが大事である。そのために、生徒とスタッフの関係を「教えられる人と教える人」という関係にしないようにしている。プログラミングできないスタッフがいても良いと考えている。スタッフ自身も自分らしく活動している必要があり、各スタッフはそれぞれ得意分野が異なっている中で、自分らしい・自分だからこそのスタッフの役割を考えて活動してもらっている。

(8)学生（生徒）個別にソリューションを提供する上での工夫

各生徒の作りたいものベースでレッスンが進んでいき、それにより扱うプログラミング教材が異なっている。小学生の多くは、「BBC micro:bICT」と「Scratch」を使っている。

(9)アダプティブラーニングを実施している中で感じる課題、今後の展望

各スタッフが自分たちの活動の価値を理解しないとうまくいかないと考えている。その価値の理解深耕を図るために、スタッフ研修を行っており、課題図書²⁹²の読解と理論から実践への応用力を磨くためにレッスンのロールプレイングを行っている。他者からのフィードバックを受けつつ、各スタッフが試行錯誤できる研修会を行っている。

保護者・社会へ学校価値をいろいろな方面から伝えていく必要がある中で、生徒（子ども）が通塾することでどう成長していったかのエビデンス（生徒作品事例の見える化）を提示する必要がある。

(10)アダプティブラーニング実績から言える教員に必要な知識、技術、資質とは

自由を享受するためには責任が伴うことを生徒（子ども）に理解してもらうことが必要である。その上で、スタッフは生徒（子ども）に知識を伝達するのではなく、生徒（子ども）が自分で主体的に知識を得て、自分の中で知識を再構築して定着させていく。やりたいことを見つけていく、自分で学んでいける力をつけることをサポートすることが新たなスタッフの役割であると考えます。

そのためには、生徒（子ども）の持ち味を見つけて、伸びしろを見るスキルが必要であると考えます。スタッフ同士のチームとしての連携が重要である。

²⁹² プログラミングスキルについては市販書籍で任意のものをスタッフに選択させている。一方で、プログラミング教育の価値を理解するための書籍として以下2冊を必読としている。

ミッチェル・レズニック、村井裕美子、阿部和広（2018年）『ライフロング・キンダーガーデン 創造的思考力を育む4つの原則』 日経 BP 社

Sylvia Libow Martine, Gary Stager（2015年）『作ることで学ぶ —Makerを育てる新しい教育のメソッド』 オライリージャパン

3.3 ヒアリング調査のまとめ

今回、アンケート調査により抽出された 20 の対象に対してヒアリング調査を実施し、「対象におけるデジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングの先導的な取り組み内容や課題」と「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングを実現するために必要な教員の意識や能力」について実態を明らかにした。

以下では、「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の確立と、その方法を習得する研修プログラム開発」の観点からヒアリング調査結果をまとめる。

3.3.1 戸板女子短期大学 中村氏のヒアリング調査結果について

大半が英語嫌いな短期大学 1 年生向けに、一般教養科目としての英語（学力）を向上させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「受け身から主体性を求められるように、学習スタイルの変化を学生・保護者に理解してもらうこと」、「学生の学習環境をさらに良くするために、Google Classroom 上に e ラーニングコンテンツを追加実装したい」、「評価基準のルーブリックを教員同士で作成し、統一化させたい」、「学生の総合データが分散されている状態から一元管理できるようにしたい」といった回答があった。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「ファシリテーションスキル」を挙げている。これは、昔からの癖でどうしても教員が多く話してしまう状況から脱却して、授業計画等をしっかり準備した上で最小限の発話を以て、最大限に学生の学習効果をあげるということである。

3.3.2 山野美容芸術短期大学 秋田氏のヒアリング調査結果について

学力差が大きい専門学校生一人ひとりに対して、一人も取りこぼしなく美容師の国家試験合格（学力）を達成させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「学生の技術習熟度の推移や成果の可視化」、「全技術工程分の教材作成と既存教材リニューアルの労力負担」といった回答があった。アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「応用行動分析学の考え方から、学生の成果物だけでなく、成果物に至るまでの行動・プロセスを注目すること」、「学生が任意の角度から美容技術を学べるデジタルコンテンツ作り」、「ICT スキル（G suite の使い方、動画編集スキル、エクセル・パワーポイントのスキル）」を挙げている。

3.3.3 横浜美術大学 浅川氏のヒアリング調査結果について

美術経験の程度、コンピューター経験の程度、美術を体系的に勉強してきたかどうか、学力差を含めて多種多様な学生を対象に、Adobe Illustrator と Photoshop の基本操作（能力）を習得させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、Adobe Illustrator や Photoshop のソフト操作が昔に比べると非常に操作がしやすくなっているため、これらソフト操作をわざわざ教えることを授業化すべきかどうか悩ましいという点である。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「社会との繋がりをコーディネートするスキル」、「実技指導を、ICT を活用して遠隔で行えるスキル」を挙げている。前者は具体的には、デザインがどのように人々に役立っているかという気付きを得られることが学習上重要であり、そのため、地域の企業や他校の学生等との接点を作る必要があるという回答であった。

3.3.4 品川女子学院 竹内氏のヒアリング調査結果について

進学校である同校の中学1年生と高校1年生の女子生徒が対象であり、積極的で知的好奇心を持った生徒が多い。そのような生徒の創造性と個性（生徒個々人の興味関心事からクリエイティブ制作するスキルという能力）をデジタルクリエイティブ教育（問題解決、グラフィックデザイン、Web デザイン、プログラミング等）を通して伸ばすことを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「多くの高校教員はゼロからアダプティブラーニングの実施や生徒が何かゼロから生み出すことを伴走する授業を作り出したことがないことから、自ら授業やコンテンツを作り出すトライアンドエラーを行うこと」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「ゼロベースで学習目標を作れるスキル」、「教材等のコンテンツを具現化できる ICT スキル」、「学習目標への過程で適切なステップを設定できるテクニック」を挙げている。

3.3.5 株式会社学研ホールディングス 山下氏のヒアリング調査結果について

中学生が主対象であり、「学力」を伸ばすことが目的であるが、それに至るまでの「学習へ意欲（非認知能力）」、「学習の習慣化（非認知能力）」も伸ばすことも、アダプティブラーニング実施目的に包含している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「アダプティブラーニングという教育サービスに対する塾の考え方と、従来型サービスを希望する保護者の考え方の間にギャップが存在し、このギャップを解消すること」、「デジタルコンテンツをいかに授業に組み込んで、有効なサービスパッケージに仕上げるか」を挙げている。前者は、アダプティブラーニング実施により、希望高校合格という目標達成だけではなく、「生徒はしっかり勉強しているのか」「先生はどういう指導をしてくれているのか」といったプロセスも気にして

いる保護者心理によるものである。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「先生という仕事への想いや情熱を再確認するためのマインドセット」、「AI から導き出された分析結果から生徒個別に最適なソリューションを提供できる行動スキル」を挙げている。

3.3.6 湘北短期大学 内海氏のヒアリング調査結果について

算数・数学のレベルが下位層は小学校 4 年生レベル、上位層は高校 3 年生レベルが混在しており、多くのが算数・数学に苦手意識を持っている大学 1 年生を対象に、「基礎学力」（算数・数学）を向上させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「学生の動機付け」、「伴走の仕組み」、「オンライン授業におけるインストラクショナルデザインの実践知不足」を挙げている。アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「認知心理学的なアプローチからのファシリテーションスキル」、「学生の ICT に対する感情と教員のそれとの間にはギャップが存在することを理解すること」、「ICT ツールに対して、教員が躊躇なく学んでみる姿勢」を挙げている。

3.3.7 クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス 藤田氏のヒアリング調査結果について

「学力面で厳しく不登校になっている生徒」、「コミュニケーションが不得手で友人や教員と対立して不登校になっている生徒」、「家庭の事情等により引きこもっている生徒」を対象に、「学力」はじめ生徒個別の「能力」開発を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「オンラインで学習したものがどれだけ生徒の学力はじめ能力習得に結びついているのか手応え感に不安」、「生徒への接し方、どういう関わり方をすべきかに関する実践的ノウハウ不足」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「生徒と適切な距離感をとれるスキル」という回答があり、理論・経験談・事例から学びたいという希望があった。

3.3.8 京都外国語大学 澁川氏のヒアリング調査結果について

読み書きの基礎学力面にバラつきがあるものの学習意欲が高く真面目な学生を対象に、「Adobe Photoshop の操作を習得する（能力）」、「学んだスキルを他の場面でも応用できる力（能力）」、「物事を批判的にみる力（能力）」、「自分の考え等を言語化する力（能力）」を向上させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「授業準備に時間が掛かっていること」、「オンライン授業の場合、学生が本当に理解しているのか等の学生状況を把握しにくいこと」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「グループワーク中のプロセス、パフォーマンスの質の振り返り、可視化がリアルタイムにできる仕組み作り」、「学習障害を持った学生など、学生の多様性の理解」、「個別最適化を考える上で不可欠な要素の理解」を学ぶべき重要項目として澁川氏は考えている。

3.3.9 山野美容専門学校 吉田氏のヒアリング調査結果について

山野美容芸術短期大学(吉田氏事例の学校)のエステティシャン専攻の学生が対象であり、学力はじめ主体的能力のレベルが低く、目的意識にも大きな差が見られる対象である。このような学生に「職業教育(能力)」と「資格試験対策(学力)」の向上を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「学生の学習状況・成果、行動指標等の情報のデータベース化をICTで行うこと」、「教員の心理学的アプローチ、コーチングスキルの向上」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「ハラスメント(パワハラ、アカハラ、セクハラ)への理解深耕」、「SNS等のソーシャルリスクへの理解深耕」、「応用行動分析学の考え方から、教育内容を具体的な行動に言語できるスキル」、「応用行動分析学の考え方から、学生がとった具体的な行動に対してフィードバックできるスキル」を挙げている。

3.3.10 株式会社ウィザス 倉澤氏のヒアリング調査結果について

生徒の半数は中学校卒業から直接入学してくる層であり、学習に対する意欲が相対的に低い。残りの半数は高校途中から転入してくる層であり学習面より人間関係に課題を持っている。このような多様な生徒に対して、「生涯にわたって主体的に前向きに学び続け、自ら考え行動できる力(非認知能力)」を養成することを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「従来の教員イメージからアダプティブラーニングに求められる新たな教員像の定着(「先生」「指導」というワードを使わない)」、「アダプティブラーニングという教育サービスに対する高校の考え方と、従来型教育のイメージを強く持つ保護者の考え方の間にギャップが存在し、このギャップを解消すること」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「教えることではなく、適切な問いを投げかけることで生徒の考えを深める、促進させることができるスキル」を挙げている。

3.3.11 東京国際大学 河村氏のヒアリング調査結果について

コンピューターに関心を持っているがプログラミング初心者の学生を対象に、JavaScriptの構文理解と簡単なオリジナルゲームを作れるプログラミング基礎力（能力）を向上させることを目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「オンライン授業でピアラーニングを行う工夫」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「教員のICTツールの知識・スキル」、「ICT活用の成功事例、失敗事例の理解」を挙げている。

3.3.12 クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス 岩崎氏のヒアリング調査結果について

「過去に何らかの体験・経験があって全日制での生活が困難、苦手意識を持っている生徒」、「特性、持って生まれたもので得意・不得意に偏りがある生徒（発達障害、自閉スペクトラム症等）」、「自分が得意なこと、やりたい事を平均的にではなく尖らせて磨いていきたい生徒」の3つのタイプの生徒を対象に、「学力」、生徒が興味関心のある「能力」（英語、プログラミング等）、「非認知能力」（生徒自身が考え、ゴールを見つけられるようになること）の養成を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「生徒のタイプ別での動機付け・目標設定等のファシリテーションノウハウとその成果（成功事例、失敗事例）を他教員に体系化して共有すること」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「カウンセリングスキル（対話の中で生徒ニーズ等を引き出すこと、心理安全性を構築すること）」を挙げている。

3.3.13 学校法人河合塾学園 トライデントデザイン専門学校 上田氏のヒアリング調査結果について

学力面ではあまり高くなく、勉強が苦手だからデザインの世界に興味を持った学生、社会経験が少なく人と話をするのが苦手な学生、内気な学生、のんびりな学生、対面ではコミュニケーションをあまり取りたがらないがネット上では積極的に発信する学生等を対象に、社会人基礎力（大人と自然に会話できる、人の話に頷ける、相槌が打てる、自分の意思表示ができる等の能力）の養成を目的として、アダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「学生の自発性、欲求・希望の喚起」、「喚起後の努力の過程を量・質で定量管理」、「学生情報の管理方法の統一」、「教育手法の標準化」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「学生の成長状況の把握を客観的に行える仕組み作り」、「評価指針の言語化」を挙げている。

3.3.14 株式会社ゼネラルパートナーズ 野田氏のヒアリング調査結果について

様々な障害特性（発達障害、うつ症状、統合失調症、聴覚障害）、幅広い年齢層・社会経験を持つ対象に、「就職する力（職業専門スキルといった能力）」、「働き続ける力（コミュニケーション力や計画を立てて段取り良く仕事を進めていく力といった非認知能力）」の養成を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「障害特性の知識をベースに適切なアセスメントが出来ること」、「個別支援計画に則った支援が出来ること」、「チームで支援出来ること」のレベルアップを挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「ファシリテーションスキル（「文化・場作り」、「応援する」、「伴走する」という概念を含む）の向上」を挙げている。

3.3.15 河原デザイン・アート専門学校 露口氏のヒアリング調査結果について

学力は決して高くなく、他人と比較されたくない、絵を描くことが好き、毎日学校に通学する習慣がついていない等の学生を対象に、「基礎学力」（読解力）向上を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「学校としての目指す人物像ゴールから逆算した基礎学力の到達レベルの精査」、「ICT ツールへの慣れの改善」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「ICT ツールの基本的な使い方理解」、「他校含めた教員同士の教育事例共有の場の設定」を挙げている。

3.3.16 専門学校中央医療健康大学校 大石氏のヒアリング調査結果について

対象は学力面では大学受験レベルではなく、勉強習慣がついていない、受験勉強経験を持たない学生である。また、性質面では素直で明るく、活発な学生が多い。このような対象に、理学療法士の国家試験を合格できる「学力」養成を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「意欲・行動量の両面で真面目に努力しているけれども結果が出ない学生を早期抽出と対策がとれる仕組み作り」、「ICT 活用拡大」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「学生との面談技術（傾聴スキル、モチベーション向上技術、メンタルケア）の向上」を挙げている。

3.3.17 株式会社イング 山本氏のヒアリング調査結果について

「学力的には上位層か下位層の2極」、「勉強も一定レベル以上にしっかりしたいし、他の習い事もしたい」、「集団塾だと学習スピードについていけなく不安」、「あまり知り合いのいない塾に行きたい」といった特徴を持つ小学生・中学生を対象に、「学力」と「自立学習力（非認知能力）」向上を目的にアダプティブラーニングを実施している。アダプティブラーニング実施上の課題として、「（求められていない）教科指導という従来型の先生の役割からの脱却と（求められている）メンターとしての役割の徹底」、「これからの教育内容、教育手法、保護者・生徒のニーズの理解深耕」を挙げている。アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「生徒の観察力」、「今後求められている教育内容や保護者・生徒ニーズへの理解」、「コミュニケーションスキル」を挙げている。

3.3.18 デジタルハリウッド大学大学院 石川氏のヒアリング調査結果について

デジタルクリエイティブスキルを使ったビジネスの研究を志向する「社会人学生とデジタルハリウッド大学や他大学の学部からすぐに進学してきた学生」を対象に、デジタルクリエイティブの基礎的技術（デジタルツールの使い方という「能力」）と継続的で能動的な学習姿勢・習慣（非認知能力）の習得を目的にアダプティブラーニングを実施している。アダプティブラーニング実施上の課題として、「動画教材のさらなる改善」、「動機付けにより繋がられるよう授業運営方法の工夫」を挙げている。アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「コーチングスキル（学生の成長を促すために、気づきや答えを問いかけによって引き出すこと）」、「教員自身がなにか自分で学習して企画して制作したという経験を持つこと」を挙げている。

3.3.19 探究学舎 木村氏のヒアリング調査結果について

メインは小学2年生から5年生であり、「教育に興味があるが受験重視風潮に疑問を持つ保護者の子ども」、「学校になじめない、浮いてしまうような生徒」という対象に、「各生徒が好きなものを見つけて、将来それで楽しく食べていけること」に繋ぐ興味（非認知能力）開発を目的にアダプティブラーニングを実施している。アダプティブラーニング実施上の課題として、「メインファシリテーターの育成（うまく説明できるスキル、子どもを惹き付ける話し方、話す順番、問の立て方、子どもたちの乗せ方、楽しそうに授業をやれるかどうか）」、「授業構成の面白さ担保（情報収集、授業ストーリー作り、授業スライド作り）」、「オンライン授業での没入感（驚きと感動）設計」を挙げている。アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、上記の「ファシリテーションスキル」と「授業構成の面白さを担保できる編集力」を挙げている。前者は育成が難しいという判断から後者の優先順位が高いという。

3.3.20 アルスクール株式会社 村野氏のヒアリング調査結果について

生徒のメインは小学生であり、生徒の性格面は「力強く、伸び伸びとしており、ヤンチャな」特徴がある。私立の小学校受験経験を持つ生徒やインターナショナルスクールに通う生徒も存在する。これらの対象に、プログラミングスキル（能力）と非認知能力（思考力、理系センス、やり抜く力、知的好奇心、創造性、協働スキル）の養成を目的にアダプティブラーニングを実施している。

アダプティブラーニング実施上の課題として、「各スタッフが自分たちの活動価値をきちんと理解すること」、「子どもの成長過程のエビデンス（生徒作品事例の見える化）」を挙げている。

アダプティブラーニングを実施する上で必要な教員の知識・技術・資質については、「生徒が自分で主体的に知識を得て、自分の中で知識を再構築して定着させ、目標を見つけ学んでいけることをサポートできる力」を挙げている。

4 アダプティブラーニング教授法研修に求められる構成要素

「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の確立と、その方法を習得する研修プログラム開発」の観点から、研修に求められる構成要素を以下のように分類し、今後の方向性を示す。

4.1 マインドセット

アダプティブラーニングが従来の教育の考え方や方法と比較して異なっていること、高い成果をあげていることを教員や関係者が理解・納得することが求められる。具体的には、「学生・生徒の幅広い多様性や就職先業界動向から、受け身から主体的な個別最適的な学習スタイルが求められてきていること」、「そのため、教員的存在に期待される役割が従来のものから変わりつつあること」、「ICT 活用がアダプティブラーニングに有効であること（成功事例、失敗事例）」の理解・納得が必要である。

4.2 事前のアセスメント

外部業者のアセスメントテスト等のサービスにより既に仕組化されているものもあるが、学生・生徒の特性を必要な知識を以て、可能な限り客観視できる教員スキル・仕組み作りも求められる。

4.3 授業設計

対象に合わせた能力開発、興味開発に資する授業設計スキルを教員が身につけることが求められる。具体的には、「応用行動分析学の考え方から、教育内容を具体的な行動に言語できるスキル」、「ゼロベースで学習目標を作れるスキル」、「学習目標への過程で適切なステップを設定できるテクニック（マイクロラーニング等）」、「編集力（情報収集、授業ストーリー作り、授業スライド作り）」が必要である。

4.4 e ラーニングコンテンツ制作

教員があまり労力を掛けず、且つ「教える内容」の学習成果を向上させることができる e ラーニングコンテンツ制作スキルが求められる。具体的には、技術工程を細分化したマイクロラーニング教材、Google ツールの活用、動画教材、VR・AR 技術の活用といった意見があった。

4.5 学生・生徒へのアプローチ

教えることではなく、適切な問い等を投げかけることで学生・生徒の学びを深める、促進させることができるスキルが求められる。具体的には、「認知心理学的なアプローチからのファシリテーションスキル」、「応用行動分析学の考え方から、学生・生徒がとった具体的な行動に対してフィードバックできるスキル」、「コーチングスキル（学生・生徒の成長を促すために、気づきや答えを問いかけによって引き出すこと）」、「カウンセリングスキル（傾聴、モチベーション向上、メンタルケア、心理的安全性構築）」、「プレゼンテーションスキル（うまく説明できるスキル、対象を惹き付ける話し方、話す順番、問いの立て方）」が必要である。

4.6 ICT を活用した具体的な授業手法

オンライン授業におけるインストラクショナルデザインの実践知不足という意見もあることから、ICT をいかに授業に組み込んで有効な教育サービスパッケージに仕上げるかを考えて実践できるスキルが求められる。具体的には、「実技指導を、ICT を活用して遠隔で有効に行えるスキル」、「オンライン授業でピアラーニングを行う工夫」、「グループワーク中の学生・生徒のプロセス・パフォーマンスの質の振り返りと可視化がリアルタイムにできる仕組み作り」、「オンライン授業での没入感（驚きと感動）設計スキル」、「オンライン授業の場合、学生・生徒から言語化・発信してくれない限り、能力習得状況を把握しにくい欠点への対処」が必要である。

4.7 評価基準と学習過程・成果の可視化

ルーブリック等の評価基準の明確化とそれに伴う学習過程・成果のタイムリーな可視化による把握が求められる。例えば、「学生の技術習熟度の推移や成果の可視化」、「応用行動分析学の考え方から、学生の成果物だけでなく成果物に至るまでの行動・プロセスを注目する」といった意見があった。

4.8 ICT の基礎リテラシー

教員の基礎的な ICT リテラシーが求められる。Google ツールの使い方、Office ツールの使い方、簡単な動画編集、SNS の使い方・注意点といった基礎的な内容の理解と学んでみるという姿勢が必要である。

令和2年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

専修学校教員の質保証・向上を進めるために必要な教職員研修プログラム開発事業

アダプティブラーニングに関する実態調査 報告書

一般社団法人 全国専門学校教育研究会
〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウイン青山 1403

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

